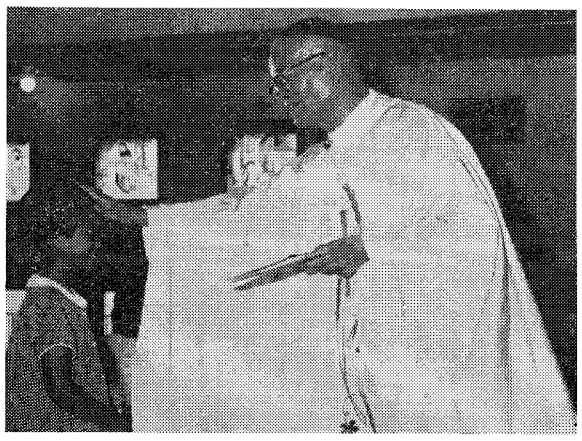
カトリック
福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092―522―5139
振替口座　福岡3―42981
定価一部60円

宣教は神の民の使命

平田司教年頭のあいさつ
教会の目的を理解し自己の聖化に務めよ



教区長平田三郎司教の年頭教書（全文は2頁に掲載）が発表された。

教書は、まず、今年二月下旬から三月上旬にかけて行われるアドリミナに提出すべき書類の作成段階で、福岡教区の過去五年の歩みを振り返っている。

そのうえで、宣教の伸び悩みに言及し、宣教する共同体となるためには、「教会とは何か」「教会の目的」をよくわきまえていなければならないとして、神の民一人ひとりに宣教の任務があることを思い起こさせる。

しかし、宣教するためには、あるいは宣教の実りが期待できるためには、自己の聖化が不可欠であると強調している。

使徒たちは、聖霊によって、イエス・キリストの生涯が十字架をとおして闇から光へ、死から生命への過ぎ越しであることを理解できたが、同じ聖霊によって私たちも神の慈しみ、キリストの愛を告げ知らせる者となれる。

宣教する者であるためには、いつもキリストの「わたしを誰だと思うか」という問いかけに真剣に答える準備をしていなければならない。

そのためにも、聖書に親しみ、キリストに魅せられ、キリストと共に人生を歩んでいる。

今月のみことば
彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする
（イザヤ4・4）
浄水通　ブランガン神父

性の諸問題について司牧のあり方を学ぶ

熊本

「家庭の諸問題と司牧」をテーマにした福岡教区の司祭研修会が、十一月二十二日～二十四日まで熊本阿蘇で開催され、平田司教をはじめ三十六名が参加した。

今回は倫理神学の立場から、とくに避妊と堕胎について英知大学の松本信愛師＝写真＝が講演を行い、「教区家庭の日アンケート集計」をコンピュータ処理で貢献した追立季治氏（行橋教会）が報告。信徒の証言では、福田俊靖・節子夫妻（手取教会）が夫婦としての歩みについて話した。

講演の中で、松本師は「避妊や堕胎について司牧者が現代の教会の教えを正しく理解していないため信者に不当な重荷を背負わせている」と指摘。司祭は信者との常日頃のかかわりの中で、これらの問題で悩む人々を助けなければならないし、さらには、罪意識さえ持たない人々のためにも啓蒙の役割を果たすべきである、などと述べた。

分散会では、司祭たちが事例を出し合ったが、このような問題に司祭がどこまでかかわるべきなのか、といった意見も聞かれた。

教区信徒協

カトリック・フェスティバル全面的協力を確認

平成元年度最後の第三回教区信徒使徒職協議会は、十一月二十六日午後、佐賀教会で開催された。

顧問司祭の山田成章師は先の教区全司祭研修会の模様を報告したあと、「家庭の諸問題を考えるときには、信仰の光の中で問題解決の糸口を見つけるように」と挨拶。

さっそく議題に入り、とくに本年十一月十一日（日）に北九州市戸畑の明治学園で開催予定の「カトリック・フェスティバル」について集中審議。会議に出席したフェスティバル企画運営委員長の渡辺隆義師（司教館）が、すでに各主任司祭、教会役員、その他あてに送付済の資料をもとに経緯、趣旨などについて説明。質疑応答がなされた。

説明の中で渡辺師は、「教区行事は、本来、教区民一人ひとりが自分はどのような形で参加できるのか前向きに考えるべきもの」としたうえで「教会外の人にも『来てよかった』と言えるものにするため、皆さんの英知を結集したい」との方針を述べた。

質疑では、司祭の協力を求める声、遠隔地の信徒のことも考慮すべき、との要望、意見が強く出されたが、信徒協として全面的に協力していくことを確認した。

その他、平成二～三年度の教区信徒協事務局の当番を北九州地区が担当することを決定。第一回役員会を二月十八日（日）午後二時から八王寺教会で開催することを申し合わせて終了した。

第6回司牧評議会開催される

第六回目の司牧評議会は、十二月十日、司教館で開催され①『信徒使徒職協議会』と新たに設置された『信徒使徒職委員会』の関係②教区『カトリック・フェスティバル』の準備状況、などの議題で意見を交換。③『家庭の諸問題と司牧』に関する教区司祭研修会の報告を聞いた。

また司牧評議会のあり方についても今後検討されることになった。（詳細は次号で）

時の話題

新富康央

昨年暮れ、鹿児島県の少年が、同じ病気で外出できない少女から「海を見たい」と頼まれ、不自由な体を押して二カ月かかって描き上げたことが報じられた。難病といわれる筋ジストロフィーであった。その絵は労働大臣賞に選ばれた。が、少女は病状が悪化、描き上がるのを待つようにして息をひきとったという。

私達は自分が頼りとする人は大切にするが、自分を頼りにしようとする人に対してはつい、疎ましく思ったりするものです。

小学校六年生の時でした。クラスに自分の名前をひらがなで書くのがやっとというA君がいました。彼はなぜか私のことを「新さん、新さん」と頼りにし、つけ回すのです。先生も私を彼の保護者にしてしまい、いつも同じ班、同じ机。だが私の方はといえば、彼につけ回されると仲間と遊びにくくなるので、逃げだそうとします。

二学期の誕生会でのことでした。各班で出し物を用意しなければなりません。私は「おもしろチャンバラ桃太郎」を提案。桃太郎役にチャンバラの好きな彼の名前をつい挙げてしまいました。彼の顔面いっぱいの笑顔に、誰も異議ははさめません。

とても楽しい活劇になりました。六年間の思い出の絵に、もちろん彼は「桃太郎」を選びました。お世辞にも上手とはいえません。だが、そこに描かれた桃太郎は何と大きく、強く逞しく、自信にあふれていたことでしょう。

彼は六方学園という養護施設に行きました。ところが中学二年の時、彼は亡くなったのです。位牌の横にあったのは、彼のあの絵でした。驚きました。「あの子がね。学園に行く時も、どうしてもあの絵だけは持っていきたいと言い張ってね。あちらでもずっとあの絵を放そうとせんかったんよ。」その絵の桃太郎の顔と彼の汚れない天使のような顔が二重映しになり、涙がどうしても止まりませんでした。

一枚の絵

「善きサマリア人」の話を聞くといつも、あの一枚の絵を思い出します。新年に当たって思うことは、自分が頼りにする人以上に、自分を頼りにしてくれる人を大切にしたいということ。さらには、自ら頼られる人になろうとする「善きサマリア人」でありたい、ということです。

（佐賀大学助教授　佐賀教会）

主の御降誕と新年のお慶びを申し上げます

一九九〇年　元旦

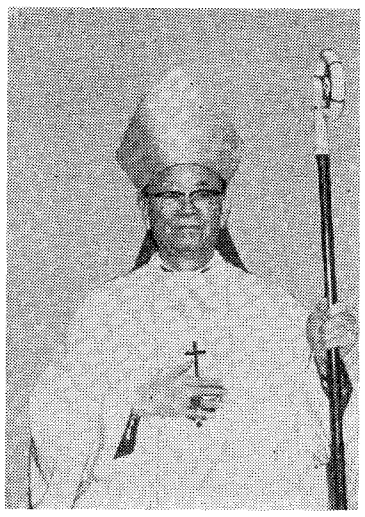
福岡教区長　平田三郎司教
〈福岡地区〉
司教館　渡辺隆義
牧山藤房
牧山重光、
川口康頼
黒川博
青木保
森山信三
P・ブランガン
泉類治
山川辰幸
堤要吉
赤倉稔
T・ドワイヤー
須賀沢公男
春山勝美
鵜野泰年
畠山七郎
B・シュルツ
T・リシャール
竹森勇
山田成章
F・ハーン
乾盛夫
岩永義人
下町豊重
堤敏雄
糸永一
平田敬
三村邦明
山下正
西田邦洋
田川清美
大楠
美野島
吉塚
箱崎
老司
光ケ丘
古賀
大名町
浄水通
西新
茶山
笹丘
高宮
大牟田
呼子
久留米
二日市
小郡
本郷
今村
馬渡島
大神学院
伊東誠二
高木善行
J・P・ラベル
J・ツルデル
A・ラプラント
Z・イェール
高見三明
大山悟
小神学校
松井忠之
聖パウロ会
塚本孝夫
杉原寛信
黙想の家
鈴木忠一
畠基幸
M・ヴェッター
G・ブレシュト
S・オチョア
イエズス会
生熊秀夫
草野純英
K・ウーリック
塩谷恵策
外川直見
牛尾幸生
S・ライル
皿山FC
八王寺
〈北九州地区〉
L・デシャンブ
M・ボンカズ
徳山登
E・モーゼ
門司港
J・ガイヤール
門司
C・バスチ
小倉
山元真
平田三好
平田寛
浦俊雄
M・コース
戸畑
湯川
若松
水巻
黒崎
L・ベリオン
J・バイヨ
H・キニュ
E・ラバルタ
天神
直方
浦口均
飯塚
J・ノーリス
田川
L・グロージャン
新田原
平田正喜
川上惣一
深堀、勝人
行橋
〈佐賀地区〉
鳥栖
R・マグリン
佐賀
A・ディベロ
唐津
A・スカットロン
武雄
F・サルディ
伊万里・多久
C・ガッザルデイ
鹿島
A・テンペリーニ
ロザリオの園
A・アレグリーニ
トラピスト
C・ミケレーナ
〈熊本地区〉
玉名
W・グリン
手取
B・ジョー
V・ヤンキャンプ
M・マッコンネル
健軍
青木悟
島崎
A・ベルトラン
島崎修道院
W・カリー
荒尾
G・ベラス
K・オマホニ
帯山
牧山勝美
菊池
R・オウエンス
武蔵ケ丘
H・オカロール
八代
中浜一男
人吉
T・フイッシャー
水俣
J・モラハン
本渡
F・カロール
大江
H・ハンター
崎津
P・ダイアモンド
交流センター
S・フランコ
海外留学
桜井尚明

みちくさ

一九八〇年代に別れを告げようとしたとき、東西冷戦の象徴的存在だったベルリンの壁やいくつかの国境の鉄状網が撤去された。この東欧の様変わりを十年前に誰が予想しえたであろうか。これらの出来事はヨーロッパにおける共産主義の敗北の象徴なのか。それともあくまで超大国の利害関係の上で実現したのかよくわからないが、テレビの画面の人々の笑顔が印象的だった▼しかし、マルクス主義の歴史をひもとく時、そこにはカトリック教徒の責任は微塵も見い出せないのだろうか。全体主義は共産主義国の特許ではないし、一部官僚（指導者）の富への執着など理想と現実の間のズレはどの集団にもあるようだ。それにしても信仰の自由を求めて支払われた生命の重さを思う▼だからこそ今、共産主義とか自由主義を超える「パン種」としての「福音主義」が確立されなければと思う。日本のカトリック教会が政治的に左傾化しているかどうかの論争より、現代の教会の一人ひとりが、二千年前のナザレのイエズスの具体的生き方を今も意味のあることだと本当に信じているのか、もっと厳しく問うてみるべきではないだろうか▼今こそ教会は、この世のために、この世の中で、パン種、塩としての役割に徹することが大切ではないだろうか。もちろんそれは各人が立派な人であることとは別問題であろう。このどうしようもない人間である私を神が愛しておられると気づくとき、あのどうしようもないと思える人が自分の仲間として受け入れられるのかもしれない▼東西世界の対立の構図は徐々に取り壊されている。だが、もっとも身近な人との間にある心の壁は、取り壊されるどころか、ますますその厚みを増している。人と人との心の壁の撤去に今年もまた挑んでいかなければならない。少なくともこちら側から愛のドリルで小さな穴を開けてみたい。

年頭の願い

福岡教区司教　ペトロ　平田三郎



「宣教の魂を」と語る平田司教

一九九〇年の新春を迎え、ご降誕の救い主・キリスト様と聖母マリアの祝福が、教区の司祭・修道者・信徒一同の上に豊かに注がれ、この年が平和で実り多い宣教の年となるよう祈ります。

今年の二月二十六日から三月三日までの一週間、日本の司教団は揃ってローマに赴き、使徒聖ペトロと聖パウロのお墓に詣で、教皇様に会って、各教区の状況を報告して、助言をいただくことになっています。これは五年毎に行われる教会の永い伝統で、過去五年間の教区の宣教・司牧の推移の状況を前もって書き送るように定められています。

私は、この機会に改めて過去五年間の教区の諸統計に目を通しましたが、教区の宣教活動はよどんでいるようで、一抹の淋しさを感ぜずにはおられませんでした。

この感じは、昨年十月のはじめ、隣国ソウルで開催された国際聖体大会で受けた感動が、生き生きと脳裏に焼き付いていたためかもしれません。百万にも及ぶ韓国の信者が、大きな喜びと誇りのうちに、教皇の捧げる大会のミサに与ったあの光景でした。

人口四千三百万のうちカトリック信者数は二百五十万、人口の約6%、日本の教会の0・3%とは雲泥の差があります。韓国では、毎年十五万の入信者があるといいます。

そしてこれらの信徒の司牧は、わずか千三百人の韓国人司祭と百十名の外国人宣教師に託されており、信徒の活発な使徒職がどれだけ教会の活動に与って力があるかを知らせてくれます。また司祭不足の韓国には四つの大神学校がありますが、一四〇〇名の神学生でパンク状態だといいます。

日本と隣国の教会の力の差がどこから来ているのか、政治的、経済的、文化的、宗教的背景の違いなどを考慮に入れなければならないし、聖霊は思う時、思うところに息吹かれることも忘れてはならないことです。しかし、現実は現実として受け止め、反省の材料ともしなければならないでしょう。

教会の概念を深めよ

宣教の教会となるためには、教会の目的をよくわきまえていなければなりません。

教会は、自己満足のためにあるのではなく、宣教のためにあります。つまり、「すべてを頭であるキリストのもとに一つにまとめる」（エフェソ1・10）という使命です。カトリック教会はその名の示す通り、普遍であるので、司祭であれ、信徒であれ、神の招きに応えて集められた神の民、教会全体が万民に向かって、救いの道を宣べ伝えねばならないのです。

宣教の魂について

しかし、宣教の根本条件は何といっても、自己の聖化にあります。これがなければ、人と人とのありきたりの外的対話はあっても心と心の対話、交わりはあり得ないのです。これこそは、宣教のあらゆる技術に先行するもので、宣教成功の根本条件であります。

人々に対して信仰の生きた証しとなるためには、神のゆるし、慈しみと愛の生き生きした体験的な悟りが必要であります。この体験は、聖パウロのような特別な人には一瞬のうちに得られることがあっても、多くの人にとっては、永い年月が必要です。

使徒たちもこの体験を得るために時間がかかりました。イエスとの永い共同生活によって、主は地上の王国を建設する王ではなく、人々の救いのために自分を捧げる「神の僕」であると分かるようになったのです。

使徒たちは、イエス・キリストの生涯が、十字架の受難を通して闇から光へ、死から生命への過ぎ越しの歩みであったことを聖霊降臨の日に悟りました。

彼らは、この新しいペンテコステの体験を得て、恐れのために閉じこもっていた部屋の戸を開いて外に飛び出し、慈しみの神と救い主キリストの愛を世界に告げ知らせることができるようになりました。教会の宣教はこうして始まったのです。

世にあって、真の宣教者となるためには、何はさておき、「私を誰と思うか」との主の問いに心から応えられる者にならなければならないのです。

教会の組織についての知識を豊富に持っていると思っている人々も、キリスト教の中心である救い主イエス・キリストの真の姿をより深く知るように務めるべきでしょう。

司祭・信徒の生涯養成が組織化され、実行に移されようとしている今日、この養成の中心は、聖書を通してキリストに親しみ、魅せられ、その教えと模範に従って、キリストと共に人生の旅路を歩むことではないでしょうか。

† 親愛なる福岡教区の司祭、修道者、信徒の皆さん

このたび、福岡教区司牧評議会のメンバーの発案により、来年（一九九〇年）の教区行事として「カトリック・フェスティバル」が企画されることになりました。

この計画が、九月五日の司祭評議会で承認され、企画運営委員会が設置されたことは、『福岡教区報』等によってすでにご承知のことと思います。

私は、来年十一月に予定されているこの催しが成功するように強く望んでいます。なぜなら、この企画はまず第一に、「開かれた教会」への具体的取り組みとして、信者でない一般の人たちも参加できる内容にして、カトリックの心に触れていただくことを目的にしているからです。それは、信者でない方々と福岡教区民の出会いと位置づけることもできるでしょう。

教区「カトリック・フェスティバル」の実現に向けて

福岡教区長　司教　平田三郎

次に、この催しのために、教区の各種委員会ならびに団体が、それぞれのアイディアを持ち寄ることによって、これまでにない新しい企画に取り組もうとしているからです。

もちろん、この種のイベントが容易に成功しないことは十分に知っています。予想しえない困難が生じてくるでしょう。しかしながら、教区民が一致協力するならば決して不可能なことではないと信じています。

イベントの当日だけでなく、準備段階から、司祭、修道者、信徒の一人ひとりが、この企画に何らかの形で参加していただきますように心から希望いたします。

「フェスティバル」（祭り）の名のように、祝祭と祭儀を通して「喜びの福音」がより多くの人に伝えられるように皆さま方の霊的、物的ご援助、ご協力を宜しくお願いいたします。

一九八九年十一月六日

家庭の日アンケート調査

キリスト者家庭の現場

(1)夫と妻の回答から

昨年五月二十一日の教区行事『家庭の日』に先立って、S・ライル師（ファミリーセンター）を中心とする実行委員会が実施した「家庭」に関するアンケート調査がこのほどまとまった。

五十七の各小教区それぞれの信徒数に応じて、全部で七百五十通のアンケート用紙を配布。この種の回答率としては、決して高い方ではなかったが、平均四十八・八パーセントが回収された。

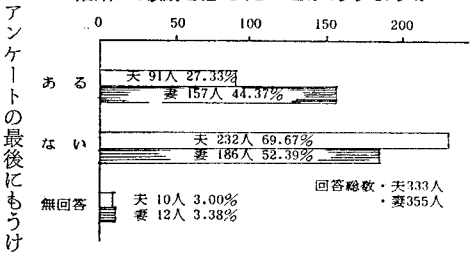
アンケートは、①夫と妻②親子③子供自身の三部からなり、家族の構成員が各自で回答できるようになっていた。

回答者の平均年齢は四十。結婚歴二十年前後が一番多く子供は九歳くらいから二十歳までが大半であった。

宗教別では、家族全員カトリック信徒が六十九%、夫婦の片方のみカトリック信徒が二十六%、その他五%。

これから三回に分けて紹介したい。

（編集部）



夫と妻で異なるしあわせ感覚度

「夫（妻）として幸せだと感じますか」とか「夫婦だけの時間を十分持っていますか」といった幸福意識の質問に対して、どの年齢も夫の方が幸福感が強い。

これに対して「結婚に幻滅を感じたことがある」「夫婦の時間がほとんどない」という回答は妻の方がかなり高い数字を示している。これは、日本の伝統的教育や考え方の影響を表すものではなかろうか。

また「夫婦で祈ったり、信仰について話しますか」の質問には夫も妻も六十%強が「たまに」か「全く無い」と答えているのは何を意味するのだろうか。

仕事に追われて孤立する夫たち

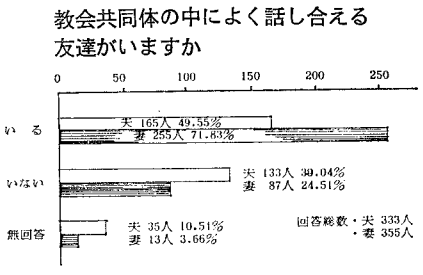
父としても「妻や子供と対話、分かち合う努力をすべきだった。大切だと分かっていても消極的だったし、時間を作らなかった」といったように、生産高やノルマに追われる現代社会に溺れかけた父親の悲哀が聞こえてくるものが多い。反面「教会へ行くと信者同士、日常の出来事や仕事の話、また、祈ることで心の糧を頂けるような気がする。しかし、家庭に帰ってその喜びを家族や社会に伝えることが難しい」といった声もあった。

教会と家庭の間で板ばさみの妻たち

妻の側から圧倒的に多いのは他宗教の夫と教会との板ばさみの問題であった。

教会で結婚講座も受け、結婚式もしたけれど、家族がそろって教会へ行けない淋しさもいくつかつづられていた。

他宗教の家庭に嫁ぎ、家の祭り事、跡取りといった習慣のため子供に洗礼を授けられない悩みもある。そんな中で、たまに教会へ行ける喜びを記す文面から、信仰を生きる難しさが伝わってくる。



子供の教会離れや夫婦生活でも悩み

子供の信仰教育、教会離れ学校や地域との関わり、「信仰は自由だ」と言い出した中・高生への戸惑い、子供の結婚問題と尽きることのない親の愛と責任の重圧からの声は共通の悩みのようである。

夫婦の性生活への恐れ、不安からくる教会不信や罪悪感を訴える信徒の声には、教会の誠意ある指導が急がれる。

もっとも多かったのは「教会に安心して、何でも相談できる窓口がほしい」という希望だった。

夫婦が信仰を持つ喜びを共有できない現状などを踏まえて、家庭教会の集合である小教区教会共同体の育成を考えていかなければならないだろう。

アンケートの最後にもうけ

自由席

教区スポーツ大会いつの日か実現を

平田　正明

昨年十月二十二日、その日は、雲一つない澄みきった秋晴れの素晴らしい一日でした。

第五回を数える筑後地区カトリック教会親善スポーツ大会は、自分の教会の親睦にとどまらず、他の教会の兄弟姉妹とも、親交を深めようとの願いをこめて始まり、第一回大会は小郡市大原小学校で開催されました。

世界に平和をもたらす「スポーツの輪」。この素晴らしい大会を、各地に拡げましょう。まだ実施されていない地区は、始めてみませんか。そして各地区合同で盛大な『福岡教区スポーツ大会』を開催しようではありませんか。

五年前、七つの教会（二日市、今村、本郷、久留米、大牟田、鳥栖、小郡）で始まったこの親善スポーツ大会では、現在まで、ソフトボールを教会対抗で行っておりますが、今回の結果は大人も子供も今村教会の優勝で、「来年こそわが教会が」と誓いあって散会となりました。

各教会の選手、応援の皆様が、自分の教会を熱心に応援する傍ら、対戦相手の皆様とも初めてお会いしたにもかかわらず、もう何年も前から知り合いであったかのように、いかにも親しげに、話に花を咲かされている風景が、あちこちで見られる会場でした。

この大会の世話は、各教会の持ち回り制にしておりますが、一番苦労するのが時期と会場です。各教会の努力により一回も休むことなく続いておりますが、最近、運動会をやったらとの意見も出てまいりましたのでみんなで検討したいと思っております。

あなたの教会も参加してみませんか。歓迎します。

（小郡教会実行委員）

御受難会士による黙想会へどうぞ！

① 1月27日（土）～28日（日）　指導　畠基幸神父
② 2月24日（土）～25日（日）　指導　マテオ神父
③ 3月24日（土）～25日（日）　指導　鈴木忠一神父

※いずれも夕食(18：00)からです。御問い合わせ、御申込みは下記へ

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

司祭の生涯養成制度化へ

深堀敏司教が特別講演

サン・スルピス大神学院祭

福岡サン・スルピス大神学院（高木善行院長、神学生五十七名）では十一月二十一日、恒例の神学院祭を祝った。

これは毎年、聖母奉献の祝日に、同神学院の同窓生を中心に教区内外の司教、司祭が集い旧交をあたためるもので、本年も遠く沖縄、広島をはじめ九州全域から六人の司教とおよそ六十名の司祭が参集した。

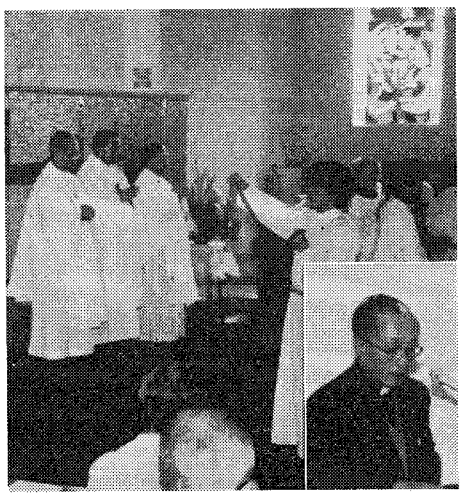
午前十時半、神学院聖堂で一年の恵みを感謝する共同ミサが、グレゴリオ聖歌の調べにのってささげられた。主司式と説教は、かつて同神学院で教鞭をとり、今年司祭叙階金祝を迎えた平田三郎司教。

正午に会食。席上、平田司教と司祭叙階銀祝の古賀教会の乾盛夫神父をはじめ三司祭が同窓の司祭、神学生の祝福を受けた。

今年は初めての企画として午後一時半よりホールにおいて講演会が行われ、深堀敏高松司教が「司祭の生涯養成について―日本司教団の考え」と題して講演した。

司教協議会司祭生涯養成委員会委員長をつとめる司教は、「これは第一回ナイスの提案とそれを受けた司教団の計画の中の一つであり、現在細部にわたって検討中である」とした上で次のように述べた。「大神学校が司祭養成の制度であるように、叙階後の生涯養成もすべての司祭が参加する制度である」「養成コースは数週間から数カ月の長期にわたるものだが、講義中心、司祭のみによるものではない。第三世界や聖地での体験、また修道者、信徒との交流を通しての養成プログラムである」などと語った。

講演を聞いた一人の司祭は「司祭は信徒のためにも、自分自身のためにも学び続ける必要がある。このような話をすべての司祭が聞くべきでは」と話していた。



聖母マリアの奉献を祝うミサと『司祭の生涯養成制度化』について話す深堀司教

カトリック教職員の集い

宗教教育の実践発表

十一月十九日（日）司教館会議室で、第二回目のカトリック教職員の集いが行われ、今回も福岡、北九州地区から十一名が参加した。

午前十時半のミサに始まり、昼食、午後から規約を検討した後、久留米信愛女学院の間瀬雅夫氏が自作の宗教教科書「聖書を生きる」を紹介発表した。これは聖書を現代的な問題、例えば人権、性などに結びつけてアプローチしたもので、参加した教職員も非常に啓発されたものがあったようだ。

また、平田司教は、韓国で開催された聖体大会の様子を語り、「韓国の教会が燃えているように、先生方も燃えて下さい」と励ました。

草野純英神父の話　今回の集いも大変有意義でした。先生方の中で、教育指導の特技、アイデアをもっていらっしゃる方が、積極的に参加して発表し、互いの研究に役立てていただければと願っています。そして公立校、ミッション校の先生方が互いに交流し、啓発していければありがたいと思います。

次回の集いは、一九九〇年一月二十一日に司教館で、海星女子学院の栗田陽二郎先生の「パネルシアター」というユニークな研究発表がありまし。参加をお待ちしてます。

シリーズ　ここが聞きたい

公害問題③

公害に関する情報を私達はどのように選択して行くべきでしょうか

宣伝のウラを読む

情報氾濫の社会で何が正しい事なのかを捜し出すのは難しいことです。

洗剤を例に取ってみましょう。十年前に合成洗剤が無リンに変わりました。リンは自然界に存在し植物や川藻の栄養源なので、合成洗剤の中のリンによって植物性プランクトンや、青こが栄養の取り過ぎとなり、赤潮や大量腐敗を起こした結果、川がよどれ、魚が死に、水道水が臭いという現象を引き起こしました。

これが公害として取りあげられ、企業側はリンが犯人だと発表し、吸湿剤のリンをゼオライトというものに交換して『安全な無リン洗剤』として販売しています。石けんに比べて低温で溶け、泡切れもよく、真白に仕上がるので、時間の節約にもなり文化的な暮らしに大いに役立ちます、と宣伝しています。

これは、合成洗剤が持つ性質の浸透性・タンパク質吸着性が大きく、非常にうすい濃度でも油を水に溶かす能力を持ち続けられることによります。しかし生体内あるいは自然界での分解力が非常に遅いという性質も持っています。

これらの性質は、人体や、動植物によく浸み込み、タンパク質つまり、細胞・血液・遺伝子によく吸着することになります。何の影響も出ないと断言した科学者はまだ一人もいません。

シャンプー、歯みがき、洗濯、食器洗いなど合成洗剤ばかりで、大丈夫なのでしょうか？人体への影響は個人差が大きく、公害として社会的問題になりにくいのですが、問題として取りあげられる時には、すでに遅いのです。

今の生活に固執せず、人間らしい総合的判断を下す為に情報収集し、よりよい方向へ生活を改善していきましょう。

回答者　坂口淳子（老司教会）

『遊びが原点』

カテケジスにもゲームの導入を

北九州

北九州地区教会学校リーダー研修会がさる十一月二十日小倉教会で開かれた。

午前中はクリスマスのための新曲紹介や講話。「エンマヌエルを迎える」というテーマで山元真師（小倉教会）、「待降節のカテケジス」についてガイヤール師（門司教会）が話した。

「勉強会」という雰囲気で午前中ですでに疲れた様子が見られたが、昼食を取ってエネルギー補給。

午後は教会から幼稚園に移動してレクリエーションの実習。指導は東京YMCAの木塚敏夫氏。幸い同時期に広島で講演があったので、小倉まで足を延ばしていただいたもの。「レクリエーションとは」「リーダーに要求されることは」の話は、講師の豊富な経験に基づくもので説得力があり、「楽しくなければならない」という、当たり前のことが強く印象に残った。

実習でいろいろなゲームを教えてもらい、参加者がみんな子供に返ったようだった。じゃんけんを使った「進化ゲーム」はゴキブリになったりあひるになったりで大騒ぎ。

会場を後にする参加者の顔には心地よい疲れと「子供と遊べる」喜びが溢れていた。

山田経三師を招き　賀

『解放の神学』学ぶ　佐

佐賀カトリック正義と平和協議会（森内慎一郎代表）は、日本キリスト教団佐賀教会、現代史研究会との共催で、山田経三師（上智大学教授）を招いて『解放の神学と日本』のテーマで講演会を開いた。

十一月二十六日、会場となった佐賀カトリック幼稚園では八十名もの参加者が熱心に話に聞き入った。

山田師は、「解放の神学は、貧困、差別、弾圧、搾取など人間が人間として生きられない社会の現実の中からの問いかけとして生まれた」と前置きして、民衆の自立、創造、解放を促す解放の神学の様式を①抑圧の現状の認識②抑圧されている人々の立場から見ること③抑圧的な状況におかれている人々の実戦の中から生まれる、という三つの特徴を持っているとした。そのうえで、日本の社会の現状は、①非人間的現実が見えなくされている管理社会である②日雇い労働者、被差別部落の人々、在日韓国・朝鮮人などが非人間的に扱われている現実がある③自分の生活を会社に捧げ、それ以前の市民としての存在がおびやかされている、などと指摘した。

そして、これから取るべき道として、「自分自身や日本をアジア隣人の視点から見直し、彼らの痛みを自らの痛みとし、彼らと共に生きる道をさぐり続けなければならない」と語った。

ヤングママ

忙しさを忘れ神と向い合う

十一月二十四日、聖パウロ修道院で『ヤングママの集い』が行われ、約二十名が参加。天上の響きとも思えるオルガンの調べの中ミサが行われた。

ミサ後、聖パウロ会の塚本孝夫師が「家庭生活と信仰」というテーマで講話。「家庭生活は司祭や修道者と同じように召命であり、特別な使命を頂いている」と語り、「家庭は教会の核であり、その家庭の中にこそイエズスが共にいてくださる。キリストを知り、キリストについて行く時、あるいは苦しい事が多くあるかもしれないが、その苦しみには価値がある。それに、私たちにはどんなことがあっても乗り越えられる信仰の恵みを頂いている」と若いお母さんたちを励ました。

野川啓子さん（高宮教会）の話　忙しさのあまり、ふと見失いがちな本来の家庭のあり方を反省させられる良い機会でした。新しい希望と信仰の喜びを体験できました。

子供から解放されて、一日を静かに神の声に耳を傾けることができ、感謝しております。子供たちを看てくださった婦人会の皆様ありがとうございました。

日韓青年交流会

主催　教区青年委員会
日時　1990年5月3日～6日
目的　釜山教区の青年たちとの交流
費用　5万円程度
申込み締め切り　1月末日
問合せ先　森山信三師（大名町）
☎ 092-741-3687

藤房神父のこぼれ話

チリ司教様の靴

牧山藤房神父

これから、一年間『福岡教区報』で、皆様と気楽なおしゃべりをさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

では今回は、私の司祭召命のきっかけをお話ししましょう。

昭和三年、馬渡島の小学五年生だった私は、当時の教区長チリ司教様が教会の献堂式に来られた時、ミサの侍者をおおせつかりました。

そのころの司教様というのは、たいへんな権威を持っておられ、信者は総出で司教様をお迎えし、歓迎したものです。司教様から声をかけられるなど、この上もない名誉なことだったのです。

さて、式が終わり、聖堂正面玄関から司祭館へ帰るときになって、司教様の靴が見当りません。香部屋の玄関の方に置いたままだったのです。そのときチリ司教様は、私に「靴を取ってきてください」とたのまれました。私は司教様の靴をさわる緊張と喜びのために胸おどりました。

実は、その時に、司教様の靴を抱えながら「自分も司祭になりたい」と強く意識したのでした。

神様は、私を司祭職へ導くためにチリ司教様の靴を使われたのでした。

美しき愛の姿　最新刊
真実の愛を求めて　中山和子　B6判・240頁　定価980円
♥綿々と綴られた愛の呼びかけ、愛への招き！
〒859-01 長崎県北高来郡小長井町☎0957(34)2228　愛　社（聖母の騎士修道女会）

☆美しき愛の姿　中山和子著　八三〇円

☆ふえたおべんとう　村上博子著

イエスさまのお話を聞こうと、四千人の人が集まりました。日がくれてきてみんなおなかがすいたのに、あるのはサムのお弁当だけ。さあ、イエスさまはどうなさったでしょう？　パンの奇跡のお話をとおして眼の見える日々の流れの底に、どっしりと沈んでいる神の国へと私たちの心を向けさせてくれます。水野先生の暖かく精細な絵も子供たちとお母さま方に喜んでいただけることと思います。

女子パウロ会　八三〇円

BOOK　読みま専科

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4　TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア　吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4　TEL092―711―0550
代表取締役　ヨゼフ　吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材　石　石他　理　影の　大御そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21　TEL096―352―2417

会合と催し

一月の行事

※ゴチックは司教日程

1日　元旦世界平和祈願ミサ（カテドラル）午前10時
9日　教区全司祭新年ミサ・祝賀会　午前11時
10日　教区修道女連盟研修会（司教館）　午前10時
12日　福岡地区婦人会委員会　午前10時30分
21日　八王寺幼稚園竣工式　午後1時
成人式ミサ（カテドラル）　午後2時
28日　福岡地区信徒協　午後1時20分
カトリック児童福祉の日（献金）
29日　北九州エキュメニズムの集い

福岡黙想の家

12月27日～1月5日　幼きイエズス会黙想会
14～15日　戸畑教会役員集会
15日　聖母カテキスタ会
27～28日　御受難会士畠基幸神父指導による黙想会（受付け中）

『カトリック教会所在地図』配布のお知らせ

この度、国内移動信徒委員会では「全国カトリック教会所在地図」を作成しました。

近日中に、各小教区に一冊ずつ配布致します。

各主任神父様方、信徒の転出入の際等にお役立てください。

竹森勇（教区移動信徒担当司祭）

典礼聖歌祈りと研修

日　時　2月18日（日）13:00～18:00
場　所　福岡黙想の家（宗像市）
連絡先　福岡典礼聖歌研究会代表　深堀純　☎092（801）5351
詳細は次号に掲載いたします。

太田道子女史を囲む聖書の集い

〈福岡〉
場　所　カテドラル
日　時　1月24日（水）19時
2月（未定）

〈熊本〉
場　所　手取教会
日　時　1月25日（木）19時
2月21日（水）19時

〈北九州〉
場　所　戸畑教会
日　時　1月28日（日）19時
2月25日（日）19時

第三回　教区カトリック教職員のつどい

第三回目の「カトリック教職員の集い」を一月二十一日（日）に司教館5Fで開催します。

栗田陽二郎氏（福岡海星女子学院）によるパネルシアター研究発表の予定です。

公・私立学校で働いていらっしゃる皆様どうぞお集り下さい。

連絡・問合せ先
泰星学園の草野神父
☎092-751-2465

成人式に参加を

成人式を迎えた若者たちを招いて、新成人者の集いをいたします。

各小教区の新成人、青年、司祭、信徒の皆さんの多数のご参加をお待ちしています。

日時　1月21日（日）午後2時よりミサと集い
会場　福岡カテドラル・センター
問い合わせ先
森山信三神父（大名町）
☎092-741-3687

レジオマリエ　二〇〇〇回記念司教ミサと集会

大名町教会で、来る二月四日（日）午後2時より、レジオマリエの二千回集会を記念して平田司教様をお招きし、ミサと祝賀会を開催いたします。

問い合わせ先
鈴木美子（大名町教会）
☎092-741-3687

一月命日の司祭

＊ジェームス・ドノフ師（聖コロンバン会）一九八五年一月二日元菊池教会主任
＊ジャン・マリ・マルタン師（パリ外国宣教会）一九七五年一月十八日元大牟田教会主任
＊グスターブ・ロー師（パリ外国宣教会）一九八〇年一月一日元人吉教会主任
＊アウグスチン・ハルブ師（パリ外国宣教会）一九四五年一月十四日元崎津教会主任
＊ルドビコ・ガルニエ師（パリ外国宣教会）一九四一年一月十九日元大江教会主任
＊ジョゼフ・フレスノン師（パリ外国宣教会）一九二九年一月元久留米教会主任

キリストの祈りのうちに

1月18日――1月25日
キリスト教一致祈祷週間

1990年度　福岡教区行事予定

1月9日（火）	教区新年祝賀会
2月6日（火）	司祭評議会
3月6日（火）	教区全司祭の集い
4月12日（木）	聖香油の聖別ミサ 金・銀祝司祭の祝賀会
6月5日（火）	司祭評議会
6月29日（金）	平田司教の霊名の祝い
9月4日（日）	司祭評議会
10月8日～12日	邦人司祭黙想会
11月11日（日）	カトリックフェスティバル
11月26日～28日	教区司祭研修会

おもかげ

後の者が先になる

徳山　登

フランスでの幼い日の思い出にこんな事があります。

多くの仲間と共に道路で遊んでいました。ところが突然ピカピカの車が近づいて来ます。実は教会での式を済ませた花嫁を乗せた車でした。フランスでは教会で式が終わると花嫁たちはドラジェを撒くのが、慣例でした。ドラジェとは飴玉のようなものです。日本で棟上げの時餅を撒くのに、似ています。ところで、その時私たちのところに来た車も寛大にドラジェを撒いてくれました。私も何とか一個でもと、走りました。しかし友達はすばやく一瞬間に全部巻き上げてしまいました。結局私は一個も拾えずしょんぼりしていました。その時です。十メートルぐらい走って車が止まりました。そして、花嫁が車からおりて、私たちのところにやって来ました。ドラジェがいっぱいの箱を手にしていました。どうするのだろうと不思議に思っている私の前で止まりました。なんとこのどじな子どもの私にお菓子のいっぱい入った箱をくださったのです。

そのまま車に戻りその姿は消えました。子どもの私はただ茫然として、夢を見ている感じでした。今でもあの花嫁の笑顔を忘れる事はできません。その時、私にはその花嫁はマリア様の御出現のように思えました。私みたいに下手で、いつも間に合わずに追い越される、いわゆる≪おちこぼれ≫そういう人の味方として、私の目に映ったマリア様！

福音書の中にも≪後の者が先になる≫と言う言葉が何回も出ます。ベトザタのかわいそうな病人は奇跡の池に入ろうとしたがいつも他の人に先を越されていました。かれを池に入れてくれる人は誰もいませんでした。その彼をイエズス自ら治してくださいました（ヨハネ5の1～9）。

後の者を先にしてくださったのです。イエズスを信頼し求める人にはイエズスはこのようにしてくださいました。キリスト様は不利な立場にある小さな人々こそ神に一番近くいて、先に愛されていることを示されました。

どの時代でもどの国でも打ち負かされた人、社会から締め出された人、つまり後にされた人がたくさんいます。

社会から、はみ出された非行少年の復興のために人生の大半を賭けられた森田宗一さんはいつも言われていました。「社会の中で、もっとも恐ろしい病気は≪痛くない、痛くない病≫である」と。

自分と家族に関係ないと思えば、政治や教育にどのような歪みや不義があろうと何の痛みも感じない！　どんな災害が世界のどこかに起ころうとも無関心！　人が飢えていようが、死に瀕していようが、冷然と、何の痛みも感じない！

この不幸な病気を癒してくださるのはキリスト様だけです。

日本はたいへん祝福され、豊かな国になりました。神様のご計画の中に日本の豊かさは日本だけのものでなく貧しい国への責任が課せられている事を心しましょう。

≪後の者が先になる≫と言われたキリストさまは≪先の者が後になる≫ともおっしゃるのです。自分だけのゆたかさに甘んじたら、先にあって後になる事も考えられます。日本の教会も経済の波に乗って、聖霊の力より、金の力に頼る偶像崇拝に陥らないように！

キリストの教会はいつも貧しい人々や取り残された人々、声なき弱い人々の側でありますように！

福音宣教の柱、起点もその辺りにこそあるのではないでしょうか。

≪主よ、ねがわくは私たちを心ゆたかな貧しい者にして下さい≫

これは新年の第一の念願です。

（パリ外国宣教会司祭　八王寺教会）

新連載

藤房神父のこぼれ話

筆者紹介

一年間『こぼれ話』を担当してくださる牧山藤房師は一九一七年（大正六年）馬渡島の生まれ。

一九四五年に福岡サン・スルピス大神学校を卒業し司祭に叙階され、第二次世界大戦の戦中、戦後の福岡教区で熊本全域、大名町、久留米、美野島、田川、西新、その他の教会で宣教・司牧に活躍。

現在は司教館で腹膜透析のために療養しておられる。

おもかげ

羽子板や裏絵さびしき夜の梅

永井荷風

森山　敬三

『おもかげ』に所収。彼はいつも裏絵を見る人であった。裏絵を通してしか、表の豪華絢爛の美を見ない反骨の人であった。漱石は英文学を、鷗外はドイツ文学を、四迷はロシア文学を、そして彼はフランス文学を日本に招来した。谷崎の処女作『刺青』を激賞した批評を、本屋の店頭で谷崎が読んだとき、あまりの嬉しさに、帰りは足が地につかなかったそうである。それより最後まで、谷崎は荷風の高恩を深謝した。『ふらんす物語』は、彼の若き日の夢の総計であり、世上に喧伝される『おかめ笛』『濹東綺譚』とくに後者は、彼の最高作品といわれるが、私は『雨瀟瀟』や『冬の蠅』を、むしろありがたく思う。『断腸亭日乗』は、大正六年より、亡くなる昭和三十四年まで、書きつづけられた、日記というよりは、むしろ遠藤周作の言う日記文学で、彼の作品の中での、もう一つの峯である。

編集室から

▽主のご降誕と新年のお慶びを申し上げます。

一九九〇年、この一年間にどんな記事が「教区報」を飾るのでしょうか。読者の皆さまのご多幸を神さまにお祈りしつつ、新たな気持で取り組んでいきたいと思います。

編集長　渡辺隆義（司教館）
編集員　杉原寛信（パウロ）
田町節子（笹丘）
深堀邦枝（大名町）

▽二年間「ワンポイント教会法」を担当いただきました山元神父様に感謝いたします。

▽「時の話題」はこの一年、生熊先生の評論を掲載させていただき、多いに啓蒙されました。今号から、教育社会学専門の新富先生が担当してくださいます。（W）

渡辺神父の聖書講座

2月7日（水）開講
聖書の女性観（全15回）
司教館新館3F広報室で
毎週水曜午前10時～11時
問合わせ　渡辺神父まで
☎522-2725または522-5139

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2―0646
行橋市駅前5秒店　☎2―2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641―4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641―7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922―5637

未来へ――安心を創る
FUJKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

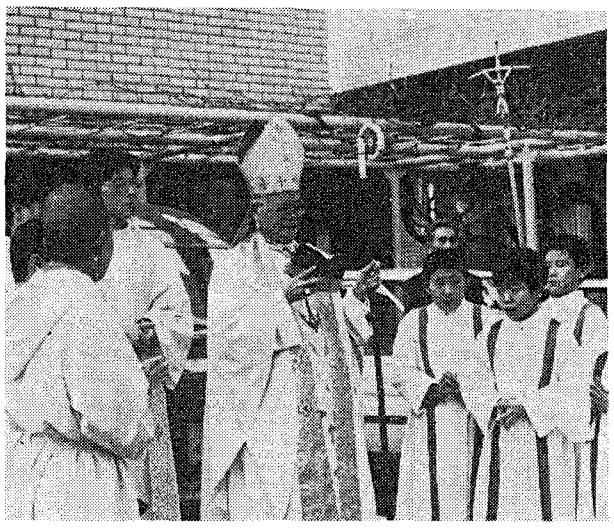
吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　092―521―0568

カトリック
福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

元旦ミサ

地球環境守る呼び掛け
教皇の平和メッセージをもとに


ミサのあと自動車とドライバーを祝福する

一九九〇年の元旦午前一〇時、カテドラルでは平田三郎司教司式の「世界平和祈願ミサ」が行われた。

普段、九州一の繁華街であるカテドラルの周囲は、人と車の波に溢れかえっているのに、この朝ばかりは、新しい年の産声を息をのんで待ちかまえていた。そんな中で、カテドラルだけがその産声に呼応していた。

晴着に装った五〇〇人ほどの信徒と共に捧げられたミサの中で、司教は急転回する世界情勢について語り、教皇ヨハネ・パウロ二世の世界平和の日のメッセージに応えるように、と呼び掛けた。

「創造主である神とともに生きる平和——創造されたすべてのものとともに生きる平和」のメッセージの中で教皇は次のように語っている。地球破壊、天然資源の乱獲や汚染などの環境問題は、方法論より先に、その背後にある倫理的諸価値を明確にせねばならない。科学技術の進歩、生命操作や新種の動植物の研究、生産や利益追求のみが重要視される中で、生命を尊重する態度が無視されている。その結果としての今日の生態系の恐るべき危機に、全人類は責任があり、それはまさに倫理の問題である。

また、教皇は一〇年前のアシジでの世界諸宗教者会議の中で、アシジの聖フランシスコを自然破壊、環境破壊の回復のために働く人々の守護の聖人とされた事にも言及している。

ミサの後、恒例になった「車の祝福」がカテドラル駐車場で行われ、この日のために磨かれ装った車が、次々と祝福を受けていた。緊張した面持で愛車の横に立ち、深ぶかと頭を垂れ祝福を受ける人人にこの一年の安全運転を決意する姿が見えた。

ロビーには、祝いの酒と肴が用意され、帰郷してミサに参加していた懐かしい顔を囲む人たちの華やいだ声がいつまでも聞こえていた。

司教評

教区民への情報伝達
方法に改善の余地が

教区司牧評議会は、昨年十二月十日司教館で行われ、二十六名の評議員のうち二十二名が出席。追立季治氏（行橋教会）を議長に「信徒使徒職委員会」「教区カトリック・フェスティバル」などの議題を審議した。

議題Ⅰ、各種委員会の「信徒使徒職委員会」と従来の「信徒使徒職協議会」の性格の違い、関係について山田成章師が説明。「信徒使徒職協議会」は公会議後にできたもので、信徒の自主的活動に立脚した各小教区の代表者の集まりである、と位置付けた。つぎに「信徒使徒職委員会」は司教団の委員会との関連のなかでできたもので「信徒の使徒職の問題について司教に諮問する機関」であり「信徒協の上級機関ではない」と述べた。これに対して評議員から、「各種委員会は、使徒的活動を推進するための実行機関として設置されたもので、諮問機関では問題」などの意見が出され、中央協議会や他の教区に問い合わせたり、調査することになった。

議題Ⅱ、「カトリック・フェスティバル」について企画運営委員長の渡辺隆義師の説明を聞いた後、意見を交換。「できるだけ早くポスターの作成を」「成功に向けての共通の祈りを作っては」などの提案が出され、ミサは、「喜び」の雰囲気のうちに、信者でない人たちにも印象的なものになるように、との要望が出された。

議題Ⅲ、松井忠之師が昨年十一月に行われた教区司祭研修会について報告。「避妊や中絶の問題で小教区司祭が相談相手にされていない現状が問題」との認識を示した。これを受けて、「信徒協もこれらの問題で何らかの役割を果たすことができるのではないか」との発言があった。

その他の話題では、教区の情報の連絡方法の不備が指摘され、教区の円滑な運営のために一層工夫努力していくことが確認された。そのためにも、主任司祭と教会委員宛に送られている文書の内容が小教区の信徒一人ひとりとつながっていく必要がある。

今月のみことば
キリストの十字架のむなしくならざらんために
（1コリ1・17）
大名町教会　森山信三神父

時の話題
新富安央

主の「見つめる目」

先月、ある町の成人式に出席の途中、佐世保行きの特急電車の中で、一人の青年と隣り合わせた。ひょんなことから親しくなり、彼の少年時代の貴重な体験を語ってもらった。

彼は不幸にも小学校四年の時、父を失った。その時からお母さんは夜八時頃まで、勤めのために帰ってこない。ついさみしくて、悪い仲間と付き合い、誘われるままに万引きなどを繰り返し、いつの間にか、その町の札付きの非行少年になっていた。ところが、中学二年の担任の先生は、万引きで補導された彼の姿を見て抱きつき、背中を力一杯たたきながら、「俺の生徒に一人もクズはいない！」と泣き叫んでくれたのだそうです。「クズは一人もいない」はじめて自分を受け入れてくれた先生のこの言葉で、彼は目が覚めたのです。

彼も今や二十七歳。食べていける技術を持たなければ、また横道にそれる、という先生の教えを守り、溶接工としての腕を磨いた。家庭も持てるようになった。実は当時の級友から、先生の還暦の祝いの計画があると聞いて、大阪から駆けつけているところだという。

「俺の生徒にクズは一人もいない」という信念を、私は「見つめる目」と叫んでいます。これは、子供を出来—不出来で見ないで、良さへの可能性を持った掛け替えのない存在として、尊重することです。「見つめ」があってこそ、その子なりの良さ、持ち味を「見つけ」、それを伸ばすように「見まもる」ことができる。見つめ、見つけ、見まもる目。これらを総称して、子育て「三つの目」と呼ぶことにしています。だが、親として「見つめる目」を持つことは結構むつかしい。

「あなたの子はいい子ですか」という日米比較の調査では、日本の「はい」四五％に対し（「いいえ」四七％）、米国では九五％でした（「いいえ」三％）。

その「見つめる目」を私達に身をもって教えてくださったお方こそ、主イエスであろう。「もし、迷い出た羊を見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう。」（マタイ18・13）

新春から、愛に満ちた主の呼びかけを聞いたような気がした。

（佐賀大学助教授　佐賀教会）

司祭の新年ミサと集まり

対話のできる司祭に

恒例の教区の司祭たちの新年のミサと集まりが一月九日行われた。

まず浄水通り教会では、平田司教司式の新年ミサで約七十名の司祭たちが共同司式。兄弟司祭としての交わりを深めた。

説教の中で司教は、新しい年を迎え、旧年中の教区の全司祭たちの宣教、司牧における地道な働きに感謝と称賛を表したあと、昨年末の東ヨーロッパの動きは、「政治の力による神なしの幸福な世界の実現を夢見たイデオロギーの敗北」であり、「独裁主義者、専制主義者は人の心の中にある神への憧れを窒息させることはできない」と新しい時代の到来を喜ぶ人々との連帯を表明した。

また日本は高学歴社会になり、人々は高い学識と教養を身に付けているのであり、福音宣教の面からも、「社会正義に対するセンスを持った司祭の養成」「社会や信徒と対話のできる司祭が要請されている」と指摘した。

さらに、第一回福音宣教推進全国会議と昨年十月のシノドスを踏まえて、さきごろの日本司教団の声明「今、望まれる司祭」（2面に全文掲載）について解説した。

その中で司教は、「司祭の宣教・司牧の力は祈り、とりわけ日々のミサ聖祭である」とし、教会は「組織としてより、神の民、キリストの神秘体」としてとらえるべきであり、新教会法も小教区を「場所としてより民として強調している」と述べた。

また家族としての教会においては「対話する司祭」が望まれ、それは司教と司祭、司祭同士のみならず、信徒や社会との対話も含まれる。これはたやすいことではないが、絶えず努力していかなければならない、と激励した。

さらに司祭の「適切なリーダーシップとは、信徒一人ひとりを殺すのではなく、活かすもの」「権威は押さえる力としてではなく、果たすべき使命を実現するためのものである」などと語り、最後に、司祭の生涯養成に取り組む司教団に理解と協力を願った。

ミサの後、会場を司教館5階ホールに移して食事を共にし歓談した。

パーティーで今年の抱負を語り合う司祭たち

信仰の面でも大人を目ざす
カテドラルで成人式

新成人を祝う集いが一月二十一日午後からカテドラル大名町教会で行われた。

これは、福岡ブロック青年（担当　森山信三師）の主催によるもので、約二十名の新成人たちが市内の教会から参加した。

集いはミサで始められ、司式の渡辺隆義師は、「目に見えるものの裏に隠れている神を忘れないように」「地球的規模でものごとを考えることのできる人になれ」と成人式を迎えた若者たちを激励していた。

ミサ後、仲間の青年たちの手作りパーティーで、自己紹介、小教区の青年会の現況報告、ゲームなどをして和気合い合いのうちに、大人としての希望を胸に散会した。

福岡ブロック青年会長の平田耕一さん（光丘教会）は、「青年の活動が停滞しているが、力を合わせて盛り上げていこう」と呼び掛けていた。

教区人事

教区裁判所
裁判長
青木保師（大名町教会）
裁判官
山田成章師（光丘教会）
山元　真師（小倉教会）
絆の保護官
J・Pラベル師（大神学校）
公証官
渡辺隆義師（司教館）

人吉教会主任
T・フィッシャー師
菊池教会主任
R・オーエンス師
手取教会助任
M・マッコンネル師

みちくさ

権力者にとってもっとも恐ろしいことは、世間（社会）から隔絶されたところで暮らしているうち、いつの間にか世間の幻影を自分のうちにつくり出し、ひそかにその幻影を相手にするようになることだ、ということをフランスのポンピドー元大統領が遺書の中に書いているそうだ▼司教館というところに生きて、生身の人間との接触が極端に少なくなり、しかも限られた範囲、特定の集団内での交流となると、どうしても先程の警告が真実味を帯びてくる。教区事務所宛に送られてくる書類や新聞、テレビなどマスコミの情報を通して知る教会や社会が現実のすべてなのだと思えてくる▼だからといって小教区にいた頃、社会との交流を十分にしていたかというと決してそうではない。関わっていた社会などせいぜい幼稚園を接点としたものくらいで、ごく一部でしかなかったのだ。それにもかかわらず、あたかも社会の人々のことは何でも知っているかのように思い上がっていたように思う▼小教区のすべての信徒との十分な交わりもないのに、司祭館の一室で共同体の幻影をつくり出して、うちの信徒はああだこうだと言ってもはじまらないし、第一そんなことは失礼きわまりない。生身の信徒の苦労を知っている司祭たちの口からは、信徒の足りない部分への批判より、励まし、称賛の言葉が多く聞かれる。そのような牧者を持つ民は生き生きしている▼誰も一人で世の中のすべてを知ることはできない。職場で窒息しそうな人も、家庭で囚われの身を生きている奥様方も、司教館で書類の山にうんざりしている人も、逆らう信徒もみんなその一部なのだ。だからこそ教会の権威者には、信徒一人ひとりとの出会い関わりの中で、その人が社会のただ中で生きている現実を読み取る洞察力と自分が無知であることを認める謙虚さが求められていると思う。

今、望まれる司祭

日本カトリック司教団

兄弟姉妹である司祭、修道者、信徒の皆さん

ご存じのように、日本司教団は、一九八五年に『日本の教会の基本方針と優先課題』を発表、一九八七年には第一回福音宣教推進全国会議（以下、第一回全国会議と略します）を開催いたしました。

このような日本の教会の動きの中で、福音宣教の先頭に立たなければならない司祭の在り方が問われるのは当然だと思います。

第一回全国会議は、司教団に対し、「信徒、修道者、司祭、司教のための生涯養成を確立する」（『第一回全国会議答申』柱Ⅰの提案2）ことだけでなく、「信徒と司祭、司祭と司祭の対話と交流の促進」や「司祭の共同体意識の育成」（同柱Ⅲの提案4）など、司祭自身の刷新の必要を提案しました。

信徒の方々の司祭に対する期待と願いがひじょうに厳しくなっていることを感じました。

そして、これを真剣に受けとめている多くの司祭たちから、たびたび「司教団はどんな司祭を望んでいるのか」と尋ねられます。

そのために、わたしたちは、今年六月の定例司教総会を「現代日本における司祭の召命と使命」にあて、「今、望まれる司祭」の在り方、生き方について話し合いました。

以下は、そのまとめです。もちろん、司祭職の神学、霊性、役務などに関する総合的考察ではないことをお断りしておきます。

よく祈る司祭

一、神、キリストとの交わり

ミサを中心とした祈りの生活こそ司祭活動の土台です。

したがって、日常生活の中でも、キリストの十字架にあずかる者として、犠牲やつぐない、自分自身の福音化を心がけなければなりません。

また、聖書に親しみ、キリストのみ言葉とみ業を黙想し、神のみ旨を求め、その実現に挑戦しましょう。「行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだもの」（ヤコブ2・17）だからです。

しかし、そのためには、自分が無力であることを認め、心から神にすがらなければなりません。

また、自分や委ねられた群れのためだけでなく、地域に住むすべての人のために祈り、働く司祭であってほしいと思います。

二、派遣された者の自覚

「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」（ヨハネ20・21）と言われたキリストは、十字架の死に至るまでおん父とともに在り、おん父のみ旨に従われました。

司祭も、ともにおられるキリストの力に信頼し、あくまでもお遣わしくださった方の意思と望みを果たす者でなければなりません。

自分の望みを果たすことによって味わう充実感ではなく、キリストの望みを果たすところに真の充実感や満足を見いだしてほしいと思います。

同様に、司祭として伝えなければならないのは、自分の考えではなく、あくまで使徒継承の教え、キリストの教えです。

教皇、司教との関係も、キリストと自分の関係の中で考えなければなりません。

よく世話する司祭

三、チームワークの中で働ける司祭

教会の公的役務者である司祭には、司教や他の司祭とだけでなく、信徒とも、足りないところを補い合って、協力してやっていこうとする姿勢が必要です。

もちろん、それは、神の助け、自分との戦いなしにできることではありませんが、だれとでも対話できる司祭、分かち合い、譲り合うことのできる司祭であってほしいのです。

キリストは「わたしが彼らの内におり、あなたがわたしの内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです」（ヨハネ17・23）と言われました。

四、リーダーシップのとれる司祭

先生であり主であるキリストが、仕える者となり、弟子たちの足を洗われた（ヨハネ13・4～15）のです。

したがって、教会共同体の指導者の第一条件も、自らを低くし、仕える者になることにあります。

適切なリーダーシップは、あくまでも低くなろう、仕えようとする努力から生ずるものです。

牧者たる者は、このような奉仕を通して、信徒一人ひとりを生かし、成長させ、キリストにおいて群れを一つに集める者でなければなりません。

司祭に与えられた権能は、他者をおさえる力としてではなく、果たすべき責任と受け取らなければなりません。

社会と共に歩む司祭

五、みことばの宣教者

キリストは「すべての民をわたしの弟子にしなさい」（マタイ28・19）と言われました。

キリストとその教え、生涯、約束、神の国とその神秘が伝えられなければ、真の福音宣教はあり得ません。

目に見える成果があがらなくても、あらゆる手段を講じ、あらゆる機会を利用して、キリストを知らない人々に福音を伝え、彼らを洗礼に導き、神の民の仲間に迎え入れようとする司祭であってほしいのです。

特に、宣教する信徒を育て、彼らとともに宣教に専念する司祭、あるいは外国でその国の人々とともに生活し、福音を伝える宣教師の輩出が期待されます。

六、弱い立場におかれた人とともに歩む司祭

イエスは、善いサマリア人のたとえの結びとして、「行って、あなたも同じようにしなさい」（ルカ10・37）と言われました。

司祭には、生身の人間への深い理解と共感が必要です。病いを背負った人、差別・迫害を受ける人、人間としての尊厳を傷つけられた人のわに立って、彼らとその苦しみや悲しみを分かち合える司祭であってほしいと思います。

父である神がおつくりになり、キリストによってお救いになった人間の尊厳と権利を侵す「闇の勢力」に対しては、敢然と闘う覚悟も必要ではないでしょうか。

人々の判断基準、価値観、関心のまと、生活様式などを神のみことばと救いのご計画に沿うものにしていくことも重要な福音宣教なのです。

おわりに、信徒の皆さんにお願いいたします。どうぞ司祭のために、祈ってください。

欠点だらけの司祭の中に、神から召された人の印を見てくださいというのは無理なお願いでしょうか。

どうぞ司祭とともに歩んでください。

急激に変化する現代にあって、特に日本のキリスト者が「小さな群れ」でしかない国において、司祭が自らの使命を見定め、それに生きることは易しいことではありません。

神の民の中で与えられた役務を忠実に果たすように司祭を支えてください。

司祭の皆さん、わたしたちは、司教と司祭の刷新なしに教会の刷新はできないと思っています。

自らを新しくするということはつらい闘いですが、ともにおられるキリストの助けを信じ、神の民に支えられて、福音の教える生き方に挑戦していきましょう。

失敗の連続かもしれません。しかし、わたしたちのこの努力が、父である神のみ心を動かし、信徒の皆さんのさらなる協力を呼び、教会の全面的刷新と福音宣教のための推進力となるのだと信じています。

司祭のために祈り、司祭とともに歩み、日本の教会の刷新と福音宣教に尽くしてくださるすべての方々の上に使徒的祝福を送ります、

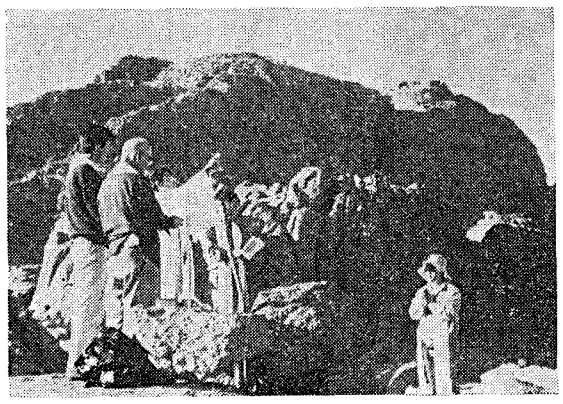
一九八九年十二月十五日

将来の教区の核として期待される若き司祭達

イスラエル研修の旅（1）

聖書を学ぶ

青木　悟（手取教会司祭）



シナイ山上でミサを捧げる

去年の夏、イスラエルで聖書を学ぶ機会に恵まれ、新しい発見もできてよかったと思います。

講義のはじめは、旧約のことが主でした。イスラエルの地理、太祖時代の歴史についての話が特に印象的でした。

イスラエルの民の歴史は、意外と平凡なことによって、おりなされているということでした。

私にとってそれはよいものでした。自分自身の生活そのものも、平凡なもので、奇跡や劇的なことに出会うことはないからです。

その平凡と言える生活も信仰の目で見れば、聖書にある通り、劇的な体験と言えることに満ちているのではないでしょうか。

平凡な生活の中でイスラエルは、神と出会ったのでした。そして、それこそ大きな恵みだったと思います。自分も、この平凡な生活の中で確かに神と出会える、そんな確信を持てたように思います。

さらにこの印象は、もう一つのことを私に教えてくれました。

それは、キリスト者であるということは、結局、自分自身の意志で、神を選びとる生き方であるということの確信でした。

サマリアの人たちは、はじめに一人の婦人を通してキリストを知り、あとでは自分で信じるようになりました。

私が信じるのも両親が信者だったからとか、奇跡があったからとか、十二使徒以来教会が伝えたから信じるというのでもありません。キリストを伝え聞いた自分が、キリストを信じているかどうかの問題こそ信仰を生きる出発点である、との再確認ができました。

信仰については、回りに恵まれている私にとって、ありがたい体験だったと思い感謝しています。

自由席

要理教育の現場にも楽しい遊びの導入を

下迫　光

「クリスマスに向かって」をテーマに北九州教会学校リーダー研修会が昨年十一月、小倉教会で開催されました。

今回の特徴は、プログラムにリクリエーションを組み入れたことで、十時に祈りとクリスマスの歌で始まり、山元真師の「キリスト（エンマヌエル）を迎える」の話を聞き、続いて待降節のカテケジスについてガイヤール師よりその基盤となるあゆみの目的、神のみことば、典礼とのつながりなどを学びました。

午後から会場を小倉カトリック幼稚園に移し、東京YMCAの木塚敏夫先生の指導でクリスマスのよろこびを祝うゲームや手品の実習を受けました。先生はこの道二十数年のベテランで場内は笑いの中に楽しい雰囲気となり、司祭、シスターを含む五十数名の参加者も我を忘れ、久しぶりに童心にかえりました。こんな楽しい研修会は初めてで、時間も短かく感じました。

明るく楽しい環境の中でこそ子供達の個性は育まれ、豊かな感受性と共に他人への暖かい思いやり、優しいたわりの心が養われるのではないでしょうか。

従来の教会学校はどちらかと言えば典礼中心の固苦しく暗いイメージがあったように思われます。近年教会学校の出席率が悪くなり特に中学生クラスの問題は各小教区とも共通の悩みのようです。現在の学校教育の実態やクラブ活動、そして塾での勉強と彼らにとってあまりにも負担が多く、のびのびと過ごす時間が少ないのが実情のようです。明るさや積極性に欠けるのもそれが原因ではないでしょうか。リクリエーションを取り入れることで彼らの自発的な参加、気分転換に役立てば決して無意味ではないと思います。

リーダー自身もユーモアや他人のために尽くす態度を学びつつ雰囲気の中にとけ込み、常にピエロになる事を忘れないようにしたいものです。それが明日への生活意欲となり人間関係を豊かにする最も大切なものではないかと思います。

（戸畑教会　中学生担当）

九〇年代に記す

松川　和三郎

人は、知らず知らずのうちに、歴史にまぎれこみ、また流されていくような気がします。

一九八〇年代に起こったチェルノブイリなど一連の原子力発電所の事故は、単なる人間のミスでかたづけられてよいのだろうか。

現代の十年間の科学技術の進歩は、江戸時代の百年よりも、もっとすごく進んでいる、といわれる。

「ダーウィン」は進化論の中で、一番進化を遂げたのは昆虫である、という。その数万種におよぶ昆虫が今や、次から次へと森林・密林の伐採で死んでいっている。

植林にしても、ボランティアではなく、その木を使った国が保障すべきだ、と私は考える。

そんな折り、昨年の十一月に『聖書に親しむ』というパンフレットの中で、雨宮慧師（東京教区司祭・真生会館館長）の「憐れむということ」についての記事を興味深く読んだ。そして年末、私の先輩が家に来られたので、そのことについて話し合った。

結論はこうでした。頭の中で考えることに満足しないで、実行に移すべきだ、ただの傍観者ではだめだ、ということでした。

（菊池教会）

御受難会士による黙想会へどうぞ！

① 2月24日（土）～25日（日）　指導　マテオ神父
② 3月24日（土）～25日（日）　指導　鈴木忠一神父

※いずれも夕食(18：00)からです。御問い合わせ、御申込みは下記へ

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社

熊本市島崎4丁目2ノ68

電話　096―352―3306
096―352―8622

別れ・出逢い・旅立ち

草苑 (SOU-EN)

ご葬儀

木下株式会社

TEL092-526-5656

福岡市中央区平和3丁目1-5

人権は社会生活の基盤

林尚志師が回勅「真の開発」を解説

女連修と研修 教区修女総会

教区修道女連盟の新年の総会と研修会が一月十四日、司教館で行われ百二十名の修道女が参加した。

研修会のテーマは、「現代に生きる修道女」―回勅「真の開発とは」に学ぶ―。講師は、下関労働教育センターの林尚志神父（イエズス会）。

一般的に回勅は、難解で取り付きにくいと言われているが、林神父は「信仰の源泉である回勅を肴（さかな）にして食べましょう」と、シスターたちの緊張をほぐしながら話しをすすめた。

現代の教会の重要課題である「人間開発」について、講師はユーモアとジェスチャーを交えながら生活の見直しをかみくだいて提起し、会場には笑いが絶えず、時の経つのも忘れるほどであったが、笑いを誘う一言一言の中に鋭い問いかけがあった。

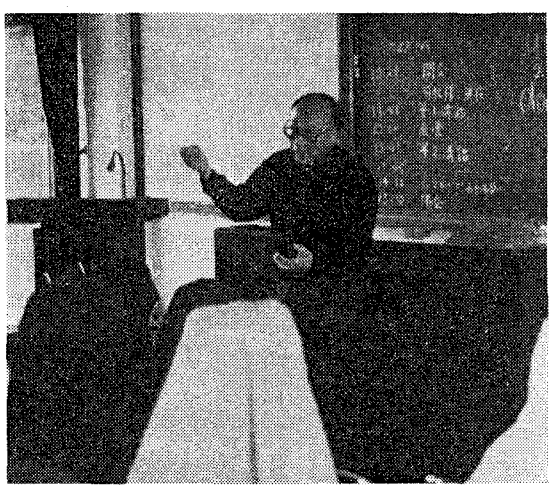
さらに回勅の呼びかけの中にあるのは、人権の尊重であり、対話の喪失、環境汚染、自然破壊、援助問題等ともかからむ真の平和は、人類の連帯から始まるもので、特に教会は貧しい側との連帯に呼ばれている、と強調した。

講話の締めくくりをマグニフィカトの霊性でまとめながらマリアの思いに心をとめ、聖母のみ手に委ね、真の人間開発に取り組む姿勢をシスターたちに求めた。

講話終了後、グループに分かれて分かち合いの時を持ち、各人が相互に連帯し、二十一世紀を前にした社会の中で、ささやかな証し人としての歩みを始めていこうと励まし合い、誓い合った。

研修会に参加したあるシスターは、「修道者と言えども豊かな生活に馴らされてしまいます。自分たちのなすべきこと、見つめるべきこと、生き方の原点を問われたようです。新たな決意を抱きたい」と感想を語っていた。

問われる豊かな生活



カトリック・フェスティバル 実行委員会を設置

全員参加の意識が課題

今年十一月十一日に開催される「カトリック・フェスティバル」に向けて、第二回目の企画運営委員会が一月七日司教館で行われた。

会議に先立ち、司教は「フェスティバルにとって大切なことは、当日より、そこにいたるまでのプロセス（過程）である」と励ました。

議事に入って、教区信徒協会長の牧山敏治氏は、「信徒協として全面的に支援していきたい」と語り、佐賀地区ではすでに動きが始まっていると紹介した。

北九州地区の態勢については、小笠原勝己氏が状況説明。遠方の人たちの受け入れなどで話し合いがなされている、などと報告した。

今後の進め方については、企画運営委員会の他に実行委員会を設け、具体的な作業を始めていくことになった。

また、ポスターや神の祝福を願うための共通の祈りを作成することになった。

市民ふれあい広場で ネグロス島救援活動

若松教会が出店

北九州市若松区で市民の手作り作品の展示・チャリティー・販売の催しとして広く親しまれている「ふれあい広場一〇〇万人の出会い展」に、昨年の十一月三日～五日の三日間、若松教会が参加し、飢えに苦しむフィリピン・ネグロス島の人々を助けるための大キャンペーンを展開。黒砂糖やタオル、ナプキン等を販売しながら市民に島民の窮状を訴え、募金を呼びかけたところ大きな反響があった。

若松教会では早速、主任のコース神父と信徒数名が現地に数十万円にのぼる援助金を持参、ネグロス島のラ・グランハ・ラ・カルロータ市にあるラ・グランハとナガシの教会に手渡した。

信徒会長の松尾光敏氏は、「北九州地区の教会や正平協の応援に心から感謝申し上げますと共に教区の皆さまのお祈りや献金への御協力をお願いします」と語っている。

熊本市民クリスマス 善意の募金は ペルーのリマへ

熊本キリスト教会連合主催の「市民クリスマスの夕べ」が昨年十二月二十日（水）午後六時より熊本市民会館で開催された。

二十回目を迎えた催しの第一部では、市内のミッションスクール五校が合同でキリスト誕生物語を演じ、聖書の朗読と合唱、ブラスバンド、マンドリンなどを使った「音楽でつづるクリスマス・ストーリー」を披露。島崎カトリック教会のW・カリー神父がメッセージを述べた。

第二部は、北海道家庭学校長の谷昌恒氏による講演。谷氏は「心を問いつづけて」と題して、百三十万坪の敷地を有する北海道の大自然の中で生きる八十数名の生徒と三十数名の先生たちの生活、生徒たちの社会復帰への過程を体験をもとに話し、聞く者に感動を与えた。

伊藤達也さん（手取教会・準備委員）の話　二十回目の記念すべき『市民クリスマスの夕べ』を、プロテスタント、カトリック双方のすばらしい協力のもとに開催できてよかった。谷昌恒先生の講演は、大切な何かを教え、『音楽でつづるクリスマス・ストーリー』では、音楽の響きにみことばが乗り、一人一人の心の中に運ばれてゆくような気持ちにさせられました。

善意の募金も多く集まりましたが、その中から約四十万円をリマ（ペルー）の加藤マヌエル神父様のところに送る予定です。多数の方々のご協力に感謝申し上げます。

生命山のクリスマス 静と動の三日間

近隣の子供たち招く

東西宗教交流センター・生命山カトリック別院の昨年のクリスマスは、十二月二十二日に始まった。

二十二日は、生命山にゆかりのある人二十名が本堂に集まり、イザヤの預言、詩編を歌い、般若信経を唱えた。

二十三日は、近辺の村々の五十数名の子供たちや大人など、合わせて七十名が本堂の中に作られた馬小屋の前でキャンドルサービスを行い、クリスマス・キャロルを歌ったり、ケーキをいただきながら楽しく過ごした。

二十四日は、生命山だけのクリスマスを、ミサと祈りで静かに祝った。

二十五日には、所属小教区の玉名教会へ隆りて行った。

数日間にわたってクリスマスを祝った生命山のS・フランコ神父は、次のように語った。「キリスト様は、一瞬のうちに来られるのではなく、今日も明日も来られる歴史的出来事です。ナザレに生まれ始め、今もあらゆるところでお生まれになります。仏教の方々の中にもです。私はキリストのこの神秘を深く感じています。

今年訪れてくれた子供たちは、本堂に作られた馬小屋にとても関心を持ち、キリストの誕生の紙芝居の時も、静かに聞き入っていました。何かに出会ったようです。すばらしい出会いのクリスマスだったと思います」。

シリーズ ここが聞きたい

公害問題④

聖書の中にカギが……

公害を増やさないためには、判断基準をどこに置いて生活していくのがよいのでしょう。

環境汚染や自然破壊の問題に対応するためには、まず各個人がよく考え、まわりの人々と話し合い、よりよい方法を見つけ出し、実行して行くことが重要なことです。

自然は、人間が生きるのに必要な全てのものをいつも準備してくれます。自然が病めば人間の命を脅かすことは水俣病や四日市ぜんそくなどの公害の結果を知ることでよく分かりますし、自然が破壊されるとかえって生産がストップしてしまうということもアフリカ等の飢餓の情報を聞けば明白です。

これは、自然が持つ生態系という、生物集団と環境との総合的活動、つまり、植物が水・二酸化炭素・土・日光の恵みを受け酸素を出し、また動物がその植物を食べ、その排泄物や死骸を植物のかすなどといっしょに微生物が食べ、土・二酸化炭素・水を出して、それをまた植物が受け取り……という回転のどこかを破壊したために起こるのです。

例えば、プラスチック・合成洗剤・化学肥料など化学物質は腐りもせず微生物も食べてくれませんので大地の上に転がり続けます。ゴルフ場のように一山全部の木を伐採し、芝生に変えると、鳥や虫は住めなくなり、水の流れも変わります。隣国の森林までも切ってしまい紙や割りばし、つまようじに変えてしまいます。これで生態系に何の影響も及ぼさずに人間が自然の恵みを豊かに受けていこうなどとは、ちょっと虫のいい話しだと思いませんか。

最後に、公害第一号の足尾銅山鉱毒事件で生涯、住民と共にこの問題に取り組んだ田中正造さんは、キリスト者ではありませんでしたが、「聖書を読むよりは先ず聖書を実践せよ。聖書を空文たらしむるなかれ」と日記に書いています。この辺りに、私達の生活の基本が潜んでいるのではないでしょうか。

回答者　坂口淳子（老司教会）

藤房神父のこぼれ話

ラゲナバ？

わたしの故郷には「ラゲナバ」と呼ばれる茸（きのこ）があります。

昔、ラゲ訳聖書で有名なラゲ神父様が馬渡島に来られました。神父様は昼食後山に散歩に行き、そこでたくさんの茸を見つけ、ハンカチに包んで司祭館に持ち帰りました。

そして、賄いのおばさんに夕食のおかずに料理してくれるように頼みました。でもおばさんは、その茸を見て、びっくりして「こんな毒ナバを食べたら気が狂うか、死んでしまいますよ」と言いました。けれども神父様の命令です。しぶしぶ料理して食卓に出しました。おいしそうに食べる神父様を横目に賄いさんは、神父様が今にも狂いだすのでは、と心配でたまりません。でも幸いにその時神父様の様子に変わったところはありません。

その晩、賄いさんは心配でどうしても眠れませんでした。翌日のごミサに神父様は無事に来られるのだろうか、と。

ところが翌朝、神父様は平然としてミサを捧げたのです。賄いさんはびっくりして、ごミサのあと残っていた茸をみんなに見せました。みんなでおそるおそる味見をしたらとてもおいしかったそうです。

それ以来、島の人たちはその茸を「ラゲナバ」と呼ぶようになったということです。

昔の宣教師はこのようは信仰と共に生活の知恵も伝えてくれたのです。

BOOK 読みま専科

☆都会の幸福　曽野綾子著

東京で生まれ、東京で育った著者の都会論である。

「経済的発展は、日本中に、同じような外観の故郷を作った……そのために郷里の特徴がなくなった、という人もいるが……その変化をやはり明るい変化と信じて疑わない一人である」という著者は、「多分人は小さな故郷のためなどではなく、共通の人間の悲しみと喜びのために歌うのである」と語る。

PHP研究所　一二〇〇円

☆美しき愛の姿　中山和子著

最新刊
美しき愛の姿
真実の愛を求めて　中山和子　B6判・240頁　定価980円
♥綿々と綴られた愛の呼びかけ、愛への招き！
〒859-01 長崎県北高来郡小長井町☎0957(34)2228　愛　社（聖母の騎士修道女会）

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア　吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092―711―0550
代表取締役 ヨゼフ　吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材　石　石　他
理　影　の
大御そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

二月の行事

4日　※ゴチックは司教日程
　レジオ・マリエ40周年ミサ（大名町）午後2時
6日　北九州地区医師会　午後2時
11日　司祭評議会　午前10時30分
13日　カトリック・フェスティバル第3回企画運営委員会（司教館）午後2時
18日　福岡地区司祭の集まり　午前10時30分
　Sr.古道（援助会）の永久誓願（黒崎教会）
　教区信徒協（八王寺）午後2時
　典礼聖歌祈りと研修（黙想の家）午後1時
19日　司牧評議会常任委員会　午後2時
19～23日　司祭生涯養成研修会（黙想の家）
19～3月3日　アド・リミナ
21日　カナの会　午後1時30分
28日　灰の水曜日（大斎・小斎）

福岡黙想の家

6日　雙葉学園小学校4年生
7日　雙葉学園小学校3年生
10～11日　御受難きょうだい会
11～12日　北九州リーダー研修会
18日　城山教会青年会
　聖母カテキスタ会
　典礼聖歌祈りと研修　午後1時
19～23日　司祭生涯養成研修会

典礼聖歌 祈りと研修

日　時　2月18日（日）13:00～18:00
場　所　福岡黙想の家（宗像市）
お　話　鈴木　忠一神父
指　導　深堀　　純氏
費　用　1,000円
持参する物　「教会の祈り」と典礼聖歌集
連絡先　深堀　　純　☎092-801-5351

＊自然林に囲まれた、静かな祈りの家で祈りの心、言葉、歌声を通していかに典礼が生き生きとした喜びとなるか、学び合い、語り合いたいと思います。

家庭委員会 委員決まる

教区の『家庭委員会』のメンバーが決まり、このほど発表された。家庭の種々の問題に対する同委員会の活躍が期待されている。

委員長　司祭　ショーン・M・ライル
委員
修道女　吉永　ユリ（福岡）
信徒
追立　秀治（北九州）
追立キミ子（〃）
鬼木　保之（福　岡）
鬼木　久美（〃）
深堀　　純（〃）
深堀　邦枝（〃）
太田　寛子（〃）
井手　　信（〃）
牧山　敏浩（佐　賀）
牧山　信子（〃）
福田　俊靖（熊　本）
福田　節子（〃）
阿部　由子（〃）
（敬称略）

参加者募集

マリッジ・エンカウンター

（ご夫婦のための集い）

日　時：4月28日（土）～30日（月）連休
場　所：福岡黙想の家（宗像市）
＊家族の見直し、家庭のあり方などが語られるこの頃です。静かな雰囲気の中で日常生活の忙しさから離れ、お互いの結婚に対する神の望みを聴くよい機会だと思います。
条　件：ご夫婦での参加が必要です。
　　お二人のどちらかカトリック信者であること。
詳細は：鈴木忠一神父　☎0940-32-6662

太田道子女史を囲む聖書の集い

＜福岡＞
場　所　カテドラル
日　時　2月21日（水）19時
問い合わせ　☎092-741-3687

＜熊本＞
場　所　手取教会
日　時　2月22日（木）19時
問い合わせ　☎096-352-3030

＜北九州＞
場　所　戸畑教会
日　時　2月25日（日）19時

おかのときのことのは

森山　敬三

のこりゐてむかしを今とかたるべきところのはてをしる人ぞなき　一遍

『一遍上人語録』に所収。一遍は時宗の祖。念仏が念仏を申すなり、と唱えて、法然の行と、親鸞の信を止揚し、禅とも結びついた。空也上人の「捨ててこそ」を更にすすめて、捨てる心をも捨てた。家を持つことを認めず、生涯日本全国を遊行し、集団で誦る念仏を始めた。時宗は鎌倉末期から室町にかけて、最も信徒数の多い宗教で、その階級は大名から浮浪者にまで及んだ。足利将軍の同朋衆は、政治や戦争で解決できないことを、裏で処理する重要な社交係であったが、それには阿弥（あみ）の号を持つ、信者かそれに共鳴する芸能、学問で生きる人たち、が当った。連歌の心敬は勿論のこと、茶道の能阿弥、花道の立阿弥、能学の観阿弥、歌道の頓阿弥など、現代日本の芸術の先駆者たちは、なんらかの形で、みな時宗に関係していた。

おーかーげ

愛される人になる

徳山　登

イエズス会の一人の神父様の話です。小学生時代喧嘩したことがあって、卒業式の日に「愛する人より愛される人になってくれ」と書かれた色紙を贈られました。この言葉が司祭になった今も心に生きているそうです。

たしかに愛することより愛されることの方が難しいように思えます。特に信者は人に親切を尽くすように心がけています。また献金や寄付をしたり、いろいろな善行を重ねます。

ところでそこに一つの誘惑があります。人の目にそして自分の目に徳のある信者に映ることへの自己満足です。

聖パウロも言っています。「たとえ全財産を貧しい人に分け与えても、称賛をうけるために自分の身を引き渡しても、愛がなければ何の益もない。」（1コリント13・3）つまり大切なことは愛されること、言いかえれば神からの愛、人からの愛を素直に感謝のうちに受け入れることです。実際それは難しいことです。厳しい条件が必要になるからです。すなわち謙遜な心から生まれる誠実な態度です。

この大切な現実を悟るために、子どもにならうことはたいへん参考になります。「あなた方は心を入れ替え自分を低くして、子どものようにならなければ天の国に入れない。」（マタイ18・3）大人になると、えてして世間体を気にして、《どう思われるか？》計算して、考えるようになり、本音とたてまえという現象が生じます。その結果見栄をはったり、威張ったり、てれたりして、愛される余裕を失っています。

数年前、東京板橋でごみの山から、ひとりの赤ちゃんが発見されました。まだ生きていました。騒ぎに気付いた付近の人も集まってきました。ごみの山から赤ちゃんは無事救け出され、路上に寝かされました。後は回りを取り巻いて、ガヤガヤ騒ぐだけ！誰ひとり抱き上げる人はいない。

この記事を見ての感想が、「わが子を捨てた母親だけにではなく、その捨て子を囲んでも抱こうとしなかった婦人たちにも憤りを感じます。いいえ本当は、私自身の中にある人間のみじめさに憤りを感じたのでした。それは私がその場に居合わせたとして、果たして、私が赤ん坊を抱き上げたでしょうか。自信がないのです。」と出ていました。

大人の態度の中には、愛されないような醜いところが多いでしょうが、子供たちの場合は愛されていることを十分自覚していますから、《自分がどう思われているか》などの計算をせずに自然に行動する自由さを持っています。ある日、一人の男の子が遊んでいて、転び大声で泣き出しました。すると、女の子の一人が泣いている男の子のそばにたって、しばらく、じいっと見ていましたが、なにを思ったのか、後退りし、次に走り出しました。そして、男の子のそばに自分も転んで、実に見事な演技を披露しました。二人は、顔を見合せ笑っていましたが、しばらくして、わざと転んだ女の子がごく自然に「さあ、立とう！」と言いながら、相手の手を取って一緒に立ち上がり、元気に走っていきました。

神さまはすべての人に心に愛されたい望みを注いでくださいました。主ご自身も十字架上で「かわく」とおっしゃった時、私たちの愛情に渇いていらっしゃると、小さいテレーズも解釈されました。

愛によって生きることは信仰生活と福音宣教の唯一の原動力です。そのためには、《私は自分の力だけで愛され、愛する事はできない》という現実を見つめ、受け入れることが大切です。

キリスト者はキリストのものでありますが、また、キリストは私たち一人ひとりのものでもあります。ですから、自ら転んだあの女の子のように、愛されている喜びを人々に自然に伝えることができるでしょう。

（パリ外国宣教会司祭）八王寺教会）

小倉教会 宣教四百年記念テレカ

宣教四百年への準備をすすめる小倉教会（主任バスティン神父）で、記念のテレフォンカードが発売されている。

テレフォンカード（50度数）は、同教会の山元真神父の写真撮影で、フランスの教会のステンドグラス、聖母マリア像がカラーで三種類（各千円）、小倉教会の聖母像が白黒で一種類（八百円）、計四種類が用意されている。

ご希望の方は、小倉教会までご連絡ください。☎093-921-0093

問い合わせ　☎093-871-3019

どなたでも参加できます。なお、新・旧約聖書は予備がございませんので各自ご用意ください。

二月命日の司祭

＊ガストン・オーブリ師（聖スルピス会）一九八五年二月二十六日元大神学院院長
＊フランソワ・ドルエ師（パリ外国宣教会）一九八三年二月二十六日元八王寺教会主任
＊ジョン・オマラ師（聖コロンバン会）一九七四年二月十四日元荒尾教会主任
＊ジョゼフ・ボア師（パリ外国宣教会）一九五七年二月十七日元黒崎教会主任
＊フランソワ・ベルトラン師（パリ外国宣教会）一九四〇年二月二十二日元門司港教会主任

編集室から

▽「ここが聞きたい」で公害問題を取り上げていますが、今年の教皇ヨハネ・パウロ二世の元日平和メッセージは、まさに環境問題です。

豊かな社会に生きる私たちこそ、地球環境保護の第一の責任者なのかもしれません。

▽ご多分にもれず、新聞づくりにたくさんの紙が消費されます。諸外国の森林伐採の一翼をになっているような変な気持になることもあります。一枚一枚を大切に使用させていただきたいと思います。

▽連載「藤房神父のこぼれ話」の牧山藤房神父様はただいま福岡大学病院に入院中です。神父様の一日もはやいご回復をお祈り申し上げます。

なお、読者の皆さまによろしくとのことです。

▽「今、望まれる司祭像」を対話の材料のため全文掲載いたしましたので、「家庭の日アンケート」報告の第二回目は次号にいたします。（W）

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2—0646
行橋市駅前5秒店　☎2—2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641—4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641—7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922—5637

未来へ——安心を創る
FUJKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木　鐵三　福岡支店長　藤倉　良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　092—521—0568

カトリック
福岡教区報

平田司教認可
発行所
福岡市中央区浄水通39
福岡司教館
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
電話 092—522—5139
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

司祭評議会

教区の神学生減少傾向
青少年への働きかけを

司祭評議会は二月六日、司教館で開かれ、①十一月十一日に予定されている教区行事のカトリック・フェスティバル②全司祭の集い③糸島郡に建設予定の教会問題④教区の小神学生の増加のための対策⑤各種委員会の活性化などが話し合われた。

◇　◇

①カトリック・フェスティバル企画運営委員長の渡辺隆義師が準備状況を報告。その中で、独立採算になっているフェスティバルの財源の捻出について評議員の意見を求めた。これに対して評議員から七月の「教区宣教特別献金」をあてるようにとの意見があったが、教区会計より無理との判断が示され、改めて検討することとなった。

また各地区司祭団への理解、協力願いは委員長を通してなされており、協力態勢も少しずつできてきている。

②司教団のメッセージ「今望まれる司祭」についての研修を五月八日の全司祭の集いのときに行う。

③糸島郡志摩町に予定されている教会建設とその活用法は、西新教会の意向を汲んで慎重に検討していく。

教会建設予定の周辺地域はリゾート地の構想があり、当座の建物の大きさ、付帯事業を計画するときもそれを考慮に入れる。

④教区の小神学生は現在七名と数の上では低迷状況で、今後の召命に暗雲が立ちこめている。後継者の養成は司祭自身はもちろんのこと信者全体の問題であり、一層の理解と協力が求められた。

このための具体的行動として、召命を求める祈りや小神学校に対する誤解を取り除くためのパンフレット作成などが計画されている。また教区の大神学生と青少年の交わりの機会をもっと持つべきだとの意見も聞かれたが、これに対して小神学校長の松井忠之師は「地区や小教区の子供たちの集まりに出向いて子供たちへ召命の働きかけをしたいので、いつでも呼んでほしい」と答えていた。

また、小神学生養成のスタッフが一人の司祭だけでは負担が大き過ぎるので、どのような形での関わり、援助が可能なのか今後の検討課題となった。

⑤家庭、青少年、正義と平和、広報、信仰教育、召命促進、社会福祉、移動、学校など各種委員会が設置されて一年になるが、より一層活発になるために、委員長の集まりをもって連絡調整を計るようにとの希望が出された。

カトリック・フェスティバル

開始時間など大枠決定
実行委員会事務局は水巻教会に

この秋、北九州の明治学園を会場に開催される教区『カトリック・フェスティバル』の第三回目の企画運営委員会が、二月十一日に司教館で行われた。

会議に先だち司教は「『開かれた教会』の姿を社会に証するための一つのイベントです。交わりとしての教会を実現するためにも、共に考え、歩んで行く姿勢を大切にしてください」と激励した。

つづいて福岡、佐賀、北九州の各地区の委員が、それぞれの現況を報告。福岡地区からは、バザーのために机などを小教区が用意しなければならないとなると大変だ。佐賀地区からは、当日はみんなフェスティバルのミサに参加するように働きかける。郷土色豊かなものをバザーに出す。北九州地区からは、遠方の人のため小教区、あるいは家族単位でホームステイ方式の受け入れ態勢をつくっている。ミサは、各部の説明をしていただくと信者にもそうでない人たちにも役立つ、などの意見や提案があった。

これらの報告を踏まえ、概要以下のように決定された。

フェスティバルのポスター作成は、キャッチフレーズを慎重に検討する必要があり、教区青年委員会を通して若者たちに複数の案を考えてもらい、企画運営委員会で選定する。このために、一般向けのポスターの作成は七月をめどとし、小教区のためには広報委員会が啓蒙のためのポスターを早急に用意する。

ミサは一時間半程度の長さとして、信者でない人たちへの配慮を大切にし、喜びの雰囲気を出す工夫をする。

午後は音楽コンサートを講堂で行い、広場でも郷土芸能などを楽しんだりできるようにする。

不用品などのバザーは午前十時から、開店閉店の時間は各コーナーにまかせ、相談、展示コーナーについても午前十時から開くこととする。

具体的な問題を検討し、調整を計る実行委員会（委員長小笠原勝己氏）が北九州信徒使徒職協議会を中心に設置されるが、事務局は水巻教会に置かれることになった。

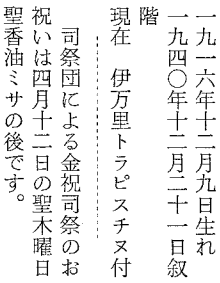
次回の企画運営委員会は四月十五日（復活祭）の午後三時から司教館で開催される。

司祭叙階金祝の恵み

糸永　一師
福岡教区司祭
一九一三年十一月二〇日生れ
一九四〇年三月二十三日叙階
現在今村教会主任

伊東　誠二師
福岡教区司祭
一九一三年十一月二〇日生れ
一九四〇年三月二十三日叙階
現在今村教会主任

ハイメ・ミケレーナ師
福岡教区司祭
一九一六年三月十二日生れ
一九四〇年六月二十一日叙階
現在馬渡島教会主任



厳律シトー会
一九一六年十二月九日生れ
一九四〇年十二月二十一日叙階
現在　伊万里トラピスチヌ付

司祭団による金祝司祭のお祝いは四月十二日の聖木曜日聖香油ミサの後です。

四旬節司教教書

家庭は最初の神学校

司祭・修道者の召命の増加をはかるために教区民の一層の理解と努力を求める四旬節司教教書『主よ、あなたのブドー畑で働く人を殖やしてください』が発表された（全文は2面に掲載）。

教書は、救いのよい知らせを人々に伝え、洗礼に導き、聖体祭儀によって養い、宣教に派遣するのが司祭の役務であるとしたうえで、このような仕事の引き受け手が近年減少している事実を認識し、適当な対策を立てようと呼び掛けている。

つづいて「家庭こそ最初の神学校」で、家族がそろって祈りや犠牲を捧げる中で、召し出しの種が蒔かれ、育っていくと述べ、小教区の教会や司祭館が青少年にとってわが家のように楽しいものとなるようにと願っている。

また青少年に召命へのあこがれを持たせるのは司祭の生きざまであり、具体的には、司祭たちが兄弟愛に結ばれ、一致協力して与えられた使命を忠実に、謙虚に、喜んで果たしている姿をあげている。

最後に、祈りこそ現代の危機的状況を救う力であると言明している。

大水幸一神学生助祭に
3月21日カテドラルで

中村彰、中村信哉二神学生は教会奉仕者、伊東成晃神学生は宣教奉仕者に
選任式は16日大神学校で

大水幸一神学生（新田原）の助祭叙階式は、三月二十一日午後二時からカテドラルで行われる。また教会奉仕者の中村彰（鳥栖）、中村信哉（小倉）の両神学生、宣教奉仕者の伊東成晃神学生（古賀）の選任式は三月十六日午前十時からサン・スルピス大神学院で行われる。（　）内は出身教会。

教区民の祈りによる支援が求められている。

御受難会の村山、森山二神学生が終生誓願式
3月18日大阪・池田教会で

四年前に福岡黙想の家で修練した村山隆也、森山健四郎の二神学生は、大阪の池田教会で終生誓願を宣立することになった。

福岡黙想の家では「ふたりのためにあたたかいお祈りの支え」を願っている。

大名町教会

レジオ・マリエ二千回集会
記念のミサ

大名町教会のレジオ・マリエは、毎週木曜日の定例集会が二千回を数え、二月四日、同教会で記念のミサと祝賀を行った。

レジオは、病人や孤独な人の訪問などをする活動団体の一つで、大名町教会は佐賀教会に次ぐ歴史を持ち、昭和二十四年二月の発足以来四十一年の歴史を経て今日に至っている。

この日は、新・旧会員約七十名が共に歩んだ恵みのみちのりを振り返った。

感謝の記念ミサは平田司教司式のもと、青木(保)、山川、鵜野、松井、森山各神父が共同司式。説教の中で平田司教は次のように述べた。「レジオ・マリエは信徒使徒職のはしりであり、地道な活動の中にも大きな成果を生み出してきた。隣りの韓国の教会の発展の影にはレジオの大きな働きがある。今後とも皆様の活躍を大いに期待しています」。

レジオ・マリエの婦人会員の一人は「レジオの場が、教会を初めて訪れる人に何らかの力添え、助けになり、レジオの集会が、受洗直後の信者の養成の場として提供出来ればと思う」「今後ともそれぞれの環境の中で、例えば自分の職場などでキリストを伝え、病人訪問なども積極的に行い、教会の導きのもとに活動を続けていきたい」と語っていた。

北九州教会一致集会
カトリックの「開かれた教会」学ぶ

カトリック、聖公会、プロテスタント諸派による北九州キリスト教合同教職会（カトリック側世話人徳山登師）の集まりが一月二十九日、北九州YMCAで行われ、渡辺隆義師（司教館）が「第二バチカン公会議後のカトリック教会」と題して講演した。

参加した牧師たちからは配布された資料をもとに、教会における「位階制度と信徒の議決権」「女性の聖職叙階の可能性」など率直な質問が投げかけられていた。

今月のみことば

ダビデの子イエスよ私をあわれんで下さい

（マルコ10・47）

手取　ヤングキャンプ神父

時の話題

新富康央

前回、子育ての「三つの目」について触れた。それは、能力や才能上の出来―不出来で子供を見ないで、ひとりの人格者として尊重する「見つめる」目、その中から見つかる子供の良さをまめに拾いあげる「見つける」目、そしてその良さを賞や罰を用いて伸ばす「見まもる」目であった。

だが、子供に成長への信頼を置こう、という「見つめる」目を持つことが意外と困難なのです。この時季、受験生を抱えて頭の痛い家庭も多いことでしょう。私たちはつい、学校の成績というモノサシだけで、その子の値うちをはかってしまいがちです。

先日、中学二年の男子生徒をお持ちのお父さんと一杯やっていますと、「私は自分の息子を尊敬しているんですよ」とおっしゃる。酔った勢いとはいえ、唐突な言葉に一瞬驚きました。次のような会話のやりとりがあった。

「先生は、せがれが全県模試（二五〇点満点）で何点ぐらいとっている、と思いますか。」「二三〇点ぐらいですか。」（尊敬するというのですから）」「いいえ。その最初の二がない、つまり三〇点ぐらいということですよ。二五〇点満点で三〇点しかとれない子供って学校でどんな状況かわかりますか。」ではどうして、そんな息子を尊敬するといったのでしょうか。お父さんは続けます。「そんな子が、毎朝『行ってきます』と、元気よく、さも学校で何か楽しいことが待っているかのように出かけるのですよ。こんなすばらしい子供がいるでしょうか」と。返す言葉がありませんでした。

ナメクジとデンデン虫

ナメクジとデンデン虫をくらべて下さい。ナメクジは殻もたぬ故に疎まれ、塩をもって追われ、嫌われます。他方デンデン虫は、美しい殻故に、童謡にもなり、したわれる。親の、社会の見方ひとつで、つまり暖かい目、救う目、愛の目で、子供はナメクジからデンデン虫に変わるのです。

愛するとは、相手を受け入れること、相手の存在を大切にすること、相手を無視したり、否定したりしないこと。相手を生かすことによって、心をひらかせることです。

「愛は寛容であり、愛は情深い。」（Ⅰコリント13・4）

（佐賀大学助教授　佐賀教会）

みちくさ

カトリックとプロテスタントの司祭や牧師たちが共に祈り、対話する集いに講師としてよばれ、冷や汗をかいてしまった。「第二バチカン公会議後のカトリック教会」というテーマで「開かれた教会」を視点にと話を頼まれ簡単に引き受けたのだが、準備するうちにとんでもないことをしたと後悔していた▼このようなテーマを取り扱うためには、常日頃から、とりわけ教導職の教えによく耳を傾けていなければならないのだが、不勉強であった。そこでとりあえず、この十数年間、日本の司教団が出した声明などを読み直してみた。というのも、最近の司教団の動向に危惧を抱く人々がいるからである▼日本の教会は本当に魂の救済を忘れて、奉仕団体になりさがったのか。少なくとも「みちくさ」の道程で知りうるかぎりでの教会は、そうではないようだ。教会の危機は、むしろ豊かさの中で生きることに馴れ親しんで、ナザレのイエズスやアシジのフランシスコのような生き方をもはや時代遅れとしてしまっていることにあるように思える▼現代の若者が新宗教に流れていくのも、キリスト教をはじめ既存の宗教の指導者が創始者の持っていたあの純粋な情熱、素朴さを失っているからではないだろうか。自分の権威を保証する体制の維持を計り、生活の安定のことしか考えない宗教家の欺瞞を人々はすでに見破っている。どんなに入口だけを美しく装っても、中身が悪臭をはなっていれば、長くはそこに留まりえない▼キリストの福音という「天然の宝石」より、自分たちがつくった「宝石もどき」を人々に示しているのかもしれない。プロテスタントの兄弟姉妹たちから学ぶべきところは多い。彼らはカトリック教会に、日本の社会で福音を生きることについて真剣な対話を求めている。私たちはこの問いかけにどう答えたらいいのだろうか。

一九九〇年四旬節教書

主よ、あなたのブドー畑で働く人を殖やしてください

福岡教区長　司教　平田三郎

四旬節を迎え、キリストの受難を偲んで、共に十字架にかかり、共に闇から光へ、死から栄光のいのちに過越す準備の季節に入りました。人類の救いの神秘を黙想する時です。この神秘は、永い間神のみ心の中に隠されていましたが、時が満ちるにおよび、おん子キリストの十字架と復活を通して実現されました。

教会は、この神の愛を地の果て、世の終わりまで人びとに告げ知らせるために設立されました。そして、この神の愛・救いのよい知らせ・福音を人びとに説いて信仰に導き、洗礼によって神との深い交わり、兄弟たちとの堅い一致に導いて「神の家族」のメンバーとし、聖体によって養い、宣教に送り出すのが司祭・牧者の務めです。このような牧者のいない教会は考えられないのです。

牧者のいない羊の群れは、どこに牧草があるのか、いのちの泉はどこにあるかも知らずに弱り果て、打ちひしがれてしまいます。大牧者であるイエスは、このような状態を見て深く憐み、弟子たちに「収穫は多いが、働き手は少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう収穫の主に願いなさい」（マタイ9・37～38）と言って、彼らを遣わされました。

牧者の数は十分か

司祭・修道者の召し出しは、三十年ぐらい前から次第に少なくなり、世界の教会は、将来の自分のいのちにかかわるこの現実に深い憂慮の念を示してきました。

第二次世界大戦後、人びとは、戦前、戦中に味わった労苦を埋め合わすかのように、犠牲を避け、楽な生活を選ぶようになりました。ひとりふたりの子供しか産まない核家族の出現などもそれでしょう。また、都会の神なき文化は、マスメディアを通して僻村の隅ずみまで浸透し、人びとの心を世俗化してしまい、祈る時間、人生について静かに考える時と場所を奪ってしまいました。宗教心は窒息させられ、「物」が価値判断の基準となり、人間存在の目的はそこにあるかのように錯覚し、「物」の中に、どっぷり浸るようになりました。キリスト信者も、この社会の流れに抗しきれず、超自然を見る目も霞んできました。

このような風潮にあって、独身を守り、貧しく生き、羊のためにいのちをかけて奉仕する司祭・修道者の生活への道は、以前にも増して困難になってきました。十年前まで三十人に近い生徒がいた教区の小神学校には、今では七名しかいません。この状態が続くなら、十年、二十年後の教会はどうなるのか、心配でならないのです。その頃になると、百十二名いる現役の司祭も、老齢化や思わぬ病気などで、身を引くことになるでしょう。この現役の司祭たちのうち、すでに七十歳を越えている人は十八名もいます。しかも、教区で働いているこれらの司祭の三分の二は宣教会・修道会に属しており、外国からの宣教師の派遣が最近まれになっていることなどを考えると、新司祭養成の急務を、ひしひしと感ぜずにはおられません。

問題の解決

司祭養成の責任はだれにあるか、第二バチカン公会議の「司祭養成に関する教令」は、こう言っています。「召し出しを育成する義務は、全キリスト教共同体に課せられたもので、この共同体の深い信仰生活の営みが、召し出しを生み出す畑になる」と。公会議は、この信仰共同体・神の民を指導する司教、司祭は勿論のこと、家庭、小教区、学校、アクション団体のメンバーが、各々の分野で、一致協力し、この重大な問題の解決に当たらなければならないことを教えています。

家庭と小教区

司祭・修道者の召し出しの苗床は、家庭、小教区だと言われています。家庭での日々の生活の中で、信仰の動機に基づいて、人びとに奉仕したり、家族揃って教会の発展のため祈ったり、犠牲を捧げたりする家庭には自然と召し出しの種が蒔かれ、発芽するのです。このような「家庭教会」こそ最初の神学校で、召命促進の第一の場であり、これは信者の家庭でしか果たせない固有の役割です。

どこかの家庭から召し出しはあるだろうといった人まかせの態度を捨て、自分の家から聖職者が出るように祈り、もうひとりふたりの子を育て、神とその教会に捧げる信仰と勇気をもっていただきたいものです。

召し出しのもう一つの苗床は、小教区という広い家族です。教会の生き生きした典礼、そこでの熱心な青少年の信仰教育、喜びにあふれる魅力ある共同体、教会や司祭館がわが家のように楽しい雰囲気は、青少年の心を自然と奉献の生活に向け、共同体への奉仕の意欲をかり立てるものです。多くの聖なる司祭・修道者は、このような小教区から生まれております。このような雰囲気は、教会内にある青年会、婦人会、その他のアクション団体の熱心な協力によってかもし出されるものです。

司祭・修道者の証しの生活

青少年の聖職へのあこがれは、そこに召された人びとが、兄弟愛に結ばれ、一致協力して、与えられた使命を忠実に、謙虚に、喜んで果たしている姿に接してから生まれるものです。主の過越を信じ、聖霊に照らされ、万民をなんとかして復活のキリストに結び付けようと努力している使徒としての姿です。自ら物欲、情欲、名誉欲の束縛から解放され、過越のアレルヤを歌いながら、司牧・宣教に励んでいる司祭・修道者の生きざまです。

青少年は、このような人を通して、主の招きの手を見、奉献の生活に魅せられ、喜んで従う決意を固めるようになるでしょう。心ある若者たちは、使徒聖パウロのように「私は語らざるを得ない」「福音を告げ知らせなければ、私は不幸である」と言って、すべてを捨てて神とその教会のためにつくす人生に真の生きがいを感じ、その道を選ぶようになるでしょう。

皆さん、司祭・修道者が、神の恵みに強められ、福音の証しの生活を続けることができるよう祈ってください。

若者たちの奮発心

多くの若者たちが信仰の目で「生きる」ことの深い意味を悟り、勇気を振るって主の招きに応えることができるよう祈りましょう。献身の生活には、多くの困難も伴いますので、そのすばらしさを悟るためには聖霊の照らしが必要です。この照らしがなければ、人知を尽くして奉献生活の美しさを説いても、聖職への真のあこがれは生まれて来ないのです。

それは神から与えられるもので、召し出しの決定的なしるしです。神からこの超自然的なあこがれが与えられれば、目的到達にどんな困難、どんな障害があっても必ず乗り越え、喜んで前進することができます。

むすび

召し出しのために祈るとは、結局のところ、神だけが与えることのできる超自然的な聖職へのあこがれが多くの若者の心に与えられるよう祈ることです。

それだからといって、私たちの苗床造りも決してなおざりにはできないのです。もちろん、この苗床造りはたいへんな仕事です。

とはいえ、愛する教会の将来を考えて、力の限り努力いたしましょう。多くの若者が、「私について来なさい。私はあなたたちを人を漁る者としよう」「沖に漕ぎ出し、網を入れてごらん」との主の招きに応え、大海で豊かな漁をする者となるよう、心を合わせて祈りましょう。

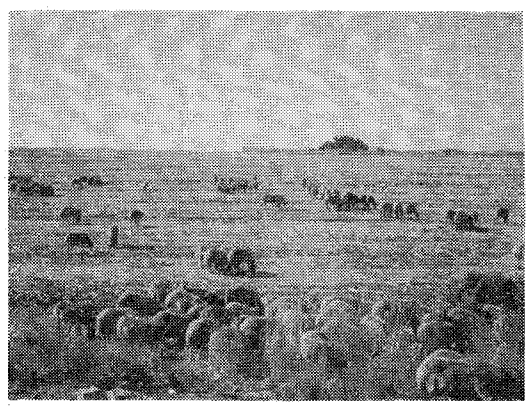
「主よ、あなたは、召命の恵みを多くの人に与え、絶えず教会を富ませてくださいます。あなたの招きの声に耳を傾ける者がふえ、惜しみなく忠実に生き、常にあなたの教会の喜びとなりますように。アーメン」。

イスラエル研修の旅（2）

聖書の背景

青木　悟（手取教会司祭）

よき牧者の話を実感



イスラエルでの三十日間と聖書セミナーに与かって、半年近くになろうとしています。しかし、不思議なことに、イスラエルでの体験や印象の一部が私の心の中に、薄れずにかえって、少しずつ深く刻み込まれているような気がします。

それは、イスラエルでのことを話す機会が何回か与えられ、その繰返しによってイスラエルでの印象が深くなっていったのでしょう。また、もう一度聖書を読むことで、それまでになかった思いで聖書に触れることが出来るようになったからだと思います。

確かにセミナーを通して聖書はもっと身近になったようです。太陽に焼けた荒れ野を歩くことで、旅することの厳しさを感じました。シナイ山に登ることで、神の民と同じ場に立てたという感慨にふけることもできました。ガリラヤ湖畔では、紅く染めてのぼるこの同じ太陽、同じ風景を二千年前に、主イエズス様も眺められたと思うと胸が高鳴りました。

しかも、これらの思いは時間の流れとともに深くなってくるようです。

でも一方では、聖書の背景と自分との間に、ある種の壁があるのを感じます。それは、距離とか時間の壁だけではなく、価値観による壁です。

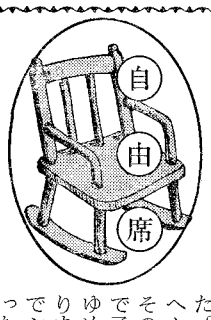
それは、その場所で生活したとしても確実に得られるかどうか分からない種類のもの、つまり信仰の問題だということです。

アブラハムの信仰、イエズス様が御父に向かわれた生き方を受諾することなしに、聖書は自分に迫ってこないものだと思うのです。キリスト者であるということは、結局、自分自身の意志で、神を選びとる生き方であると確信しました。

信仰こそ聖書の背景ではないでしょうか。このことを改めて考えさせられた旅でした。

シスターアンナ鍋内の思いで

三年　小川めぐみ



わたしは、シスターアンナに、とてもかわいがってもらいました。とくに、はつせい体の時、もう体が少し弱っていたのに、一生けん命がんばって、はつせい体のじゅんびをしてくださいました。

三ばく四日のもくそう会では、勉強をしたり、ゲームをしたり歌を歌ったり、時にはおこられたり、そんな時のシスターのお顔はとても楽しかったです。

わたしは、はつせい体をきょ年うけたばかりです。だから、シスターにおせわになったのは、わたしたちが、さいごだったんだなと思いました。

シスターがなくなられたと聞いて、びっくりしました。そんな話が本当とはしんじられませんでした。でも、それは本当でした。なぜ、しんじられなかったかというと、シスターは、死ぬ前の日まで元気だったのに、きゅうに死んでしまったので、しんじられませんでした。

わたしは、シスターの、病院に一度お見まいに行きたかったけど、東京だったから、行けませんでした。それで、お手紙を書きました。シスターは、いつもおへんじをくださいました。その手紙には黒崎教会の庭で子どもたちと遊んでいるゆめを見ると、かかれてありました。その手紙を読んでシスターが元気だと分かったのに、シスターはなくなってしまいました。

シスターがいつまでも、いつまでも、天国で見守ってくれたらいいなと思いました。

シスター、体が弱っていたのにわたしたちのはつせい体をじゅんびしてくれてありがとうございました。

（黒崎教会）

初聖体が終わってシスターや神父さま方と写った思い出の記念写真

マザーテレサの共労者会のこころと活動

一会員

日本・マザーテレサ共労者会とは、マザーテレサを慕って集まる会です。

福岡地区の共労者会は、一九八二年にマザーが福岡においでになられた後、まもなく奉仕の場所を提供してくださった大濠の聖母訪問会で集会が始まり、今日にいたっています。

只今のところ、約三十名の熱心なメンバーが毎月第一水曜日に集まって例会を開き、祈りの時間と、小さな手仕事（手芸）をボランティア活動の一端として行っています。会員は、筑紫女学園の森友先生はじめプロテスタントや仏教徒の方方、老若男女を問わず、楽しい集いを持っています。

マザーは、新約聖書（マタイ25・33～41）を、そのまま実行しておられますが、会員はそのマザーの生き方・お心に少しでも近付きたい、学びたいと願っています。

共労者会は組織ではなく規約もありません。ご希望の方々は、どなたさまでも歓迎しています。

なお、久留米教会にも、共労者のグループがあります。一人でも仲間が増えますことを希望しています。

（日本・マザーテレサ共労者会　福岡大濠聖母訪問会内）

御受難会士による黙想会へどうぞ！

① 3月10日（土）～11日（日）　指導　マテオ神父、Br梅田
② 3月17日（土）～18日（日）　指導　渡辺隆義神父（司教館）
③ 3月24日（土）～25日（日）　指導　鈴木忠一神父

※いずれも夕食(18：00)からです。御問い合わせ、御申込みは下記へ

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

福岡地区司祭の集まり

地区婦人会役員と懇談

司祭との対話を求める声が多数

福岡地区の司祭たちが、教会の婦人たちの生の声を聞こうと懇談会を持った。初めての試みとあって、双方とも少々緊張気味であったが、司祭に対する要望、激励と共に、地区婦人会が抱えている問題などについても率直に意見を述べ、話し合うことができたことは大きな成果であった。

これから回を重ねていくうちに対話もスムーズになっていくだろう。

第六回を迎えた福岡地区司祭の集まりが二月十三日(火)司教館で行われ、午前中に、福岡地区婦人会役員との懇談会が持たれた。

まず地区婦人会の現況報告と共に、今後の活動の展望を聞いて、司祭団との意見交換に移った。その中で「司祭に対する信徒の意見」と題した婦人たちの十九項目にわたる本音の意見が提出され関心を集めた。

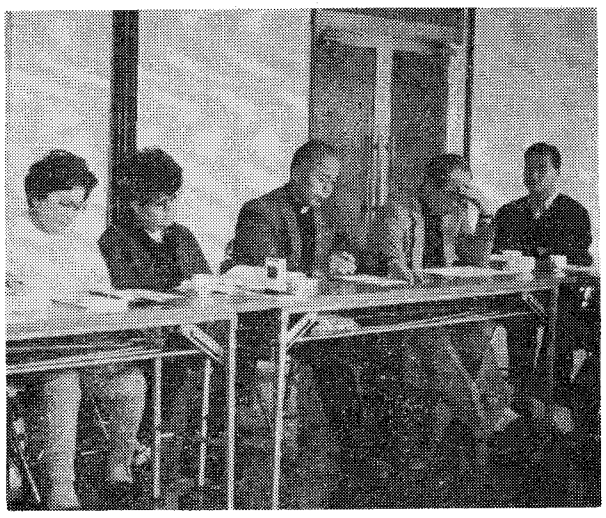
「司祭があまりに忙しすぎるので、信徒との対話、弱者に対する配慮が十分にできていない」「教会の運営にあたってはもっと信徒の本音を聞く時間を持って」「教会はお金の話が多すぎる」などの婦人たちの声に対して司祭の中から「思いあたる節がある」という反省と共に「信徒も司祭との関わりを日曜日だけとしないで、大事な話はできるだけ平日にしてください」との要望が出されていた。

このように、相互理解を深めるため活発な意見交換がなされ、出席者は今後一層、司祭と信徒の協力関係を密接なものにしてゆきたいと確認し合った。

同席し、じっと話に耳を傾けていた平田司教は、総括として「地区婦人会のこれまでの献身的な活動、奉仕に心から感謝しています。今後とも司祭団との協力関係を保ちながら、種々の困難を乗り越えて頑張っていただきたい」と励ました。

午後からは、二月六日に行われた司祭評議会の報告を世話人の渡辺隆義師が行い、特に教区行事としてのカトリック・フェスティバルに対する理解と協力を要請した。

また司教は、「教区の将来のために小神学校の存続と召命増加の対策が必要である」と語り、糸島に建設予定の教会の活用についても意見を求めた。さらにアド・リミナに際しての教区としての要望を司祭団に聞いたが、「結婚問題裁判の迅速化のため教区裁判所への権限委譲はできないのか」などの声があった。



婦人会の現状と展望について説明を受ける

シリーズ　ここが聞きたい

いのちの電話①

『いのちの電話』はどういうものですか。その歩みや役割について教えてください。

共感、受容、支持

経済の成長による生活の豊かと比例して、生活環境が複雑多様化し、人間関係は稀薄となり、相談する相手もなく、不安や悩みを持ちながら生活している人が多くなっています。

『いのちの電話』は、一九五五年にイギリスで創立された自殺防止機関「サマリタンス」や一九六三年にオーストラリアのシドニーで始められた電話相談機関「ライフライン」を参考にして、昭和四十六年に東京で開設されました。その後全国に広がり、悩める人、孤独の人のための電話による相談機関です。これは、現代人の手軽で身近な方法である電話を用いて相談を受け、心理的危機を分かち合い、共に考え、進むべき道を援助していくことを目的に設立された市民運動なのです。

『いのちの電話』は、特定の宗教、思想、信条を越え、ほとんどが企業や市民団体、一般の人々のあたたかい財政的援助に支えられながら無給の相談員と運営委員によって歩んでいます。

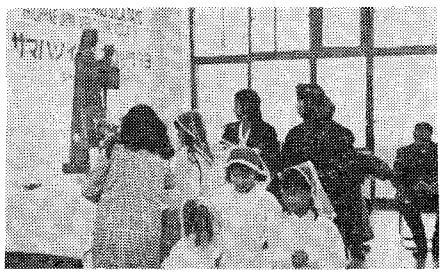
官公庁で行っている電話相談は、職業的相談専門家によって担当されるので専門的助言や指導が中心になるのに対して、『いのちの電話』は、相談員が、かけ手である人の苦しみ悩みに対する共感、受容的、支持的な心理支援とが中心になります。自殺のような緊急度の高いコールから、日常的な愚痴に至るまで電話での応対によって精神保険の予防対策を担っていると言えるのです。

『いのちの電話』は、二十四時間体制のところと、そうでないところとありますが、いずれにしても存在意義は深く大きなものがあると思います。

回答者　安部由子（手取教会）

比・日協会

ロザリオを手に　母国の平和を祈る



政治・経済両面にわたって不安定な状態が続いているフィリピンに平和と一致を求めるロザリオの祈りの集いが、二月四日、福岡カテドラルで行われた。

この日の集いは、二年前に設立された「福岡県フィリピン・日本交流協会」の主催によるもので、全国各地で一斉に行われ、カテドラルには、福岡市内はもとより近隣の市や町から約五十名のフィリピン人と日本人が参加した。

福岡県内には結婚や仕事、研修などで多数のフィリピン人が在住しているが、聖母マリアに対する信心のあつい人人とあって、フィリピン観光省から贈られたというマリア像の前で、ずっと膝まずいて唱えるロザリオの祈りにも情熱がこもっていた。

集いに招待された平田司教は、「日本の社会においてフィリピン国民としてのアイデンティティを大切にし、キリストの証人となって、心のゆたかさを失いかけている日本の人々にも、真の喜び、幸せを伝え、分かち合う者となってください」とのメッセージを読み上げた。

佐賀地区信徒協　新会長に北島氏

新役員の選出や今年度の活動方針を話し合う佐賀地区の信徒使徒職協議会の理事会が一月二十八日、佐賀教会で開催された。

会議に先だって、地区長のアルベルト・ディベルロ師は「それぞれの教会は、独立、不干渉の態度ではなく、お互いに交流し合い、一緒に何ができるか考えて欲しい」と挨拶した。

つづいて新役員の選出に移り、新会長には北島治慶（佐賀）、副会長に森内慎一郎（佐賀）・中村茂光（鳥栖）・道津功（伊万里）、書記に桜井太郎（佐賀）・田口豊光（武雄）、会計に北原博（佐賀）・中川義幸（多久）、監査に河村剛（唐津）・有安丁（呼子）の各氏を選出した。

会長に選ばれた北島氏は「力まないで、素直なこころの交流ができるようにしたい」と抱負を述べた。

議事に入って、カトリック・フェスティバルへの協力を確認し、合わせて企画運営委員会への要望をまとめた。

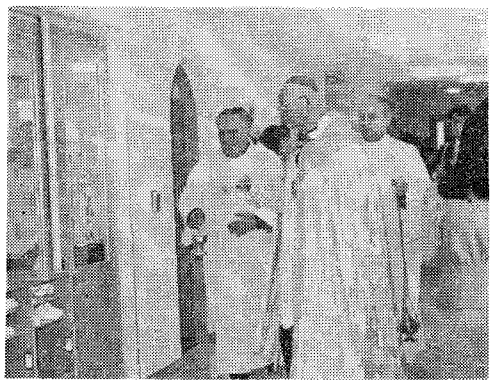
新年度の行事計画としては①小・中・高生、青年のキャンプを地区行事として行うこと②佐賀地区の殉教者を賛えるミサを秋分の日に不動山で行う③地区報の「おとずれ」第六号を発刊するために広く原稿を募集することなどを申し合わせた。

八幡カトリック幼稚園　新園舎が竣工　盛大に落成式

緑に囲まれ、近くには北九州市総合体育館と豊かな地域環境の中にある八幡カトリック幼稚園（園長L・デシャンブー師）の新園舎が完成し、一月二十一日に盛大な落成式が行われた。

理事長のジャン・ワレ師（パリー外国宣教会管区長）は「建設期間中、不自由をしのいでくれた子供たちや保護者の方々にお礼を申し上げます」と謝意を表わし、「今後もカトリックの精神とモンテッソーリ教育に基づき、一人一人の個性を活かす教育を行います」と抱負を述べた。また、「三十年前この地に幼児教育の場を開設した故ドルエ師は、今、最初の園長として天国から一番喜んでいることでしょう」と回顧した。

平田司教は、「キリストがおっしゃるように幼な子の心を持つことは大切です。ここで学ぶ子供たちが、この地の塩になれるように、これからも励んで下さい」と語った。



藤房神父のこぼれ話

わかめの教え

終戦後の昭和二十二年に私は天草の崎津教会に赴任しましたが、こんな思い出があります。

天草の春の海には、美味しい「わかめ」が成長し、漁師たちはみんな「めのはの口があく（解禁）日」を待ちわびていました。

そしてとうとうその日がやって来ました。信者たちは「神父様、今度の日曜日はわかめ採りをしたいので、ミサは朝の四時半にお願いします」と頼みに来ました。私の願いどおり、日曜日の早朝のミサに与った信者たちは一斉にわかめ採りに出かけました。

ところが一人の信者はどういう訳か、ミサに与らないで、わかめ採りに行ったのです。その人は、ミサに与った他の信者のだれよりも早く、たくさんのわかめを採ることができ大喜びでした。

ところが、船一杯にわかめが採れたその時、突然、突風が吹き始めました。その人は船一杯になったわかめを少しずつ海に捨てながらやっとのことで港にもどってきました。港についた時は、わかめはわずかしか残っていませんでした。

このことを知った信者たちは、「神父様のいうことはほんなことだったばい」と言い合いました。その次の日曜日からミサに与らないで漁に出る人は誰ひとりいなくなりました。

日曜日のミサに与って時間を損した人には、神様がいつか必ずその分を返してくださるのです。

BOOK　読みま専科

☆パウロの信仰告白
C・M・マルティーニ著

パウロを知り、彼に近づきたいと思う人に勧められる。パウロ殉教の地をしばしば訪れ、死を目前にした使徒の心情を深く冥想した著者は、使徒言行録とパウロの手紙をもとに、使徒の生涯を織りなす光とやみのドラマを浮き彫りにし、追体験させながら、読者を、あわれみの神、いつくしみの神との新たな出会いに導き、人間パウロをずっと親しいものにしてくれる。

（女子パウロ会　一二〇〇円）

☆美しき愛の姿
中山和子著

最新刊
美しき愛の姿
真実の愛を求めて　中山和子　B6判・240頁　定価980円
♥綿々と綴られた愛の呼びかけ、愛への招き！
〒859-01 長崎県北高来郡小長井町☎0957(34)2228　愛　社（聖母の騎士修道女会）

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—761—8800
代表取締役マルガリタマリア　吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—711—0550
代表取締役 ヨゼフ　吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材　石　石他
理　影の
大御そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

三月の行事

※ゴチックは司教日程

3日　教区修女連役員会（司教館）午後1時
11日　司牧評議会　午後1時30分
16日　宣教・教会奉仕者選任式（大神学校）　午前10時
18日　大牟田教会六十周年　午前10時
21日　大水幸一神学生助祭叙階式（カテドラル）　午後2時
22日　地区婦人会役員会（司教館）午前10時
25日　老司教会堅信式
4月12日　聖香油ミサ（浄水通）司祭叙階金祝・銀祝賀会（司教館）

福岡黙想の家

10～11日　大名町教会青年会の黙想会　マテオ師、Br梅田修平指導による黙想会
13～16日　泰星学園生徒の黙想会
17～18日　渡辺隆義師指導による黙想会
21～23日　雙葉学園高校生黙想会
24～25日　鈴木忠一師指導による黙想会
26～29日　日本カトリック学校連合会研修会
31～4月1日　大名町教会小・中学生の黙想会
4月7～8日　畠基幸師指導による黙想会

※四旬節中、毎日曜午後2時から4時まで十字架の道行と小黙想があります。

一九九〇年度第二回結婚準備セミナー

福岡会場　4月21日（土）、26日（木）、28日（土）、5月10日（木）、12日（土）、17日（木）、19日（土）、24日（木）
熊本会場　4月2日（月）、4日（水）、9日（月）、11日（水）、16日（月）、18日（水）、23日（月）、25日（水）

問い合わせ　ファミリーセンター　ライル神父まで　☎092-541-6207

参加者募集

M・E　マリッジ・エンカウンター

（夫婦のための集い）

静かな雰囲気の中で、日常生活の忙しさから離れ、お互いの結婚に対する神の望みを聴くよい機会です。

日時　4月28日（土）から30日（月）まで
場所　黙想の家（宗像）
条件　ご夫婦での参加が必要です。お二人のうちどちらかがカトリック信者であること。

詳細は鈴木忠一神父（黙想の家）まで　☎0940-32-6662

第29回福岡教区クルシリヨ

クルシリヨは教会の要望に従い、使徒職に献身する信徒の養成を目指すものです。ふるってご参加ください。

日時　5月2日（水）19時～5日（土）16時まで
場所　福岡黙想の家　☎0940-32-3222　宗像市名残立山一〇六
参加費　一二、〇〇〇円（宿泊食事、用品代として当日受け付け）
携行品　ロザリオ、着替え、寝巻、洗面用具
連絡先　福岡教区クルシリヨ事務局　☎093-582-1654　佐々木信幸
申し込み締め切り　4月25日まで

三月命日の司祭

＊ルッチ・ミケレ師（ミラノ外国宣教会）一九八七年三月二日元鹿島教会主任
＊ルイ・マリ・ベリボ師（聖ドミニコ修道会）一九七七年三月十六日元箱崎教会主任
＊フランソワ・マリ・ヴェイヨン師（パリ外国宣教会）一九七三年三月十二日元唐津教会主任
＊ユゼーヌ・ジョリ師（パリ外国宣教会）一九六六年三月六日元久留米教会主任
＊ジェームス・ドイル師（聖コロンバン会）一九六二年三月二十六日元荒尾教会主任
＊マキシム・ボア師（パリ外国宣教会）一九五九年三月十九日元新田原教会主任

編集室から

▽司教館に待望？の「パソコン」が入りました。機種はNECのPC－9801RAです。最近とみに複雑さを増してきた会計、財務事務への対応のためです。そこでこれを機会に、教区財政健全化のための幅広い論議を望んでいます。

▽またこのような機器が真に活かされるには、どの程度正しい情報が提供されるかにかかっています。司教館で会計事務を担当しておられる方々の過重労働の軽減にも益しますように。

▽四旬節司教教書が出されました。ほとんどの教区では、1面トップで全文を掲載するのですが、福岡教区報では全文は2面に掲載する方針をとっています。教区広報紙の役割も含めて、いろんなご意見をお聞かせください。

▽受験、卒業のシーズン。若者たちには、世界的必要性を感じ、大きな夢を持って勉強にも励んでもらいたいと思っています。（W）

神を恨む時

徳山　登

ある信者の家庭に恐ろしい試練がありました。なんと二人の子供が脳性小児麻痺の宣告を受けました。子供らの父親は神を呪うような思いで訴えました。「神さま！なぜ罪もないいたいけな子供を痛めつけられるのですか？　イエズスさまお答えください」。このお父さんは神も信仰もわからなくなりました。キリストも神も空虚な墓のようなものになりました。なぜ神を信じなければならないのか。なぜキリストに従わなければならないのか。人は苦しみの暗夜でこのような疑惑と迷いにさいなまれます。しかし、その中に神からの呼び掛けを聴くことがよくあります。「私はあなたと共にいる」と。

しばらくたって、その父親は次のように語ってくれました。「私は子供の病気で一時は神も何もわからなくなっていましたが、神の愛だけは真実で、疑うことのできない事実だと思うようになりました。私は神を信じて、信じ抜くお恵みを得て、たとえ、苦しくて、耐えられないことでも、人生の一切をよかった！ありがたい！と、喜びと感謝を持って、祈るようになりました。夫婦で、もう一度手を携えて、神を信じて生き抜こうと、決意したのですよ」。

悪人の繁栄と、義人の苦悩について、詩編七三は次のように訴えています。《神に逆らう者が栄えるのを見て、私は高ぶる者を妬んだ。彼は何の苦労もなく富を増やす》。ご利益宗教と違って、キリスト教は現世的しあわせを約束してくれないのです。かえってキリスト教は、十字架を担うことを求められます。洗礼を授かったからといって、悩みがなくなる訳ではありません。エディット・シュタインというユダヤ人のカルメリットがカトリックに入信するまえに、ドイツのレーナックというカトリックの哲学者の弟子になっていました。ところがそのレーナックさんが戦死したのです。エディットはレーナックさんの未亡人と顔を合わせることを異常に恐れていました。大切な夫を失った彼女に慰める言葉がないと感じたからです。当時エディットは無神論者でしたので、死後は無だと思っていました。ところがキリスト者であった未亡人はエディットを驚かせました。彼女は少しも力を落としていず、希望をたたえていました。それは人に勇気と慰めを与える深い希望でした。このすばらしい出会いによって、エディットの生活が一変しました。彼女の前に十字架の神秘をとおして、信仰の光りが輝きだしました。アウシュビッツの収容所で、カルメリットとして殉教する前に、この出会いでの深い感動を次のように述べています。《私にとってキリストとの最初の出会いでした。キリストの十字架は、それを受ける人にどんなに力になるかを悟りました。あの時、教会はキリストの十字架から、生まれ出たことを手に取るように感じました。私の無信仰が消え去り、十字架の神秘におけるキリストが輝き始めた瞬間でした》。

信仰生活の旅路において、誰でも神を離れたり、裏切ったりすることがあります。しかし、そういった悲劇的な心境が結果的に神への憧れを深める一つの段階になります。キリストご自身十字架上で《神よ、なぜ私をお見捨てになったのか？》と叫ぶほど、人間の内面の戦いを経験なさいました。人生の頂点は復活です。ところで、死なないと復活することができません。死ぬような苦悩の中での神の沈黙に希望を失うとき、そんな時こそ希望の時です。《義に飢え渇く人はさいわいである。その人たちは満たされる》。

神に対する恨みやさまざまな悩みが変容して、新しいエネルギーに変わってきます。先の小児麻痺の子の親御さんも新しい信仰に支えられ、脳性小児麻痺の子供のためのホームを作ることを決心しました。そして、ついに《椎の実学園》という立派な施設を完成しました。

私どもも、主の十字架を静かに眺め、四旬節の恵みを願いましょう。

（パリ外国宣教会司祭　八王寺教会）

夢の実現！
～聖地巡礼団募集のお知らせ～

期　間・7月23日～8月10日　（19日間）
訪問先・イエス様のご生涯を偲ぶ聖地イスラエル
　・キリスト教が根づいたヨーロッパ
　　ローマ　アシジ　パリ　リジュー　ルルドなど
同行司祭・那覇司教区開南教会　有馬神父
費　用・728,000円（福岡発着）
企　画・那覇司教区
問い合わせ　阪急交通社　鹿児島市加治屋町12-7
　日本生命ビル内　☎0992-23-2181　担当　宮崎
　開南カトリック教会　那覇市樋川1-13-10
　☎0988-32-3037　有鳥神父

花杏受胎告知の翅音びび

川端茅舎

『定本川端茅舎句集』に所収。カトリック音、摂理などもとりいれている。生硬な用語を、一句にまとめあげた手腕は、非凡で驚嘆する。しかも、終りのびびが、それまでのすべての語を圧するほどの重みがある。翅音が羽音でないのもよいのかもしれない。山本健吉はこのびびから、天主堂のステンドグラスに描かれた、聖画まで連想するという。その他エホバ、十字架、荊棘の冠、マリア観世音、摂理などもとりいれている。彼は画家川端龍子の弟で、若いとき聖書を精読、画を岸田劉生に学んだが、師の没後作句に専念。茅舎の号は、イスラエル人が荒野をさまよったときのテントから、つけた。白痴と号の上につけるのは、彼のような天真な者は、この濁世に生活できないための、ポーズともいえよう。のちに参禅し、仏教語を交えた多くの名句を残している。彼の絶唱は、朴散華（ほほさんげ）即ちしれぬ行方かな。

力のときのことのは

森山　敬三

中央出版　福岡支部
▩キリスト教関係、書籍、家庭の友
▩典礼聖具
▩ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

信者の皆さん今年もどうぞ宜しく
㈱メガネの正視堂
行橋市駅通り本店　☎2－0646
行橋市駅前5秒店　☎2－2390
北九州市黒崎年金病院前店　☎641－4321
北九州市黒崎駅前名店街店　☎641－7177
北九州市ダイエー城野店3階　☎922－5637

未来へ――安心を創る
FUJKi　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　092－521－0568

カトリック
福岡教区報

平田司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—522—5138
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

司牧評

評議員の改選近づく
教区財政問題も話題に

教区司牧評議会は、今年八月に任期満了になる同評議会の委員の選出や構成員についての規約の見直し議案を中心に、三月十一日午後から司教館で総会を開催した。また今回の会合では、特に教区行事の予算の裏付け問題など、財政の健全化について率直な意見が交換された。

アド・リミナで『司牧評議会』の働きに期待を表明する教皇ヨハネ・パウロ二世と平田司教

総会は、常任委員会から提案されていた各種委員会の名称問題、司牧評の構成メンバーなどを審議。またその関連として強い要望が出された教区財政の健全化への取り組みのため、後日、教区の財務委員を総会に招いて、現状を聞く機会を持つよう、司教に答申することになった。

議題Ⅰ　正義と平和委員会を協議会に名称変更

全国の名称に合わせるために、従来の「福岡教区正義と平和委員会」（委員長西田邦洋師）を「福岡教区正義と平和協議会」に名称変更することを全会一致で採択。

合わせて、教区のエキュメニズム担当をその重要性に照らして「教区エキュメニズム委員会」に昇格させることになった。なお委員長については後日、司教から任命されることになっている。

議題Ⅱ　司牧評議会規約の見直し

見直し案では、教区各種委員会の代表を司牧評の委員に加えることについて、諮問機関という性格から否決。そのかわり総会には、必要に応じて出席を要請、または受け入れることになった。これに伴い、各種委員会の連絡を密にするために、委員長会のようなものをつくることが提案された。

その他

委員会の委員の選出は実際に動ける人にすべきではないか。教区の活動なのに予算の裏付けがないのはどうか。教区財政の全般にわたってもっとその実情を知るために正確な情報を提供してもらい、対応していくべきではないか。などの意見が続出した。

詳細は議事録として、各小教区の主任司祭、教会委員宛送られることになっている。

召命ウォーカソン
いっしょに歩いてみませんか
十一月のカト・フェスも応援

松井忠之師

召命促進を祈り求める教会巡礼が、来る四月二十九日、福岡地区で計画されている。

これは「召命をともに祈る会」（代表・松井忠之神父）の主催によるもので、『福岡ウォーカソン「ひとりでは歩けない！」』と銘うち、今秋十一月十一日（日）に予定されている『カトリック・フェスティバル』を盛り上げる運動のひとつでもあり、同フェスティバル企画運営委員会が後援している。

カトリック・フェスティバルの準備は着々と進んではいるもののまだ教区民全体の理解と協力態勢は行き届いてないようで、具体的に何をすればよいのかとまどっている人が多い。そのような人たちにウォーカソンが共に準備する一つの機会になるよう期待される。

巡礼のコースは、老若男女を問わず多くの方に参加してもらうため、特に家族で参加できるようにと、約四時間と約二時間の二コースが用意され、いずれも司教館を出発して市内の教会を徒歩で巡りながら祈りを捧げることになっている（4面に要項）。

松井忠之神父の話　四旬節の司教教書でも指摘されているように、教会に豊かな召命を求めて祈りの巡礼を行いたい。同時にカトリック・フェスティバルの目的の一つでもある他教会の信者との親睦と一致を深める機会にもなることを期待しています。

参加者は、自分の足で市内の教会を巡ることによって格別の喜びが得られることと思います。多数の参加を待ちしてます。

司祭叙階銀祝迎える

中浜　一男師
聖スルピス会
一九三九年九月二十六日長崎県水の浦生れ
一九六五年三月十八日叙階
現在　八代教会主任

アルフレッド・スカットロン師
ミラノ外国宣教会
一九四一年七月十九日イタリア・テレヴィソ生まれ
一九六五年六月二十六日叙階
現在　唐津教会主任

パトリック・ブランガン師
イエズス会
一九三二年七月二十日アイルランド・ダブリン生れ
一九六五年三月十八日叙階
現在　浄水通教会主任

教区信徒協

会長に小笠原勝己氏
会計報告など承認

教区信徒使徒職協議会（小笠原勝己会長）の役員会は二月十八日、各地区の信徒協、活動団体などの代表者ら十七名が出席して、司教館で行われた。

会議は、前年度の活動と会計報告、新役員を承認。教区信徒協として全面的に取り組んでいる『カトリック・フェスティバル』について集中的に討議した。

フェスティバルの趣旨について、これまで出された関連の議事録や「教区報」をもっとよく読んでいただく必要がある。さらに、同実行委員会は、北九州地区内の小教区の代表者を中心に、婦人、青年、修道女など幅広い構成員となり、司祭の窓口には浦俊雄師（戸畑教会）があたる。

他地区の小教区信徒との交流の促進のために、北九州が計画している前日十日（土）のホームステイの希望者をつのっていく。

企画運営委員会の準備計画にそって五月末日までに、各地区、小教区が出す催しものとともに参加人員をおおまかに把握すること、などを申し合わせた。

次回は五月二十七日（日）午後二時から司教館で開催される。

新役員紹介（敬称略）

会長　小笠原勝己（水巻）
副会長　畠山春秋（二日市）
　　平川秋次（健軍）
　　北島治慶（佐賀）
会計　原　英文（直方）
　　川島晋一（水巻）
会計監査　上村道男（手取）
　　森内慎一郎（佐賀）

書記

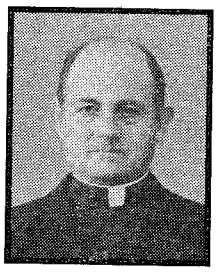
オブライエン師帰天
熊本での二十年間
信徒への愛に憐ゆ

熊本の信徒たちから慕われていたヨゼフ・オブライエン師が引退先のアイルランドで帰天。去る三月十三日、手取教会において平山高明司教（大分教区）の司式のもと二十二名の司祭たちと多数の信徒らで追悼ミサをささげた。

オブライエン師は、一九〇九年アイルランドの生まれ。一九三四年宣教のため来日。途中韓国での七年間の宣教を除いて、神奈川県内の教会で司牧、一九六八年に熊本手取教会着任。昨年五月に母国に引退、静養していた。

地区長のヤングキャンプ師は、「オブライエン師は日本の聖コロンバン会の礎を築いた人」「神父様の誇りは、日本の宣教師として選ばれたことだった」と紹介した。

ジョージ・ベラス師
二百八十人の子供を育てて神のみもとに



熊本少年の町（現熊本天使園）の創立者。肺癌のため熊本市民病院で三月十九日に帰天。享年七十一歳。同二十二日健軍教会で葬儀告別式が執り行われた。（詳細は次号）

アド・リミナ終え
平田司教元気に帰国

教区の現況を報告するための聖座訪問「アド・リミナ」のため、二月二十三日からローマを訪問していた平田司教は、重責を終えて三月十一日夕方予定より一日遅れたが無事帰国した。

二月二十六日には、教皇ヨハネ・パウロ二世との個人謁見で歓談。教皇はその中で、「福岡教区で司牧評議会など宣教のために具体的な動きが見えてきたことは嬉しいことです。教区の皆さんにくれぐれも宜しく伝えてください」と励ましの言葉を述べた。

今月のみことば

神がまず、わたしたちを愛してくださった
（Ⅰヨハネ4・19）
行橋　深堀勝人神父

時の話題

新富康央

ことしは、東ヨーロッパに押し寄せてきた社会改革の大きな波で明けました。衛星放送には、生命をかけて、教会に集い、祈る人々の姿も映し出されていました。キリスト者として、彼らが人間解放に果たした役割の大きさを確認した人は多いと思います。

しかし、目を日本に転ずれば、「高校受験に失敗し、父子自殺」という痛ましい事件が報道されている。東ヨーロッパの社会改革の嵐——それは、誰もが人間らしく生きたいという自己の「重さ（尊厳）」への叫びであった。では、日本のこの非カトリック社会で、カトリックは今日、何ができるのか、何をなさねばならないのか、何が求められているのだろうか。

その主要な一つは、私達一人ひとりの個としての「重さ（尊厳）」を教えること、気づかせることではないだろうか。自殺も、非行も、あるいは中高校生に蔓延している無気力シンドロームと呼ばれるものも、すべてが一人ひとりの「重さ」の軽視や喪失から来ている、といってよい。物質的な豊かさの中で、また受験過熱の中で、子供たちは、この世に一人しかいない掛け替えのない唯一の存在として自分を見つめる余裕を失っている。そして、自己の存在ばかりでなく、他人の存在すら否定しようとしている。

そこで、家庭における福音化を一緒に考えてみよう。第一回福音宣教推進会議では、柱の一つに、「生活を通して育てられる信仰」が提案され、職場、小教区、家庭、地域での分かち合いの場を設け、互いの信仰を育て合うことの取り組みが示された。分かち合いに欠かせないのが日常の祈りです。「家族は一緒に神様に祈りました。一緒に祈ったということは、最も大切だったと思います」（マザー・テレサ）。互いに祈ること、一緒に祈ること。そこから、神様からいただいた掛け替えのない大切な存在として、自己を高め、自己の「重さ」を取り戻すようになるでしょう。

「もし家庭が祈ることを始めるなら、愛と一致がもどるでしょう。共に祈る家族は共にとどまるからです」（マザー・テレサ）。

誰からも必要とされていないという貧しさこそ、一切れのパンへの飢えよりももっとひどい貧しさといえる。

（佐賀大学助教授　佐賀教会）

一人ひとりの「重さ」を

みちくさ

歌集『四旬節』を出版したこともある病床の信仰歌人として、三年前に本紙で紹介させていただいたことがある荒木ミョさん（七十六歳）が、療養中の再春荘病院（菊池郡西合志町）で亡くなり、通夜、葬儀ミサ・告別式が郷里の菊池教会でしめやかに執り行われた▼かつて菊池教会で司牧していたころ、リュウマチのために四十年余りを病院で過ごす彼女の病床に、しばしばご聖体をもっていったが、彼女は誰にでも、痛む時でさえいつも笑顔を絶やすことなく、深い信仰からでる感謝の念を表わすことを忘れることがなかった。だから、「帰りにはこちらが励まされ、心が豊かにされていた」と見舞った人たちは証言している▼その荒木さんの葬儀は二十名くらいの会葬者と四名の司祭でいとなまれた。五十年近くを病院で過ごされたため、親戚、友人も少なく、寂しいのは当然かもしれないが、故人の強い希望で、花輪もない極めて質素なものであった。そんな中で、十字架上で亡くなったイエスの亡骸を囲む数少ない人々の情景を思い起こしていた▼荒木さんの人生は、他人の目には決してバラ色ではなかった。結婚後まもなく、肺結核におかされて実家に帰され、その後まもなく進行性のリュウマチを患い、痛みとの戦いが始まった。昭和二十八年に病床で洗礼を受けてからは、信仰の眼で自分の病気、人生について思いめぐらし、それを和歌に詠んでいた▼墓地での埋葬を終えて帰り道、会葬者の一人が「私の葬式にもこんなたくさんの神父様に来てもらいたいな」と言われた言葉に実感がこもっていた。荒木ミョさんは、自ら出かけて宣教することはできなかった。しかし彼女は病床から愛徳の光、香を放っていた。いつか自分が病床に臥すようになった時、今よりずっと信仰の喜びを示す本当の福音宣教者であれたらと切望している。

家庭の日アンケート調査

キリスト者家庭の現場

(2) 親子の回答から

一回目は、夫として妻として、それぞれの立場からの意見や思いを見た。そこでは、「男、女の違い」「働く場の違い」から来る内的、外的ズレや感情の違いが信仰生活の中にも大きく現われていたように思う。

今回は、アンケートの「親と子で答えてください」という質問から親と子の姿を見てみたい。

愛されていることを感謝しよう

アンケートの「親子で何でも話し合えますか」「親として子供から愛されていると思いますか」という質問にそれぞれ九十六パーセント、九十三パーセントが「はい」と答えている。また、「家族でありがとう、ごめんなさいという習慣がありますか」に対し八十九パーセントの家族が「はい」と答えている。

ところが「家族そろってミサ聖祭に行きますか」という質問に「はい」と答えているのは五十九パーセント。「家族で毎日お祈りしますか」には十六パーセントが「はい」と答えているに過ぎない。最初の三つの答えを見る限り、社会通念からは「よい家族」であり「躾のよい家族」である。

だが、後の二つの答えを見ると、というより信仰生活、教会共同体という見方をすると家族の痛みを感ぜざるを得ない。

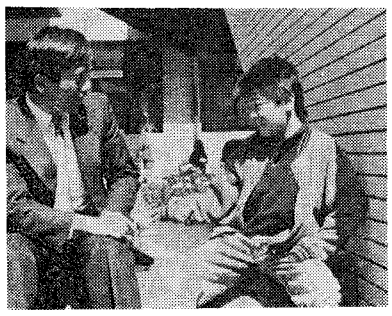
家族の中での他宗教理解は

アンケートの中の自由な意見で、目を引いたのはカトリック信徒でない夫・父親と、その家族、特に子供の関わりに悩む妻・母親の声である。

信徒でない夫の場合①「教会や信仰について否定的で、かつ妻が教会へ行くことにも否定的である」と、②「家族が信仰することには賛成でむしろ積極的に勧める」という二つのタイプがある。多くは、人間的に立派な人だが多忙であるとか他宗教の信徒であるという結果が出ていた。

①の場合は妻や子供の信仰に自由さがないため、家族の交わりがギクシャクし、やがて子供が教会、信仰から遠ざかってしまうという事態に心を痛める声である。

②は、妻や子の信仰生活には自由さがあり表面的には幸せな家庭に見えるが、夫婦の心の一致ができず寂しい関わりになってしまう。そのため子供の信仰が不安定になったり、信仰の価値観を貫くことが難しく、将来が心配と訴えるケースである。「何の不自由もさせていないだろう。僕を信じてついて来れば、家庭円満で悩むこともないはずだ」と言う常識的幸福感の夫に、なすすべもない妻からは「唯、私の祈りや、努力がたりないのです」という声が聞かれた。



お父さんが好き？お母さんが好き？

「あなた方の親子関係はどれにあたると思いますか」という質問があった。

1　父と子の関わりが強い
2　母と子の関わりが強い
3　夫婦の関わりより子供との関わりが強い
4　父と子の関わりはなく、いつも母を介して伝え合うだけ
5　夫婦も親子関係もうまくいっている

以上の質問は、1から4までの関わりだと答えている家族は、二十八パーセントに過ぎないが、その中で親子関係に問題を感じている人がとても多いのに気づく。特に父と子だけとか、母と子だけといった関わりの家庭では、問題意識のある人が特に多い。

このアンケートに答えたどの家族も、社会的には何の問題もない人々のようである。しかし、家庭生活とキリスト者的生活が、全く別の生き方となっている家族が多いのではなかろうか。

ある教会では、初聖体準備の子供たちにミサ聖祭の説明をしていた先生が「みんな家族が一緒にお食事するのは楽しいでしょう」と言うと、子供たちから「みんなで食べることないもん」「いつもお父さん別だよ」「お父さんと一緒だと、文句いわれるからいや」などと口々に否定的な答えが返って来たそうだ。

基本的価値観と思われていたことさえ、である。

親の価値観が子供に伝わりにくい社会になったのか、それとも親の価値観そのものが変化したのだろうか。

みことばは何処に？

「あなたの家庭に聖書がありますか」「家庭で聖書を読んだり話し合うことがありますか」という質問があった。グラフを見ての通りである。九十三パーセントという数字は実に大きい。ところが、次のグラフの七パーセントを見る限りでは、聖書が生かされているとは言い難い。

こうして見てくると「家庭の中で培われる信仰」「信仰の苗床」といった言葉をどこに探すべきかと考えさせられる。

一九八七年の第一回福音宣教推進全国会議で「生活を通して育てられる信仰」の見直しがあった。「……お互いに信仰を育てることを養成の基本方針にすえる」という提案が出された。

家庭でも職場でもキリスト者としても問題や悩みが生じるが、それを分かち合ったり、養成されたりする場がないことが理由として上げられていた。

「生活と信仰の遊離」は、その後も依然として進んでいるのではなかろうか。

最近、さまざまな研修会、研究会、黙想会、練成会などが全国的に盛んである。いくつか参加して気づくことは、信徒の信仰理解と司祭、修道者の信仰理解の差の大きさである。

第一回全国会議で、司祭、修道者、信徒の生涯養成の必要性が提案された。また、その努力がなされているのも事実である。しかし、同じペーパーを持っている人たちは言うに及ばず、私たちがなすべき努力をしないで、神様の助けを求めても、神様はお聞きにならないと思います。

見た目にいい行事や組織づくりも結構ですが、本当にやるべきことをまずやらなければ、パウロがいう空しく響くドラで終わってしまうことでしょう。

司祭養成機関、方法の再検討、教区司祭の生活の改善など急務ではないでしょうか。現在のままでは、若い神父様も後には今と同様の結末にならないとも限りません。

「今、望まれる司祭」の各論は司教団に示されなくても司祭はよく分かっておられることだと思います。

司教団のメッセージは信徒の心からの願いでもあります。なぜ、それができないのか、どこに問題があるのか、どうしたらできるのか、司祭と私たち信徒の対話の材料はいくらでもあるような気がします。

「今、望まれる司祭」の後文に「どうぞ司祭とともに歩んでください」とありますが、信徒が司祭と歩こうとしてないかのように聞こえます。しかし、信徒が対話を求めても応じようとしない、信徒が意見をすれば怒る。ともに歩もうとしないのはどちらなのかと思うこともあります。

何か悲観的な気持を抱いているこの頃ですが、それでも、一昔前の偉大な宣教師たちや、信徒のために世の人々のために骨身を惜しまず一生懸命頑張っておられる神父様もたくさんおられることに思いを馳せるとき、聖霊がいつも教会とともにいてくださることを感じ、慰めも得ています。

今、望まれる司祭 理想と現実の間で

匿名希望

教区報2月号の「今、望まれる司祭」（日本カトリック司教団）を読み、真にそうあってほしいと思っておりますが、私の読後感想をしたためます。

あの文書の前文に「信徒の方々の司祭に対する期待と願いが非常に厳しくなっていることを感じます」とあります。しかし、それは日本の教会のどこかのことで、たいていの教会では、信徒は司祭にそれほど厳しい期待などしておらないと思います。

第一回福音宣教推進全国会議（ナイス）を踏まえて出された司教団の声明「ともに喜びをもって生きよう」も空文のようです。

信徒は週日を社会の第一線で生活し、日曜日には身も心も疲れて教会に出向いているのです。このような信徒たちや一般の人々の現実生活を配慮した司牧こそよき牧者の姿ではないかと思うのですが……。

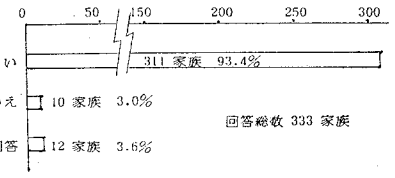
また、企業では、失敗があるとスタッフが真剣にその原因追求にあたります。しかし教会はひとり、何らの手を打つこともしないようです。これではいけないと思いながらも改善されずに放置されたままの状態が多々あるのではないでしょうか。

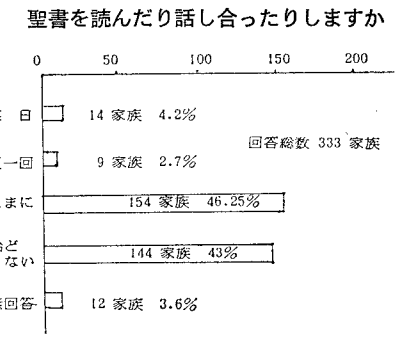
教区でそれなりの責任をスでやっていては、差は縮まらない。

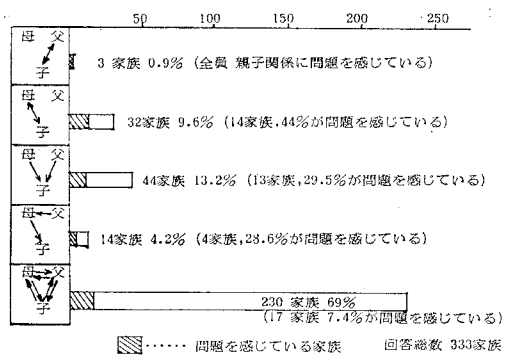
神の民の導き手である司祭が、導かれる者との差を認めながら歩いてほしいと思う。

その時、信徒も「ともに」歩む勇気に押し出されるのではなかろうか。

《編集部》



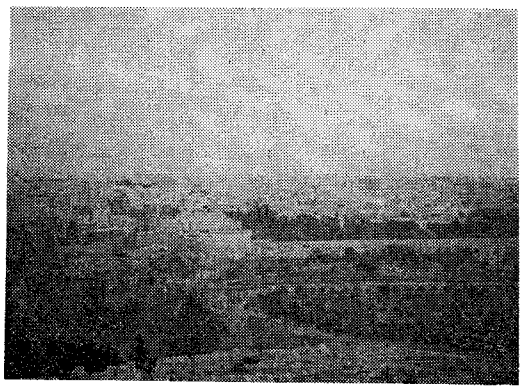




イスラエル研修の旅（完）

聖地巡礼とは

青木　悟（手取教会司祭）



永遠の聖都エルサレム

「私にとってイスラエルとは何か。エルサレムとは何か」また「神にとって私とは何者なのか」。これがこのセミナーの初めから与えられた問いでした。

人生は旅にたとえられますが、信仰者の旅は巡礼だと言えると思います。聖地巡礼は、人生が旅であり、信仰者の旅が、いつも聖なる地、神の業が示される地へ向かう旅であることを思い起こさせるものです。

イエズス様は終末的たとえ話の中で言われました。「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」。とすると、私にとっての聖地、神の現存の場は、最も小さい者の一人と言うことになる。最も小さい者への歩みこそ、信仰者の巡礼の旅ではないでしょうか。

そういう意味で、イスラエルとかエルサレムなど目に見える聖地は、目に見えない聖地との関連の中で考えることができると思います。

セミナーに参加して、聖書が身近なものになったと同時に、聖地に対して特別な思いを抱くようになりました。

「私にとってのエルサレムとは」との問いは、形を変えていつも問われていく気がします。イスラエルのことを思い出すとき、「自分にとっての聖地とは」という問いを思い出すことになるでしょう。

実際にイエズス様が生まれ育った地に行って見て、聞いた、そのセミナー自体も、両び自分の生活の場に帰って行くことを求めていたように思われます。

今や聖地は、私の遠くにあるものではなく、いつも近くにあります。

目に見える聖地への巡礼は、自分の日常の本当の聖地巡礼の旅を反省したり、支えるためのものであると思います。

御受難会士による黙想会へどうぞ！

① 4月7日（土）～8日（日）　指導　畠基幸神父
② 5月26日（土）～27日（日）　召命を祈る徹夜祈祷会

※いずれも夕食(18：00)からです。御問い合わせ、御申込みは下記へ

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑 (SOU-EN)
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

「典礼 聖歌と祈り」の集い

歌は祈りを実感

今後も定期的に開催

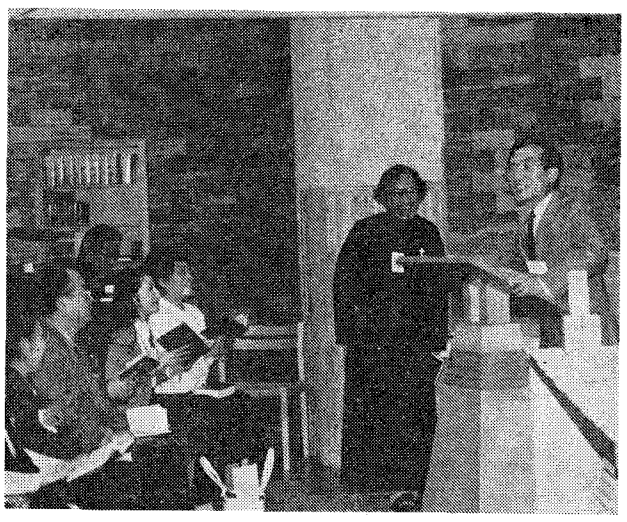
福岡黙想の家

『教会の祈り』や『詩編』をもっと心を込めて歌いたい祈りたいと願う人たちが、二月十八日（日）午後、宗像の福岡黙想の家で「典礼聖歌と祈り」の集いを開いた。

これは、以前から「典礼聖歌研究会」を続けていたグループと御受難会の鈴木忠一師の肝いりで行われたもので、参加者は四十八名。黙想の家の聖堂もほぼ満席になるなど関心の大きさがうかがえた。

始めの挨拶に立った鈴木師は、「ある時、なにげなく毎日大声で歌っていた高田三郎氏作曲の〝主禱文〟を『あの曲は名曲ですよ』という方に指導してもらって歌ってみて、なるほどと思い、目を開かれる経験をした」と開催のきっかけを語る。また、作曲した人の心に気付いて心を込めて歌えば、歌だけでも深い祈りができる。現代日本の教会が頂いた素晴らしい賜物である典礼聖歌が練習なしに歌われるために、薄くなりがち。テクニックに流れることなく共同体の祈りになればこんなに力強いことはないと思うなどと述べ、「このような会が定期的、継続的に行われてほしい」と話した。

続いて、深堀純氏（大名町教会）の指導で、『教会の祈り』の中から当日の『晩の祈り』を練習。夕方、鈴木師の司式で『晩の祈り』を捧げたが、参加者の大半には初めての詩編が感動的に歌われた。



「教会の祈り」の歌い方を学ぶ参加者たち

研修会終了後、これからの事を話し合う集まりが持たれ「年4～5回の開催」「作曲家を招きたい」「オルガニストのためにも講師を招いた研修会が欲しい」といった声が出ていた。また、「『教会の祈り』なんて神父様かシスターが使うものと思っていた」「家内がしつこく言うので場違いな所と思いながら入りこんだが、祈りを歌うのがこんなに楽しいとは」と言う初老の男性もいた。

参加者のひとり堀笑子さんは「〝深く祈るために歌う〟この真髄を分からせていただいたすばらしい研修会だったと思います。次回を心待ちにしております」と感想を語っている。

次回は五月十三日（日）

シリーズ　ここが聞きたい

いのちの電話②

『いのちの電話』の相談員になるにはどんな資格がいりますか。誰でもなれますか。

心の砂漠に水一滴

相談員には、二十二歳から六十五歳までの方なら、宗教、思想、信条に関係なくどなたでも応募できますが、相談員養成講座を受けなければなりません。

講座では、カウセリングに関する科目はもちろん、人間関係基礎訓練、精神医学、心理学、社会学などの講義が用意されています。受講生は週一回二時間の講義を約五ケ月にわたって受け一泊研修後、はじめて相談業務につくことができます。そして最初の六ケ月間は訓練期間として指導を受けます。受講を始めてから約一年経過して相談員の認定を受けます。

このように慎重なのは、相談員は単なる補助者でなく、一人の人の命を救うという使命を持つからです。

電話相談員になるには、長い訓練の期間を要しますが、特別な知識や学歴を必要とするものでなく相談員に求められる資質は熱意と努力と柔軟な心だけです。

いのちの電話は一言でいえば、「受容」と「傾聴」の二つといえます。

私が『いのちの電話』の相談員になったのも、若い頃に死をも考えた時、ある人が、仕事の手を休めて私の心によりそって聴いてくれたと感じた時、生きる力を得た体験があるからです。

相談員をやって感じることは、現代はいかに心が砂漠化しているかということです。病院で治療を受けている人が病苦や、不安感を訴えてきます。人生、家族、対人関係など多くの相談を受けていると、現代の表に出ない裏の部分、苦悩が分かります。

いのちの電話の相談員には、目にみえる報いは一切なく、持てる力を精一杯出して体力の限界まで頑張らなければなりませんが、しかし、奉仕させていただく中で生れてくる充実感は何ものにもかえがたい報酬なのです。

回答者　安部由子（手取教会）

大水幸一神学生助祭に

来年の司祭叙階目指す

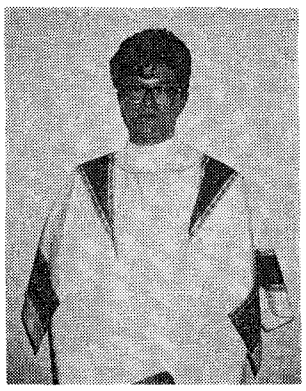
大水幸一神学生（新田原教会）の助祭叙階式が、三月二十一日、カテドラルで盛大に行われた。

桜のほころびかけたうららかな春の日に、出身地新田原教会の信徒をはじめ、各地から集まった信徒・修道者たちは約三百名。「きょうこそ神がつくられた日」の歌声の中を、受階者の大水神学生、二十六名の司祭団と平田三郎司教の順で入堂、荘厳に叙階式が始められた。

司教は説教で「助祭は、みことばの食卓、ご聖体の食卓を準備し、信徒に仕える者です。司祭職に向かってまっすぐに登れるように励ましとお祈りをお願いします」と語った。続いて受階者が叙階受諾の意志と司教に対する従順の約束を表明。参列者は受階者に神の祝福を願い、諸聖人の連願で取り次ぎを願った。

ミサ後の祝賀式では、司祭団を代表して竹森勇師（老司教会）が「一日一日を大切にし、来年の今日、この聖堂でこの祭壇で私たち司祭団と兄弟の杯、永遠の兄弟の杯を捧げられるよう祈りながら励ましていきたいと思います」とあたたかい祝辞を述べた。

続いて大水茂市氏（新田原教会委員長）挨拶。祝電披露。教区信徒協、大名町教会の子供会、修道女たちからお祝いや花束が贈られた。



喜びの大水幸一助祭

大水助祭は「いまのご感想は抱負は」と問いかけた。

「〝いまのご感想は抱負は〟と問いかけたじゃないですから」と、顔を上気させて答えていた。

信徒に「『み旨のままに』という気持ちですね。自分の力

大神学院で選任式

教会奉仕者

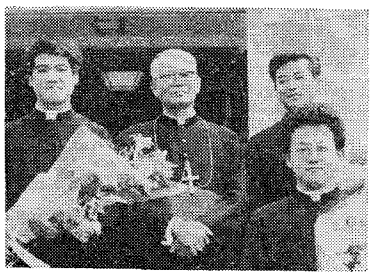
中村彰・中村信哉神学生

宣教奉仕者

伊東成晃神学生

三月十六日、サン・スルピス大神学院聖堂において、中村彰（鳥栖教会）、中村信哉（小倉教会）両神学生が教会奉仕者に、伊東成晃神学生が宣教奉仕者（古賀教会）に選任された。それぞれ選任された。

教会奉仕者には感謝の祭儀（ミサ）の食卓に仕える者のしるしとして「パン（ホスチア）」が、宣教奉仕者にはみ言葉を伝える者として「聖書」が平田司教から渡され、参列者は神学生たちが与えられた任務を喜びをもって、忠実に果たすことができるように祈った。



聖書解釈と説教について研修会

司祭の生涯養成の一貫

第一回ナイス（福音宣教推進全国会議）の後具体化された司祭生涯養成の一貫として、二月十九日から二十三日までの四泊五日、福岡黙想の家で『現代聖書学　主日のミサにそれをどう生かすか』をテーマに研修会（生涯養成委員会主催）が開かれた。

講師は東京教区の雨宮慧師（真生会館）と山本量太郎師（喜多見教会）。参加者は、大阪、広島、高松などの教区と地元福岡から三十人余り。

特に高松教区は、毎年の司祭研修会を中止して、今年の種種の生涯養成コースのどれかを選択して参加させるなど、その方法が注目された。

朝から夕方まで、講話を聞いたり、分かち合いなどをとおして聖書と説教の関係について学んだあとは、交換会ももたれた。

参加した司祭たちは、「聖書の新しい読み方に触れることができた」「説教のマンネリ化、独善的な聖書解釈を防ぐためにも有益だ」「九州と本州の司祭たちの交流の場として有意義だった」などと感想を語っていた。

八代教会

四月三十日（月）に

百周年の祝賀式典

熊本の八代教会（主任・中浜一男師）は、来る四月三十日に宣教百周年を祝う。

当日は感謝ミサ、祝賀会が予定されているが、記念誌発行、八代の殉教者の記念碑建立などの準備も進められている。

百周年の大きな恵みを受ける信徒たちは、「他教会との交流を深め、指導、模範を仰いでゆきたい」と二百周年に向けて燃えている。

藤房神父のこぼれ話

恩師

暁星小学校（東京）の六年に小神学生として転入した私は、週二回お昼の弁当にフランスパンを持たされていました。でも本当は、イギリスパンが食べたかったのです。それである日、店に買いに行ったのですが見つけきれず、かわりに大福もちを五つ買って、教室に帰ってきました。

なにくわぬ顔でその大福を食べている私を、先生は教壇から見ていまして「牧山おいしいか」と尋ねました。私は「はい」と返事をしたものの、買いぐいは禁じられていましたので、恥ずかしくなって、いそいでカバンの中に入れました。

きっと先生から職員室に呼ばれて叱られると観念していたのですが、呼び出しはきませんでした。

かえって、標準語の「せ」音で九州訛りの「しぇ」がフランス語の発音に近いといっては、クラスのみんなの発音の手本にさえして私をほめてくれたのです。そんな先生を大好きになったことはもちろんいうまでもありません。

親というものは、子供が悪いことをしたからといって、やたらに叱ってばかりいないで、先生のように上手に諭すことも大切ではないかと思うのです。

ところで、残りの大福もちはどうなったかと言いますと、その日の帰り道に、今も現役の司祭として他の教区で頑張っておられる当時の同級生と仲よく分け合って食べました。おかげで告げ口もされずに事なきを得たのです。

BOOK 読みは専科

☆思いきってとび出せば

松村みか、他、著

気候も生活習慣もまったく違う開発途上の国で、現地の人々のなかに溶けこみ、共に働き、その国に応じた技術や技能を提供する元気な若者たち。彼らは苦労を重ねつつも、そこで受けたもののほうが提供したものよりも多いことを身をもって味わった。また、世界の中の日本という視野で、真の開発、援助とは何かという問いに、ひとつの光を投げかける。

（女子パウロ会　五二〇円）

☆親であること　子であること

皆川邦直著

乳幼児期、思春期、青年期などの子供の発達、親子関係、心の成熟に関するもの。数年にわたる「あけぼの」のアンケートとそのコメント及び特集記事の著者担当のものからまとめたもので、それに父親と息子の関係について一章を加筆してもらったものである。

時代の変化につれ、子供の心の成熟や、親と子の関係も変ってきているのだろうか？家族のなかで心の安定を得て生きるために、多くの示唆を与えてくれる。

（女子パウロ会　一、二〇〇円）

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—761—8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—711—0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石 石 他
理 影 の
大御そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

四月の行事

※ゴチックは司教日程

5日　福岡地区婦人会委員会（司教館）
午前10時30分
7日　修女連院長会議（司教館）
9日　**雙葉学園高校入学式**
12日　**聖香油ミサ（浄水通教会）**
午前11時
聖木曜日（カテドラル）
13日　**聖金曜日（カテドラル）**
午後8時
14日　**聖土曜日（カテドラル）**
午後8時
15日　**復活祭（カテドラル）**
午前9時
18日　カナの会
19日　福岡地区婦人会総会（司教館）**午前10時**
21日　アルスアンティクド パリ演奏会（カテドラル）
22日　福岡地区信徒協（カテドラル）
午後1時30分
25日　Y2実現のための集会（修女連）
30日　**八代教会宣教百周年**
午前10時30分

福岡黙想の家

2～3日　雙葉学園職員研修
6～7日　笹丘カトリック幼稚園職員研修
7～8日　御受難会主催黙想会
28～30日　マリッジ・エンカウンターウィークエンド

一九九〇年度第二回結婚準備セミナー

福岡会場　4月21日（土）
26日（木）
28日（土）
5月10日（木）
12日（土）
17日（木）
19日（土）
24日（木）
熊本会場　4月2日（月）
4日（水）
9日（月）
11日（水）
16日（月）
18日（水）
23日（月）
25日（水）

問い合わせ
ファミリーセンター
ライル神父まで
☎092-541-6207

参加者募集

M・E
マリッジ・エンカウンター
（夫婦のための集い）

静かな雰囲気の中で、日常生活の忙しさから離れ、お互いの結婚に対する神の望みを聴くよい機会です。

日時　4月28日（土）から30日（月）まで
場所　福岡黙想の家
条件　ご夫婦での参加が必要です。
お二人のうちどちらかがカトリック信者であること。
詳細は鈴木忠一神父（黙想の家）まで
☎0940-32-6662

第29回 福岡教区クルシリヨ

クルシリヨは教会の要望に従い、使徒職に献身する信徒の養成を目指すものです。ふるってご参加ください。

日時　5月2日（水）19時～5日（土）16時まで
場所　福岡黙想の家
☎0940-32-3222
宗像市名残立山一〇六
参加費　一二、〇〇〇円（宿泊食事、用品代として当日受け付け）
携行品　ロザリオ、着替え、寝巻、洗面用具
連絡先　福岡教区クルシリヨ事務局
☎093-582-1654
佐々木信幸
申し込み締め切り　4月25日まで

四月命日の司祭

＊大野正恒師（イエズス会）一九八五年四月十二日元泰星学園校長
＊ジョゼフ・ドレル師（パリ外国宣教会）一九八四年四月十五日元直方教会主任
＊フランソワ・ブレンゲ師（パリ外国宣教会）一九四六年四月五日元佐賀教会主任
＊アンリ・レウトル師（パリ外国宣教会）一九四四年四月二十五日元新田原教会主任
＊カール・シュミッツ師（御受難修道会）一九八八年四月七日元福岡黙想の家院長

マルガリタ牧山マツさん

牧山勝美師（帯山教会）の母堂で享年八十六歳。三月二十三日長崎県飽の浦教会で葬儀・告別式が執り行われた。

編集室から

▽春が近づくと、新司祭誕生を楽しみにしますが、残念ながら今年もゼロ。でも助祭の叙階がありました。ただ助祭職が現実にはなんとなく宙ぶらりんの状態におかれているのは残念ですね。

▽『「家庭の日」のアンケート』報告。別に小出しにしているわけではありませんが、遅れ遅れになってしまい申し訳なく思っています。

▽司教館にファクシミリが設置されました。二月二十八日の午後のことです。送受信の失敗を繰り返しながらも結構楽しんでいます。

ちなみに、福岡司教館のFAX番号は092-522-5138です。（W）

楽しかげ

狂ったことの秘義

徳山　登

《自作のシャンソンを歌う神父》一九六五年、イエズス会員デュバル神父（フランス人）は、ロンドン、ベルリンなどで歌っていました。ある時などは三万人の観衆が集まりました。

「最初、世間に生きる一般の人々への宣教のため、酒場や喫茶店などで歌い始めました。するといつの間にか爆発的な喜びが大衆の中から湧きあがってきました。それは大衆がイエズス・キリストに期待していたしるしです」とデュバル神父は言っていました。

ところが、二、三年してデュバル神父はアルコール中毒になりました。こっそり、ひとりでワインを飲む癖も出てきました。恥ずかしい思いと失望感にとらわれ、だんだん孤立した状態が深まっていきました。しかし、神父はアル中患者の会に通うチャンスを得ました。その会の祈りの言葉が彼にとって光となりました。《神よ、私に自分一人では改めることのできない事実を受け入れる誠実で、明るい心をお与えください。また、私に改められるところは改める勇気をお与えください》。

すでに立ち直った中毒患者の一人に次のように言われました。《自分を愛しなさい》と。《そうだ！実に私の病気の原因はそこにありました。人のために自分の身を粉にしていくだけでは危険です。人の不幸を悲しみながら、お酒になぐさめを求める危険！本当にこの愚かな自分を愛すべきじゃないか》。

回復したデュバル神父は、次のように話しました。《今日の私を作り上げたさまざまの事を後悔していません。すべてがお恵みだったと思います。シャンソンを歌っている時は会衆の喝采をあびる時代でした。ところが、アルコールにやられ・つぶれ、死んで、復活したのです。今の私の仕事はアルコールの犠牲者の復活のために存在することです。

彼らの悩みを聞き、彼らと語り合うことです》。

多くの人が目指すすばらしい人生は忠実な戦いで飾られた輝く人生のようです。私たちはたびたび充実した生き方、条件の揃った状況を当たり前のように要求する傾きがあります。つまり力と言うものに頼り、価値を置くのです。〝実力〟〝有力〟〝効力〟〝能力〟と、力という言葉が横行します。

ところが、人間は優れた知恵や不動の意志を持ってるものではありません。一人の人間の中に明るいところがあれば、暗い弱い部分もあるのです。そして、人との関係においてこの弱い部分での交流が明るく強い部分のそれより、深く、強いつながりを生み出すものです。また筋道の立たない失敗に満ちた人生、いわゆる〝傷だらけの人生〟も尊重に値する栄光の人生ではないでしょうか。

人は誰でも秘密を持ち、簡単には人に打ち明けられない暗い重い荷を背負って生きています。主イエズスはそこまで降りてくださって、光の世界に引き上げ、解放してくださいます。（サマリヤの婦人　ヨハネ4章4～41参照）。

イエズスは人間の転ぶような弱さを理解されるだけでなく、その弱さを自分のものとして、共に担っていかれようとなさいます。《罪が増えたところに恩寵はさらに一層豊かにあふれる》（ローマ5章20）。

キリストの教会の中心的ながれにおいて一般通念に合わないことは多いのです。偉大な神が弱い人間の体を受ける受肉の神秘。神の子であるキリストが十字架の刑を受け、罪人とともに殺された苦しみと敗北。そういった出来事によって救いは神から来ることを強く感じさせられます。

キリスト教の信仰の中心になるのは神の感嘆すべきみ業です。キリスト者は〝賜物〟によって生かされているのです。私たちを常に贖われ、清められ、造り変えるという驚くべき〝みわざ〟。

終わりに罪女と言われたマグダラのマリアにおっしゃったみ言葉を思い出しましょう。《少しし か許されないものは少ししか愛さない》。

（パリ外国宣教会司祭　八王寺教会）

三日翁の句を唱へざれば、口むばらを生ずべし

與謝蕪村

かのときのことのは

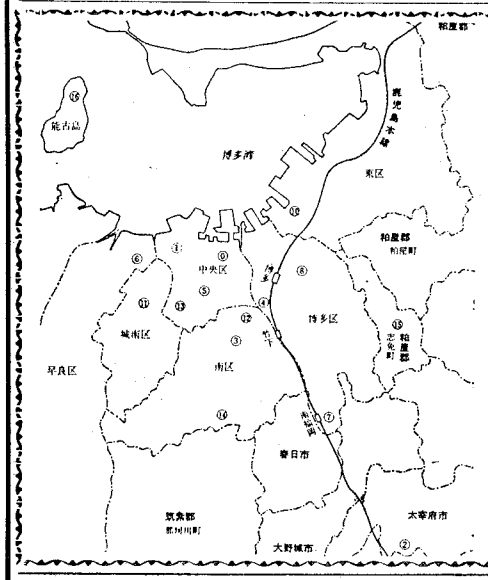
森山　敬三

『芭蕉翁付合集序』に所収。蕪村は芭蕉の句を三日唱えなかったら、口にいばらができる、というほど芭蕉を敬愛した。しかし、蕪村には、芭蕉にないものがあった。「十宜十便図」を合作した池大雅とともに、南画の大成者であった。彼はまた、俳号の祖であり、その大成者でもあった。「奥の細道図巻」はその最高作である。生前は、俳人というよりも、むしろ画家として知られていた。世界絵画史上でも、ユニークなこの蕪村の絵が、もっと高く評価されるべきと思う。子規は、彼の句を「客観的」ということで称揚し、朔太郎は「春風馬堤曲」などを、百数十年後の明治の新体詩より、はるかに近代的だと評している。それらの賞賛にもかかわらず、蕪村は芭蕉の陰に、ひっそりと隠れている。

集まれ！福岡ウォーカソン

フェスティバルの成功と召命を祈る市内教会巡礼

日時　4月29日（日）正午
集合　司教館⑤（昼食を各自済ませて）
出発　司教館⑤を12時30分
Aコース（約4時間）
司教館⑤、浄水通⑤、高宮③、大楠②、美野島④大名町◎、司教館⑤
Bコース（約2時間）
司教館⑤、浄水通⑤、（西新⑥、茶山①、笹丘③から選ぶ）司教館⑤
所要時間　Aコース4時間　Bコース2時間（各教会で祈る時間を含む）
＊昼食は各自で済ませて参加なさってください。
＊徒歩で教会を巡り司教館へ戻ります。
＊5時に聖体賛美式で解散予定。
主催　召命を共に祈る会
後援　カトリック・フェスティバル企画運営委員会



中央出版　福岡支部
▩キリスト教関係、書籍、家庭の友
▩典礼聖具
▩ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ——安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　092—521—0568

カトリック
福岡教区報

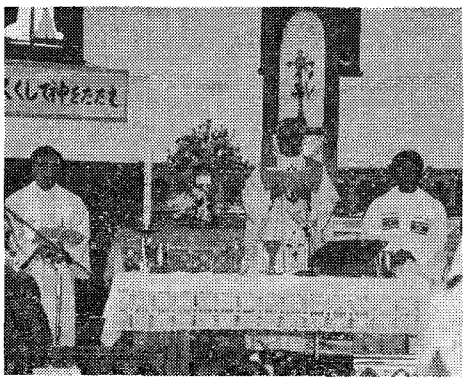
平田司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—522—5138
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

主はまことに復活された
—主の死をおもい復活をたたえよう—

復活徹夜祭でローソクに文字を刻む平田司教（カテドラルで）

今月のみことば
あなたの主は
ともにおられる
（ヨシュア一・九）
高宮　春山勝美神父

大牟田教会　設立60周年を祝う



去る三月十八日、大牟田教会（主任西田邦洋師）で設立六十周年の記念式典が行われた。当日は、同教会の共同体のはれの日を祝福するかのように付属の幼稚園の運動場の桜も咲き、好天気にめぐまれた。

平田三郎司教、主任司祭の西田邦洋師、同教会出身司祭で現在、東京の葛西教会で司牧に励んでいる山口正美師（聖アウグスチノ会）による共同司式ミサには、大牟田出身のシスターたちや地元で学校教育を通して奉仕しているカノッサ修道女会のシスターのほか、近隣の荒尾教会、他教会からも多数の信徒が参列した。

ミサ後、山口師の記念講演があり、続いて幼稚園運動場で祝賀会が開かれた。西田師は「五年後の宣教一〇〇周年を目指して、新たな一歩を踏み出そう」と感謝の言葉と共に一層の協力を要請。堤敏雄師（本郷教会主任）が大牟田教会の発展を祈って乾杯の音頭をとった。

アトラクションでは日本舞踊、全国大会優勝の実力を持つ信徒の高見千秋さんの手話、青年会のコーラス、楽器演奏など同教会の貴重なタレントが披露された。

最後に信徒代表が「〝開かれた教会を目指して〟協力して頑張って行こう」と挨拶して終了した。

古賀六雄氏は「何年ぶりかで逢う懐かしい人たちと昔話に花が咲きました。今後とも教区の皆さんと共に歩んで行きたい」と喜びを語っていた。

長崎大司教に島本要司教
浦和
5月8日浦上で着座式

長崎大司教区の里脇浅次郎枢機卿の後任に、浦和教区の島本要司教が三月二十日付をもって任命され、着座式が五月八日午後四時から浦上教会で行われる。

長崎大司教は福岡教区をはじめ九州内の司教区を統括する職務もあり、新大司教には九州と本州を結ぶ役割も期待されている。

島本司教は一九三二年長崎県生まれ。横浜教区の小神学生として福岡小神学校でも学んだことがある。

一九八七年の第一回福音宣教推進全国会議（ナイス）で重要な役割を果たし、現在はナイス推進委員会委員長や信徒使徒職委員長の要職にある。

フェスト・フォーク歌手
新谷のり子さん出演決定
ポスター、ちらしでPR計る

十一月十一日（日）に予定されている『カトリック・フェスティバル』の四回目の企画運営委員会は、四月十五日司教館で開かれ、委員十五名が出席した。

今回は、一週間前に戸畑教会で行われた第一回実行委員会の報告を受けたが、北九州地区での積極的取組みが注目された。

企画運営委員会での審議内容は以下の通り。

一、音楽コンサートの出演者に新谷のり子さんの出演が決定した。新谷さんは、「フランシーヌの場合」という歌で知られ、現在も山谷やパレスチナ難民の支援のためにコンサート活動を続けている。

二、小教区向けのPRポスターが完成。意識の高揚に寄与することが期待されている。一般向けのポスターは、九月上旬に完成の予定。

また、広くカトリック・フェスティバルについて関心をもってもらうためにチラシの作成が要望されていたが、広報委員会でできるだけ早く作成することになった。

三、『カトリック・フェスティバル』のための祈りは、近いうちに司教認可を受け、小教区に送付される。皆で祈るように勧められる。

四、女子パウロ会の「マザーテレサ」の映画上映は、会場の関係で二ないし三回に分けて実施する。

五、子供の広場やお祭り広場を設け、バンド演奏や種々の催しをとおして楽しく集える場と時間をつくる。

六、財源の確保が問題となっているが、特別献金と別に、テレフォンカードを作成、教区信徒協を通して販売する。

時の話題
新富康央

いのちを生きよう

復活祭に臨んで思ったことは、神様からいただいた大切なものの一つは、私たち一人ひとりの存在感の「重さ」ではないか、ということである。神様のお恵みによって人類は、生きる目的や一人ひとりのいのちの意味を獲得し、教え導かれてきたといえよう。天地創造のドラマからずっと、神様によって「いのち」を吹き込まれ続けてきたのである。だが、今日、その「重さ」（人間の尊厳）が失われようとしている。宗教にしても、ただただ現世利益ばかりを追求するようなものが大切なものの一つは、私たち一人ひとりの存在感の「重さ」ではないか、ということである。神様のお恵みによって人類は、生きる目的や一人ひとりのいのちの意味を獲得し、教え導かれてきたといえよう。天地創造のドラマからずっと、神様によって「いのち」を吹き込まれ続けてきたのである。だが、今日、その「重さ」（人間の尊厳）が失われようとしている。宗教にしても、ただただ現世利益ばかりを追求するようなものが竹の子のように噴出している。それは生きる意味、生きていることの証しを保証するような宗教ではない。そこで「いのちを生きよう」とする子を育てよう、ということを提唱したい。

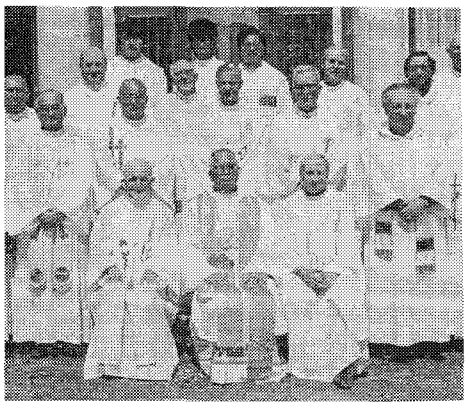
いのち＝生命——それは、それなくしては彼あるいは彼女ではなくなるという、生きるエネルギーそのものである。神様は、ウメにはウメの、サクラにはサクラの「いのち」を吹き込まれている。それぞれがそれぞれに、それらしく存在している姿を私たちは「自然」と呼ぶ。今日、自然破壊があるように人間破壊がすすんでいる。神様は、「太郎が太郎に、花子が花子であるように」育って欲しいと願われているに違いない。神様から授かった子どもの「いのち」を正しく伸ばしているか、それとも奪ってはいないか、親として考えなくてはいけない時だと思う。

重度障害児施設ねむの木学園の園長宮城まり子さんは、自園の子どもの絵が世界児童図画コンクールで優勝した時、次のように言っている。「みんなに愛されている。みんなに信じられている。みんなの役に立っている。そういう自信があの絵をかかせたのです」と。

宮城まり子さんが信奉している人こそ、貧民の子どもの救済者、人類の教育者そしてよきキリスト者と賛えられているペスタロッチである。その彼はいう。「誰も私に変わって『私である』ということはできないし、あなたに変わって『（私が）あなたである』ということはできない」誰にも変わることのできない人間の「重さ」をいっている。各家庭で、太郎が太郎に、花子が花子になるよう輝いているか、祈りを通して考えてみよう。

（佐賀大学助教授　佐賀教会）

98歳まだ現役です
ボヌカズ師来日70周年迎える
北九州



ボヌカズ神父（写真—前列左端）の叙階・来日七十周年記念祝賀会が、三月二十六日北九州八王寺教会で、平田司教はじめ二十数名の司祭が集まり行われた。

記念ミサの中で平田司教は「パリ・ミッション会のボヌカズ神父様は一九二〇年の来日以来、七十年の長きにわたり、日本の教会、特に九州各地で献身的に働いて下った」と感謝を捧げ、「神父様のような神のみことばの伝達者、人々への奉仕に身を捧げる多くの司祭が召し出されるよう祈ろう」と語った。

フランス生まれのボヌカズ神父は来日後、長崎の神学校教授をはじめ、九州各地の教会で宣教・司牧活動に励み、日本の教会にとっても生き字引のような存在である。

また最近「人間は何のために生きるか」という本も出すなど元気そのもの。教区の行く末にも心をかけている様子。

同僚の神父はボヌカズ師を「宣教熱心な祈る人、優しい人」と評している。

司祭職目指す
三人の少年達

将来の司祭を目指してこの春、小神学校に入学した三人の子供たちを紹介しよう。

福岡小神学校

☆浜村浩嵩君は豊津の出身。所属は新田原教会。中学一年生。「生活には慣れてきました。時々寂しいこともあるけど、友達もできて楽しく過ごしています。神学校では、よく勉強したい」と語る。

聖パウロ会

☆原塚勇君は長崎県奈留教会出身。中学一年生。「小学校五年生くらいの時から神父様になりたいと思っていました。明るくて優しい神父様になりたい。スポーツ、勉強、お祈りに一生懸命頑張っていきたい」とやる気十分。

☆森本登君は大阪八尾教会出身。中学三年生。「小学校四年生の時から神父様になりたいと思ってました。明るく皆に尊敬される神父様になりたい。つらいことがあってもくじけないように頑張りたい」と長年の夢がかなってうれしさ一杯。

教区人事

◇岩永義人師　小倉教会（二日市教会）
◇堤敏雄師　二日市教会（本郷教会）
◇牧山勝美師　健軍教会（帯山教会）
◇青木悟師　帯山教会（手取教会）
◇川上惣一師　本郷教会（新田原教会）
◇山下正師　新田原教会（司教館）
パリ外国宣教会
◇C・バスチ師　八王寺本部（小倉教会）
聖アウグスチノ会
◇J・マカティ師　笹丘教会（長崎城山教会）

みちくさ

ある司祭が台所で炊事をしていました。彼は、ふと我に返ったとき空しさを感じました。自分の教会に賄さん（ハウスキーパー）を雇うほどのお金がないことをとても残念に思いました。「こんなみじめな司祭の姿をみたら、若者たちはきっと司祭職に魅力を感じないのでは」と真剣に心配していました▼一方、ある司祭は賄さんつきで、炊事掃除洗濯に何の心配もいらず、宣教・司牧に励むことができました。彼の賄さんは料理上手で訪問者を喜ばせ、彼も満足していました。彼女はオルガンも弾け、会計の心得もあります。ただ主任司祭と信徒の間で悩んでいました▼最近になって、司祭たちの生活に格差があるように賄さんの待遇にもだいぶ格差があることを知りました。小教区付の賄さんもいれば、主任司祭付の賄さんもいます。ある宣教会地区では、会で雇っている賄さんたちのために合同黙想会をするそうです。賄さんの霊性とかそんな大それたことではなく、何かとご苦労の多い彼女たちを慰労する心配りのようです▼小さな貧しい小教区ではパートの賄さんさえ雇うことができません。もしそれが理由である司祭が小さな小教区には行けないとなったら不幸なことです。賄さんは教会の顔であって、主任司祭の顔ではないのですから、これからは小教区ではなく教区全体で心配すべきだと思うのです。でもそのためには、赤字に悩む教区財政の建て直しに幅広い知恵と決断が求められるのです▼昔も今も思うのです。賄さんがいなくても司祭は幸いだと。司祭の生活はナザレのイエズス以来不安定なものなのです。その日その日の糧を心配する家族や日雇い労働者に学び、どんなに貧しくても、いつも喜びと希望をもって神に信頼して生きることができることを示す。それが、司祭の本物の証と思うのです。生意気な意見でしょうか。

家庭の日アンケート調査

キリスト者家庭の現場

(3)子供たちと若者の声

昨年五月の「家庭の日」にあたって行われたアンケート調査の結果を、一回目は夫と妻、二回目は親と子の関わりの中から見てきた。

最終回は、子供たちと若者の答えから考えてみたい。

答えてくれたのは小学生百七十六名、中学生百四名、高校生百七十七名、青年が百四十九名である。

「悩みがある時、困った時など、一番先に誰に相談しますか」と言う質問に対して、「親友」と答えた人が一番多く、中学生や青年は半数かそれ以上が親友と答えている。

ちなみに、「司祭」と答えた人は六百九名中わずかに八名であった。

幼児洗礼と信仰の自由

子供や若者の自由な意見の中から多く見られた声をあげてみる。

○教会に同じ世代の人が少ない。○時々、教会に行くと神父さまやシスターから教会へ行かないと罪だとか、地獄に行くとか言われる。○教会は好きです。しかし、スポーツも大好きです。スポーツはグループ競技なので日曜日だからといって自分だけ休めません。一番ミサに行きますが教会学校に行けません。

この様な声の中で「幼児洗礼」について次の様な意見があった。

○幼児洗礼は信仰の自由を犯すものだと思う。○親は、幼児洗礼があなたたちのために一番いいと思ったと言うがそれは大人の自己満足だけだ。○大人になった時の子供の権利を無視するものだ。○普通の子供がしている、日曜日の朝から友だちと遊んだりテレビを見たりといった事ができない。○何だか判らない内に親の信じる宗教に入れられ、おかげで他の宗教を知る機会がなかった。○初聖体や堅信式もほとんど強制的である。

この様な意見に混じって、次のような声もある。

○私は、教会に行くのが大好きです。毎週、お母さんや兄弟、おじいさん、おばあさんたちと一緒に行きます。まだ、お父さんだけが未信者なので「早く信者になって一緒に教会へ行けたらいいな」と思っています。でも、私はお父さん、お母さんを見て立派だと思います。精一杯、子供を愛し、苦しい時もくじけず、私達のために必死にがんばってくれているからです。○もうすぐ家族と離れて一人暮らしになるが親や兄弟から受けた愛情は決して消えない。信仰を持ったこの家庭に生れて良かったと強く思う。

以上の様な声は「教会共同体の大人」に対する子供や若者の叫びでもあろう。

信仰してるって恥かしい？

そこで、ある教会の高校生会のメンバー数名に、この意見を読んでもらい感想を聞いてみた。

ほぼ全員が一度ならず「幼児洗礼と信仰の自由」について考えた体験があると答えていた。しかし、今、進んで教会に来ている理由は、「迷っていた時、泊まり込みの練成会などで神父さまと話し合えた」「黙想の家のような所で祈りや労働の体験が出来たこと」などと語っていた。

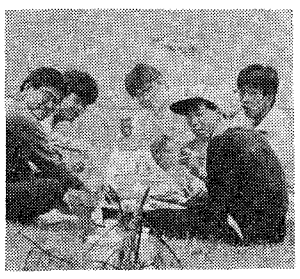
また、「他の宗教に触れられないと言う意見があるが、自分の宗教にどれだけ触れたのだろうか」とも話した。

「私も幼児洗礼に抵抗がありました。中学の頃、学校で信者である事を知られると恥かしかった。しかし、教会学校での友だちは週に一回しか会わないけど、とてもホッとさせられて励みになった」と言う学生もいた。「どうして、恥かしいと思ったのか」という質問に、「真面目人間と思われるのが恥かしかった」「真面目な事しか出来ない、と思われることが恥かしかった」と答えていた。

一方、教会共同体の中で「大人」である人々から「若者が教会に来ない」とか「子供に信仰を伝えるのは難しい」といった声が聞こえるが、この様な子供たちの心の痛みに対する教会の姿勢は、あまり問われていないようだ。

アンケートに「あなたを一番よく理解してくれるのは、誰だと思いますか」という質問の答えで。

一位は母親、二位は友人である。「神父さま」と答えているのは六百九名中十六名に過ぎない。これは、司祭だけの問題でなく教会共同体全体へのチャレンジと見ることができないだろうか。



友だちっていいもんだ

右の二つのグラフが、今の子供たちや若者の望みを物語っていないだろうか。

子供も、若者も教会に拠り所を見つけられないことの現われと考えられないか。

「学校」と「教会」が、ちょうど逆の数値を示しているのに気がつく。

教会で友だち作りはできないのだろうか。

教会が友だちになれないのだろうか。

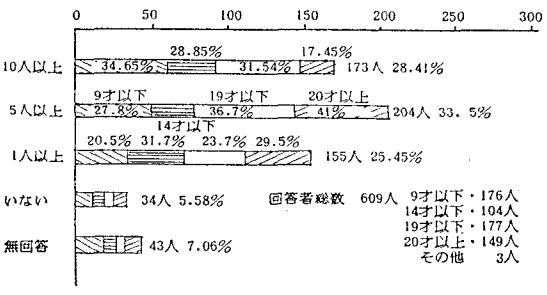
いわゆる「教会離れ」の理由が、塾や学校の部活動といった部分にだけあるとは思えないものをアンケート全体は示しているようだ。

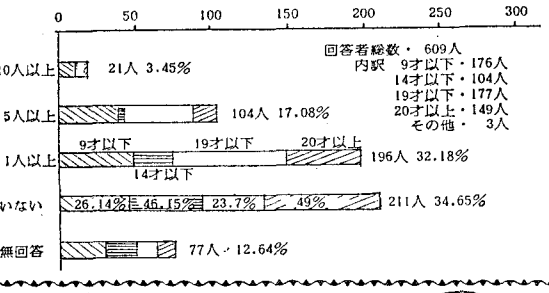
ある老年の司祭は「信仰はお乳と一緒に飲ませるものです」と話している。

核家族化された現代の家庭の中で、カトリック教会の伝統的な信仰の伝承が無くなってきたことも事実であろう。このような時こそ、信仰を教会共同体という大家族の中で、伝承していくあり方を模索すべきではないだろうか。

本紙一月号、四月号、五月号と三回に分け昨年の「家庭の日」アンケートの分析を試みてみました。皆様のご意見はいかがでしょうか。

キリスト者家庭の現場の声を聴き合うことによって一、聖、公、使徒継承の教会が、共同体としての交わりを広く、深く、暖かく実現できるよう祈り、協力したいものだと思います。〈編集部〉





G・ベラス師 帰天

『熊本少年の町』を創立

子供たちから「父」と親われる

戦後の混乱期に来日、熊本県の西合志町に家庭をなくした子供たちのために「少年の町」をつくり、親代わりとして子供たちの世話をしたジョージ・ベラス神父が肺癌のため、三月十九日熊本市民病院で亡くなった（既報）。

ベラス神父は、一九一九年米国ニュージャージー州生まれ。二十四歳で聖コロンバン会司祭として叙階され、六年後に来日、熊本の水俣や健軍教会で司牧。

修道会経営の養護施設が小学生以上の男の子を養育できないなどの問題もあって、一九五五年に「熊本少年の町」を設立、カトリックの信仰による養育を継承させることにした。

ベラス神父と子供たち（創立当時）

開設以来、園長としての二十二年間に約二百七十名の男の子を育てた。巣立った子供たちは、社会人となり家庭を持つようになってからも自分の子供たちを見せに少年の町に神父を訪ね、助言を受けていた。

二年前に肺癌であることを知ってからは、子供たちの将来について心配し、アメリカで療養するようにとの身内の願いを断っていた。死去の前日十八日が七十一歳の誕生日で、危篤の同師の病床には教え子やコロンバン会の神父、友人などが集まり、誕生日を祝ったばかりだった。臨終の床は、教え子や同僚の司祭たち、信徒ら多数の祈りに包まれていた。

同師が創立した健軍教会で執り行われた葬儀ミサの追悼説教で教え子の一人渡辺隆義師は「司祭としての自己放棄などの基本的あり方を神父様から学んだ」と感謝の意を表わした。また創立当時ベラス神父と苦楽を共にした嘉松清市氏（現在藤沢教会所属）は「鼻みずを流す子供たちを自分のハンカチでふいてあげていた神父様を思い出します」と子供たちをこよなく愛した神父を偲んだ。

ベラス神父の教え子たちは、三月二十三日に神父が礎を築いた少年の町（現熊本天使園）で追悼ミサを捧げた。また五月六日にはベラス神父記念祭壇の除幕祝別と追悼ミサが、熊本天使園墓地で予定されている。

自由席

最愛の父天国のベラス神父様へ

谷口康司

思い起こせば、神父様との出会いは戦後の混乱期、当時僕は六歳でした。食物に飢え、親の愛に見放され、幼な心にもつらく悲しいときでした。神父様は、西合志の荒れ地に僕たちの郷里『熊本少年の町』をつくってくださいました。

春には桜の花や小鳥の歌声と共に神父様の大きな笑い声。様々な動物とたわむれ、聖堂で聖歌をうたい、何にたとえようもない幸福な日々でした。雨が降れば、四キロもある道のりをずぶぬれになって学校まで雨具をしょって迎えに来てくださいました。

ベラス神父様の真の愛に包まれて、私たちは社会へ巣立っていきました。

私たちの人生のすべてが神父様のあたたかい教育の中にありました。時には厳しく、時にはやさしく、常に人を愛しまわりを大切にするようにと教え諭してくださいました。

その神父様が、肺癌という大変な病気にかかられたのです。お一人でさぞ苦しい日々だったでしょう。

お見舞いにかけつけた時ベッドの上から僕の手を優しく握りしめ、「おごることなく、体を大切によい家庭よい人生を長くおくるのですよ」と申されました。

その時、私の心の中には神父様のあたたかい心が神さまの言葉として聞こえたのです。

僕たちの幸せのために身を粉にして働かれるお姿はいつもお手本にしていました。こうした神父様の教えは僕たちの子供にも必ず受け継いでいかせます。

神父様、天国では芝刈りや植木の剪定、畑の仕事などせず、ごゆっくりお休みください。そして、天国で僕たちの場所を広くとっていてください。僕たちがくじけそうな時、つらく悲しい時など天国から見守り、声をかけてください。

僕たちは、これからも神父様の教えの数々を守りご恩に報いたいと思います。

（少年の町卒園生代表）

炊き出し、おにぎり配りの彼方のものは

中薗英三

今年も炊き出し運動が終わった。二月は信徒協主催で週二回、三月はラザロの会主催で週一回。おにぎりとみそ汁、ポカロン、卵などを博多駅や天神界隈で野宿している方々に配り歩いた。我々は一種の気後れを感じた。「いったい何と声をかけたらいいものか」という素朴な疑問と「もしかしたら、これは大変失礼なことで、このおじさんに怒鳴られたらどうしよう」という恐れの入り混じったものであった。

博多駅の屋上への階段出入口には少し心配なおじいさんがいる。いつもおばあさんと身を寄せあうようにして野宿をしている。我々が行くと「頼むから酒買ってきて」とおっしゃる。呂律の回らぬ口ぶりで時々何を言っているのか分からない。顔にも傷が絶えない。おばあさんが、彼を保護しているのか我々の前で大声を出す彼をたしなめる。どう見てもこの二人に仕事などあろうはずもない。我々はおにぎりとみそ汁を残して立ち去った。

「何を食べ、何を飲み、何を着ようかと心配するな。天の父はあなたたちにそれらがみな必要なことを知っておられる。だからまず神の国と義を求めよ」。おにぎりを配るだけでは足りない。神の国と義を我々キリスト者は求めているだろうか。心の中にスッキリしないものが残っている。

（大名町教会）

祈りの日へどうぞ！
日　時　毎週火曜日　午前11時～午後3時30分
内　容　小さな講話、黙想、ロザリオ、ミサ、晩の祈りで終わります。
※ 簡単なお食事を御用意します。前日までにお申込みください。
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

殉教者を偲び慰霊祭

「信仰の遺産を子孫に」と決意新た

島崎教会

キリシタン弾圧の時代に熊本で殉教した小笠原玄也・みや（加賀山マリア）夫妻とその子供たちを慰霊するミサが四月一日、埋葬された場所といわれる熊本市の花岡山中腹の殉教碑前で捧げられた。

殉教祭は、島崎教会（主任カリー師）が毎年行っているもので、今年も桜吹雪の舞う中、百五十名ほどの信徒たちが参列した。

加賀山マリアは、細川忠興の小倉時代の重臣で殉教した加賀山隼人正の長女、夫の玄也はガラシャ夫人の最期をみとった少斎秀清の三男として知られている。夫妻は熊本に来て、九人の子供たちや女中四名と共に殉教の冠を得た。

殉教祭では、まず殉教者たちの碑に子供たちが花を捧げた後、ミサが始まった。司式の渡辺隆義師（司教館）は説教の中で「現代社会で真に福音を生きようとするカトリック者は、かつての殉教者たちと同じ困難に遭遇する」と指摘すると共に「殉教者たちが残してくれた信仰の遺産を次の世代にも引き継ごう」と家庭での信仰教育の大切さを強調した。

また信徒会長の高木光行氏は「この地で殉教した人たちが、列福調査によって早く聖人としての尊敬を得られるようみんなで努力していこう」と呼び掛けた。

ミサの後、参列者は持参した弁当を開き、歓談した。

殉教者の信仰の遺産をこの子らにも

聖香油ミサ

司祭は信徒の上にでも横にでもなく中に

病者の塗油や叙階の秘跡、洗礼志願式などに用いるオリーブ油を祝別する『聖香油ミサ』は、四月十二日平田司教のもと約六十名の司祭たちが共同司式、大神学生、信徒ら多数も参列して、浄水通教会で行われた。

『聖香油ミサ』は、司祭の約束更新も含むもので教皇は毎年、司祭たちに特別のメッセージを発表している。

平田司教もミサ中の説教で、先般のアド・リミナにおける「司祭たちによろしく」との教皇からの祝福の言葉を紹介したあと今年の教皇メッセージの要約を述べた。

一、司祭職が制定されたこの日、すべての司祭たちは自分の叙階式の感激の日を思い起こし、世俗化された社会に流されないよう祈るように。

二、今秋のシノドスのテーマは、「司祭の養成」である。現代社会のニードに応えることのできる司祭の養成が重要課題になっている。

司祭は信徒の上にある者でも、横にある者でもない。司祭は信徒の中で不可欠の働きをする者として存在、信徒の共通司祭職に奉仕する者である。

ミサの後、会場を司教館に移し、今年金祝・銀祝を迎える六名の司祭たちに平田司教から記念品が贈られた。

金祝司祭
糸永　一師（今村教会）
伊東誠二師（馬渡島教会）
ミケレーナ師（トラピスト）

銀祝司祭
中浜一男師（八代教会）
ブランガン師（浄水通教会）
スカットロン師（唐津教会）

聖マリア学院が閉校

熊本の中心地で福音の種もまく

約七千名の卒業生を世に送り出した「聖マリア学院専門学校」（学院長J・ブロデリック師）が地域の人たちに惜しまれつつ三月二十六日、四十一年の歴史を閉じた。

昭和二十四年四月二十日、まだ戦後の不定安な社会情勢の中で、教会の木造平屋建てを改造して、手取教会境内に洋・和裁学校「聖マリア学院」が設立された。県会議員や教会関係者の出席のもとに開講式を行った同校は、故平田惣五郎師を学院長に迎え、生徒数七十名あまりでスタートし、一時は生徒数も五百名を超え、昭和四十一年に現在の鉄筋コンクリート二階建ての新校舎を増築するなど順調に伸びていったが、近年は若い人たちの裁縫離れがすすみ、閉校を余儀なくされたもの。

同校は、聖コロンバン会の司祭たちが歴代の学院長をつとめ、一貫してカトリック教育を全面に押し出し、カトリック研究会も定期的に行っていた。また、小教区付属として、建物は信徒会館として利用され、種々の行事への協力参加など、多大な功績を残した。料理、生花、着付け、書道、カトリック聖歌を中心とした音楽など多様な科目を設け、女性としての幅広い知識と教養を得るように配慮していた。

卒業式の直後にホールで行われた閉校式には、大阪や鹿児島から参列したかつての卒業生、旧職員ら二百五十名が集まり、学院長を務めたこともあるダイアモンド師（崎津教会主任司祭）と過ぎし日々を振り返り、旧交を温めていた。

同校の校舎はまだ、使用に耐えるので、当面は信徒会館として利用されることになっている。（写真はクリスマスお祝い会の一コマ）

シリーズ　ここが聞きたい

拡大写本づくり①

弱視者に読書の喜びを

『はなびら会』は、何をしている会ですか。

『はなびら会』は視力の弱い子供たちのために、字を大きく書いた拡大写本を手作りしているボランティアグループです。

弱視（両眼で矯正視力〇、〇四～〇、三）の子供たちには町の書店にあふれている立派な美しい絵本や物語の本も、文字が小さいために、身近な美しいものになりにくい状態です。私たちはそうした子供たちにも容易に、疲れずに読書の楽しみを知ってもらえたら、と願っております。

一九七九年十月、東京はなびら会の一女性が福岡黙想の家で拡大写本づくりを呼びかけました。携えてきた一冊の拡大写本を基点としたボランティア活動が開始されたのです。ここで蒔かれた種は良き土壌に根をおろし、この十年間にたくさんの働き人が与えられました。試みと失敗を反復しながらも、会員一人ひとりの情熱と善意とたゆまぬ努力が、成長に必要な水となり光となり養分となって見事な花を咲かすことができました。

写本・点検・製本など一連の作業を終え完成した拡大写本は、全国の盲学校や弱視学級に送本し利用していただいております。

「長崎盲学校の図書室に拡大教科書と拡大絵本のためのコーナーが開設され、それも弱視児童たちの命名により『はなびら文庫』と名づけられ……」このような嬉しいニュースが届くたびに、「次の本は何だろうな……」と心待ちしている子供たちに対する責任を強く感じます。

発足当時、平田司教様から「労力と経済的犠牲をささげてこそ、ボランティアですよ」とのお言葉をいただきましたが、今も大切な言葉として心に留めております。

神様の道具として働かせていただいているという感慨で一杯です。

回答者　三沢マサ子（福岡はなびら会代表）

藤房神父のこぼれ話

井戸堀のおじさん

昔、馬渡島にひとりの名物おじさんがいました。そのおじさんは、祈りの本はもちろんのことラテン語の歌をそらんじて上手に歌い、聖母マリアへの信心のためいつもロザリオをまさぐりながら歩くほどの人で、井戸堀を専門の仕事にしていました。

そのおじさんがある時、ブルトン神父様が創立した愛苦会という修道院の井戸の掃除をすることになりました。おじさんは井戸の中に入ってせっせとヘドロの除去作業をしていました。

ところが運悪く、上から小石が落ちてきて、それが頭にあたり、哀れおじさんは気を失って倒れてしまいました。

みんなはおじさんが死んでしまった思い、すぐに引き上げましたが、なんとその時、おじさんの口からは「スブトゥム……」とラテン語の終業の祈りが始まり、最後まで唱えてしまいました。あとで、気がついたおじさんに聞いてみると、まったく覚えていないとのこと。これは、うそのようなホントの話なのです。

無意識のうちに出てくる言葉は、その人が常日頃どのように自分の信仰を生きているかにかかっているようです。どんな言葉で、いつも祈っているか、どんなことを大切にしているかがとっさの時に出てくるのです。

福音を母親がお乳といっしょに子供たちに飲ませてあげるのが一番自然にかなった信仰教育の方法だと思うのです。

聖堂内でファミリーコンサートを楽しむ

大楠教会

自らもヴァイオリンを弾くなど音楽家の鵜野泰年師（福岡市大楠教会）がこのほどユニークなファミリーコンサートを催した。

三月四日（日）のミサを終えた教会はそっくりそのまま演奏会場となった。

子供たちによるヴァイオリン演奏（写真）から始まり、ピアノ独奏やエレクトーンの演奏がこれに続く。ママさんコーラスにもなると、会場は熱気と興奮で大いに盛り上がっていった。本格的に音楽を学んだ歌曲歌手やピアノ、エレクトーン、フルートなどの奏者がいたこともあってレベルはかなり高く聴衆を満足させていた。

応援にかけつけた市内のシスターや信者たちで教会堂は埋め尽くされ、感動に満たされてコンサートは終わった。

鵜野師は「全員出演、全員観客の実に家庭的な楽しいコンサートでした」と成功の喜びを語っていた。

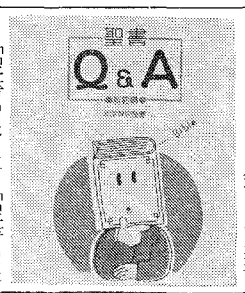
BOOK 読みは専科

☆マザーテレサ「死の場面」
K・スチュワート著

著者の話によれば、聖書に出てくるたとえ話や説明はどの国の人々にとっても、すぐに入り込めない。それは二千年も前の特殊な地域の出来事だからである……と。そこで、あのマザー・テレサの生き方と日本でのさまざまな体験を組み合わせてまとめられたものである。

その為に副題を「福音的センスの理解のために」としている。原題は「死の場面」で内容のほとんどがマザー・テレサの活動となっている。（あかし書房　一、一〇〇円）

☆聖書Q&A　新約編
和田幹男著



「聖書Q&A」「聖書Q&A旧約編」に続くもの。イエスと弟子たちが生きていた時代とは？　イエスは人々に何を語り、何をなさったか？　神の国とは？　復活とは？など、現代人の疑問と新約によく出てくることばに答えている。いままでのものと同じように、字を大きくし、イラストも入っている。

著書にはこの他、「私たちにとって聖書とは何なのか」「聖書年表」「聖書地図」などがある。

（女子パウロ会　四五〇円）

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—761—8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—711—0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 理 影 大 御 そ 他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

五月の行事

※ゴチックは司教日程

3日　熊本信愛90周年 **午前9時30分**
4日　伊万里教会堅信式及び園舎落成式
5日　クルシリヨミサ（黙想の家）
6日　小倉教会司祭館起工式
8日　召命祈願日
島本要長崎大司教着座式（浦上教会）**午後4時**
9日　司牧委員会長崎集会
10日　久留米信愛中学開校式
13日　典礼　聖歌祈りと研修（黙想の家）
カトリック・フェスティバル実行委員会（戸畑）午後2時
16日　カナの会（司教館）午後1時30分
20日　広報の日献金
飯塚教会堅信式 午前9時30分
27日　主の昇天
小倉教会堅信式 **午前10時**
Sr白井広報研修会（カテドラル）午前11時と午後1時
教区信徒協（司教館）午後2時
29日　北九州教会学校リーダー研修会（小倉）

福岡黙想の家

2～5日　クルシリヨ
10日　福岡地区婦人会役員黙想会
12～13日　福岡ブロック青年研修
13日　典礼　聖歌と祈りの集い
15～17日　聖公会九州教区教役者会
26～27日　召命を共に祈る会
徹夜祈禱会

教区修女連の新役員決まる

教区修道女連盟はこのほど今年度の新役員を選出した。会長大澤福江（師イエズス会司教館付共同体）、副会長木俣八千（天使の聖母宣教修道女会小倉修道院）、牧山ヨシノ（聖母の騎士呼子修道院）、書記富山憲子（聖心のウルスラ宣教女修道会）、会計尾崎紀世恵（礼拝会福岡修道院）、会計監査平井久美子（マリアの宣教者フランシスコ修道会人吉修道院）。（敬称略）

ともに歌おう

典礼　聖歌と祈りの集い

神の民の祈りとして数千年にわたって唱えつづけられた『詩編』を黙想し、いっしょに歌ってみませんか。

5月13日（日）午後2時から福岡黙想の家（宗像）で行います。

参加費は千円。典礼聖歌集をご持参ください。

お問い合わせは黙想の家まで。お☎は0940-32-3222です。

五月命日の司祭

＊ヨハネ棚町正刀師一九六八年五月十五日元茶山教会主任
＊フランソワ・ルマリエ師（パリ外国宣教会）一九四五年五月五日元八代教会主任
＊フェルナンド・チリ司教（パリ外国宣教会）一九三〇年五月十日初代福岡教区長

広報の日

人間、見つけにでかけよう 今、この世界に メディアの中に キリストを

Sr.白井の広報研修会

カテドラル会場

日　時：5月27日（日）第Ⅰ部 11:00～12:30
第Ⅱ部 13:30～16:00
テーマ：テレビ文化と福音宣教
対　象：一般信徒
問合せ先：聖パウロ書院 ☎092-741-4588

小倉幼稚園会場

日　時：5月29日（火）9時30～15:30
テーマ：A.Vメディアと宣教
対　象：教会学校のリーダーと子供の信仰教育に関心のある方
会　費：1,000円（昼食代別）
問合せ先：門司教会 ☎093-371-2944(Sr.木俣)

講師紹介

Sr.白井詔子（女子パウロ会）は、映像メディアの第一線で働き、現在OCICの会長。

武蔵ケ丘教会バザー

5月20日（日）11時半～3時

地域の方々とふれあい、愛と喜びと自由を伝える

おたのしみ

お買い得用品、手作り品、食品
フォークグループによるコンサート
バザー券抽選会（衛星放送チューナー他）
＊利益は聖堂建設費返済と福祉関係寄付へ
お問合せは ☎096-339-1910へ

神の国の国家

徳山　登

「男性にまさる女性は？」「ジャンヌ・ダーク！」とすぐにひとりの男性が答えました。NHKの連想ゲームの一場面です。それは正解でした。

五月三十日はジャンヌ・ダークの祝日です。ジャンヌ・ダークに感心し憧れている国民はフランス人についで日本人なのです。ローレヌ地方の貧しい田舎の家庭に生まれました。ジャンヌは単純で他の女の子と少しも変りなく、家事を手伝ったり、父親の家畜の番をしていました。信仰心の厚い少女で聖母月には友達と一緒に花で、首飾りを作り、マリア様に捧げました。

さて、十七歳のジャンヌが羊の番をしていました。その時、天から、彼女に使命を授ける言葉が耳に聞こえ、彼女を驚かせました。字も読めない無学な女性に一〇〇年戦争で挫折と絶望に近い状態のフランスを解放し、王国を回復させる使命をお与えになったのです。

お告げを受けたマリアのように最初は恐れおののきながら、〝神にはおできにならないことはない〟と信じぬいて出かけた。

一〇〇年戦争は王様から、フランスの軍隊を任されたジャンヌ・ダークによって終了しました。戦の間キリストの絵を描いた軍旗をいつも手にしていました。しかし、最後に裏切られて、尊い主イエズスの裁判を思わせるような不正な宗教裁判によって異端者・神を冒瀆するものとして、死刑の宣告をくだされた。ジャンヌ・ダーク二十歳の時でした。

ジャンヌはルアンという町で異端者として火あぶりによる殉教を受けました。枯れ木は積み上げられ、その上に縛られたジャンヌは「十字架が欲しい！」と叫びました。この聖女の言葉を聞いた一人の修道士がさおのような棒の先に十字架をつけ、燃え盛る炎の中のジャンヌへ差し出しました。聖女は十字架に口づけをして、「イエズス」と叫び、間もなく息を引き取りました。その場に居合せた人々は皆泣いていました。

ジャンヌは今の言葉でいう政治犯として、殺されたのです。ジャンヌは権力と体制に対して、正義と平和のために働き、戦う人々の保護の聖人です。

考えて見ますと、主イエズスこそが、不正な裁判によって殺されました。キリストの後を行くキリストの教会は世の終わりまで、正義と人権擁護の為の戦いを続けなければならないのでしょう。今も第三世界で貧しい人々と共に歩もうとする司祭や修道者、信徒たちが、独裁政権によって、投獄され、殺されています。≪義の為に迫害される人々はさいわいである≫。神様はいつの時代も強い人を辱めるためにジャンヌ・ダークのような弱く、小さな者を選び出されます。

どの国でも国歌があります。神の国の国歌はマリアの賛歌マグニフィカトだと言えるのではないでしょうか。多くの問題に悩まされる現代社会も大逆転を信仰の内に希望できます。

≪権力をふるうものはその座から下ろされる。見捨てられた人は高められる。飢えに苦しむ人はよいもので満たされる。……≫（ルカ1・51～53）。

神の国の発展は数字によっては計られません。伝統と文化の中に隠れて福音の種が蒔かれています。その芽生えの時期と条件も私たちの目に隠されています。

主がパウロにおっしゃった言葉を思い出しましょう。≪お前は私の恵みで十分だ。弱さにおいてこそ私の力は発揮されるのだ≫。（Ⅱコリント12の9）

主は私たちにもおっしゃいます。≪小さく貧しいそして弱い教会をとおして私の力が発揮されます≫。この五月、マリア様と一緒に歌いましょう。≪主においては、喜び躍ろう。力のある方が私たちに偉大な業をあらわしてくださるからです≫（ルカ1の46～49）。

（パリ外国宣教会司祭　八王寺教会）

訂正

本紙四月号4面『かのときのことのは』文中、「俳号」は「俳画」の誤りです。

編集室から

▽カトリック・フェスティバルについて、本紙でも毎号ニュースを流しているのですが、まだ浸透していない小教区もあるようです。

▽そんなことして何になる、と、ひややかに眺めてくださるのも結構なのですが、たとえつまらないことでも、「どうせやるのならこんなに」と提案し参加する愛徳はどんな人にも嬉しいものです。不満や文句をお持ちときく方から質問も問い合わせもない。これ教区の伝統でしょうか。

▽司教館は今、会計決算の真っ最中。中央にきて分かったことは、小教区で勝手にやってることがとんだ迷惑になっていること。司祭が一人でするためにかえって間違いが多いこと。今ごろ遅すぎる反省の弁です。（W）

かのときのことのは

森山　敬三

「人は麦餅だけでは生きないのぢゃ」
初手の天狗が出たとき
泥薄（でうす）如来の言はれた言葉ぢゃ
萩原朔太郎

かつて信仰は地上にあった、と題して『蝶を夢む』に所収。キリシタン用語を自在に駆使して、かつて信仰は地上にあったが、いまは無くなったことを歎いた。彼は白秋から出て、犀星とともに白秋を超えた。現代詩の祖である。口語という韻文にむかない日本語で、なんとかして作詩するという困難に、悪戦苦闘した。聖書の口語訳も同じことだろう。彼は、自分の兄弟が何人であるかを尋ねられて、一人ひとりの名前をあげ、どうしても一人たりないと思ったら、自分を加えることを忘れていたという、奇話の持主。三好達治は、朔太郎によって開眼し、終生、朔太郎を敬慕した。その詩、師よ、萩原朔太郎は四十三行に及ぶ長詩であるが、朔太郎の本質をあますところなく歌って、達治の最高作の一つである。

女子青年一泊黙想会

テーマ「生きる」
と　き　5月26日（土）午後6時から
5月27日（日）午後4時まで
ところ　愛徳カルメル会（神戸）
指　導　佐々木良晴師（イエズス会）
対　象　18歳～30歳までの女子 青年 でしたら、信者、未洗者どなたでも参加できます
参加費　1,500円
申し込み・問い合わせ先
〒655　神戸市垂水区霞ケ丘7－4－4
愛徳カルメル会
Sr.テレシタまで
☎078-707-4832

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
☎ 092-552-8195 Ⓕ 092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093―771―3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
(株) メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

カトリック福岡教区報

平田司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—522—5138
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

今月のみことば

いつもその顔を
慕い求めよ
（詩篇105・4）

御受難会　畠　基幸神父

八代教会

殉教者の信仰の灯再び

白百合学園全生徒ミサ曲を合唱

新たな歩みへ小教区民が結束

一八九〇年にコール師によって宣教が再開された八代教会（主任中浜一男師）で四月三十日、百周年の記念行事が盛大に催された。

式典は、隣接する白百合学園高等学校（シャルトル聖パウロ修道女会経営）の講堂を借りて行われ、平田司教、四十名余りの司祭団と共に教会内外から多数の人たちが参列した。とくにミサでは同高校の全生徒がターナーのミサ曲を合唱して奉仕するなど小教区と修道院、学校の協力関係のすばらしさを示していた。

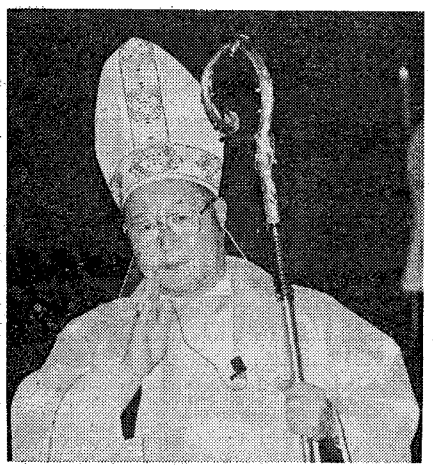
また日本キリスト教団の石川望牧師は、「これからも一致点を見出して宣教協力していきましょう」と呼び掛けるなどカトリック教会への期待が感じられた。

記念事業実行委員のひとり井上隆司氏は「このように盛大に祝うことができたのは熊本地区の信徒と白百合学園の皆さんの全面的協力のおかげです」と感謝の言葉を述べ、主任の中浜師も「力を合わせてさらに前進していこう」と小教区の心を表明していた。

なお、キリシタン時代に多くの殉教者を輩するなどの歴史を有する同教会では、長年の夢であった殉教者たちの記念碑を境内に建立し、三月二十八日に除幕式を行い、記念式典の前日には信徒たちは同記念碑の前で決意を新たにしていた。

島本要長崎大司教着座

―― 世界に開かれた教会づくり目指す ――



着座後、会衆を祝福する島本大司教

里脇浅次郎枢機卿の長崎大司教区長辞任に伴い、前浦和教区長島本要司教が長崎大司教に任命されていたが、その着座式は五月八日（火）午後から浦上教会で荘厳に行われた。

主式の駐日教皇庁大使W・A・カルー大司教をはじめ、十七名の大司教、司教が参列。百八十名にのぼる司祭たちが大聖堂の内陣を埋めつくした。サン・スルピス大神学生と長崎市内の各聖歌隊の合同先唱におよそ二千名の修道女、信徒が呼応する聖歌が聖堂内をゆるがせていた。

ミサの最後に挨拶に立った島本大司教は、「長崎は、歴史と信仰の由緒あるところ。迫害の中で、輝かしい信仰を伝えられた私たちが、子、孫の代まで福音を伝える司祭、修道者、信徒でありたい」と信仰の継承を語り、「異国情緒豊な地域性を活かした教区、国際都市としての教区として、世界に開かれた、世界に応える教区になり、さまざまな問題で苦しむ世界の教会と連帯する教区になりたい」と抱負を語った。

また、松永久次郎補佐司教は「新しい目の新しい指導を期待できます」と歓迎した。

『カトリック・フェスティバル』のための祈り

いつくしみ深い神よ、創られたものはすべて、あなたに感謝と賛美をささげています。

あなたの御ひとり子イエス・キリストは、私たちと同じ弱い人間の姿をとって世に来られ、十字架の苦しみと死、復活をとおして、限りない愛を示してくださいました。こうして、隔ての壁は消え去り、私たちは完全にあなたのものとなりました。

そして今も、あなたの救いの手は、待ち望むすべての人にさしのべられています。

（福岡教区長　平田三郎司教　認可）

＊6月10日（日）は特別献金日です
＊6月中にテレフォンカード発売！

ウォーカソン

召命の前途も快晴

徒歩巡礼に二百名参加

福岡

晴天に恵まれた四月二十九日（日）正午過ぎ、福岡小神学校の中庭には、司祭、神学生、修道女、信徒ら老若男女二百名近くが集合。二グループに分かれて徒歩による市内の教会巡礼を行った。

福岡ウォーカソンと銘打ったこの行事は、召命をともに祈る会（代表松井忠之師）の主催によるもので、司祭・修道者の召命を祈るとともに、今秋十一月十一日に開催される「カトリック・フェスティバル」の成功を祈るのも目的だった。

コースは、聖パウロ修道院―笹丘教会―茶山教会を巡る二時間コースと高宮教会―大楠教会―美野島教会―大名町教会を巡る四時間コースが用意され、自分の体力に応じて選んだ。

平田司教の激励の声に送られた参加者は、訪問した教会で記念のスタンプを押してもらい、召命の増加とフェスティバルの成功を願って熱心な祈りを捧げた。また主任司祭から小教区の歴史の話を聞いたり、お茶をいただくなど歓迎を受けた。

午後5時から浄水通教会で行われた聖体賛美式では歩き終えた全員が参列したため聖堂内は超満員。たがいに喜びを分かち合っていた。

参加者の中には、コースに入っていた教会の場所を知らなかったりで、少々疲れを見せる人もいたが「とても有意義な企画でした」と皆喜んでいた。

（写真左＝出発はルルド前から。右＝笹丘教会で）

熊本信愛90周年

福音の精神に基づいた教育に評価大

創立九十周年を迎えた熊本信愛女学院（校長Sr田川シゲ子）で、五月三日から五日にかけて記念行事が行われた。

三日午前には、平田司教司式による感謝ミサに続き、全校生徒、保護者、来賓など約二千名を集めて記念式典。四日には文化祭も開かれた。

また最終日の五日には熊本市民会館で、聖心女子大学のSr伊庭による記念講演「21世紀を迎える若ものに向けて」が行われた。この中で、Sr伊庭は、「事を行うためには準備が必要。そして準備は繰り返し行うべきもの。これからは、自分たちのことだけではなく、全世界的に助け合うという本当の仕事ができる人間に育つよう繰り返し準備に励んでください」と語りかけていた。

講演後は、同校の卒業生で現在二期会に属する岩永圭子さんによる独唱が行われた。

関係者は「大きな節目を迎え、熊本での信愛の使命を痛感している。キリストの生き方を示す学校として、また国際的視野に立って正しい判断が出来る、そんな人間教育を目指してゆきたい」と語っている。

時の話題

新富康央

親と子が「出会う」とは

町田知子さんの『十七歳のオルゴール――脳性マヒの重荷の中で――』という詩集の中に次のような詩がある。

「こんな子に生れて／よかったんですか／お母さん／こんな子でも／愛してくれますか／お父さんあなたがたの家をこわしてしまった私／心の中で泣いているでしょうね／ごめんなさい私はいま明るく生きています／それが親孝行だと思ってもいいですか／お父さん／お母さん／それ以外なにもできませんゆるしてください／ね」。

この詩をある中学校で読んで聞かせた。数人の女生徒が唇をかみしめて泣いた。先生がそっと教えてくれた。あの子達つっぱりグループなんですよ。心の隅にある親へのすまないという気持ちが、彼女の詩と二重写しになったのかもしれない。

その一方で、朝日新聞に「人が信じられない」という十九歳の女性からの投稿がある。「……必要のない子供ならどうして産んだのですか。私は中絶されても、コインロッカーに捨てられても恨んだりはしなかったのに。……私には父よりも空から降りてくる雪の方があたたかく感じ、母よりも木がらしの方が優しく感じる。……私があなた方から教わったことは、人は信じられないということ。人を憎むということ。人間は醜いものであるということ。そして、この世に生れてくるのは最大の不幸であるということ――ただそれだけだった」。

ふたりのあまりに対象的な家族観の違いはどこから来たのか。それは、家族との「出会い」方にあるでしょう。出会いとは、異なる二つのものが互いに受け入れあって、新しい何かを生むことです。神様は私達にたくさんの「出会い」を用意してくださいました。

だが、ある社会学者は現代の家族を表象して、形だけ家族を演じ合っているに過ぎない劇場である、という。

実は家族は、壊れやすいガラスの城なのです。なぜなら、家族は男と女、親と子という異質者同士の集合体であり、しかも異質性ゆえに意味を持つという唯一の集団だからです。異質な者を結びつけるものは、スキンシップ、対話などを通しての「出会い」への努力しかないのです。

（佐賀大学助教授　佐賀教会）

みちくさ

病人にご聖体をもっていくときに用いる小さな容器（ピクシス）を、二年余り前に、今は亡きベラス神父様からいただいた。「これは私の恩師からもらったものです」と言いながら手渡されたピクシスには一九一七年の文字が刻まれている。いまでは形見となってしまったピクシスを手に取ると、「しっかりやれ」との神父様の思いが伝わってくる▼ご自分の生涯の終わりの時を察せられたからかどうか分からないが、その後ほどなくして肺癌で病床の身となられた。病状は主治医から包み隠さず聞いておられ、こちらの思惑など吹き飛ばすかのように明るく振る舞われた。だからこちらもへたな慰めの言葉などなしに見舞うことができた。とはいっても司祭生活の仕上げは苦しい日々であったに違いない▼一人の司祭の生涯がどれだけ偉大であったかは、彼が建てた教会や幼稚園の数でもなければ、施設の素晴らしさでもない。また、どれだけたくさんの人に洗礼を授け、園児や資産を増やしたかでもない。そんなことは大司祭ナザレのイエズスの生涯のどの部分と重なるのだろう▼ベラス神父様の葬儀の時に、彼がつくった「熊本少年の町」という施設、建物について褒める人がいなかったのは、司祭としてのベラス神父様に相応しいことだった。確かなことは、神父様が建造物よりもはるかに素晴らしいものを私たちに残してくれたということだ。それは最期の時に完成した▼もの言えぬ痩せ衰えた身を病床に横たえ、司祭として真実の説教をしておられた。神に愛された人は、その分苦しまなければならない。だが神はそれに耐えうる力も合わせて与えられる。多くの人々が彼の枕元で回心の恵みを受けた。長い間教会から遠ざかっていた若者たちがそこに神を見い出した。今、形見のピクシスを手に、偉大な最期を遂げたベラス神父様を羨ましく思う。

福　岡　教　区　教　勢

（1989年1月1日～12月31日）　（注）司祭・修道者・神学生は含まれていない

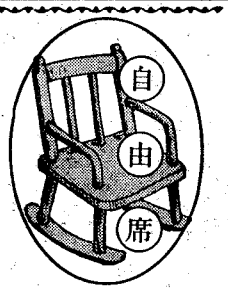
	小教区名	洗礼		求道者	堅信	ミサ参加			婚姻				転入			転出			死亡	居所不明	信徒総数	信徒総数
		幼児	成人			主日	復活祭	降誕祭	信徒	信プ	混宗	他	教区内	教区外	他	教区内	教区外	他			本年	昨年
福岡地区	茶山	4	1			300	350	500			2		15	11	3	10	4		2	4	524	509
	大名町	21	32	9	51	650	1,100	2,300	5	1	23	93	16	43	3	25	30	1	13	446	1,185	1,139
	二日市	4	2	7	2	200	250	300					29	8		10	7		1	11	407	382
	箱崎	1	8	5		120	180	250	2		1		11	19		11	6		2	30	290	289
	笹丘	11	12	19	12	310	520	690	1		4	10	19	9		17	33		5	1	667	662
	光ヶ丘	12	9	7	28	260	420	667	1		2	2	28	29		14	25		9	95	997	967
	本郷	8	4	4	23	450	500	540	3		5			2		4	8		8	35	646	652
	今村	16	9	6	34	700	850	850	1		2		2	1		11	3	7	15		1,007	1,012
	浄水通	5	12	19	12	150	200	450	2		7	122	13	18		7	8		5	50	321	290
	古賀	4	1	10		240	350	500	1		2	10	22	22		8	14		3		603	579
	久留米	22	10	9	10	400	600	1,300			7	24	6	12		10	6	1	5	89	1,067	1,132
	美野島	1	1	1	12	36	66	92	1		2		3	1			4		1	40	135	134
	西新	13	8	3	28	450	600	650			5		19	43	6	28	31		2	34	1,303	1,276
	小郡	6	1	2		120	300	350			4	1	18	2					1	10	347	329
	大楠	7	1			80	100	250	2		1	2	2	8		8			1		143	120
	大牟田	1	6	9	5	75	200	200			3	16	3	2			6		1	22	196	196
	老司	8	3	3	3	200	300	350			7	3	5	23	5	12	5		2		577	552
	高宮		8	14	22	110	200	300			4	11	2	16		21	4			25	570	553
	吉塚	9	6	4	5	240	400	500			4		1	12		4	5		5	2	680	666
	呼子	10	1	2		300	350	500	2		6			4		12	5		2		351	355
	馬渡島	5				150	150	150					4				5				328	461
小計	21	168	135	133	247	5,541	7,986	11,689	21	1	91	294	218	285	17	212	209	9	83	894	12,344	12,255
佐賀地区	伊万里	4	2	4	1	45	100	150	1		2			1	2	1	2		2	9	223	219
	唐津	6	1		23	85	130	180	1		6		27	8		3	1	6		18	375	384
	鹿島			1		12	18	30			1	2							1	41	86	86
	佐賀	6	7	10		160	300	400			4	13	11	8			17		3	4	650	690
	武雄	1		1		15	60	80			1			3		1	1		1		79	79
	鳥栖	5	2	8		100	230	210	2			3		3	1	8	10		2	2	298	311
	多久			1		25	50	65						6							116	110
小計	7	22	12	25	24	442	888	1,115	4	0	14	18	38	29	3	13	31	6	9	74	1,827	1,879
北九州地区	八王子	1	3		3	75	115	200			2			4		5			2		200	209
	飯塚	6		4		75	160	180			4	9	11	7		6	5		2		255	244
	小倉	18	29		24	600	800	1,500	2		21	23	22	10		29	42		16	28	2,500	2,536
	黒崎	12	16	10	15	350	400	400			6	7	11	6		16	11		10		1,334	1,363
	水巻	6		12		250	350	500			5	4	15	6		4	5		7	13	594	596
	門司	2	4		4	170	220	350				2							3		388	376
	門司港	3	2	5		60	100	120	1			1	4	4			3			10	162	152
	直方					30	70	90									3			7	113	116
	新田原	22	1		23	700	1,200	1,200	4		10		4	22		6	16		11		1,809	1,793
	田川					66	100	200			1	1				1			2	26	168	170
	天神町	2	1	2		80	142	220			1	3	4	2		4	3		1		310	307
	戸畑	6	4	9	33	250	400	900			3	4	13	7		9	8		6		791	784
	若松	2	4			60	160	210			4	1	1	1					1		330	331
	湯川	18	9	4	5	400	600	700	2		4		12	10		13	15		2	127	1,142	1,131
	行橋	9	3	4	2	250	400	650	1		1	3	6	7	2	5	7	2	3	52	586	574
小計	15	107	76	50	109	3,416	5,217	7,420	10	0	62	58	103	86	2	98	118	2	66	263	10,682	10,682
熊本地区	荒尾			13		55	90	100									6		1	3	130	135
	人吉	1	7	6		90	150	210			1	6	1			8	5		7	2	194	207
	本渡	1				20	40	60			4	3		3					2	35	100	100
	健軍	3		5		200	350	500			2		13	12		5	12		2		494	474
	菊地			7		20	45	100											1		70	71
	水俣				10	30	50	60			2					6	4		1		101	116
	帯山	4	9	5	7	120	150	250			2	1	4	13		3	7		3	49	335	448
	島崎	3	2	4	31	160	200	250	2	2		6	4	1		1	1		7	4	368	372
	大江	3	1		23	160	200	300			2	8	2	5		2	9		4	26	348	378
	崎津	6	5		20	90	170	190			1								2		279	308
	玉名	1		4		50	125	120	1			1	1			1	1			2	111	111
	手取	5	27	20		376	570	670	3		14	33	7	16		9	17	6	16	117	1,191	1,205
	八代	2	2	3	2	70	100	420			2	1				1	1		1	26	128	269
	武蔵ヶ丘	2	4	27	3	150	200	360			2		16	12		2	3		3	10	406	382
小計	14	31	57	94	96	1,591	2,440	3,590	6	2	32	59	48	62	0	38	66	6	50	274	4,255	4,576
合計	57	328	280	302	476	10,990	16,531	23,814	41	3	199	429	407	462	22	361	424	23	208	1,505	29,108	29,455

福岡教区司祭・修道者・神学生

年	司祭	修道士	修道女	大神学生	小神学生
1984	102	11	532	12	11
1985	104	12	485	12	9
1986	110	11	459	8	7
1987	111	9	435	7	8
1988	112	7	507	7	13
1989	109	8	443	10	7

邦人・外国人聖職者数の比較

	司祭		修道士		修道女	
	邦人	外国人	邦人	外国人	邦人	外国人
1988	61	51	5	2	487	20
1989	56	53	6	2	425	18



楽しく歩けば祈りもはずむウォーカソン

梅田　修平

「ウォーカソン、とっても楽しかった！散歩のようなところが良かった。これが他の宗教なら、白装束にタイコとチンドンがハデに横行するところ……？　ホント、いったい何の集団か分かりませんでしたね。ハハハハ……」と、誰かさんが言っていましたが、全く同感。

夏の日のような素晴らしい天気のもとで大型のゴールデンウィーク初日にどっとくりだした教会の仲間たち百数十名。歩いているうちに増えていたのか、出発点にしてゴールの司教館にたどりつき、浄水通教会の聖堂に落ち着いた時には、もう座る席がないほどビッシリの人でうまりました。福岡って小さくまとまっている街だから、歩いて回れるところに、こんなに同じカトリックの教会があったんだなぁと身をもって実感しました。

前を歩いていたひとりのシスターが、誰か知り合いとすれちがい、何をしているんですかと尋ねられて「えーっと、その……みんなと歩いているんです」と答えているのを聞いてしまって、思わず吹き出してしまいました。確かにその通りです。天神の人ごみの中では、完全に他の通行者と溶けあって、集団が分らなくなってしまいました。

デモではないけど、今度やるときは、せめて旗を一本持ってこよう。「ひとりでは歩けない」……イエズス様がエマオに向かう弟子たちと歩かれたように、ともに歩くことによって、私はそこに、「ともに生きていくこと」の励ましさえもが暗示されているような喜びと楽しさを感じました。

召命を祈ることも、カトリック・フェスティバルのために祈ることもみんな、ひとりでは歩けない私たちの母なる教会に連なっていくのですから。

（御受難会修士）

祈りの日へどうぞ！

日　時　毎週火曜日　午前11時～午後3時30分

内　容　小さな講話、黙想、ロザリオ、ミサ、晩の祈りで終わります。

※ 簡単なお食事を御用意します。前日までにお申込みください。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社

熊本市島崎4丁目2ノ68

電話　096―352―3306　096―352―8622

別れ・出逢い・旅立ち

草苑（SOU-EN）

ご葬儀

木下株式会社

TEL092-526-5656

福岡市中央区平和3丁目1-5

福岡地区婦人会総会

ビデオで環境問題学習

合成洗剤の怖ろしさを目のあたりに

福岡地区婦人会総会は四月十九日（木）午前十時から司教館で開催された。参加者は約百名。

議長に大道和子さん（光丘教会）を選出したあと議事に入った。活動報告では、西新教会から糸島に建設中の分教会について祈りと寄付の協力要請があった。

合成洗剤と環境破壊

主婦の立場から学習

午後からは、ファミリーセンターのショーン・ライル師が、教皇が今年の新年メッセージで語っていた環境問題を、とくに合成洗剤の問題を例に講演。ビデオを使いながら合成洗剤が現にもたらしている人体への影響の大きさと環境破壊の危険性について語り、日頃、台所などで洗剤との付き合いが深い家庭の女性にまず足もとからの石鹸使用を勧めた。

参加者は「合成洗剤による環境破壊と、人体への悪影響がよくわかった。手軽に手にはいればぜひ切り替えたい」などと語っていた。

会場で紹介された石鹸類は次のとおり。

＊パックスジャスミン（粉せっけん）1キロ450円＊パックスシャンプー300円＊パックス酸性リンス300円＊パックス歯磨き350円などでその他にもまだある。

お問い合わせ、注文はファミリーセンターのライル神父またはSr吉永まで。

☎092-541-6207

合成洗剤による公害問題については、本紙の「ここが聞きたい」でも取り上げたことがあり、このようにして具体的運動が始まったことは喜ばしい。

薄田昇神父講演会

「小さな人々に教えられながら」

関わりの姿勢を問いかける

大阪の釜ケ崎にある『旅路の里』で日雇い労働者のために生きる薄田昇神父（イエズス会）による講演会が、四月二十三日（月）午後七時から九時まで福岡カテドラルセンターで行われた。

これはカトリック福岡正義と平和協議会主催によるもので、当日は教会内外から多数の人々がつめかけ、体験をもとにした話に熱心に聞き入っていた。

〝小さな人々に教えられながら〟のテーマで薄田神父は「仕事も食べる物も帰る家もない。野宿すれば浮浪者と言われ、馬鹿にされ、しいたげられている人々がいる」現実を紹介し、「こんなおっちゃんたちと接する時、子供と大人とに大きな違いがある」と指摘した上で、具体的に「炊き出しでおにぎりを配る時、大人はいつも上から、高いところから差し出すが、子供はおっちゃんの前で膝をつき同じ高さになって、対等になっておにぎりを差し出す。そしておっちゃんたちもおにぎりそのものよりも、子供たちが来てくれることを喜ぶ。あるおっちゃんはチョコレートを買って待っている。おっちゃんが死んだとき、大人は『そうか』の一言。しかし子供は知らされると、泣きながらおっちゃんのもとへ走って行く」と体験を語った。

講演を聞いたある信徒は、「人間のあるべき姿を教えられた」と感想を語っていた。

久留米信愛女学院

念願の中学校創立

久留米信愛女学院中学校（ショファイユの幼きイエズス会経営）の開校記念式典が五月十日、同学園講堂で行われた。中学校は、四月二日にマリア像と建物が祝別（写真）され七十九名の生徒でスタートしていた。すでに幼稚園、高等学校、短期大学を有しており、これで念願の中・高一貫教育が実現した。

みことばの祭儀で始まった式典で平田司教は「これからは人と自然を大切にする人間教育が重視されなければならない」「共感する心を養うことこそカトリック校の使命である」と話したあと、列席者を祝福した。

地元市長の谷口久氏は「文教都市づくり、地域教育の振興を目指す市の方針と信愛中学の創設は合致しており、大いに期待しています」と祝辞を述べた。

また、Sr黒木俊子中学校長は「私学の特性を活かし、生徒一人ひとりを大切にし、精神的に立派に成長するよう職員一同一致協力してあたりたい」と決意を述べた。

最後に生徒代表の武藤里美さんが「信愛幼稚園をでて今また信愛中学にもどってこれたことは大きな喜びです」と感謝の気持を表わしたあと、「これから信愛の伝統を自分たちの手でつくっていきたい」と力強く語った。

中学の建物を祝福する平田敬師

伊万里幼稚園で

新園舎の落成式

佐賀県伊万里カトリック教会付属カトリック幼稚園（園長・ガッザルディ神父）の新園舎が五月四日に完成、落成式を行った。これは道路拡張による園舎移動を余儀なくされたため、この機会に新しく建てなおしたものである。

新園舎は旧園舎にもまして明るい雰囲気をもち、運動場も広くなり、園児たちにとってたいへん嬉しい贈り物になった。

新園舎完成を機に、園長ガッザルディ神父をはじめ職員一同一丸となって、特に心の教育を大切に子供たち一人一人を豊かに伸ばしていこうと燃えている。

マリッジ・エンカウンター

夫婦の新たな出会い

互いの心を理解する

夫婦が互いに理解し合い、関わりを深めるための練成会『マリッジ・エンカウンター』が四月二十八日から三十日まで福岡黙想の家で開催された。十一カップルが参加。

互いに「相手のことは分かっていたつもりでしたが、本当によく分かり合えて、嬉しかった」と参加者は喜びを語っていた。

クルシリヨで使徒職に燃えた参加者

信徒の生涯養成講座として見直されている福岡教区クルシリヨ（指導司祭渡辺隆義師）が練成長の松尾光敏氏のもとにこのほど二十九回目の練成会を終えた。

今年も五月二日の夕方から五日までの三泊四日、福岡、北九州、佐賀地区の信徒に大神学生を加えた二十三名の参加者がスタッフと一緒に使徒職について研修した。

教区の信徒や修道者らの祈りに支えられて練成を終えた参加者は、いずれも感激の面持ちで、「小教区に帰ってからは新たな気持で福音宣教に励みたい」と語っていた。今後の活躍が期待される。

深堀敏司教の母堂

92歳で帰天

深堀敏高松司教（前福岡教区司祭）の母堂エリザベット深堀ミカさんが五月十八日、北九州市八幡西区の自宅で帰天。享年九二歳。葬儀は二十日、黒崎教会で深堀敏司教、平田三郎司教他二十七名の司祭の共同司式で行われた。

平田司教は「行いの模範によって九人の子供に信仰を育まれた」と生前を偲んだ。

シリーズ ここが聞きたい

弱視者の見え方を、具体的に教えて下さい。

写本大拡づくり②

視力が弱いだけでなく

弱視の人たちの見え方は百人いれば百の見え方があるといいます。次の文章は、ご自身が弱者であられる盲学校教師から寄せられた二つの事例です。

遠足に行った時のことです。川や堤のあちこちに可憐な花が咲いていた。花を見た弱視の生徒の一人が「この辺にはずいぶんゴミが散らかっている」と言うのです。「ゴミでなくて、花が咲いているんだよ」と答えると「ああ、やっぱりそうですか」と言う。この生徒は、以前に道端のゴミを指して「あれ、何の花？」と聞いて笑われた事があって、それ以来、恥ずかしいからゴミかと、思っていればいいと考えるようになったと言うのです。

また、別の日にはこんな事があった。級友が教室の窓から外に向って、何か楽しそうに話をしている。自分も仲間に入ろうとした弱視の生徒が、大急ぎで隣の窓に走りよって外を覗いた。ところが、隣の窓が閉っていた為に、額でガラスを割ってしまった。生徒は「あいているものと思った」と言う。

弱視のメガネは、汚れている事が多いのです。汚れたメガネをかけていたら見えにくいと言うのは、近視や乱視の人がメガネをかけたら普通に見えるようになる目の場合です。弱視にとっては多少の汚れは見え方にそれほど影響しないのです。それと同じで多少汚れている窓でも、開いていると錯覚して顔を出したのです。弱視者の悲しい現実です。

弱視の人の多くは、弱い視力だけでなく、様々な視野の欠損や、狭窄などの障害を併せ持っているのが普通なのです。だから一人一人の見え方が違うのです。その違いを受け入れ、こだわりつつ歩んで行く時、子供達の良きサマリヤ人にならせて、いただけるのではないでしょうか。ハレルヤ！

回答者　三沢マサ子（福岡はなびら会代表）

藤房神父のこぼれ話

秘跡と奇跡

天草から福岡市内の教会にやって来たころのことです。緊急の時には、司祭も子供に洗礼と一緒に堅信の秘跡を授けてよいとの許しがでたころのことです。

ある日のこと、一歳ぐらいの子供が急病で病院に運ばれました。ビニール張りの箱に入れられて酸素吸入をしている子供の容態はお医者さんからも「とても助かりませんよ」と言われて見放されるほどでした。

金松神父様（現在大分教区）と私は、先生に許可を願って、その子にまず洗礼をそれから終油の秘跡（病者の塗油の秘跡）を授けました。

そのときです。その子の母親が「動いた」と叫びました。最初は私を含めて他の人には分かりませんでしたが、二度目に母親が「動いた」と叫んだときはっきり動くのを見ました。やがて、唇が赤くなり、体が動き始めたのでした。先生はこれをみて「奇跡ですよ」とおっしゃいました。みんな感動してしまいました。

病者の塗油の秘跡だけでなく、どんな秘跡でも目に見える恵みは少ないかもしれませんが、受ける人にはいつも恵みが与えられるのです。告白（ゆるし）の秘跡も本当はとてもしにくいことかもしれませんが、みすみす大きなお恵みのチャンスを逃さないようにしたいものです。

子供の病気が秘跡の恵みによってなおったように、告白の秘跡によって私たちの心の病気もなおされるのです。

BOOK 読みま専科

☆この目で見た東欧

岩城　宏之
磯村　尚徳　著

岩城―今度の壁の崩壊をまったく驚かないで、ついに来るべきものが来たという感じで受け止めたのですが、日本の新聞なんか見ると「突然」みたいなばか騒ぎをしているんですね。ぼくはヨーロッパから二週間ぐらい前に帰って来たばかりなんですけれども……。

磯村―……すでに何年前から〝と言ったら正確かな。だいたい二十年ぐらい前からこの下地みたいなものができていて、少なくとも知識人にとっては今回の出来事は決してびっくりするような突然変異ではない。――本文より――

取材仲間、音楽仲間を通じて、すでに崩壊の兆しを感じていた二人が、ニュースに出来なかったヨーロッパを初めて語っている。

J・タイムス　一三〇〇円

☆花をたてまつる

石牟礼　道子　著

水俣病患者の救済の為に、闘争の先頭に立ち、同闘争の精神的支柱の一人として生きてきた人の現実をみる目は厳しいが、苦しむ人たちの描写や人への思いの深さがひとつひとつの言葉にあふれていて、心をなごませてくれる。

葦書房　一五六〇円

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092―711―0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石材素材 石 石 他 理 影 の 大 御 そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

六月の行事

※ゴチックは司教日程

3日　聖霊降臨の主日
　　水巻教会堅信式
5日　ムジゲの会
　　司祭評議会（司教館）午前10時30分
7～8日　福岡地区婦人会天草巡礼
　　聖書委員会
9日　三位一体の主日
10日　『カトリック・フェスティバル』のための特別献金日
　　佐賀教会堅信式
　　カトリック・フェスティバル企画運営委員会（司教館）午後2時
12日　**福岡地区司祭の集まり　午前10時30分**
17日　キリスト聖体の主日
　　司牧評議会常任委員会（司教館）午後2時
　　島崎教会聖体行列　午後2時
18～22日　**定例司教会議**
20日　カナの会（司教館）
24日　聖ペトロ使徒座への献金日
　　共に福音を生き、歩む講話会（カテドラル）午後2時
29日　**ペトロ平田三郎司教霊名のお祝い（司教館）**
30日　岡村裕博士といっしょに「キリスト者の家族計画のあり方」を分かち合う会（福岡黙想の家）午後2時
7月1日　カトリック・フェスティバル実行委員会（戸畑教会）午後2時
2日　**教区邦人司祭の集まり（司教館）午前10時30分**

福岡黙想の家

1～2日　大神学生黙想会
2～3日　宮崎カリタス修道女会
4～8日　大分・鹿児島・沖縄三教区合同司祭黙想
12～13日　小野田老人ホーム職員黙想会
14～15日　聖母訪問会黙想会
16～18日　聖母カテキスタ会
19～21日　モンテッソーリ研修会参加者
30日　カトリック医師会講演会

家族計画について分かち合う勉強会

産婦人科医師として、家族計画や受胎調節の切実な悩みに永年にわたって耳を傾けてこられた岡村裕先生（京都カトリック医師会）から「キリスト者の家族計画のあり方」をテーマにお話を聞き、問題を一緒に考えるための勉強会です。

この問題に関心のある方はどなたでも参加を歓迎いたします。

日時　6月30日（土）午後2時～5時
会場　福岡黙想家
参加費　千円（ただし医師会員は六千円）
主催　福岡教区信徒使徒職協議会・日本カトリック医師会福岡支部
申込み先　福岡黙想の家に直接お願いいたします
☎094-32-3222

福岡地区信徒協主催

福音宣教夏季研修会

信徒が自分の使徒職の使命と喜びを発見する研修会です！

テーマ　①キリスト者であること
　　―隣人、世界との関わりの中で―
　　②福音宣教の実践
講師　島本要長崎大司教（信徒使徒職委員会委員長、ナイス推進委員会委員長）
日時　7月21日（土）午後2時から
　　22日（日）午後4時まで
対象　一般信徒、修道者、司祭、司教
会場　福岡黙想の家

※詳細は各小教区宛お知らせいたします。

共に福音を生き、歩む講話会

講師＝発題者　畠基幸神父（福岡黙想の家）
会場＝福岡カテドラル・センター

1回　6月24日（日）午後2時～4時
　　『福音宣教の精神を考える』
2回　7月15日（日）午後2時～4時
　　『信徒の霊性を考える』
3回　9月30日（日）午後2時～4時
　　『小教区を考える』
4回　10月28日（日）午後2時～4時
　　『福音の視点から政教分離を考える』

主催：福岡地区信徒協・福音宣教推進部会
連絡先：青柳行信
☎ 092-621-6211
お誘い合わせの上、多数ご参加下さい

ポーかげ

動物たちの宣教

徳山　登

自分の召命の動機について、一人の修道女が打ち明けてくれました。どうにか高校を卒業して、就職したものの、忍耐して仕事に打ちこむことができません。わがままで、生きる喜びを感じられず、自己嫌悪に落ちこんでいました。自分の将来に絶望してしまいました。家を出て、海の方へ足を運び、海岸の岩に腰を下ろし、果てしない、広い海を眺めながら、自殺を考えていました。

ところが突然小犬の鳴き声が聞こえ、彼女の足もとで、救いを求めていました。思わず、彼女は小犬を抱き上げ、優しくなでてあげると、小犬はしあわせそうにやすらいでいました。一時、自分の悩みは忘れたように、《このかわいそうな小犬を見捨てる事はできない。ミルクでも飲ませなくちゃ！》もう帰るまい、と決めた家に小犬を抱いて、帰ったのです。このことからこのお嬢さんは復活したのです。《私はこの小犬のようだ。小犬は拾ってくれた私に出会った。だから、私をも拾ってくださる誰かがいらっしゃるはずです》。この時ふと神様のことが浮かんできました。このわいお方ではなく、弱い人間を味方し、生き生きさせてくださる慈悲深い神様がきっといらっしゃるのだという確信を持ったのです。

さっそくカトリック教会を尋ね、受洗の恵みを得ました。小さな一人ひとりへのキリストの愛に心を打たれ、生涯をキリストに捧げる決心を立てました。これはまったく小犬の縁によるものです。

「私は暴走族に入って彼らと共に行動していたので、現代の若者たちの気持がよくわかります。だから、暴走する若者を代表して修道生活を選びました。人に疎まれるこれらの若者も、キリスト様から深く愛されていることを証しするためです」。

旧約聖書の中でも動物が登場し役割を果たしています。民数記（22章1～35）の中にロバの話が出ています。モアブという国の王が、自分の国に侵入してきたイスラエル民族に対して、たいへん立腹し、バラムという予言者の力を借りて、イスラエルの上に災いがかかるような呪いの祈りを頼みました。予言者は王の怒りを恐れて、王とともに立ちふさがりました。主のみ使いを見たロバはバラムを乗せたままその場にうずくまってしまいました。バラムはロバを打ちました。すると、み使いは予言者に向って「このロバがあなたを救った。このロバがいなかったらあなたは死んだはずです」と。楽しい話ではありませんか。

救い主キリストは家畜小屋に生まれ、飼い葉桶に寝かされました。赤子のキリスト様を拝みにきた羊飼いたちは羊を伴っていたでしょう。

動物はまたキリスト様の例え話の中にもよく登場します。迷える羊（ルカ16章4～7）かわいそうなラザロのおできをなめにきた親切な犬。それから、天の父に対する信頼をよく悟らせるためにイエズスは空の鳥を手本として示されました。ペトロの痛悔の念を起こさせるために主は鶏に大役をもたされました。

しかし、最近の流行の動物の病院や美容院の繁盛や、ついに動物霊園が売り出されるのには苦言を呈したくなるのですが……。人を愛することがきつくなって動物をかわいがることに逃げているのではないかと気になります。

「ロシヤの巡礼者の日記」の中に次のように書かれていました。「私が祈る時、周囲のすべてが美しく見えた。小鳥　空気　土　光り　それらのものが私に向って語ります。〈私たちが生きているのは人を喜ばせるため、また人間に対する神のいつくしみを現すためです〉と。その時私は動物や植物が身内のように感じられた」。

私たちを取り巻く大自然は、永遠の生命に私たちを導く生き生きとした教科書です。キリスト者も福音宣教に携わるにおいて、自然の摂理の素晴らしさを観想することを忘れないように。

（パリ外国宣教会八王寺教会）

研究会

テーマ　「私の生きる道は・・・」
　　結婚生活・独身生活・修道生活
とき　8月10日（金）午後3時集合
　　8月12日（日）昼食後解散
ところ　コンベンツァル聖フランシスコ会湯布院修道院（大分県）
指導　御聖体の宣教クララ会修道女
対象　未婚の女性信徒
費用　10,000円
締め切り　8月5日（日）
申し込み・問い合わせ先
〒840-02　佐賀県佐賀郡大和町川上31-2
　　御聖体の宣教クララ会
☎ 0952-62-3434

ともに歌おう

典礼歌と祈りの集い

7月15日午後2時より

神の民の祈りとして数千年にわたって唱えつづけられた『詩編』を黙想し、歌い方を練習してみんなでいっしょに歌ってみませんか。

7月15日（日）午後2時から福岡黙想の家（宗像）で行います。

参加費は千円。典礼聖歌集をご持参ください。

お問い合わせは黙想の家まで。お☎は0940-32-3222です

六月命日の司祭

＊ドミニコ深堀仙右衛門司教一九八五年六月二十一日第三代福岡教区長
＊平田好師一九三八年六月二十一日元門司港教会主任

編集室から

▽5月号のいくつかの記事について、たくさんの方からご感想をいただきました。だいぶ前に、内容についてのご意見を、と書いたことがありますが、改めて内容の充実の必要を感じました。賛否両論いろんな意見の一つひとつの中に真実が隠されているような気がします。

▽久しぶりに若い司祭と若いと思っている司祭合同の集まりをしました。そこで一人の仲間が「年月を重ねるごとに、金銭感覚が麻痺してくるのが分かる」というようなことを言われたが、反省とともにこのような健全な心の仲間を持っていることを嬉しく思いました。

（W）

かのときのことのは

森山　敬三

いざさらばなみだくらべむ郭公（ほととぎす）
われもうき世にねをのみぞなく

平家物語

この物語の最後、灌頂（かんじょう）の巻は「大原御幸（ごこう）」で有名である。建礼門院は、かの平清盛の娘、高倉天皇の中宮で、生み奉った安徳天皇が八歳のとき、天皇とともに入水。助けられていまは、大原の寂光院で、二人の天皇を弔うため尼になっている。御幸は白河上皇で、高倉天皇の父、安徳天皇の祖父。しかも安徳天皇を死に至らしめたのは、上皇が源氏に平家追討を命じたため。上掲のは、その際の建礼門院の歌。積もる怨があったであろうが、いまはすべてを赦して、寂光のなかにつつまれている。清盛の罪を娘が償う結構か。かくも勇ましくしてやさしく、美しくてかなしい物語。世界の戦記文学のなかで敗北者にたいして、か程までにあたたかい共感をもって語られたものが、果して一冊でもあったろうか。

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
☎ 092-552-8195　Ⓕ 092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱ メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI **藤木工務店**
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

カトリック福岡教区報

平田司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—522—5138
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

広報の日

Sr.白井を迎えて広報研修会
あなたが神のメディア

「世界広報の日」の五月二十日を中心に聖パウロ会（小笹）、福岡カテドラル・センター（聖パウロ女子修道会）を講師に広報研修会が開かれた。

五月二十七日のカテドラル・センターでの研修会は、大名町教会主催、教区広報委員会の協賛で「テレビ文化と福音宣教」がテーマ。のべ百四十名が参加した。

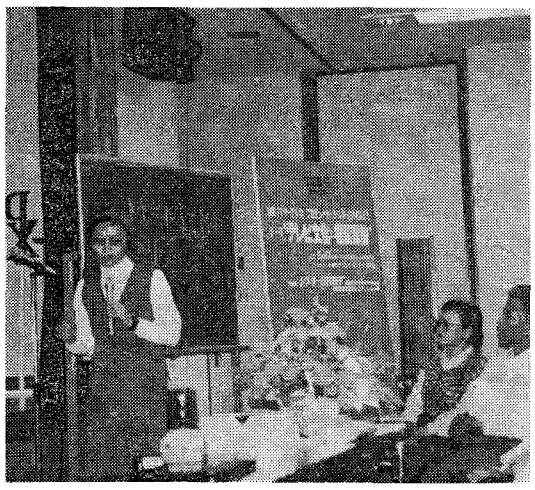
Sr.白井は、映画「マザー・テレサ」等をプロデュースするなど視聴覚による宣教で世界的に活躍中（写真下）。

講師は、現代の家庭が必需品、当然の備品としているテレビ、ビデオを宣教の道具として位置づけ、一人ひとりが神のメディア（仲介するもの）になれると気づかせた。

中でも、映画「マザー・テレサ」が完成し、感謝を込めてテープの贈呈を申し出たところ「わたしが本物のマザーテレサです」と言われて考えさせられたと語り、「現代の宣教者は本物であることが薄れて来ていないか」「その人が本物の神の宣教者であるためには、自分自身がメディアでなければならない」などと話した。

また、近く完成予定の救ライ事業の聖者「ダミアン神父」のビデオを見ながら参加者がメッセージを考えたり、グループに分かれて協力して読んだ「みことば」をジェスチャーで他のグループに伝える体験学習も行なった。

Sr.白井は「自分の目で見、手でふれ、聞いたことすなわち体験を伝えること。自分がメディアそのものになることが大切で、本当はそれが一番簡単な宣教の方法です」としめくくった。



「今は本物の宣教者（メディア）であることが求められている」と語る講師のSr.白井

カテドラル

今月のみことば

キリストこそわたしのうちに生きておられる

（ガラ2・20）

イエズス会　草野純英神父

新興宗教に走る若者たち

人格破壊の悲劇多発

塩谷師（イエズス会）が指摘

塩谷恵策師

新・新新宗教に走る若者について考える勉強会が五月二十日、明光学園（大牟田市）で開催された。この集いは福岡教区「カトリック教職員の集い」（担当草野純英師）が行ったもので公・私立学校の教師ら二十三名が参加した。

今回は、塩谷恵策神父（泰星学園、イエズス会）が「若者の心をとらえる宗教思想」と題して講話。具体例をひきながら、現代の若者たちを引き込む悪質な宗教の手口などを紹介した。主な内容は以下の通り。

勧誘されるのは、多くは有能と見られる若者で、それぞれ女性には男性が、男性には女性が誘いかけ、一人暮しの学生がターゲットにされる。電話などを使って言葉巧みに相手の心を動かし、誕生日などには手紙を出し、心にスキが出来る機会を伺っている。街頭などで偽りのアンケート調査を行い、巧妙に住所、電話番号、名前を聞き出した後には、ノイローゼになるくらいしつこくつきまとってくる。そして一度自分たちの方へ引き込んだならば、部屋に閉じ込め、飢餓状態にし、体力が著しく弱ったところで一対一の洗脳が始まる。こうして多くの若者たちの人格が破壊されている。

このような宗教思想は、常軌を逸したものであり、それを広めるやり方も、手段を選ばない非人道的なものと言っても過言ではない。

こういう悪質極まりない宗教思想にだまされない若者を養成するためには、若者たちがしっかりと自分の立場を鮮明に持つことが出来るよう助ける、教師をも含めた我々大人、特にカトリック者の責任が大である。

次回は十月二十八日、双葉学園で引き続き「現代の宗教思想」について話し合う。

カト・フェス

キャッチフレーズ決まる

“心で握手”
ふれあったらGOOD!!

今秋十一月十一日（日）に北九州市にある戸畑明治学園で開催される教区行事「カトリック・フェスティバル」のための第五回企画運営委員会は六月十日、司教館で委員十九名が出席して行われ、キャッチフレーズを決定するなど具体的な動きが始まった。

①去る五月十三日に戸畑教会で行われたフェスティバル実行委員会と五月二十七日に司教館で行われた教区信徒協での話し合いの内容を実行委員長の小笠原勝巳氏が報告。

小教区での取組み状況では、信徒の間では関心も除々に高まっている。

②懸案となっていたキャッチフレーズは、前回に教区の青年たちのアイデアを求めてその中から決定するとしていたが、各ブロックの青年委員会で厳選された四つの候補の中から「心で握手—ふれあったらグッド！—」を賛成多数で選定した。

この標語は一般向けポスターにも使用される。

③ミサの会場については、現在の参加予定者が二千名を上回っており、会場として運動場を使用することになった。

なお雨天時には、講堂と体育館の二カ所でミサが捧げられることになる。

④「子供の広場」は青年たちの手で設けられるが、体育館を主会場にゲームコーナーなど子供向けに多彩な催しが計画されている。

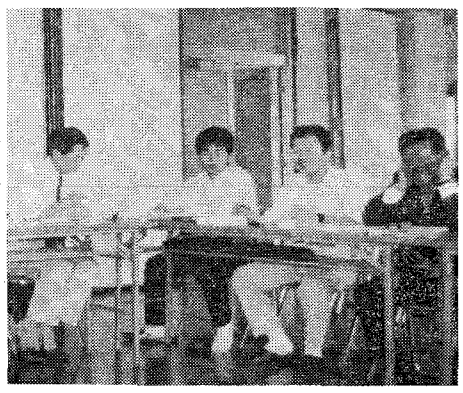
⑤「カトリック・フェスティバル」のための祈りが平田司教の認可を得て、本紙の六月号に掲載されているが、広報委員会で各小教区に必要な枚数を印刷して送付することになっている。

⑥新谷のり子音楽コンサートは午後から講堂で行われるが、市民運動家としても活躍している新谷さんは、フェスティバルへの出演を楽しみにしている。

⑦フェスティバルの資金づくりをかねるテレフォンカードが近く発売される。デザインは教区内の教会堂や聖母マリアの絵など五種類が考えられている。値段は50度数で千円の予定。

②十一月十一日に予定されている「カトリック・フェスティバル」の準備状況について企画運営委員長の渡辺隆義師（司教館）が説明。財源確保のための特別献金、テレフォンカード販売への協力願いがあった。記念のテレフォンカードは約五千枚を発行する予定で、教区信徒協を通じて販売される。

またとくに司祭団に対して、信徒、修道者が一致して取り組み準備している「フェスティバル」当日には多くの信徒が集えるように小教区行事の自粛や信徒への配慮、支援が求められた。



青年の意見を述べる代表たち

時の話題

新富康央

感謝する心
——日本の子供は天国？——

青い目のPTA会長として話題になった同志社大学ドイツ文学のシュペネマン先生は、日本の家庭教育について、次のように述べている。

はじめは子供にとって日本は天国と思った。街では衣服、お菓子、おもちゃなど子供用品であふれている。世界的にも例を見ない。だが、しばらくすると実は地獄ではないかと思うようになった。日本の子供が小さい時覚えること。それは、頂戴と手を出せばその上には、必ず欲しいものが乗せてもらえるということです。でも、成長するにつれて、いくら手を出しても容易には乗せてもらえなくなる。学校の成績、友人、恋人、就職など、努力して獲得しなければ手に入らないものは多い。手を出せばもらえることに慣れた子供にとって、それはなんとつらいことか。ただ下満をつのらせるばかりになる。その結果、日本の子供は暴走行為、万引き、学校でのつっぱりで、ストレスを解消する他はないのだろう、という。

三年前、重度障害者のMさんのことを知った。自分では寝返りひとつできない五十七歳のMさんは、こんな身体に感謝するという。

理由は、こんな身体のおかげで、五十七年間、毎日他人から受ける愛を感じ、感謝しながら生きることができたこと。もう一つは、こんな身体だから、不幸だと思っている人々に生きる勇気を与えることができる、ということ。Mさんは三十七歳の時、社会に奉仕したいと、声のライブラリーのボランティアを思いつきました。彼に残された左手三本の指の機能でできるものを考えた末、カセットテープの操作に気づいたのです。身体をふりしぼっての発声練習では、夏など一時間もすれば、汗が水をかぶったようにしたたり落ちたそうです。こんな身体でも社会の役に立てる。だからこそ、悩める人、弱っている人に希望を与えることができるという。Mさんの日々は、まさに「ありがとう、神様、ありがとう」の心なのです。

傲慢から私達を解放してくれるのは、感謝する心ではないか。物質的な豊かさは、さらなる渇きを教えるばかりです。他方、神様が教える感謝の心は、涸れることのない心の潤いを与える。

（佐賀大学助教授　佐賀教会）

司祭評議会

志摩町に教会建設開始にゴーサイン

教区司祭評議会は五月十五日に開催され、平田司教をはじめ評議員十一名が出席して福岡県糸島郡志摩町に建設予定の分教会のマスタープラン、教区行事「カトリック・フェスティバルの準備状況などが話し合われた。

①以前から、福岡市と唐津市の間に宣教の拠点づくりが期待されていたが、志摩町は将来のリゾート化計画の予定もあって、人口の増加も望める。広大な敷地には、将来なんらかの付帯事業のスペースもある。

信徒会館兼聖堂（約六十坪）を信徒たちが、司祭館（約四十坪）は教区が、それぞれ建設資金を分担することになっている。

地元前原地区の信徒たちは母教会となる西新教会（主任山川辰幸師）の積極的な支援を受けて、地域社会との交流もはかりながら、将来は本格的な教会堂建設を、と大いに張り切っている。

渡辺隆義神父（企画運営委員長）の話

フェスティバルへの理解が深まっていることを嬉しく思います。北九州地区の皆さんのご尽力に感謝で一杯です。

若手の司祭たちが教区の将来を語る

福岡教区の次代をになう若い司祭竹森勇師（老司教会）ら十人が先頃一泊で二日市温泉に集まり、親睦と分かち合いのひと時をもった。

二年ぶりの今回の会合では、司祭の給料制の問題やこれからの教区のあるべき姿など率直な意見を交換した。

卒業時にもっていた共通の理想も時を経るにつれて現実的なものに変わり、意見の相違もみられたが、福音的司祭のあり方を各自が見直すために有益な集いとなった。

参加者は継続的対話の必要性を確認して散会した。

みちくさ

『聖書の女性観』をテーマに講座をもてたので、いくつかの本をじっくり読んだ。特に女性学者たちが書いたものには啓発された。視点を変えると見えていなかった部分が見えてくる。また変な言い方だが「彼女たちがこれほど聖書について研究しているのに私は……」という競争心のようなものも出てきた▼聖書をもとに男女の平等性を強調すればするほど、現実の教会共同体の中で、女性たちがおかれている状況に戸惑う。信徒の半数以上を占める女性たちの地位や委ねられている役割の中味を点検してみると、結局は一般社会における女性の立場を反映しているのが分かる▼「集会の時に女性は沈黙を、かぶりものを」と言うパウロの真意を汲み取れず、女性に対する社会の常識を無意識のうちに聖書で正当化していたのではないだろうか。これまで、聖書が主に男性によってしかも聖職者によってよく読まれ、語られてきたことには、それなりの深みと豊さがあった。だが聖書の世界は男性の視点からだけではとらえることのできないほど奥深いような気がする▼差別されている女性の解放とか肩をいからせるつもりはないが、どうして男性はかくも支配欲が強いのか、人間はどうしてかくも自己中心なのか。聖書の学びの中でもっと女性のセンスが活かされるとき、素直に女性の声に耳をかたむける男性が増えるとき、教会はより福音的になるのだろう▼これからの神学校に求められることも、賢明に女性を避ける教育ではなく、賢明に女性たちと協働できる司祭を育てることではないだろうか。「女性たちをうまく治めることのできる司祭は、その小教区をよく治めることができる」と先輩が言っていた。「キリストにおいて男と女の別はない」（ガラテア3・27～28）という言葉が教会の中でどのように具体化されるのか、興味は尽きない。

特集レポート　日韓カトリック青年交流会

隣国の青年たちに感銘

教区青年委員会主催による「日韓カトリック青年交流会」が五月三日から六日まで韓国の釜山で行われ、二十名の青年と四名の司祭が参加。ホームステイや対話集会、さらには、ハンセン病の人たちの施設での奉仕作業などを体験した。

青年たちは、帰国後早速レポートを作成。編集部では、有意義な体験学習であったことを知らせるレポートの一部を抜粋、要約して、読者の皆さまに青年たちが現地で肌にふれた体験を紹介させていただくことにした。（編集部）

ハンセン病の人たちとバラ植えで汗をかく

観光旅行のつもりがそんなの超える体験

須佐　義則

僕が、この交流会に参加しようと思ったのは、その交流会が目的というよりも、ただ韓国へ旅行に行けるということだけだった。しかし実際に行ってみると、まさに交流会そのものだった。

釜山の空は、雲がもんもんとたちこめている。出迎えの人がきて、御対面となったわけだが、その時は、正直のところ、それほどの感激はなかった。バスに乗ると、申マリアさんが前に立ち、「この雨は恵みの雨です。天も皆さんを歓迎しているのでしょう」と言った。バスの窓から外を眺めていると、ハングル文字の山・山・山……。あらためて、韓国に来たんだなぁ、と思った。

その日の夜、青年会のみんなが歓迎の宴をひらいてくれた。みんなとても明るく、元気だった。迫力があった。二日目の夜は、釜山と日本の青年会とで、話し合いがもたれた。しかし、この時ほど、言葉の壁の厚さを思い知らされた事はない。二回目の宴会の時は、まるで『ベルリンの壁』のように、言葉の壁などは吹き飛んでしまって楽しいものとなった。

三日目はハンセン病の人たちの施設を訪問。みんなでバラの苗木を植えた。やはり、土と緑にふれると、人間は優しくなれる。

その後、大衆食堂で、ビビンバを食べたが、韓国の食文化は、物をかき混ぜて食べる文化らしい。

この旅で何が一番心に残ったかというと、それはやはり、釜山のみんなの『心』だった。韓国の、どの観光地が良かったかあるいはつまらなかったかなどという、観光旅行では絶対に味わえないものだった。

団長の青木悟師

あれからもう二か月がたとうとしている。だんだんと、韓国での『思い』は、日常の生活の中に埋没していくが、少しでも、自分の行い、祈りの中に、変化を見い出されたらと思う今日この頃だ。

（笹丘教会）

私達日本人は本当に信心深いのだろうか

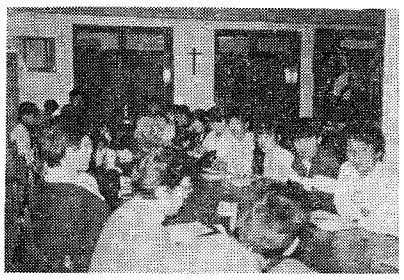
角倉　弘子

いろいろなことを体験した中で、今も考えていることがあります。韓国の神父様がお話の中で、「日本の青年は韓国の青年に比べて信心深い」とおっしゃったことです。私は思わずそんなことはないと思ってしまいました。しかし、日韓を往来していらっしゃる申マリアさんが、「日本には歴史がある。だから韓国に比べて根にあるものがしっかりしているから大丈夫」とおっしゃったのです。

私はその時、何時何処で聞いたのかは忘れましたが、「歴史の上にあぐらをかいている」という言葉を思い出したのです。今までこの言葉を身にしみて感じたことはなかったのですが、『信心深い』理由がここにあるなら、少なくとも私は、あぐらをかいているのではないかと思いました。昔の人々のように生きなければならないとか、そのようなことではなく、私自身がもっと素直な心で日常生活のあらゆる事を受け入れていく姿勢が大切だと思いました。

韓国の信者さんは熱心だから……と聞いていましたが、祈ることが生活に密着していると思いました。

（二日市教会）



対話で理解深め合う

歴史を知ることから始まる隣国との友情

田代　浩子

韓国、私にとってこの国は学校の授業でほんの少し学んだ程度で大した知識もなく今まで過ごしてきたし、また知らなくともさほど日常生活の上で困ることはありませんでした。ただ時々のニュースで取り上げられる指紋押捺や教科書問題の姿なのだと思っていたのです。

カトリックセンター内で働くシンシアさんの部屋へ案内されました。彼女は長くセンターで仕事をされており、何度か日本へも来られた経験もあるとかで日本にも詳しい熱心なクリスチャンです。彼女の「韓国は今、カトリック人口が勢いよく増え続けています。私たちはこの恵まれた国の中でキリスト者としてどう生きてゆくか深く考えています。一人ひとりが何が大切なのかを考え行動してキリストの教えを守っていかねばならないのです。そのためには隣国の日本ともガッチリと協力し合っていくべきです。私はそれを願わずにはいられません」という私たち特に日本青年にとって意味ある深い言葉に強く心ひかれました。

また「これからは韓国教育の中でいつまでも日本に対する反日感情を教えるのは問題です。もっと日本に対して発展的な見方を教育すべきではないか」との質問をした時、「イギリス、フランス、ドイツも第一次世界大戦、第二次世界大戦で敵として戦ってきた歴史がある。しかし今、それらの国々はお互い助け合って一致協力している。なぜそれができるのか。それは、過去の事実を知っているからこそだと思う」とコメントされました。相手の事を知ることから相手に対する理解が深まり相手を思いやる気持ちが生まれて、そして愛する。この青年交流会の意図もそこにあるのではないかと思いました。

昨日まで韓国の事など何も知らなかった私にとって、彼らとのふれ合いはこれからのつき合いに非常に大きな前提となりました。

日本人は韓国の歴史をどう見ているのかをハッキリさせないで、若い人たちも戦争の事を正確に知らされておらず、あまりにあやふやな教育で育てられている。だから若い人たちは体験学習や観光で韓国に行き、親戚が日本軍に殺されたとか強姦されたという話を実際に聞かされて、はじめて日本人であるというのはどんなことなのか考えさせられるのです。その国へ出かけて行き、その国の人の眼から日本を見つめ直す。自分を客観視できたことは運が良かったと思います。

（手取教会）

人々の心にまだ残る戦争の傷あとに驚く

姪原　江利子

今回の旅行は、いろんな意味で、いろんな事を考えさせられた旅行でした。日韓合併時代の傷跡の深さ……。また彼ら朝鮮人の日本人に対する怨恨の深さ……。

日本人のエゴイズム、偽善…。何よりも痛切に感じたのは、信仰そのものに対する青年たちの価値観の違い……。

「ここ（釜山）には、奉仕（社会）活動に喜びを見い出せる人々がいる。が、私の教会の青年会の中では、それはナンセンスとしかみられない……。信仰はファッションなのだろうか…それともカトリックというブランドでしかないのだろうか……。」

この日は、日韓合同黙想会の日でした。釜山教区青年指導司祭の神父様の話を聞いたり、また、主教（司教）様の話を聞いたり……。

友情を確め合う青年たち

なかでも、本当にいい体験をしたなと思ったのは、一時間の聖体礼拝でした。日本では、まず体験できないものだから、沈黙の祈りのうちに、御聖体にまします主キリストと対話する……。静かな喜びが心を満たす神体験……。あぁ、でも過度の疲労による睡魔には勝てず、ロザリオの祈りの途中で居眠りをしてしまいました……。「日本でも、聖体礼拝が行われたらいいのに……」。

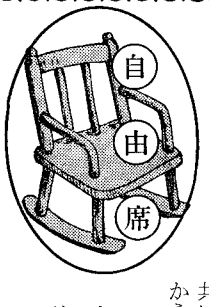
ここには、日本では既に失われてしまった教会の、信仰の良き伝統が受け継がれ生き続けている……そう、私は感じたのです。

ハンセン病の施設への道中で韓国式のお葬式の一群とすれちがいました。日本と違って派手な飾り、暗いというよりむしろ明るい雰囲気に、日本と違う『死』のとらえかたに、しばし、『生と死』について考える私でした。

施設での作業の後、手を洗おうとして、ホースで水をくんでいる施設の人に声をかけたら、いきなり、水をかけられました。私は、「あっ！」と思いました。夕べ、ステファノが言った言葉「あなたたち（日本人）は感情が単純です。しかし、私たちは感情は大変複雑です。」が脳裏によみがえったのです。過去に私たち日本人が、韓国の人々にしたことを思えば、彼らの日本人に対する感情がどんなものか……！

私は、水をかけたその人に対して、怒るよりもむしろ、悲しみを覚えました。「私たち日本人を許して下さい」。

（大名町教会）



天草の自然と信仰に神の恵みを満喫する

中間　涼

み心の月六月七、八日に行われた福岡地区婦人会の天草巡礼は毎年の巡礼を楽しみにしておられる常連の方も多く初参加という顧問の堤要吉神父様を含め四十一名の、祈りと心の若さではち切れそうな旅でした。

入梅とは言え好天気に恵まれ天草四郎公園、殉教公園、千人塚、キリシタン館などを巡りました。杖をつき足腰をいたわりながら長い山路の階段を登る方々もおられ、詩情あふれる天草の土に眠る多くの殉教者の往時を偲びました。中でもサンタマリア館の、聖水鉢に十字影をうつし祈りを唱えていた隠れキリシタンの貴重な信仰の証を目の当たりにし、永遠に変わらぬものを求めるその生き様に信仰の模範を見い出します。

北原白秋の明治四十年に旅した際の「はやも聴け、鐘なりぬ、わが子らよ。御堂にはは夕の歌きこえ、蠟の灯ともるらし……」という天草賛歌がとても新鮮に感じられ、純粋な信仰の火種が俗化されずこの地に永々と培われ、ともされているのを確認した思いがします。

二日目は九時に大江教会でミサ。祭壇正面の『お告げ』の聖画の柔らかい色調が美しく、「われになれかし」という聖母のお言葉が心に染み入るようでした。

次いでゴチック建築の崎津教会を訪問しましたが、人々の信仰生活が教会と融合しているのを肌で感じたものです。

共に歩き、祈り、歌い…神の恵みを心にあふれる程感じます。この大きな心の平安、喜びの源泉もいつも共にいて下さる主キリストからのものであることも。

（老司教会）

広報活動に即効を期待し過ぎていないか

仁田坂　喬一

私はまだ〝洗礼〟を受けていません。ただ今年二月以降、日曜日のミサへの参加と「カトリック要理」を学習しているだけの者です。大分県境の田舎で高校時代迄すごしましたので、教育もなく身近にキリスト教徒と接する機会もありませんでした。

キリスト教については、聖書とトマス・ア・ケンピスの「キリストにならいて」を読んだのですが、自分にはとてもこんなに厳しい生き方はできそうもないと思っていました。

さて、マスメディアを活用しての「福音宣教」についてですが、放送局を持つだけの組織と資金力がない日本の教会が、どのように広報活動をやればキリスト教をうまく伝達できるかという課題は難しい問題であり、正直言ってカトリック教会に入門したばかりの私にはわかりません。

ただ一つだけ私が思いますのは、家族の束縛、世のしがらみから解放されて独立した個性の確立をはかるために神と向かい合う〝信仰〟が必要ではないかということです。

キリスト教は各個人の内面に神殿を築くものであるといわれますが、信徒がより良い生き方、人格完成をめざして努力する課程において神と出会う。宣教とはそんな交流に人々を招くものではないでしょうか。

だから内面的な準備が整っていない人たちに向かって、どんなに呼びかけても効果は余り期待できないでしょう。少なくとも社会全体的に拝金主義的傾向が強く、精神的なものの価値が疎んじられている今の日本では、福音宣教の困難さはより大きいと思います。

（大名町教会）

祈りの日へどうぞ！

日　時　毎週火曜日　午前11時～午後3時30分

内　容　小さな講話、黙想、ロザリオ、ミサ、晩の祈りで終わります。

※ 簡単なお食事を用意します。前日までにお申込みください。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社

熊本市島崎4丁目2ノ68

電話　096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち

草苑（SOU-EN）

ご葬儀

木下株式会社

TEL.092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

佐賀地区

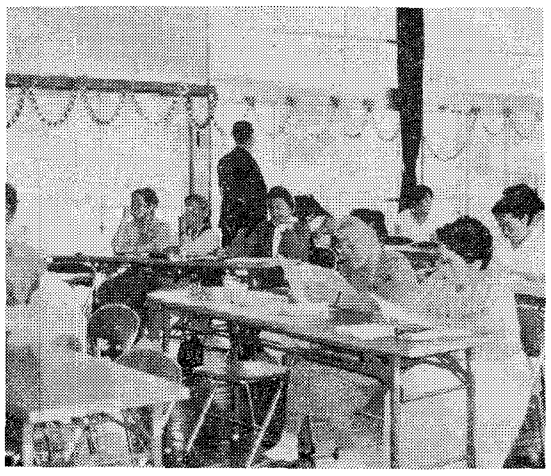
豊富なテーマと講師
「生命尊重」も取り上げる
「人生講座」着実な歩み

佐賀教会で行われている佐賀地区「カトリック人生講座」は、一九七八年に佐賀教会主任A・ディベロ師が行っていた「キリスト教教室」がアイデアの基とか…。

これまで「人生講座」「生きがい講座」「キリスト教文化講座」「カトリック人生講座」と発展してきた。佐賀地区教会信徒のたゆまぬ協力の中で年間二コース、一コース十一回ほどで、午前の部、午後の部で行われている。

六月七日（木）の「カトリック人生講座」は「中絶と生命の尊厳」というテーマで行われていた。

「生命尊厳をすすめる佐賀女性の会」から講師を招き佐賀教会主任のA・ディベロ師の司会で進められた。


生涯学習を実践する受講生

テーマの為か当日は女性ばかり四十名ほどの参加者だったが「年間、報告が出されたものだけでも百三十万件以上の中絶が行われています」といった講師の話に会場は静まりかえっていた。特に十代という若年層の中絶件数が急増している現状、また、ビデオ「生命尊重」から受精後八週目の胎児も、既に心臓が動いている、現行の優生保護法で許可されている二十二週の胎児は、既に手足を動かし指しゃぶりをしている様子が紹介されると受講者の驚きの声や溜息が聞かれた。

後半は、アレグリーニ師（佐賀教会助任）が同じテーマをカトリックの見地から講演「人は神さまに似たものとして創られたのですから、人の生命は神さまの生命と似たものです」と話した。

また、「生命の尊さを味わっていただきたい、生きていることは当たり前でない」と語った。

受講者からは＊テーマの取り上げ方が豊富で、いろいろなお話が聞けてとても楽しみです。＊講演の内容がよく理解できないままの時があるので参加者がディスカッションできるともう少し理解しやすいと思う。＊若い方たちの参加がほしい。もっと学んだ事を話し合う雰囲気がほしい、といった声があった。

今回の講座は七月十五日まで行われる。講師も「がんを語る会代表、住職や宮司、医学者」など多彩で、講座の成果が注目されている。

ことが聞きたい シリーズ
写本大拡大づくり③
読める本をつくる

拡大写本の作り手の心構えは、どのようなことが特に大切でしょうか？

「この本、字は見えるけど読めない……」。拡大写本を喜んで読み始めた弱視児の躊躇狼狽と大きな溜め息が伝わってくる感想文を手にして、はなびら会の在り方を反省しました。「これを読むのは弱視者だ」と分かっていながら、いつの間にか作り手の好みの書き方を読み手に押しつけていた事に気づきました。

弱視者の読みやすいものとは何か、を考える事に拡大写本の意味があります。弱視者が主役であるはなびら会が遵守すべき事……。

一つ、写本の文字は普段私たちが書いている文字とは別のものである、と考えて書くこと。そのためには自分の字の持つ良さをも否定しなければなりません。

書き方指導は、会が特に力を入れている大切なことです。読みづらい字に対しては修正を指示します。それは読み手を想定しての事であって、決してその人の能力を過小評価したのではありません。

二つ、本を読む事の基盤は、読みたいという気持ちです。読者の興味、関心、必要にどれだけ応えて行くかが、写本の利用、活用に結びつきます。会では、弱視学級や盲学校訪問、アンケートや電話などで、具体的な意見や要望を聞き出して行くことを大切にしています。

全てをご存知でありながらイエズスは、盲人に「何をして欲しいのか？」とお尋ねになりました（マルコ10章51）。人の立場と意志を大切になさるイエズスの聖心に倣いはなびら会も、弱視者の声をよく聞く作り手でありたいと思っています。

写本作りの支柱となっている二つの大切な事柄に、ただ字を書くのが得意、本を読むのが好きだけでは続けられないしんどさがある事を最後に付け加えておきます。

はなびら会員＝75名。賛助会員＝58名

回答者　石川昌子（福岡はなびら会）

福岡地区

婦人会の奉仕
教区を支える陰の力

通称「地区婦人会」の名で呼ばれている「カトリック福岡司教区福岡地区婦人会」（顧問堤要吉師）は、八年前に発足した。

以来この八年間、鬼木久美会長（高宮教会）を中心に様様な奉仕、運動、学習を協力して行ってきた。

司教座を抱える福岡地区にとって司会の存在は大きなものがある。

人手不足の「司祭の家」の清掃は毎月小教区持ち回りで行い、年に七・八回の司祭集会での「皿洗い」は司祭団の中でも名物になっている。

その他、教区行事となると細かい準備、受付とその働きは教区の女房役といえよう。

また、福岡県内の三カ所の老人ホームや末期医療を行っている病院への奉仕活動なども毎週欠かすことなく続けられている。

婦人信徒が小教区を越えて集まり、励まし合い、親睦を計りながら、お互いを向上させ、信仰を生きてきた努力は大きく評価されよう。

ところが最近、各小教区活動の活性化や共働き家庭の増加などもあって奉仕者の高齢化や人手不足の事態も生じてきている。

教皇ヨハネ・パウロ二世は「女性の尊厳と召命」という書簡の中で「神は人類を特に女性に委ねられた」と述べているが、祈りと謙遜、忍耐の聖人である聖モニカを保護者とする同会が、「神の救いの計画における女性固有の役割」を模索しながら、教区の支え手として活躍しつづけることを期待したい。

司祭の集まりで奉仕する婦人たち

教区信徒協役員会

家庭問題の解決に信徒の役割大きい
ライル師が要請

教区信徒使徒職協議会（会長小笠原勝巳氏）の役員会は五月二十七日、委員等十五名が出席して司教館新館会議室で行われた。

まず担当司祭の山田成章師が「司祭の召命の増加が求められているが、そのためには司祭職の魅力、素晴らしさをもっと家庭の中で話し合っていただきたい」と開会の挨拶を述べたあと審議に移った。

今回の会議には特にファミリーセンターのS・ライル師が出席。

ライル師は、昨年の「家庭の日アンケート」について協力への感謝を述べ、「今後のワークショップに活かしていきたい」「集計については福岡教区報の一、四、五月号で特集として取り上げられているので参考にしていただきたい」などと語った。

また家庭の問題についてカウンセリングできる信徒の養成が急務であると指摘。教区信徒協にこの面からの協力を要請した。

つづいて戸畑の明治学園で今秋開催予定の教区「カトリック・フェスティバル」への各地区の取組み状況が報告された。北九州地区で計画されているホームステイ受け入れに佐賀や熊本など遠方からの申し込みがあるなど、これを機に小教区の壁を越えた一層の交流が期待されている。

さらに各種委員会、活動団体などの出し物も二十教室を使って展示、紹介などが予定されている。

また、七月二十一日と二十二日の両日に、福岡黙想の家で開催される「福岡地区夏季研修会」の講師は長崎の教区長になったばかりの島本要大司教。同大司教はカトリック中央協議会の信徒使徒職委員会委員長、ナイス推進委員会委員長の要職にある。定員は六十名。

藤房神父のこぼれ話
ドルエ神父と爆弾

司祭になる前の最後の仕上げの勉強を、北九州八幡のドルエ神父様のもとで終えた私は、昭和二十年四月に浄水通教会で叙階されました。そしてすぐドルエ神父様のもとで助任となりました。ドルエ神父様はとてもやさしく温厚な司祭でした。

そのころは終戦も間ぢかでしたが、爆弾が市内のあちこちに落とされ、みんなとても神経質になっていました。そんなある真夜中のこと、神父様が、血相を変えて私の部屋の戸を叩くのです。「大変です。大きな音がしてバクダンが落ちました」。そこで二人で手分けして捜しましたがとうとう見つかりませんでした。

翌朝、六時半のミサのために起きて顔を洗っていた私のところに、神父様は布に包んだものを大事そうに抱えてもってきました。そして、「夕べのバクダンはこれでした」といって見せたのは、〝湯たんぽ〟だったのです。

神父様が寝る時に使っていた湯たんぽが、ベッドから板張りの床に落ちたらしいのです。私たちは二人で顔を見合わせて笑いころげてしまいました。

司祭の生活には、ときどき辛いこともありますが、こんなに楽しいこともいっぱいあります。

今はすでに天国に旅立たれたドルエ神父様の在りし日を思い、私たちの周りに二度と「本物の爆弾が落ちることがないように」と願いながら、ご冥福をお祈りしています。

いつまで続くアジア女性への人権侵害
ヘルプの松田氏が講演

滞日アジア人女性の問題を考える「アジアと私たち福岡集会」（主催アジアに生きる会・ふくおか）が六月十日、カテドラル・センターで行われ、市民団体や一般の人など約百名が参加した。

アジアの出稼ぎ女性（じゃぱゆきさん）の救済センター（通称「ヘルプ」）の松田瑞穂所長が「アジア女性救援の歩みから」と題して講演。彼女たちのおかれている現状を説明した。

参加者の一人は、「自分が住んでいるこの日本で、恥ずかしい差別、特に女性蔑視が行われており、人権侵害のひどさなど、日本人として大いに反省させられるものがあった」と語っていた。

BOOK 読みま専科

ビデオ

☆ダミアン神父
・いま百年の歳月をこえて

企画・製作・女子パウロ会

絶海の孤島モロカイに、見捨てられたハンセン病患者の友として生き、自らも同じ病に倒れた、救ライの聖者・ダミアン神父のドキュメンタリーが完成した。

このビデオは、神父の生い立ち、足跡を故郷のベルギーやパリ、モロカイで取材。今世紀初頭の貴重な記録フィルム、患者や関係者の証言をとり入れて編集している。

一八七三年、三十三歳でハワイのモロカイ島に赴いた彼は、十六年間、家族や友人、社会から見捨てられ、島に隔離され、貧困、絶望と孤独にあえぐ患者に貢献し、四十九歳で生涯を閉じた。神父は教会、住居、孤児院、病院を建て、水道管をひき、患者のため棺もつくった。

死の四年前ライに病んでからは、真に患者の苦悩を共有できることを神に感謝した神父の愛、労働、そして彼の存在そのものが、共に生きる人に光となり、新しい生命の源へと向かわせた……。

美しいモロカイの自然を、写し出す画面と音楽が、キリストの愛に生きた神父の姿を髣髴させる。

教会、学校、家庭でぜひ見て頂きたい。（カラー31分）（税込み一〇、〇〇〇円）

※このビデオテープの複製・改変は法律によって禁じられております。又、営業を目的とした放映・興行・その他の類似行為、製作会社の許可なく海外への持ち出しは固くお断り致しております。

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092—761—8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092—711—0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石 石 他
理 影 の
大 御 そ
素材
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

七月の行事

※ゴチックは司教日程

1日　カトリック・フェスティバル実行委員会（戸畑教会）午後2時
3日　**邦人教区司祭の集まり（司教館）午前10時30分**
11日　福岡地区婦人会委員会（司教館）午前10時30分
15日　**司牧評議会（司教館）午後1時30分**
共に福音を生き、歩む講話（カテドラル）午後2時
典礼＝歌と祈りの集い（福岡黙想の家）午後2時
21～22日　福岡地区信徒協夏季研修会（黙想の家）
28～29日　**信徒のための黙想会（黙想の家）**
29日　仏ボルドー・ノートルダム少年合唱団（福岡カテドラル朝ミサで）

福岡黙想の家

1日　老司教会壮年会黙想会
5日　聖公会婦人会静修
み心の会＝久留米教会
初金の集い
7～8日　日本福音ルーテル福岡西教会黙想会
御受難兄弟会
9～11日　中央協議会典礼委員会
15日　典礼＝歌と祈りの集い
18日　カナの会黙想と例会
21～22日　福岡地区信徒協夏季研修会
24～25日　雙葉学園六年生練成会
27～29日　福岡姉妹会
28～29日　御受難会企画特別黙想会指導平田司教
31～8月3日　サバナ研修会

8月5日　カトリック・フェスティバル企画運営委員会・実行委員会合同会議（戸畑明治学園）午後2時

ともに歌おう
典礼＝歌と祈りの集い
7月15日午後2時より

研究会

テーマ　「私の生きる道は・・・」
結婚生活・独身生活・修道生活
とき　8月10日（金）午後3時集合
8月12日（日）昼食後解散
ところ　コンベンツァル聖フランシスコ会湯布院修道院（大分県）
指導　御聖体の宣教クララ会修道女
対象　未婚の女性信徒
費用　10,000円
締め切り　8月5日（日）
申し込み・問い合わせ先
〒840-02　佐賀県佐賀郡大和町川上31-2
御聖体の宣教クララ会
☎ 0952-62-3434

夏の特別黙想会「司教とともに」

指導：平田　三郎　司教
日時：7月28日(土) 17時～29日(日) 15時
場所と会費：福岡黙想の家　六千円
申込み先：福岡黙想の家　☎0940-32-3222
＊どなたでもお気軽にお申込みください。

第三回「典礼＝歌と祈りの集い」は7月15日(日)午後2時より福岡黙想の家（宗像）で行います。
参加費は千円。典礼聖歌集をご持参ください。
お問い合わせは黙想の家まで。お☎は0940-32-3222です。

夏季子供の集い

パウロ会
子供練成会
日時　7月22日～24日
場所　福岡聖パウロ修道院
対象　小3年～中3年男子
参加費　無料
申込み　電話かハガキで15日までに☎092-531-0924

師イエズス会（福岡）ファミリー練成会

日時　7月22日～24日
場所　師イエズス修道院
対象　小5年～中3年女子
＊お母さんとの参加歓迎
参加費　無料
問合せ　☎092-531-0486

熊本地区サマー・キャンプ

日時　7月27日～29日
場所　菊池聖母幼稚園
対象　小3年～中3年男女
参加費　六千円
指導　大神学生と幼きイエズス会のシスター
問合せ　帯山教会　青木神父
☎096-382-9413

御受難会 第9回イエズス村

日時　8月6日14時～8日14時まで
場所　宗像・黙想の家
対象　小4年～中3年男子
参加費　四千円と米二合
指導　御受難会士とイエズス村OB
問合せ・申込み　福岡黙想の家☎0940-32-3222

カトリック広島司教区
平和祈念行事

8月4日（土）～6日（日）まで広島「世界平和記念聖堂」で多彩な催しが計画されています。
詳しくは、ポスターをご覧ください。

夏休み

「もうすぐプール開きだ。楽しい夏休みがやってくる。怖いのは、通信簿と日本脳炎だけだ」。これは七月の小学生の作文の一節です。

子どもだけでなく大人も気が合う友達との遊びは心がなごむものです。たわいない遊びの中に友情が深まるものです。

最近私も天草で四人兄弟の家族を訪問し楽しく心あたたまる思いをいたしました。七歳の直人君が「一緒に遊ぼうね！」と誘ってくれました。私も童心に返り、トランプやその他私のまだ知らないゲームを教わって、年の差も忘れ、仲良しになりました。お別れの時、地球儀をもってきて、「神父様の教会はどこ？」と聞くのです。

すばらしい遊び仲間

徳山　登

子どもの好きなイエズスはご自分も幼い頃、友達と遊んだに違いありません。

ゴバールという神秘家の著作の中に次のような話がありました。

「ある日一人の聖人が私たちのところにこられました。私の母は庭で彼を見つけました。子供たちを喜ばせるためにとんぼ返りをしている最中です。母は私に『本当に聖人ですよ。安心して、彼の方にいっていいのよ』と言いました。

彼は私に『わが子よ！　何をしたいの？』『わかりません。僕が何をすることをお望みですか』『いや、君のしたいことを言ってごらん』『僕は遊ぶのが好き！』『じゃあ、神様と一緒に遊んだらどう』

私は何を答えればいいかわかりませんでした。すると、聖人は続けて、おっしゃいました。

『君が神様と遊べたら、それは人が今まで行なってきたどんなことよりも、すばらしいことですよ。人々は神様を余りにも真面目臭く、厳粛な者と扱いすぎて、かえって神様とのつきあいを死ぬほど退屈なものと考えてしまう。神様と一緒に遊びなさい！　神様こそ、共に遊ぶすばらしい仲間です！』」

この物語を読んでいる時、神の言葉を思い出しました。「私は地の上で遊び、人の子等と交わるのを楽しみとした」（格言8・31）。

ロボットを使ったほうが経済的だと、人間に頼るより機械に頼る時代です。子供たちもわがままのぶつかり合う友達よりテレビ・ゲームの方がいいと思い始めたら、どうなるでしょうか。寒々としてきます。交わること、友情を交わし、培うことを面倒に思うとは恐ろしいことです。

よい学校に入るため、エリートコースに乗り込ませるために勉強、勉強と学校だけで足りずに塾通い。子どもの世界の戦いも熾烈で心の休まる時がないようです。遊びの中で育つ人間の心の成熟と人間への信頼感が疎外されていくようでたいへん心配です。

小さいテレーズはある日図書室の前に立って「もしこの部室の本を全部私が読んでいたならばきっと残念に思うでしょう」。そばにいた一人のシスターが「どうしてですか。たくさん読んだほうが心が広がりいいのではありませんか？」。「いいえ！そんなことをしていたならば頭が痛くなったでしょう。やはり神様と共に過ごす方がずっとすばらしいと思います」。

テレーズは洒落がうまく、レクレーションの時間や長い闘病生活の間にも、その洒落でもってみんなに笑いを贈りました。

この世での健全な遊びや素朴な人との交わりは天国への準備になると言えるのではないでしょうか。天国でどんなことをするかは想像もつきませんが少なくとも退屈はしないでしょう。私たち皆の心に愛が注がれています。そして「愛は決して滅びない」（Ⅰコリント13・8）。神様は人間一人ひとりにご自分に似た心をお与えくださいました。そのおかげで喜びのうちに永遠に楽しく生きる事が約束されています。イエズスがおっしゃいました。「友人を作りなさい。彼らはあなた方を永遠の住まいに迎え入れてくれる」。

（パリ外国宣教会八王寺教会）

かのときのことのは

森山　敬三

盆布施のきばってありしちとばかり

河野　静雲

『閻魔』に所収。この句集に長文の序をよせた虚子は、「私はある時たわむれに、自分が死んだ時は静雲君にお経を読んで貰おうかな、と子供達に言った事がある。お経は読まなくってもよい、二三言ぐじゅぐじゅと言ってくれればそれでよいのである。静雲君を必ずしも高僧とも聖ともあがめようとは思わないが、この句のような人生に対する態度が自分は気に入るのである。」と述べている。彼の女今日も来て泣く堂の秋、で始まり、なつかしき涙語や姉の春、で終るこの句集の著者は、筥崎宮のすぐ近くに、大きな大仏が建っていた寺の僧である。たまたま戦死した次男の鉄二君と小学校が同級だったので、よく遊びに行った。なぜ彼の女は泣くのですかと愚問を発したところ、私を好きなんですよ、という答が返ってきた。『閻魔以後』で、ねがはくは小春のような句とこゝろ、の句を見付けて、思わず心のときめきを覚えた。

編集室から

▽日韓青年交流会を終えた教区の青年たちのレポートを読ませていただいたが、素晴らしい体験をされたようだ。単に面白かった、楽しかった、きつかったで終わらず、出来事の裏にあるものに気付かれたことはさすがだ。

わが教区にこのような鋭い感性をもった青年たちがいることを誇りに思う。

▽その一方では、悪質な宗教団体に勧誘されて、人格まで破壊されているカトリック青年たちの悲劇がある。

本人の責任とだれが言えるのだろうか。（W）

香典返しを司祭養成のため教区と大神学校へ

◎深堀敏司教様（高松教区）のご母堂、エリザベト深堀ミカ様の香典返しとして司祭養成のため金一封をいただきました。

永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。

福岡教区長　司教　平田三郎
サン・スルピス大神学院　院長　高木善行

七月命日の司祭

＊ウィリアム・シュルツ（スカボロ会）一九八七年七月二日元吉塚教会主任
＊ジョルジュ・ラグレブ師（パリ外国宣教会）一九八二年七月二十五日元門司天使園
＊ヤコブ平田勇師一九八〇年七月二十日元西新教会主任
＊ルネ・ルリエ師（パリ外国宣教会）一九七〇年七月二十八日元聖小崎育児園園長
＊ジョセフ・ブルトン師（パリ外国宣教会）一九五七年七月二十五日元呼子教会主任
＊ヨハネ平田惣五郎師一九八九年七月三十一日元浄水通教会主任

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
☎ 092-552-8195　Ⓕ 092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
(株) メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

カトリック
福岡教区報

平田司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—522—5138
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

今月のみことば

キリストが愛したように……

（ヨハネ15・12～17）

本郷　川上惣一神父

邦人教区司祭定例集会開催

教区財政など難問山積

福音の視点から糸口探る

率直に意見を交換

財政顧問の笹山浩氏から現状について資料をもとに説明を受ける司祭たち

邦人教区司祭の抱える問題について率直な意見の交換をしようと七月二日、平田司教をはじめ二十一名の教区司祭たちが司教館に集まり、初会合を開いた。議題は教区の財政問題、司祭の生活費の問題など多岐にわたった。今後は、出された様々な問題を整理し、司祭団として取り組んでいくことになった。

会議に先だって平田司教は「教区の重要な問題を一緒に考えていくことには大きな意義がある」とあいさつ、また先の司教会議の報告では、第二回ナイスのテーマが「家庭の福音化」になる見通しであると述べた。

続いて、八月に任期満了になる司祭評議会評議員のうち邦人司祭六名の選出を行い、司教に推薦した。六名の新評議員は世代別にバランスの取れたものとなり、活躍が期待される。

また、財政の現状については教区会計の堤要吉師と笹山浩氏が説明。恒常的赤字に悩む財政立て直しのために意見を求めたが、現行の規定を周知徹底させることが先決であるとの意見が多く出された。

これに関連して、邦人司祭の生活費の問題が討議されたが、格差是正のためのさまざまな意見、提案は、今後の会合の中でさらに検討していくことになった。

これらの問題は、教区費と法人費、さらには司祭のミサや結婚式などの祭儀収入の取り扱い、幼稚園・保育園園長としての給料などとも関連してくるため慎重に対応する必要があり、福音の精神と社会正義の視点から解決策を探ることが必要であるとの認識で一致した。

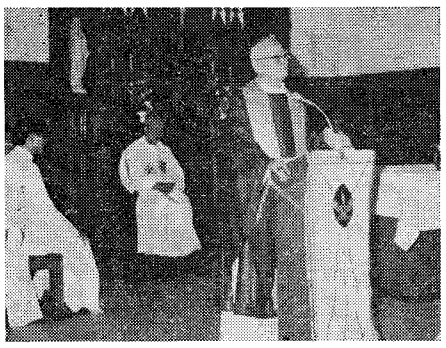
また、教区立の幼稚園については、「福音宣教の場」として全司祭が関心を持っていくとの合意ができた。

最後に、来年五月に創立五十周年を祝う小神学校援助助姉妹会について「感謝する会」

聖ペトロ

平田司教76回目の霊名祝う

信徒は〝生ける石〟



「信徒は霊的神殿（教会）の生ける石」と語る平田三郎司教

ペトロの霊名をいただく平田三郎司教のお祝いが六月二十九日の使徒聖ペトロ・パウロの祭日に浄水通教会で行われた。午前十一時の感謝のミサは、司祭四十数名が共同司式。修道女や信徒ら約四十名も参列して熱心な祈りを捧げた。

司教はミサの中で、「七十六回目の霊名の祝日と五十一回目の司祭叙階記念日を教区の司祭、修道者、信徒と祈りのうちに迎えることが出来、老司教として大変心強く思い、心から感謝したい」と述べ、当日の福音にもとづいて「みことばの宣教者である司祭たちは、イエズスと同じようにこの世に散らばっている〝生ける石〟共同体に連なる石を見つけて、霊的神殿の建築にたずさわらなければならない。私たちの上にいろいろな生ける石が積み重なり神殿が出来上がる」と、信徒と共に働く司祭に言及した後、「キリストとのつながりを生きる司祭として『お前は岩』の意味を考えてゆこう」と語った。

ミサ後のパーティーでは平田司教の健康と教区の発展を願って乾杯をし、司祭同士互いの親睦を深めた。また教区の大神学生八名の自己紹介が行われ、先輩司祭たちから励ましの拍手を浴びた。

第一次司牧評議会

二年の任期を全う

基礎固めに多大な貢献

八月で二年間の任期を終える「福岡教区司牧評議会」の最後の総会が七月十五日、司教館で開催され、平田司教をはじめ十七名の評議員が出席した。

会議に先立ってあいさつした司教は、「先のアド・リミナにおいて教皇様は司牧評議会の発足を大変喜ばれ、その務めを立派に果たすよう励ましのお言葉をいただいた」と述べ、評議員を労った。

議事に入ってからは、まず司牧評議会の規約について常任委員会から出されていた改訂部分について審議。了承した。主な改訂事項は評議員の構成員で、教区事務局長を職務上自動的に評議員とすること。修道女の代表は各地区から選出すること。修道士代表を新たに加えることなど。

なお、司牧評議会規約の全文は本紙十月号に掲載されることになっている。

つづいて、司教に新評議員の推薦をおこない、カトリック・フェスティバルの準備状況を同実行委員長の小笠原勝巳氏が報告した。また、この中で、フェスティバルのミサに、司祭たちの参加を願う招きの手紙を司教名で出すことになった。

最後に、全評議員が一人ひとり二年間の振り返りを行なった。その中では、「他の人の話しをいろいろ聞くことによって教区のさまざまな問題が見えてきた」「司祭・修道者・信徒と分かち合いのよい勉強になった」などの積極的評価と共に「遠方の評議員として、会議に出席するための時間を割くことに無理があり疲れる」と率直に訴える人もあるなど、教会内で集中的に様々な役職を兼務していることの問題を浮き彫りにするかたちとなった。

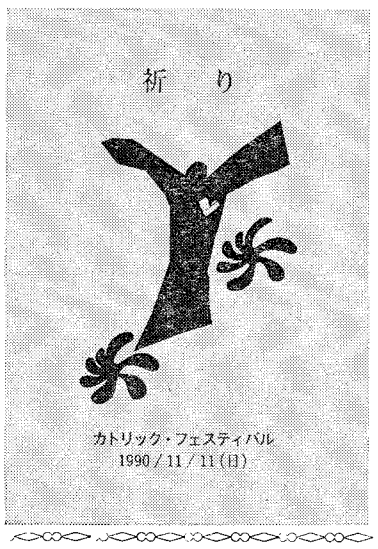
全体としては、取り残してきた事柄について、新しい評議員に期待する声が多く出されていた。

フェスティバルは四〇〇〇人規模に

実行委員会で集計

七月一日に戸畑教会で行われた「カトリックフェスティバル」実行委員会で、信徒の参加人数は三千人にのぼると報告された。このためミサは屋外で行い、各種展示の教室開放もミサと同時進行の形を取ることが申し合わされた。

また、最終的な詰めのため八月十九日（日）の午後二時から、明治学園で企画運営委員会と実行委員会の合同会議を行うことになった。



カトリック・フェスティバル
1990/11/11(日)

教会学校教師会 メディアを学ぶ

北九州

北九州教会学校教師会は、『メディアと宣教』をテーマに、Sr白井詔子（女子パウロ会）を迎えて、小倉カトリック幼稚園で五月二十九日、一日研修会を開いた。

研修会では、身近にある映像として絵、写真、雑誌の切り抜きなどを使って、自己紹介やあそび、分かち合いの実技を行った。小グループに分かれ、動物の名前をかいた絵をそれぞれが選び、今の自分の気持ちをお互いに話し合うなど、参加者には、自分も楽しめ、大人にも子供にも使えると好評だった。

講師は、「キリストご自身が御父のメディア」であり、「私自身がコミュニケーションメディアである」としたうえで、「そこでは、人と出会う、私の生き方が問われることになる」と述べた。

参加者のひとり上野英子さん（水巻教会）は次のような感想を寄せている。「これまでは、メディアを使ってキリストを知らせるということは、精々、教会や自分の家の門脇の掲示板に聖句を書いて貼るくらいのことでした。そして、あなたの家の掲示板を見るのが楽しみ、それによって色々考えさせられるからと言われるくらいで、その人が教会の門を叩くまでには至らず、ポスターによるメディアは、そのくらいの効果しかないのだから、まあ、ないよりはいい位の程度と思っていました。今まで、メディアでの宣教というのは、私にとって遠いもの、あまり魅力のないものと思っていましたが、急に身近かに迫ってきて、まさに電気マッサージをされた感じです」。

お知らせ

九月号は休刊です

昨年同様、八月と九月は合併号です。

時の話題

パンのみで生きるのではない

央　新富康

佐賀教会に、メキシコ人で八年前日本人と結婚されたMさんがいる。何年かぶりにメキシコに里帰りをし、そのおみやげとして銀貨を持って帰った。日本の子どもが最初に言った言葉。それは「これいくらなの。何万円。何が買えるの」であった。「お金には換えられない」と言うと、彼らは「何だつまらないの」と答えた。とても悲しい。まさに現代日本社会の心の歪みの問題である。心よりも物を追いかけてきた私達社会の行き着いた姿である。子どもはその鏡に過ぎない。被害者は子ども自身である。

メキシコでの子ども達の姿は一見、悲惨そうに見えた。Mさんはついお母さんに「あの子ども達かわいそう。私お金あったら、あの子達が売っている野菜を全部買ってあげたい」と言った。お母さんは即座に叫んだ「今の言葉とっても危険よ」。物質的豊かさの追及に追われ、受験競争に疲れている日本の子どもこそかわいそうなのであり、貧しさを不幸とみる見方こそ、物質主義に麻痺してきた証拠と、お母さんは見て取った。

タイの三つの小・中学校に援助の手をさしのべる運動をしている『地球市民の会』の隊員が言う。せめて昼食を食べさせてやりたい。中学生なのに身長は百二十～三十センチしかない。百六十センチぐらいある子は、みな公務員の子だ。隊員は日本から持ってきたチキンの薫製をみなに分けた。朝から一食も、中には前日の朝から何も食べていない子もいる。誰も、しっかりチキンを握りしめたまま、ひとりとして開こうとしない。隊員は不思議に思った。彼らは言う「家に帰って、お父さんお母さんに、妹や弟に食べさせてやりたい」と。隊員の誰もが泣いた。

それにしても、そんな彼らに笑顔が絶えない。この村を、自分達の家をよくするにはどうすればよいかと、熱っぽく語る。タイの子ども達は、相手への思いやりと笑顔と未来を語ることをやめたら、自分達には何も残らないことを彼ら自身がよく知っているのだ。援助されたのは、つまり心を救ってもらったのは、むしろ日本の隊員であった。

物質的豊かさが神の心を奪っており、また逆に、神のみが私達を物質的豊かさという飢餓から救ってくださる。

（佐賀大学助教授　佐賀教会）

みちくさ

「あなた方は、自分の耳に心地よいことばかり話してくれる者を集めている」という警告は時代を超えて真実だと思う。指導者と呼ばれる人はいつもこの罠にはまりやすい。自分の周囲に気の合う人、いつも好意的に応えてくれる人を集めてしまうし、そのぬるま湯の中で生きている。反対する人をけむたがり、あげくの果てには、無視の態度を平気でとる▼悲惨なのは本人が自覚できないほどにそれが本人の習性になってしまっている場合だ。そんな人の話の多くは極めて正論だが、氷のように冷たい言葉の刃が相手の心を刺している。誤解を招かないためにいっておくと、そんなことを自分がやったことないから言うのではない。ほんとのところは自分がやられて分かった他人様の痛みなのである▼自分の行為を「福音」の名のもとに正当化できるほど「福音」を理解し生きていると誰が言えるのだろうか。私たちが、福音だとかキリストの教え、教会の教えだとかいっていることも、実際には、自分に都合のいいように解釈していることが多い▼司祭生活十数年の歩みの中で見出したものは、福音がよく分かっていなかった自分、これからも福音に出会える喜びを生きている自分であり、イエズスのように生きることを要求されると辛く感じる自分である。けれどもイエズスの生き様はやはり最高の模範であり、そのような生き方に召されているとの確信だけは持っている▼イエズスは、ご自分の生活の実態を余すところなく公開され、知られることを恐れる必要がなかった。私たちは、情報公開によって真実が知られることを恐れていないか。率直な苦言を呈してくれる人たちの声に耳を傾けることをしないでどうして進歩があろうか。プライバシーの保護を口実に、自分に都合のいい情報だけを流して理解を求めるやり方だけはいただけない。

座談会

カトリック・フェスティバル

〝心で握手〟するために

十一月十一日に予定されている教区行事「カトリック・フェスティバル」を語っていただくため、六月十日の同企画運営委員会会議の終了後、渡辺隆義師（企画運営委員長）、小笠原勝巳氏（実行委員長）、深堀純氏（福岡地区信徒協会長）の三人に集まってもらい、渡辺師を中心に自由に話してもらった。

北九州地区の熱心な取り組みとそれに応えようとする教区的盛り上がりが感じられるが、課題も残っている。聞き手は深堀邦枝編集員。

右から深堀、渡辺、小笠原の3氏と深堀編集員

開かれた教会への脱皮の機会に
フェスティバルの形を活かす
全小教区が祈りによる関わりを

小笠原　深堀　渡辺

カトリック・フェスティバルの根本的なことを言い当てていると思います。

――今回、北九州でするということの意義は……。

小笠原　そうですね。北九州は、熊本から見ると遠いと思うかも知れませんが、こういった教区のイベントを、**北九州でやるということは、北九州の信者にとっては大変嬉しいことですね。**

渡辺　それだけの力を北九州は持っているということだと思うんですね。

――これを企画するとき、一番はじめにその問題が出て、福岡の地からとにかく別の所でしようということでしたね。それで、別の場所に持っていった意義はありそうですか。

小笠原　ええ、あるんじゃないかと思いますし、是非、成功させて、この次は熊本でしたいとか、あるいは佐賀でしようとか、そんな風になったらと思っております。

――ここまできて、カトリック・フェスティバルの目的はどれくらい達成されていますか。

渡辺　私は、当初の目的の半分ぐらいは達成したと思っています。というのは、教区民一人ひとりが自分の問題として関心を持ったこと。何が出来るか出来ないかは別の問題として、関心を示してくださったことは重要なことです。たぶん、これまでの教区行事では、いくらぐらいの割当金……、それぐらいの関心だったと思いますね。それが今回は、それぞれの小教区でどういったものができるのか、という問いかけがなされて、それぞれの小教区で、少なくとも話し合いがなされた。そういう意味で、教区行事として大きな意義があったと思います。

フェスティバルという名前も、時代に合ったものだったようですね。これが「教区信徒大会」のような名称だったら、ある固定観念で見られてしまって……関心が薄れてしまったのではないかなという気がします。

小笠原　神父様が一番最初に、教区信徒協の役員会で説明された時に、「参加できるかできないかじゃなくて、〝どう参加するか〟を基本にしてください。**どう参加するか、皆さんそれぞれの置かれた状況の中で、考えてください**」。あれが、非常に良かったと思いますね。〝私たちは出席できません〟というんじゃなくて。〝どう参加するかを考えましょう〟あれが効いたような気がしますね。

――いつも会場になっていた福岡地区の信徒としては、今度はお隣りの北九州地区であるわけですけど、どんな感じですか。

深堀　そうですね。差し迫った、ひしひしとする実感というのが、もう一つない、というのは否めません。ゆっくり参加できるかな、という気持ちです。何かをする参加というよりも、**とにかく参加しよう。そのための働きかけをしよう。**そういう思いが強いですね。

小笠原　なるほどね、神経をピーンと張ってなくていい、という事かな。

深堀　北九州の方は肩が凝る思いだろうな、と実によく分かるんです。

小笠原　私は、北九州の教会の信徒の方々と会ったときはいつも、フェスティバルの話をしますが、神父様はあちこちに行かれて、「そんなことは知らないよ」とかいうようなことを言われる神父様はおいでにならない…？

渡辺　そういう方はないですね。神父様の方から信者に対して、公に積極的なすすめがなされていない、というところはありますが。私たちは関心をもっているのに、どうして神父様は言ってくれないのか、ということですね。

そういう意味で信徒協の果たしている役割というのは、すごく大きいわけです。信徒協の関係の方からずーっと情報が伝わっていっている……ということですね。

フェスティバルのための祈りが始まるようになれば、また違ってくると思いますね。

――フェスティバルの精神についてはどうですか。

渡辺　フェスティバルの精神が、理解できるかどうかというのは、結局、小教区がどれだけ社会に開かれているか、その一点にかかっていると思います。私は、フェスティバルというのは、あくまでも**開かれた小教区づくりの延長線**だというふうに理解しているわけです。

小教区自体が、本当に社会との関わりの中で自分たちの存在というものを考えることができなければ、教区レベルでやったって、それは全然理解できないと思います。**小教区が、自分たちの地域社会に開かれているならば、それがもっと広がって教区が地域社会に開かれ、やがて日本の教会が日本の社会に開かれ、教会が世界に開かれる**、というふうになっていくのではないかと思いますね。

そういったことがフェスティバルの中で、他の小教区の信者との交流の中で出てきたら最高だなと思います。

――三年前に開かれたナイスの精神と関係がありそうですね。

小笠原　フェスティバルの最初の出発点が**信徒大会とナイスの振り返り**、という二つのことであったわけで、フェスティバルもやはりナイスの精神が生きていないといけないんじゃないかな、と思うんですね。信徒だけ、**内々だけの集まりにしなかったのも**、福岡教区としてナイスの一つの具体化というふうに考えられるんですね。私はあちこちでカトリック・フェスティバルの話を頼まれた時に、フェスティバルは聖霊によって始められた、だから聖霊によって終わるといつも言っています。神様のお導きのもとに始められたのですから、どれくらいの規模になるのか、どれくらいの人数が集まるのか、神様が決めることであって私たちが決めることではない、ということですね。

結局、**集まった一人ひとりの人が、カトリックの喜び、希望、自由や解放だとか、そういう福音との出会いを実現する、それが本当の成功**だと思うんですね。ただ人間だけがいっぱい集まって、金儲けだけやるのじゃ……。献金の問題にしても、献金額が多いとか少ないとか、そんなことはどうでもいいんじゃないかと思っているんですけどね。どういう気持ちで献金がなされたか、それがフェスティバルの準備が良くできたかどうかという基準じゃないかなと。

小笠原　北九州信徒協の代表が集まっているときに、「信徒会長はどうやって決めるんね」「うちはまだ任命制でしてね」とか「会計報告なんかしていません」などといった小教区の現状が話題になりますが、**カトリック・フェスティバルは、開かれた教会、信徒の教会というような形に生まれ変わるチャンス**かな、と思うんです。

渡辺　その意味でも、**全ての小教区が何らかの形で、カトリック・フェスティバルに参加するようにしてもらいたいですね。**たとえば、すごく遠いところは代表者を送るとか、自分たちの作品の展示を実行委員会にお願いするとかされたらいいと思います。確かになにも作れないという小教区も有り得るわけですが、フェスティバルのために霊的花束などを作って送っていただいたら、どんなに嬉しいか分からない。

カトリック・フェスティバルは祈りに支えられている。それがあるからこそ教区全体が関わり合うことができるんじゃないかと思います。

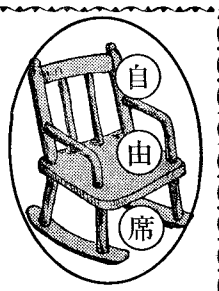
――今までは「うちから何人くらいは出さなくちゃ…」が「何人出そう」と発想が逆になっている……。

それと教区の青年たちが、子どもの広場を担当するのですが、こういう形で一緒に参加するのは初めてではないかと思います。

渡辺　本当に沢山の方が、関心を持っておられるのは事実ですね、感謝しております。

フェスティバルは信徒だけの行事でもないし、司祭たちだけのものでもない、ナイスの精神に沿って、司祭、修道者、信徒が一つになってやるということですから。

――どうもありがとうございました。



韓国の青年から教えられたこと

井手　ゆかり

日韓カトリック青年交流会（五月三日～六日）は、私にとっては、初めての海外への出発でした。緊張を胸に空港へ着きましたが、釜山の青年が温かく迎えてくれ、いっぺんに不安な気持ちがなくなったのです。

街並みは、長崎に似ていて教会の多い街でした。しかし教会のほとんどが、プロテスタントで、カトリックは十分の一しかないと聞いて驚きました。

カテドラルであずかったミサは、平日の夕方だったのですが、沢山の信者さんがきていて、信仰の強さを感じました。

三日目は、青年たちとハンセン病の施設を訪問し、向こうの人と一緒にバラの苗植えをしました。労働を共にし、一緒に素敵な汗をかくことができて、私の心は、うれしくて、ハンセン病の人たちの心の温かさ、「生きる希望を洗礼によって頂いた」という話に感動しました。

私は、韓国に行って、本当に良かったと思っています。そして韓国の青年のように、もっと勉強し、それを実践できるようになりたいです。

私を含めて福岡教区の青年は、神父様に頼り、甘えていると思いました。それもいいことだと思うのですが、もっと青年の力でどんどん行動できたら素晴らしいと思ったのです。

（久留米教会）

広報の日講演会に参加して得たもの

匿名希望

去る五月二十七日にカテドラルで行われたシスター・白井（パウロ会）の広報講演会に参加してみて、私がイメージしていた講演会とは違っていたので少々びっくりしました。

私は、メディアと言えば、マス・メディアのほうしか思い浮かばなかったのですが、メディアといっても、いろんなものがあることを知りました。一冊の本も、メディアなんですね。一般にいわれている、AVつまり、オーディオビジュアルは、メディアとして、とらえていたのですが…。また、多くのメディアがこんなにあふれているのに、それらを福音宣教に活用していないことや上手に利用できていない実状も分かりました。

活用されていない理由の一つは、ビデオといったソフトはあっても、ビデオデッキというハードが、教会の方にないという事……。

また、今まで、メディアというと、自分とは離れた世界のものと思っていましたが、シスターの話を聞いて、身近にあるものだという事に気付きました。この身近にあるメディアも積極的に活用しようとする姿勢も必要だなと思いました。

そして、何よりも、キリスト者である私達自身がメディアとなり、社会の中で福音宣教をしていかなければならないのだとも……。

（女性24歳）

祈りの日へどうぞ！

日　時　毎週火曜日　午前11時～午後3時30分（8月は休みます）
内　容　小さな講話、黙想、ロザリオ、ミサ、晩の祈りで終わります。
※ 簡単なお食事を用意します。前日までにお申込みください。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

福岡地区

移動青年の集い
若者はいつも教会の希望

この春、他の教区から転入してきた青年たちを励ましそうと、六月十日の日曜日、福岡ブロック青年の主催で、中央区小笹にある聖パウロ男子修道院を会場に〝移動青年の集い〟が行われ、青年男女二十数名が参加。午前十時半から午後四時まで、ミサ、バレーボール、短い講話を通して親交を深めた。

集いを二ケ月前から準備してきた貝沼茂さん（古賀教会）は、「多くの仲間たちの協力でこの集いを行うことが出来ました。参加者一人ひとりに心から感謝したい」と語り、「教会から遠ざかっている若者たちも積極的に教会を訪れ、青年の集いにも参加してほしい」と呼び掛ける。さらに「いろいろな事情や自分の弱さから教会に行けない若者たちもいますが、未熟な自分たちを広く受け入れ、教えてもらいたい」と教会共同体への要望を一言。

「移動青年の活動がきっかけで教会に通うようになった。この活動をこれからも続けていってもらいたい」という先輩たちのエピソードもあるように移動青年の集いは、青年たちにとって教会とのつながりの接点の役割も果たしている。

一方、担当の森山信三神父（大名町教会）は、「この集いを一つのきっかけとして、互いに真の出会いを目指しながら、一人ひとりが持ち味を活かし、若者として明日の教会をになう力となってもらいたい」と若者たちへの熱い期待を表明している。

福岡ブロック青年会では八月の最終土・日曜日に精薄者施設でのボランティアを行う計画があり、多数の参加が期待されている。

レクレーションを楽しみながらハイ・ポーズ

島崎教会

聖体賛美の歌こだま
市内の信徒ら百人が行列

島崎教会（主任カリー師）の聖体行列が、去る六月十七日の聖体の祝日に行われた。

当日は晴天に恵まれ、同教会からマリアの宣教者フランシスコ会修道院敷地内の仮祭壇まで、約2キロのコースを司式の渡辺隆義師（司教館）が掲げる聖体顕示台と共に島崎教会を中心に熊本地区の信徒らおよそ百名が、聖歌を高らかに歌いながら歩いた。

行列は、島崎教会を出発、途中、待労院と老人ホーム、それに第一修道院前で病人や老人たちを祝福したのち、仮祭壇に安置され、賛美式を行った。

説教の中で渡辺師は、沿道の病人、老人たちに思いを寄せ、「このような方々の姿はナザレのイエズスに従った人々を彷彿させる」「ご聖体は、小さな人々と共におられるキリストのシンボルでもあり、慰め、希望である」と語り、「イエズスに倣い、私たちも、まず社会的にあるいは教会の中で弱い立場にある人々、病人、疎外され無視されている人々を大切にしよう」と呼び掛けた。

ご聖体で沿道の人々を祝福

シリーズ　こどが聞きたい

写本拡大づくり④

弱視者の光となる

今、何故、拡大教科書が必要なのですか。

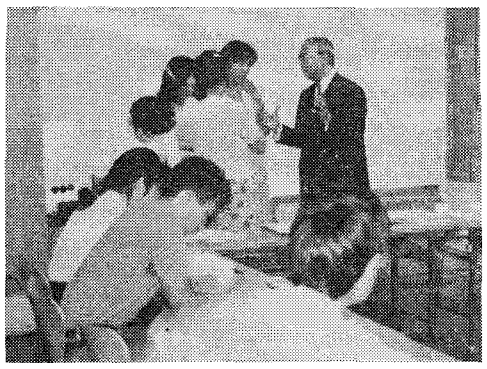
「全ての国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて教育を受ける権利を有する。」憲法二六条。

弱視児童は盲学校と全国の小、中学校に設置されている弱視学級で学んでいる。学級での子どもたちは学問以前に、まず、文字そのものを読みとるのにかなりの努力を強いられる。教室の照明は明るい。黒板の文字は単眼鏡で読み、机の上の文字はルーペで読む。それでも読めない時には拡大器を使って読みたい箇所をテレビのような画面に拡大して見る。道具を正しく使い分け自分に合った読み方を捜しながらの学習である。

この勉学方法について、一生徒は「拡大の本がいいなと思ったのは、普通の字の本を読む時は片手にレンズを持つことが多いので疲れます。拡大文字だとレンズを使わなくていいので手が疲れません。なんといっても目が疲れないのが嬉しいです」。教師は「拡大器は間近で見るため相当に疲れる。レンズで一字一字読む事も弱い視力に負担が掛かる。拡大された見やすい教科書を使い、文字を追いかける学びでなく、内容を知る学習をさせたい」。弱視教育行政は「社会には小さな文字が氾濫している。字を大きくする事よりも光学機器やルーペ（弱視用レンズ）を使いこなすように訓練した方がよい」と言っている。

点字や普通教科書が無料で配布される義務教育において、弱視児が学び易い大活字の教科書が無いとはどういうことでしょうか。子供達が「目が疲れるから勉強はいや！」とならない為に拡大教科書は弱視児の光りであり続けたい。「あなたがたは世の光である…あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい。そうすれば人々はあなたがたの良い行いを見てあなたがたの父を誉め讃えるであろう」。

回答者　江頭千鶴子（福岡はなびら会教科書部）


休憩時間に質問に答える岡村氏

岡村裕医師が講演

キリスト者の家族計画には正しい医学・神学の知識を

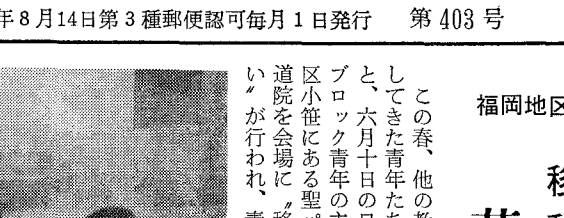
「キリスト者の家族計画のあり方を考える」勉強会が六月三十日、福岡黙想の家で開かれた。これは、日本カトリック医師会福岡支部と福岡教区信徒使徒職協議会の共催によるもので、岡村裕医師（京都河原町教会所属）の講演を聞いた後、活発な質疑応答が行われた。

講師の岡村氏は、夫婦生活における性の問題の現状を多数の事例で紹介。女性が弱い立場にあると指摘した。このような場合、キリスト者は第三者の立場からの発言に終わるのではなく、それらの人々と悩み、痛み、苦しみ共をにする福音のセンスが必要であると強調した。

またとくに、基礎体温法や頸管粘液法などでは対応できない人々の救済の問題など医学的、倫理神学的に研究を深めなければならない課題が残っていると語り、教区や小教区のレベルで医師や司祭、心理学者などが一緒になって考えるべきである、と強調した。

参加者からは、洗礼を受ける前に薬や器具を用いていたがこれからはどうしたらいいのかなど、夫婦相互の理解と協力の難しさを訴える声があった。また、性の問題について子供の相談にのってあげられる親になるためにも、このような勉強の機会を増やしてほしいという要望があった。

藤房神父のこぼれ話



ふくれ饅頭の祝い

八月十五日は、終戦の日であるとともに、信者にとっては『聖母の被昇天』の大祝日でもありました。

郷里の馬渡島では、この日を「ふくれ饅頭（まんじゅう）の祝日」と呼んでそれは盛大に祝ったものです。この日は、どの家庭でも「ふくれ饅頭」をつくったものです。饅頭は、メリケン粉（小麦粉）がなかなか手に入らなかった時代は挽き臼で粉をつくり、それを鉢に入れて、甘酒と水を入れてこねます。そしてねかせておくとふくらんできます。これをまるめ、あんこを入れて〝からかの葉〟をくっつけてせいろで蒸します。すると甘酒の香りと一緒においしそうな饅頭が出来上がります。

母親たちは、早朝の一番ミサにあずかった後、家族とお客さんのためのごちそうづくりに精を出します。ごちそうの中央にこの「ふくれ饅頭」が置かれるのです。

その日は、みんなどの家のごちそうをいただいてもよく、とくに男たちは、あちこちの家を渡り歩きました。でも午後の三時には、教会に集まって聖体降福式（賛美式）とロザリオをしました。それが終わるとまた夜遅くまでお祝いの宴と団らんが続きました。

子供たちが、このような祝日をまちに待ったことはいうまでもありません。

最近は、聖母被昇天のお祝いも盛大ではなくなり、信者間のつながりが薄くなったようで心配です。みんなで一緒に楽しく天国へ行きたいものですね。

地域の老人大学で人生について語る

青木　保師

七月十一日（水）、大名町教会主任青木保師は、校区の老人大学に招かれ、「高齢者のやすらぎ」というテーマで講演を行った。

志摩分教会起工式
クリスマスの頃にはミサを捧げる喜びも

七月十五日（日）午前十一時半より、西新教会の分教会となる志摩教会（福岡県糸島郡）の起工式が行われた。

平田三郎司教は「完成予定は、本年十一月で、クリスマスには新しい教会でミサができるでしょう」と語った。

会場の舞鶴公民館には、この夏最高気温三十四度といわれる中を約三十名の老人が集まり熱心に講演に聞き入っていた。

青木師は、「ここでは、宗教のお話はしてはいけないそうですが」と前置きして「神さまは、私たちに素晴らしい人生をくださいました」「年を取るということは、それだけで何か苦しみがあります。しかし、その苦しみはきっと何かの、また、誰かの役に立っているのです。一人ひとりのかけがえのない人生を、生きて全うして下さい」などと語った。

BOOK　読みま専科

☆母を生きて来て
田中　澄江　著

母親というものについて、日常の身のまわりに起こった事をもとにして書いたもの。みずから三人の子の母親としてたえずこれでいいのか、自分には母親になる資格があったのだろうか、自分は子供の期待に対してどれだけ報いられるのだろう、いったい母親という存在は何なのか、などなど、悩みつづけながら一生懸命に生きてきた思いを現代の母親と、教師など子供にかかわる人々に語りかけるものである。子供のしあわせを願うあたたかな一途の心が読みとれ、お母さん達に身のひきしまる思いと、大きな励ましとなるにちがいない。

女子パウロ会・一二〇〇円

☆蛙の祈り
アントニー・デ・メロ著

ユーモア溢れる東西の小話を集め、黙想の為の短いヒントを加えた本。ただのジョークとして読む話でなく、著者がまえ書きに注意しているように、自分について、人生について、その他森羅万象について、何らかの照らしを得たいと望みながら、ゆっくりと読んでほしいもの。そうすれば、いつか、ふいに話のなかの「真実」が心の中に滑り落ち、自由、喜び、内的癒しを体験できるに違いない。

女子パウロ会・一六〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—761—8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—711—0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石
石
理
影
の
大御そ
素材
他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

八・九月の行事

※ゴチックは司教日程

5日　吉塚教会平和祈願祭
6日　広島平和祈願祭
9日　長崎平和祈願祭
9～10日　第一回福岡地区カテケジス研修会（カテドラル）
13～15日　教区納骨堂開放日
15日　**呼子教会堅信式**
教区墓地ミサ午後2時
平和を建設する集い（日本キリスト教団渡辺通教会）午後2時
19日　**馬渡島教会堅信式**
カトリック・フェスティバル企画運営委員会・実行委員会合同会議（戸畑明治学園）午後2時
22日　カナの会（司教館）
26日　**聖アウグスチノ祭（笹丘教会）午後5時**
27日　福岡地区婦人会聖モニカ祭（カテドラル）午前9時30分
9月4日　司祭評議会
12日　福岡地区婦人会委員会（司教館）午前10時30分
24日　佐賀地区殉教祭

福岡黙想の家

7月31～8月3日　サダナ
3～12日　ナミュール・ノートルダム会黙想会
6～7日　鹿児島吉野幼稚園職員黙想会
6～8日　イエズス村
8日　ミカエル会
9～15日　マリア会黙想会
16～18日　カノッサ会黙想会
16～19日　長崎純心聖母会黙想会
19～25日　サレジオ会黙想会
27～28日　泰星学園職員研修会
29～30日　博多ルーテル教会
9月3～7日　レデンプトール会黙想会
6日　小倉教会学校
8～9日　マザーテレサ共労者会研修と祈りの集い
14～15日　御受難兄弟会
15～16日　マリッジ・エンカウンター
15～16日　御受難会主催定例黙想会
19～27日　パリ外国宣教会
29～30日　泰星学園母の会聖書研究会
30～**10月5日**　聖コロンバン会黙想会
典礼＝歌と祈りの集い
指導新垣壬敏氏
7日

平和を建設する集い

△平和旬間▽
8月15日（水）
午後2時より
講演会
テーマ　象徴天皇制と即位の礼
講師　横田耕一氏（九州大学教授）
場所　渡辺通教会（日本キリスト教団RKB北側）
平和行進　午後4時10分から
連絡先　カトリック福岡正義と平和協議会
森山信三神父（大名町教会）☎092-741-3687
主催　カトリック・プロテタント平和を建設する集い

結婚準備セミナー

福岡会場　9月6日（木）
8日（土）
13日（木）
20日（木）
22日（土）
27日（木）
29日（土）
熊本会場　10月4日（木）
9月3日（月）
5日（水）
10日（月）
12日（水）
17日（月）
19日（水）
26日（水）
10月1日（月）
問合せ　ファミリーセンター
ライル神父
☎092-541-6207

八・九月命日の司祭

＊ジョン・オーサリバン師（聖コロンバン会）一九八三年八月十二日元熊本地区長
＊パチフィコ・マルケシーニ師（フランシスコ修道会）一九八〇年八月八日元待労病院付
＊ミカエル木村義巳師（マリンガ教区）一九六七年八月十四日元馬渡島教会主任
＊エミール・ベノア師（パリ外国宣教会）一九六二年八月六日元門司港教会主任
＊アルベルト・ブルトン司教（パリ外国宣教会）一九五四年八月十二日第二代教区長
＊ピオ・オジョニ師（ミラノ外国宣教会）一九八二年九月十七日ロザリオの園付
＊ユスチン・ヴィオン師（パリ外国宣教会）一九六九年九月二十九日司教館
＊アナトール・ヒューゼ師（パリ外国宣教会）一九四四年九月十五日司教館
＊ピエール・コトレル師（パリ外国宣教会）一九二八年九月三日熊本地区で宣教

教区「信仰教育委員会」主催

教会学校リーダー研修会

日時　8月9日（木）・10日（金）
両日共午前10時から午後4時まで
場所　カテドラル・センター4階
指導　山元　真神父
参加費　1日 1,000円（お弁当代は別）
内容　1.教会学校での諸問題
2.カリキュラムと教材
3.「子どものミサ」について
4.新しい典礼文　理論と実践
問合せ・申込み先
福岡司教館内　信仰教育委員会
山元真神父　☎ 092-522-5139

新聞に投稿された読者からの記事

新聞に投稿された読者からの記事は、私にはたいへん勉強になります。中でも、十七歳の学生の問題には考えさせられました。

『真面目な、いい子』

「僕は中学生の頃、よく、真面目だといわれました。僕自身規則は絶対に守るべきだと思っていました。学校には『くん』『さん』をつけて友達を呼ぶ規則でした。だから、『橋本くん』と呼ばないかぎり、私は返事をしないようにしたこともありました。平気で規則を破る者は厳しく罰せられるべきだとも思いました。僕はいつもいい子でいたかったし、先生に褒められるのは喜びであり、叱られるのは恐怖でした。そのため、責任転嫁もやりました。そうして、僕は優等生になりました。しかし、僕は友達に嫌われました。辛く、寂しいものでした。先生、僕は悪いのでしょうか」

自分の子どもが優等生になる事を願っている親御さんは多いようです。しかし、親の夢に抑圧され、子どもの人格の発展が妨げられることがありうるのです。子どもの心にある新鮮な望みを押しつぶす事のないように、気をつけたいものです。

ここに、いま一つ女子高校生の『心の糧を求めよう』という心ひかれる記事があります。

「『わぁーきれい！』少女は真っ赤な夕焼けに感嘆しました。すると『そんなことはいいから、早く、塾に行きなさい。』と母親の声。なんと悲しい会話でしょうか。夕焼けを見た彼女の目には一種のやすらぎがありました。なのになぜそんなことになるのでしょう。

子どもが理解できないと嘆く母親。素直さに欠け、愛に飢えている子供たち。私たちは何かに追われているみたいです。実体のない何かに。そして、感動する機会がますます少なくなっています。

人は他の動物と違って、心を持っています。その原点に立ち戻って、心の糧になるものを求め、大切にすべきではないでしょうか。」

子どもは親の言うことを聴かねばなりません。けれども親も子どもの心を大切にし、自分主義に支配されないように反省すべきです。

優等生はかわいそう！

徳山　登

ところで信仰生活においても優等生になりたいという誘惑があります。福音書の中に金持ちの青年のエピソードがあります。彼こそ真面目で、小さい時から、神の掟を完全に守っていました。まさに優等生です。ところがキリストさまから、《私についてきなさい。》と呼ばれると寂しげに離れていきました（マルコ一〇・一七～二二）。

また律法を厳重に守っていることに自慢していた、律法学士の傲慢な態度を戒めて、イエズスは次のように祈ります。《父よ、あなたを褒め讃えます。これらの事を知恵のある者や賢いものに隠して、おさな子のようなものにお示しになりました》また《おさな子のような心を持たない人は神の国に入れない》とおっしゃいました。

イエズスが、福音宣教の協力者としてお求めになるのは、優等生信者より、いきいきしたキリスト信者、すなわち神様から深く愛されているという確信の故に、感謝の内に明るく生きているキリスト信者でしょう。

「共に暮らしやすい人はどんな人ですか」というテーマでの話合いでこんな発言がありました。「自分を犠牲にする事を理想にしている人がいます。それは立派な事かも知れません。でも私はそんな人とは暮らしたくない」この言葉にも考えさせられます。

結局自分のありのままを謙虚に認め、日常の生活を感謝して受け、感謝と喜びの内に生きて行く姿こそ証しとなりましょう。

（パリ外国宣教会八王寺教会）

研究会

テーマ　「私の生きる道は・・・」
結婚生活・独身生活・修道生活
とき　8月10日（金）午後3時集合
8月12日（日）昼食後解散
ところ　コンベンツァル聖フランシスコ会湯布院修道院（大分県）
指導　御聖体の宣教クララ会修道女
対象　未婚の女性信徒
費用　10,000円
締め切り　8月5日（日）
申し込み・問い合わせ先
〒840-02　佐賀県佐賀郡大和町川上31-2
御聖体の宣教クララ会
☎ 0952-62-3434

編集室から

▽厳しい熱さが続いていますが、読者の皆さまいかがお過ごしでしょうか。先の大雨で被害にあわれた教会の皆さまにはお見舞申し上げます。

さて、教区報九月号は、昨年同様お休みさせていただきます。編集員一同十分な休養を取り、十月号に備えたいと思っています。どうぞご了承下さい。

▽「カトリック・フェスティバル」が近づいてまいりました。準備に奔走しておられる皆さまに感謝で一杯です。

それにしても北九州地区信徒のバイタリティーに感心します。もっとも、信徒の力が強くなりすぎるのではと真面目に心配されている方もおられるようですが、今までが弱すぎたのですから……。

小さな人々の祈りに支えられた「フェスティバル」でありたいとしきりに思うこの頃です。

▽ほんとのところ、夏に海で泳ぐのは好きではないし、山に登るのも苦痛なのです。でもこの厳しい熱さそのもので自分が生きていることを実感できる幸せ者ではあります。それぞれの夏をお過ごし下さいますように。

（W）

かのときのことのは

森山　敬三

『心』に所収。あけ方、横浜の港がひらけてきたとき、船に乗っている人たちが、富士を見ようとして発した言葉。本名はラフカディオ・ハーン、明治二十八年帰化した。その前、松江で日本人と結婚した。この書は、論文や短篇小説によって、日本人の心、とくに神道と仏教について、まざまざと実感できるように描写され、改めて神道との血のつながり、位牌の貴さ、などを考えさせられる。マッカーサー元帥の秘書であったフェラーズ代将は、ハーンの熱心な愛読者であったので、彼の日本政策は成功したといわれる。また東大の英文学講師を辞任、その後任は漱石がなったが、学生はハーンのほうを好んだそうである。彼は、アンチ・キリストにもかかわらず、日本をこよなく愛し、日本学の基礎をつくった。

ああ、あなたたは、目のつけどころが低い。
もっと上を見よ。もっと高いところを。

小泉　八雲

中央出版　福岡支部
▩キリスト教関係、書籍、家庭の友
▩典礼聖具
▩ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
☎ 092-552-8195 Ⓕ 092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
(株) メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJKI 藤木工務店
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

カトリック福岡教区報

平田司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—522—5138
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

島本大司教講話

信徒は福音の共同の担い手
現代女性の役割説く

「信徒は司牧の対象ではなく、福音の共同の担い手です。キリストの生き方に倣い、人との関わりを大切にして周囲に喜びを生み出していくよう召されています」。信徒の生涯養成が叫ばれている折りから、昨年に続き、福音宣教夏季研修会が開かれ、講師の島本要長崎大司教は信徒の積極的な使命について明確に語った。

参加者に深い感銘を与えた島本要大司教

七月二十一日・二十二日の両日、長崎教区の島本要大司教を迎えて、福岡黙想の家（宗像市）を会場に、福岡地区信徒使徒職協議会（深堀純会長、顧問司祭・山田成章師）の主催で福音宣教夏季研修会が開かれた。

今年の研修会には信徒、司祭、修道者六十五名が参加。「今、キリスト者であること」のメインテーマのもとに、講話と分かち合いを通して、キリストの福音の証人として現代をどう生きていくかを学んだ。

島本大司教は、「キリスト信者というのは、洗礼と堅信を受けて、一人ひとり名指しで神から呼ばれ、正義と愛の支配する神の国を地上に実現するよう社会に派遣されている者です。大人も子供も、老人も青年も、健康な人も病気の人も、今の生活の中で、それぞれがイエスの愛を実現するのです」と、信仰が生活と遊離することのないようさとした。

「神は人類を特に女性に委ねられた」（ヨハネ・パウロ二世）の言葉で始まった「現代の動きと女性の役割」と題した講話の中で大司教は聖書の人間観・女性観を示した上で、「人命、人権、自然のいのちを充分に尊重しない寒々とした、ぬくもりのない今日の社会は、あまりにも物質中心、強者の論理に支配された男性主導型社会がもたらしたものです。このような社会に人間性とぬくもりを取り戻すには、この男性型社会が排除してきた女性的価値、すなわち愛情、感受性、やさしさ、思いやり、いのちに対する関心、宗教心を社会生活の仕組の中に浸透させることが必要です」と語った。

男性参加者の声

「男性主導型社会が、人類を存亡の危機に立たせている」と聞いて、正直ショックを受けました。

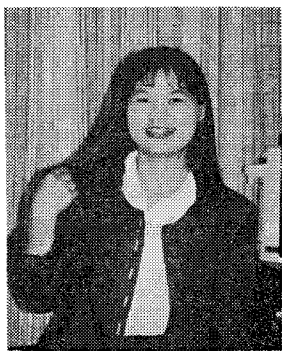
次のように述べています。

一時間の授業のうちに、一度や二度、一息入れる時間がある。先生もチョークで、寅さんこと渥美清の落ちこぼれ少年時代について

フェスティバルのキャッチフレーズ

こころで握手　ふれあったら GOOD！

豊かな交流を期待



「直感です」と語る作者の床嶋範子さん

フレッシュな感覚でと募集されていたカトリック・フェスティバルのキャッチフレーズに小郡教会の床嶋範子さんの『こころで握手』が採用された。

筑後ブロック青年の集まりで床嶋さんは、「みんなが持っているこころの表情は握手によるスキンシップだと直感」したそうだ。

教区青年委員会から他の三つの候補作品とともに企画運営委員会に提出された『こころで握手』は年配の委員の心にもフィット。圧倒的多数で選ばれた。

今年五月の日・韓カトリック青年交流会で、韓国の青年たちの生き生きとした信仰に感じるものがあったという床嶋さんは、「フェスティバルでは小教区外の人たちとの交流ができたら」と期待を寄せる。

サブタイトルとして選ばれた「ふれあったらGOOD」は、若手司祭の下町豊重師（小郡教会主任）のグッドアイデア。

今月のみことば

空の鳥を見なさい
（マタイ6・26）
伊万里教会
C・ガッザルディ神父

カトリック・フェスティバル

チラシでPRを

記念テレフォンカード好評発売

一カ月後に迫った『カトリック・フェスティバル』の運営面の詰めを行う企画運営委員会と実行委員会の合同会議が八月十九日、会場の明治学園で行われた。

会議に先だってコンサート会場の講堂、様々な展示や相談コーナーの教室、バザー、お祭り広場、子供の広場の会場として使用されるグラウンドなどを見てまわった。

議事にはいって、各団体への教室の割り振り、バザーテントの位置などを確認した。

ミサは、グラウンドで行い教区在住の複数の外国人が自国語で共同祈願を捧げることになっている。雨天時の会場は、主会場の講堂と予備の体育館の二カ所に分かれる。

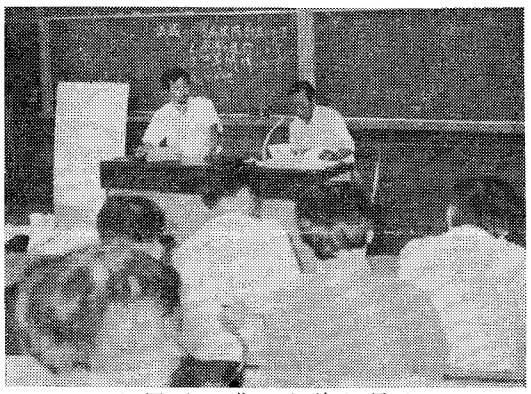
本部財源のために計画されていた記念テレフォンカードがこのほど完成。カテドラル、崎津教会、カルメル会作の聖母子像の三種類あり50度で千円。信徒協を通じて販売される。

ポスターは、新進のグラフィックデザイナー高木修氏（島崎教会所属）が担当。斬新な図柄は、専門家によって評価されている。

フェスティバルの内容、会場までの地図を盛り込んだチラシも出来上がり、小教区、学校、社会福祉施設関係に送られる。

新谷のり子さんのコンサート会場は収容人員が一三〇〇名と限られているため、チケットの購入はお早めに。新谷さんは日本国内はもとより、外国でもコンサート活動を行っており、「カトリック・フェスティバルを楽しみにしています」と張り切っている。

教室は、土足禁止となっており、各自スリッパとビニール袋が必要。会場ではスリッパの販売もある。



企画の調整を行なう委員たち

時の話題

新富康央

「場」を得て子供は光る

夏休みどうだったでしょう。ヤレヤレという親、短かったなという子供、といったところでしょうか。夏休みというと、なぜか映画「寅さん」シリーズを連想するのは私ひとりではないでしょう。その山田洋次監督は、『寅さんの教育論』（岩波ブックレット）の中で、寅さんこと渥美清の落ちこぼれ少年時代について次のように述べています。

一時間の授業のうちに、一度や二度、一息入れる時間がある。先生もチョークを置いて言葉を止める。そうすると、生徒は一斉になんとなく渥美少年のほうを振り返ってみる。そのとき、渥美少年の「持ち場」が来る。あの四角い顔でニコニコッと笑う。そうすると、なぜかみんな元気が出てきて、勉強に戻る。彼は成長してからも俳優として、この役割を社会の中で果しているといえます。

もう一つ。横綱千代の富士は「強さの秘密は」というインタビューに答えて言った。

「横綱だからです」（慌ててアナウンサー）「いや、強いから横綱になったのでしょう」「いいえ、横綱だから強いのです」。このやりとりの中で、千代の富士は、横綱という持ち場（ポジション）があるから、人は強くなろうとするのだ、ということが言いたかったのです。

「昼螢　黒く固まり　唯の虫」（阿部みどり女）夏の夜空を焦がさんばかりに乱舞する螢――まさに夏の夜の饗宴です。持ち場を得て子供も光るのです。その反対に、持ち場を持てず、葉陰に黒々と身を寄せ合ってうごめく昼螢の、なんとあわれなことでしょう。

人は持ち場（ポジション＝社会的役割）を得ることによって、輝こうとします。子供はどの子も、社会において「持ち場」を得るだけの資質を付与されています。子供たちは神様から私たちに預けられた宝なのです。子供が社会における持ち場を築けるように、長い目で見つめ――見つけ――見まもってやる三つの目が親でしょう。子供たちの資質を発掘し、持ち場を与え、それを伸ばす役目を親は、神様から委託されている。

「麦の一粒地に落ちて死なないならば、ただ一粒にとどまるが、地中にて死ぬと、百倍の実を結ぶ」。この言葉は家庭でも実現できるのです。

（佐賀大学助教授　佐賀教会）

日本人のこころに呼びかける典礼を

合同典礼全国会議

「インカルチュレーション（土着化）の問題と葬儀・結婚の儀式書の改訂」をテーマにした典礼研修会が、去る七月九日から十日まで、福岡黙想の家で開催された。

これは、典礼委員会（委員長・地主敏夫司教）の主催によるもので、全国から担当の司祭や信徒ら約七十名が参加した。

まず、事務局秘書の宮越俊光氏が発題。昨年イギリスで行われた典礼のインカルチュレーションについての学会報告。この中で、典礼がそれぞれの国、民族に息づいたものになるために何が必要であるかと問いかけられたと話し、「日本におけるカトリック教会の葬儀、結婚の儀式書を考えていかなければならない」と述べ、この発題をもとに参加者が意見を交換した。

参加者からは、「日本でも地域差があり、臨機応変さが必要ではないだろうか」との声が聞かれた。

教区典礼委員長を務める松井忠之神父（福岡小神学校）は、「日本においてインカルチュレーション（土着化）という言葉を聞くと即仏教的なものに同化しようと考えがちだが、念頭に置くべきことは日本にあったカトリック的なものであり、キリスト教的精神をいかにして日本の土壌に合わせてゆくかである。今回の研修会はそのような問題提起になった」と感想を語っている。

平田司教黙想指導

参加者に絶えざる祈りの大切さ強調

猛暑にうだる七月二十八日から二十九日にかけて、福岡教区長平田三郎司教指導の黙想会が、福岡黙想の家で開かれた。

司教による初の直接指導とあって黙想の家は全室満員となり、申し込みを断るほどの盛況。

日ごろ〝司教様〟を身近に感じる機会の少ない信徒にとって、この黙想会は絶好のチャンス。特に司教の出身地である今村教会から多数参加。社会福祉法人北野学園からも職員の参加があった。

司教は「秘跡に生きる」のテーマのもとにカトリックの信仰の本質を分かりやすく講義し、「絶えず祈ること」を力説した。

参加者の一人は「お話を聞いてイエズス様が身近に感じられるようになりました。この気持を忘れないようにします」と喜びを語っていた。

青少年全国会議

四名の司祭が発題　活発な意見の交換

去る六月五日～七日、青少年委員会（委員長・三末篤寅司教）主催の全国会議が札幌教区の藤学園セミナーハウスで、全国から約四十名の参加者を集めて行われた。

今年は「青少年と教会」というテーマで、教会における青少年の問題と青少年自身の抱える問題について、青年と担当司祭の代表者が発題し、分科会、全体会議で活発な意見交換を行った。

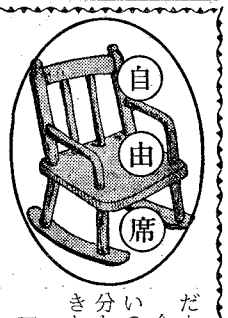
担当の青木悟神父（帯山）は「今会議で問題提起されたことを、具体的な関わりの中で見つめたい」と語った。

みちくさ

「近頃は事故にあったり、病気になったりで全然いいことないんです。カトリックには御祓いのようなものはないのですか」と、教会には日頃ご無沙汰の若者が真顔できいてきた。こちらが唖然としていると、「神社で御祓いをしてもらっていいですか」とたたみかけてくる▼「教会に来ないからそんなことになるんだ」と叱り飛ばす人もあるらしいが、話を聴いているうちに、教会には、様々なことで苦しむ人への公的祈りが十分に用意されていないことを残念に思った。御祓いなど迷信だとかたずけられてきたためかも知れない。もちろんこの頃は「厄年の人のために」という嬉しい祈りがのっている『祝福の本』もある▼外国の教会に御祓いのような儀式があるかどうかしらないが、日本の社会のさまざまな宗教儀礼に現実の生活の匂いを感じるのである。ほんとのところは、「水子供養」のお地蔵さんに託す人々の心が哀れであると同時に、このような形で自分の心情を表わすことのできることを羨ましく思うのである▼かの若者には、「いつでも喜んで祈ってあげるよ。教会の祈りはもっと効き目があるのだから」と答えておいた。そして「カトリックのお祈りは、不幸な目に合わないようにという祈りではないんだ。そうじゃなくて、不幸を乗り越えることのできる祈りなんだ。人生、災いがないなんてありえないのだから」と付け加えると、「よく分かった」と言ってうなずいた▼先祖の霊のたたりなどと称して大金をはたかせる宗教のペテンに多くの人がまんまとひっかかっている昨今、教会は、日本人の日常的な悩み苦しみからの開放の祈りの求めにどれだけ真剣に応えているだろうか。教会には他の追随を許さないキリストの十字架の秘義がある。司祭の特権は金儲けのためではなく、苦しむ人人への奉仕のためであることを忘れたくない。

1989年度 小教区納付金一覧表

No.	小教区	信徒数	教区費	神学校後援費	法人費	児童福祉献金	広報献金	聖ペトロ聖座談会	移住献金	世界宣教の日献金	宣教地司祭育成献	聖地献金	福音宣教特別献金	合計
1	茶山	524	451,809	230,300	490,575	18,240	17,225	32,885	20,336	19,397	17,197	21,533	13,866	1,333,363
2	大名町	1,185	1,538 300	1,582,000		168,100	135,750	99,500	132,150	104,605	126,500	72,250	98,560	4,057,715
3	能古島									4,375				4,375
4	二日市	407	417,200	251,000	637,140	64,965	22,714	54,723	20,000	36,000	31,000	25,530	19,200	1,579,472
5	箱崎	290	360,000	150,000		20,000	20,000	20,000	10,000	20,000	15,000	15,000	10,000	640,000
6	笹丘	667	541,832	548,503		8,810	8,100	27,500	7,230	12,410	12,855	6,000	5,000	1,178,240
7	光ヶ丘	997	961,154	657,810		64,610	28,990	45,400	33,890	39,656	34,993	30,570	33,200	1,930,273
8	本郷	646	536,213	184,720		34,900	28,428	68,350	30,630	31,650	30,130	21,560	37,160	1,003,741
9	今村	1,007	470,000			83,891	100,033	220,042	84,897	230,300	131,621	60,085	87,800	1,468,669
10	浄水通	321	361,051	214,400		20,000	15,285	20,000	20,000	20,000	20,000	19,856	20,000	730,592
11	古賀	603	796,000	102,144		90,000	57,906	89,950	73,291	64,589	56,728	30,000	0	1,360,608
12	久留米	1,067	941,802	400,000	1,483,758	49,584	38,000	60,786	49,854	48,835	44,270	49,075	41,752	3,207,716
13	馬渡島	328				17,815	13,715	17,500	12,320	14,750	13,850	13,000	11,000	113,950
14	美野島	135	131,000	78,300		4,000	11,050	33,300	8,350	17,200	9,700	7,000	9,350	309,250
15	西新	1,303	610,220	772,700	520,245	92,660	54,240	132,923	62,403	76,131	76,720	50,000	42,523	2,490,765
16	小郡	347	243,880	159,300	787,800	20,932	17,400	13,024	12,038	15,480	17,010	10,000	11,620	1,308,484
17	大楠	143	164,953	52,450	900,240	6,595	9,664	7,310	6,481	10,084	21,086	7,892	12,358	1,199,113
18	大牟田	196	226,553	132,000	468,780	21,191	23,533	18,319	15,675	21,003	19,700	9,600	14,085	970,439
19	吉野		0	0	592,650	0	0	0	0	0	0	0	0	592,650
20	老司	577	651,551	281,600		43,423	20,329	102,856	36,670	24,977	54,243	31,752	22,773	1,270,174
21	高宮	570	509,000	198,000		55,000	50,000	65,000	40,000	49,000	60,000	58,091	15,000	1,099,091
22	呼子	351	214,700	50,000		22,455	12,971	40,297	13,725	11,304	13,805	5,280	10,672	395,209
23	松島		0	0		10,400	5,000	5,500	5,400	5,500	8,000	5,000	10,000	54,800
24	吉塚	680	491,900	238,400		38,500	26,000	28,000	23,000	28,000	25,000	5,000	21,000	924,800
25	志免		100,000	83,265		14,276	7,360	7,199	6,313	5,908	7,901	1,000	5,000	238,222
26	伊万里	223	250,000	157,800		9,830	4,727	78,000	10,250	9,395	9,122	5,000	8,930	543,054
27	唐津	375	229,126			13,330	10,330	10,632	8,600	11,900	10,450	11,215	8,751	314,334
28	鹿島	86	34,416	9,550		5,100	1,600		1,420	3,100	2,470		1,600	59,256
29	佐賀	650	560,413	256,760		55,844	15,000	70,000	10,000	40,000	15,000	3,000	15,000	1,041,017
30	武雄	79	46,000	11,950		41,930	1,850	3,800	1,900	3,950	2,500	2,000	3,880	119,760
31	多久	116	50,044	30,000		19,750	3,264	20,000	2,764	3,455	1,825	2,000	2,850	135,952
32	鳥栖	298	224,717	66,700		41,726	12,817	16,000	12,200	12,000	15,736	16,000	13,065	430,961
33	八王寺	200	238,000	170,000		13,337	8,049	13,503	5 495	10,050	21,717	8,630	2,000	490,781
34	飯塚	255	230,000	50,000		10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	5,000	10,000	355,000
35	小倉	2,500	1,175,000		1,325,970	87,636	64,549	79,358	67,524	67,860	72,990	70,000	54,002	3,064,889
36	黒崎	1,334	650,000	360,000		95,500	59,643	116,000	67,442	75,526	103,000	64,228	56,973	1,648,312
37	水巻	594	200,000	184,560		50,000	21,000	58,098	29,985	44,100	33,257	10,000	31,130	662,130
38	門司	388	322,000	220,000	100,000	39,000	15,000	12,000	20,000	20,000	20,000	20,000	10,000	798,000
39	門司港	162	128,000	50,000		21,132	12,804	17,300	18,942	38,667	28,090	15,205	20,735	350,875
40	直方	113	128,900	124,200		4,370	5,480	25,150	6,700	4,736	6,135	5,631	5,070	316,372
41	新田原	1,809	1,100,000	500,000		43,201	41,933	37,270	39,915	42,826	38,849	18,782	35,724	1,898,500
42	田川	168	46,030	15,200		16,545	10,100	10,000	15,900	10,000	5,000	5,000	5,000	138,775
43	天神町	310	408,485	118,039		29,945	45,000	80,000	31,345	29,480	36,166	87,705	24,000	890,165
44	戸畑	791	751,000	731,670	2,010,120	109,598	30,308	47,883	53,305	44,431	30,670		30,246	3,839,231
45	若松	330	230,000	80,000	646,380	8,600	8,600	6,500	10,500	11,080		11,000	13,000	1,025,660
46	湯川	1,142	566,200	200,000		28,684	29,926	31,549	30,629	26,733	33,449	24,266	35,977	1,007,413
47	行橋	586	570,000	250,000	1,064,000	16,513	16,207	21,474	18,100	18,328	16,057	10,600	14,101	2,015,380
48	荒尾	130	169,000	93,000		12,000	11,000	11,700	32,300	11,800	10,000	3,350	12,300	366,450
49	人吉	194	307,328	167,000		13,767	11,584	15,520	15,040	10,860	12,500	5,000	14,330	572,929
50	本渡	100	200,000	20,000		17,627	3,660	8,658	10,490	8,790	9,980		4,415	283,620
51	健軍	494	453,595	16,200		55,900	18,000	34,000	17,000	30,000	21,350	7,810	20,000	673,855
52	菊池	70	62,000	6,000		7,000	6,000	6,000	6,000	6,000	5,000		6,000	110,000
53	水俣	101	143,000	85,000		40,000	6,500	6,500	6,500	8,500	6,500	6,500	6,500	315,500
54	帯山	335	410,000	12,000		8,690	16,392	12,641	11,000	8,375	9,541	9,000	13,100	510,739
55	大江	348	248,263	73,430		25,230	14,000	20,000	15,000	20,000	20,530	11,120	12,000	459,573
56	崎津	279	300,000	100,000		31,000	20,800	32,350	25,000	25,000	25,000	5,000	21,160	585,310
57	島崎	368	470,000	178,766		41,000	30,000	57,500	38,100	27,500	35,500	39,200	24,500	942,066
58	玉名	111	160,000	105,523		15,500	15,000	81,000	13,000	18,500	17,000	11,530	11,000	448,053
59	手取	1,191	1,345,000	480,000		120,000	80,350	165,036	98,000	113,200	190,840	69,000	78,441	2,739,867
60	八代	128	200,000	50,000		12,000	8,300	20,346	25,700	15,400	21,900	14,000	10,000	377,646
61	武蔵ヶ丘	406				32,573	34,234	43,473	38,904	20,015	13,500		20,021	202,720
	合計	29,108	23,325,635	11,340,240	11,027,658	2,164,205	1,427,700	2,489,605	1,549,603	1,772,711	1,758,933	1,131,846	1,207,720	59,195,856



聖霊による刷新の黙想会に参加して

日向　常子

黙想会は、熊本市内の司祭と信徒たちが、祈りと力を合わせて企画し、信徒協の後援の下に手取教会で行われました。ご復活祭に続いて四月二十日から聖霊降臨に向かい、七週間にわたるものでした。

この黙想会は、使徒たちのあの聖霊降臨の時の聖霊の力と恵みを、今新たに体験したい！。『洗礼・堅信・聖体』の秘跡の恵みと力が、証し人としての私たちの生活により一層生きてくるように……と念願したものです。平田司教様もお喜びになり祝福してくださいました。

「名指しで呼ばれたわたし」で始まり、最終は「あなたは、わたしの証し人」で派遣のミサ。各週のお話は、地元の五人の司祭方と宮崎の岡道信師、福岡のマテオ師。毎週、信徒による体験の証しがあった。

毎日テーマの流れに従って聖書を読み、黙想を重ねたこの七週間をかえりみる時、あきらかに主ご自身の導きを感じました。この黙想会の頂点である「満たしの祈り」の日には黙想の家の畠師、ガブリエル師も応援にかけつけてくださいました。

参加者は、午前と夜を合わせて一八〇名、全期間通した人は一五〇名。一人ひとりが、主との新しい関係を体験しました。「聖書を読むのが楽しみになった」という声がたくさん聞かれました。

最後にジョー神父は「黙想会は終わったのではなく、出発！」「名指しで派遣された！」と励ましてくださいました。

今後は、各教会で祈る集いの交わりを持ち、聖書の分かち合いに力を入れていきたい。（手取教会）

周りの力に支えられ青年ワークキャンプ

貝沼　茂

八月二十五日、二十六日福岡ブロック青年会は能古島でワークキャンプを行いました。

当初は島内にある施設、『ひまわりの里』での一日ボランティアを予定していましたが、連絡の不徹底などの不手際もあって、能古島教会の清掃とルルド造りへ変更になりました。

ミサ後、宿泊場所のいろり村に移動。青年が作ったカレーや、能古島の信者の方々からいただいた差し入れを食べ、いろりを囲みながら、明日の作業の打ち合せを（宴会を交えつつ）夜遅くまでしました。

二日目は教会の清掃作業。聖堂のワックスかけや周りの草などを片付け、太陽の中で汗だくになりながら一日を過ごしました。

肝心のルルド造りの方は、やはり一日では無理ということで場所の選定と方法などを話し合うだけにとどまってしまいました。

今回のキャンプは青年会だけの行事でしたが、陰で神父様や各教会の信者の方方、とりわけ能古島の信者の皆さんに手伝って頂きました。そのおかげで、より実り多いものになったと感じます。しかし、私たちには、ルルド造りなどやり残したこともたくさんあります。私は、ワークキャンプで学んだことがこれらの実現のためにきっと役立つと思います。

そして、このような活動は一回限りのものではなく、続けていけばいくほど、その実りは大きくなると思います。

ワークキャンプを機に、青年会活動がもっと活発になればと思います。（大名町教会）

祈りの日へどうぞ！

日　時　毎週火曜日　午前11時～午後3時30分

内　容　小さな講話、黙想、ロザリオ、ミサ、晩の祈りで終わります。

※ 簡単なお食事を用意します。前日までにお申込みください。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社

熊本市島崎4丁目2ノ68

電話　096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち

草苑 (SOU-EN)

ご葬儀

木下株式会社

TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

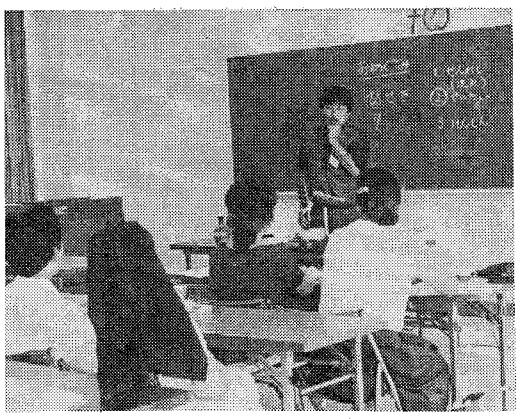
区
地学
岡会
福教

リーダーたちが研修会
他小教区から学び合う

かねてより、福岡地区の小教区で現代っ子の信仰教育にたずさわっている教会学校のリーダーたちから要望されていた研修会がこのほど開催された。

何をどのように教えたらいいのか、その具体的内容、方法について互いに情報を交換し、学び合った参加者のレポートからは有意義な研修会であったことをうかがい知ることができる。

第一回福岡地区教会学校リーダー研修会が、八月九、十日の両日、大名町カテドラル・センターで開かれた。



「子供たちに楽しさを」と話す山元師

厳しい暑さの中、山元真神父（小倉教会）、松井忠之神父（小神学校長）の指導のもとリーダー三十数名が参加。より豊かな教会学校づくりのため、様々な情報交換をしながら諸問題を話し合った。カリキュラムの作り方、教材の使い方など、それぞれが自己流で教えている中で、山元神父の『カリキュラムに遊びの日（コイノニア＝一致の意）を入れることによって、子供たちが生き生きとしてきた』などの体験談に、学ぶことの多い研修会だった。

話し合いの中では、現在直面しているリーダーの悩みに、経験豊かなリーダーのアドバイスがあったりして、有意義な情報交換ができた。

信仰教育の専門家でない家庭の主婦やサラリーマンリーダーがいろいろな問題をかかえながらも、子供たちに教会に来る喜び、待っていてくれる人がいる喜びを伝えようと真剣に学び合った。

小神学校で未来の司祭たちの指導をしている松井神父は、『典礼によって、人は育てられます。子供の時からの信仰教育、特に家族そろっての祈りが大切です』と、子供の時からミサに参加して《聖なる時》を体験させていくことで、神さまを感じる心が育っていくことを強調した。

最後に参加者全員でミサを捧げ、世界中の子供の平和を祈った。

松本師の一日セミナー
若者の心を捉える

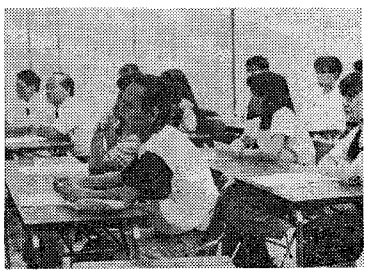
カテドラル

松本三郎師

自分たちの信仰を見直そうと、青年たちが八月五日、カテドラルで一日セミナーを開いた。企画した大名町教会の青年の呼び掛けに応えて、福岡ブロックの青年ら五十名余りが参加するほどの盛況ぶりだった。

講師は、カトリック中央協議会企画推進部長の松本三郎師。

『人間関係とコミュニケーション』のテーマでは、自分の美点を自分で確認して、神がどれほど人間を愛しておられるかを演習をした。参加者は、「いかにもその人の話を聴いているようで、実はどれほど聴いていないかに気づかされた」「教会共同体を作り上げる大切な方法だと思う」と感想を述べていた。



第二のテーマは、『教会共同体と信徒』。講師は、第二バチカン公会議以降の教会像や信徒の教会への関わり方を説明。教会を「神の民」として捉え、信仰が喜びであることを強調した。

一日研修会に参加した青年たちは、「教会に対するイメージが変わった」「これまでは、信者の義務として感じていたものが、むしろ喜びを伴った自発的な行為として受け止められるようになった」と感想を語る。教会が本来持つエネルギーが青年たちの心を捉えたようだ。

こえが聞きたい シリーズ

写本拡大づくり⑤

弱視者と共にある喜び

書くのは苦手です。でも弱視の人々と共にありたいのです。どうすればいいですか。

十年前、拡大写本を必要とする子ども達の存在を知りました。私自身視力に弱点があるため、見えていても充分には見えないことの不自由さ、淋しさを知っています。それで一も二もなく拡大写本づくりに参加しました。一冊一冊と大切に書いてはきましたが、視力の関係でこの二・三年は全く書いていません。

でも神に感謝！発足当初数名だった「はなびら会」が、十年の歳月を経て七十五名を抱える会として成長させていただいている今、書くこと以外にも大切な仕事が一杯あります。

私の現在の役割は、地域の拡大写本づくりのボランティアの育成指導です。海星女子学園、筑紫女学園、雙葉学園、明光学園、そして今なお携わっている福岡中央高校と、学校サークルなどを駆け回っています。今年五月には、福岡市の拡大写本ボランティア会も発足し、指導者不足のため掛け持ち講座で大忙しです。

書くこと以外の会の活動内容は①お知らせ係②会計③写本の校正④製本・送本作業⑤資金作り（賛助会員への働きかけ、バザー、ゴマ販売）⑥地域への働きかけ、盲学校訪問などなど。その働きは多様に広がり、みことばに裏打ちされたものを感じます。

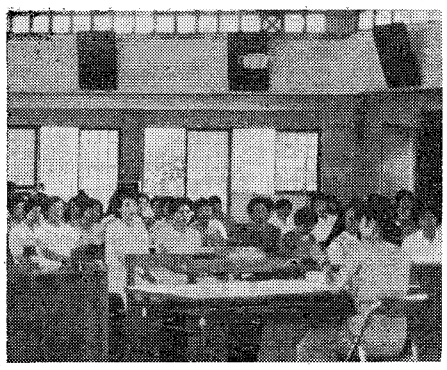
「働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。一人一人に〝霊〟の働きが現れるのは、全体の益となるためです」（コリントの信徒への手紙一12・6～7）。

まず、はなびら会に入会なさって下さい。あなたのタラントに合った役目をご一緒に探していきましょう。そして弱視者と共にある喜びをもって、ノーマライゼイション（障害者や老齢者と共にある）社会の実現を目指していきましょう。

回答者　饗庭良子（はなびら会員）

新田原教会

『花の会』創立20周年
桑野医師を招いて講演会



講演を聞く会員たち

新田原教会を支える大きな働き手となっている『小さき花の会』（婦人会）が今年で創立二十周年を迎えた。

これを記念して七月八日、「女性の健康管理」と題した講演会が催された。講師は、桑野貴己子医師（小倉記念病院産婦人科）。

カトリック医師としての立場から、女性の各年齢に沿って起こり得る主な産婦人科の病例をあげて、具体的な症状と対処の仕方を分かりやすく説明。「普段おろそかにされがちな何気ない症状が女性の健康管理にとって大変重要です」

藤房神父のこぼれ話

漁師とスカプラリオ

夏が終わり西風が吹き始めると思い出すことがあります。それは、私が小神学生の頃に聞いた話です。

五島のある信者のお父さんと子どもが漁に出かけました。ところがにわかに空の雲行きが怪しくなって、突風で船がひっくり返ってしまいました。親子は互いをロープでしばり合い、ながいこと励まし合って漂っていましたが、やがて二人とも意識を失ってしまいました。

二人が意識を取り戻したのは、馬渡島の信者の家の畳の上でした。

幸運にも馬渡島の海岸に流れ着き、信者の家で手厚い看病を受けることができたのでした。

元気を取り戻した父親はまわりの人たちにつぎのような話をしました。

「私たち親子は、初聖体のときにいただいた聖母マリア様のスカプラリオを肌身離さず胸につるしていますが、実は、海に漂っていたとき、波が顔にかぶさってきたとき、このスカプラリオが口元に貼り付いて、私たちが海水を飲まないようにしてくれたのです。思うに私たちはこのスカプラリオで救われたのです」。

母なるマリア様はかねがねご自分に信頼している人を助けてくださるのです。

スカプラリオを身に着ける習慣は、一二五一年七月に聖母マリアがカルメル会の聖シモン・ストックに御出現になったおり、彼に渡され、身に着ける人に救霊を保証されたことに由来しています。

熊本地区子供練成会

楽しさいっぱい
友だちいっぱい

熊本地区子供たちの練成会が七月二十七日から二十九日にかけて、菊池カトリック教会と菊池聖母幼稚園を会場に行われた。小学三年から中学三年まで約七十名が参加した今年のテーマは「信仰体験を子供に伝える」。

期間中、共にミサに与り、祈り合い、食べ、仲間として過ごすことで、信仰生活を学ぶ体験をしたことは、子供たちの心に大切な思い出となったようである。参加した子供たちは「楽しかった。友達が出来た」と口々にその喜びを表していた。

指導した青木悟神父（帯山）は「熊本地区の信徒の皆さんの協力ですばらしい練成会が出来ました。神様の思し召しによる召命の芽生えを期待しています」と語っている。

アウグスチノ祝う

ミサとパーティー

笹丘教会

聖アウグスチノを祝うミサと集いが八月二十六日、笹丘教会で行われた。

平田司教は説教の中で、聖人の母聖モニカを思い起こさせ、子供の信仰を培う母親の役割を強調した。

ミサ後に行われたパーティーでは、長崎からこの日のために来福した元管区長のハトリック師を交えて、多くの信徒が歓談した。

BOOK 読みま専科

☆おばあさんのすーぷ
絵　水野二郎 著
文　林原玉枝 著

トントントン……誰かが戸をたたきます。この本の中では、おばあさんの家を訪れた、きつねやくま、森の小さな動物たちが、スープを分けあいクリスマスの夜を祝います。神さまは、私たちのことを深く愛してくださるばかりかキリストという姿を持ってご自身をも与えてくださいました。《私が愛したように、あなたがたも互いに愛しあいなさい……》与えられた愛の喜びを隣人と分かちあう時、その喜びはもっと大きく豊かになることを、陽気でほのぼのとした絵を通して語っています。内容は特別クリスマスを強調したものでなく、時期を問わずおすすめできます。

女子パウロ会　八八〇円

☆断　想
―足元を深く掘れ―
奥村一郎 著

孔子・老子・道元・八木重吉の詩などを随所に利用しながら、聖書とキリストの教えについて語られている。

八十一の短編を収録。信仰や思考のあり方について、多くの示唆を受けることができる。著書には他に「祈り」「主と共に」「友の祈り」「愛ゆえに生く」等がある。

女子パウロ会　一、二〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―711―0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 他
理 影 の
大 御 そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

十月の行事

※ゴチックは司教日程

1日　第二回福岡地区教会学校リーダー研修会（大名町教会）午前10時

7日　聖フランシスコの帰天ミサ（高宮教会）午前9時

典礼＝歌と祈りの集い（福岡黙想の家）指導新垣壬敏氏

8～12日　教区邦人司祭黙想会（福岡黙想の家）

9日　井手信医師を迎えて「生命の尊さを考える」集い（カテドラル）午後1時30分

14日　福岡地区信徒協

21日　岩橋神父の模擬教会学校（戸畑教会）

22日　北九州カテキスタ研修会（戸畑教会）

28日　二日市教会堅信式 午前9時

『福音の視点から政教分離を考える』＝畠基幸神父（カテドラル）午後2時

11月3日　召命の集い（サン・スルピス大神学院）

11日　福岡教区カトリック・フェスティバル（戸畑明治学園）午前10時

福岡黙想の家

9月30日～10月5日　聖コロンバン会黙想会

3日　浄水通教会婦人会黙想会

7日　典礼＝歌と祈りの集い　指導新垣壬敏氏

8～12日　教区司祭黙想会

14～20日　聖アウグスチノ会

20～21日　泰星学園母の会黙想会

21～27日　サレジオ会

11月1日～4日　王たるキリスト在俗会

教区人事

教区司祭評議会評議員

9月1日付（敬称略）

＊は常任委員

＊平田司教、＊山田成章（光丘）、＊渡辺隆義（司教館）、＊堤要吉（茶山）、高木善行（大神学院）、松井忠之（小神学校）、青木保（大名町）、平田正喜（新田原）、中浜一男（八代）、竹森勇（老司）、山元真（小倉）、森山信三（大名町）、J・バイヨ（黒崎）、＊H・キニュ（黒崎）、＊A・ディベロ（佐賀）、C・ピーノ（唐津）、J・ブロデリック（手取）、＊S・ライル（ファミリーセンター）、畠基幸（黙想の家）、春山勝美（高宮）

サン・スルピス大神学院召命の集い

召命祈願ミサをはじめ、神学院内のご案内、展示コーナー、観劇など盛り沢山の楽しみが一杯ですよ。

11月3日（土）には、神学生一同、朝8時30分からお待ちしています。

カトリック・フェスティバル ミサのときに使われる聖歌

入祭　「今日こそ神が……」　典87
あわれみの賛歌　典203
栄光の賛歌　典204
答唱　「しあわせな人」　典98②③⑤
アレルヤ唱「恵みは主から」
奉納　オルガン
感謝の賛歌　典205
平和の賛歌　典206
拝領中「マラナタ」「ありがとう」
拝領後　「感謝しようすべて」
閉祭　「ごらんよ空の鳥」　典391

☆お願い

聖歌は各小教区で練習して下さい。当日はミサの前9時半から練習をいたします。

教区典礼委員会委員長
松井忠之神父　（福岡小神学校）

北九州 教会学校リーダー研修会

日　時　10月21日（日）午後2時～3時30分
10月22日（月）午前10時～午後3時30分

講　師　岩橋 淳一 神父様（東京から）

テーマと内容
「ボランティア・カテキスタの心」
――子どもとのかかわりの中での
リーダーの役割――

第一日目、21日日曜日の午後小学4年生～6年生を対象に、要理教育の実践と体験豊かな岩橋神父様の公開要理が行われます。

費　用　1人1,500円（弁当希望者は500円）

場　所　戸畑カトリック教会

申込み　門司教会シスター木俣まで
☎093-371-2944　10月17日(水)までに

香典返しを小神学校へ

◎マリア古賀ミツ子様の香典返しとして、古賀正助様より司祭養成のため金一封をいただきました。

◎ヨセフ谷口義数様の香典返しとして、谷口チヨ子様より司祭養成のため金一封をいただきました。

御両名の永遠の安息をお祈りし、ご報告申し上げます。

福岡小神学校
松井忠之神父

十月命日の司祭

＊ジャン・バプチスト・ドラビ師（パリ外国宣教会）一九六七年十月二十三日元黒崎教会主任

＊エミール・ラゲ師（パリ外国宣教会）一八二九年十月三日福岡司教館

＊ジュリオ・ベルトラン師（パリ外国宣教会）一九八七年十月二十七日元門司港教会主任

茶のかげ

老人職

徳山　登

どの家庭にもいつかは老人の存在は問題となり、波紋を起こすものです。

たしかに老人と共に生活する人々にとって、老衰が進むにしたがって迷惑な面が現れてきます。しかし、家庭にとって、反省の材料も与えられ、心を広くするチャンスにもなります。

ドイツのある家庭に次の問題が起こりました。この家庭は夫婦と九歳の子、主人の父の四人暮しです。ところが、おじいちゃんにだんだんと、老人の欠点が揃ってきたようで、とくに食事の間のおじいちゃんが、奥さんの気にさわるようになりました。食べ物を落としたり、テーブルクロスや回りを汚します。また、食べ物を噛み潰して、飲み込むと、蛙の鳴くような音を立てます。その音がたいへん気持が悪いのです。そんなことが重なって、たまりかねた奥さんは主人に向かって「何とかしてください。耐えられません」。すると、主人はおじいさんのために特別な箱をこしらえ、食事の間、おじいちゃんの口の下に持たせました。こぼした食べ物が箱の中に落ちるように……。それに食堂の隅におじいちゃん専用のテーブルを備えつけました。どうにか解決がついたかに見えました。ところがある日、坊ちゃんが板を集めて、一生懸命箱を作っているではありませんか。お母さんが「何のために」と聞きましたら「お父さんとお母さんのため。おじいちゃんのように年をとるでしょう。その時、食べ物が下に落ちないように。助かるでしょう」。子供たちは鋭い目で観察しています。親たちもいつか老人になるという現実を忘れないように。

また、＜敬老の日＞についてもあまり感心しない事もあるようです。年をとったことをそんなに取上げる必要はない。何だか利用されている感じがするのです。もっと、地味なデリケートなやり方で尊敬を示して欲しいものです。さまざまな団体からのプレゼントはありがたいのですが、一番うれしいのは心の友達ができることではないでしょうか。何でもゆっくり打ち明けられる相手が欲しいのです。

老人ホームのあるおじいちゃんを訪問したおり、彼は手紙を手にして、涙を流していました。「どうされたのですか。悲しいニュースですか」とお聞きしますと「いいえ、うれしいのです。中学の女の子からの手紙が届きました。感激の涙です。二年前から毎月、必ず手紙が来ます。もちろん、私も返事を書きます。まだ会ったこともないこの少女のペンフレンドのおかげで私は寂しくありません」と話してくれました。

老人たちは子供たちに会うのが大きな喜びのようです。一人の女の子が町を歩いていますと、重そうなカバンを持っているおじいさんに出会いました。女の子は「重たいでしょう。カバンをちょっと持たせてください」と声をかけました。老人は少女の優しさに心を打たれました。別れる時に少女は「今から教会に行くの。おじいちゃんのために小さなお祈りをするからね！」と言います。ますます老人は感激しました。ところが少しして、少女が引き返してきて、老人の顔を見つめながら「おじいちゃんも毎日お祈りしてるでしょうね」。老人はしばらく黙って、とうとう泣いてしまいました。

「今日から祈りするよ。ありがとう」と言って別れました。なんと美しい情景でしょう。＜心の時代＞といわれます。子供と老人の目は私たちの心に大切な事を訴えてくれます。

最後に私の友人でもある九十八歳の神父さんを紹介したい気持を押え切れません。彼の輝く目の光りは一つの説教になります。彼は二階の自分の部屋に上がるのに手すりを使いません。「どうしてですか」と聞きますと、彼は「私は手すりに頼るより、神様だけに頼る練習をしています」と答えました。

ボンカズ神父さんの回りに、平和が漂っています。「神様を信頼します」とよくおっしゃいます。現代に一番必要な信頼！

やはり、老人職は大切です。

（パリ外国宣教会）八王寺教会）

はじめなくをはりもなきにわが心 うまれ死すると思ふべからず

一休

かのときのことのは

森山　敬三

『髑骨』に所収。一休は空海とならんで、日本人離れをした、尋常一筋縄では、到底、理解できない傑出した大人物である。と同時に臨西の彼は、曹洞の良寛とならんで、最も日本人に愛好されている僧でもある。現在でも、子供に至るまで一休さんのテレビ・漫画に親しんでいる事実は、驚くべきものがある。江戸時代に流布した『一休咄』に、その片鱗は伺うに足るが、陰には、血みどろな修行、二度の自殺未遂、法兄養叟に代表される、当時の仏教界に対する假借なき、執拗なまでの批判、そして表面には無軌道にさえ見える生活ぶり、が秘められている。そして、それらのすべてには、彼が虚空と呼ぶ真理が、根源にあった。彼はまた、本らいもなきいにしえの我ならば死にゆくかたも何もかもなし、と歌っている。光風霽月とは彼のことか。

編集室から

▽きな臭い戦争の匂いが中東地域から漂ってくる。この新聞が読者の手元にとどく頃はどうなっているのだろうか。政治の世界の本音と建前を見分けるのは難しい。

▽ひるがえって宗教の世界はどうなのだろう。

宗教家と呼ばれる人々の中に、自分の信徒の前で話すことと陰で話すこととの間に違いのある人をときどき見かけることがある。

▽宗教家の中にも、政治的感性が鋭く、実業家タイプの人も結構いる。もっとも、カトリック教会は「正直すぎる」とある人々が嘲笑う。いいじゃないですか。（W）

［青年練成会］ あなたはどのように生きますか

―聖書を通して考えてみよう―

日　時：12月1日（土）午後5時～
2日（日）午後4時迄
指　導：山内　堅治 神父
鈴木　信一 神父
対　象：青年男子
場　所：聖パウロ修道会　福岡修道院
持参品：聖書、筆記用具、運動着
会　費：3,000円
申込み：11月25日（日）までに電話または
ハガキで下記へ
〒810　福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ修道会・福岡修道院
担　当：塚本神父（☎092-531-0924）

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

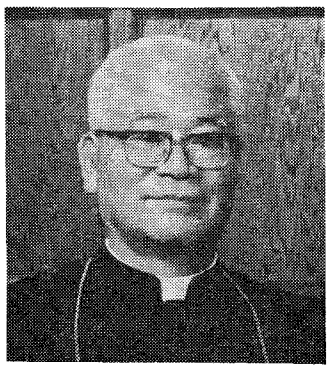
カトリック福岡教区報

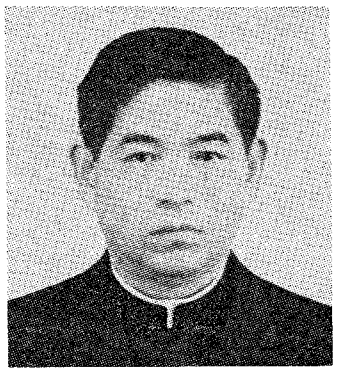
平田司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—522—5138
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

教区長に松永久次郎司教

平田三郎司教 静かに引退

フェスティバルで感謝ミサ


第4代教区長平田三郎司教


新しい教区長松永久次郎司教

教皇ヨハネ・パウロ二世は十月二十八日、第四代福岡教区長ペトロ平田三郎司教の引退を受理。後任にヨゼフ松永久次郎長崎補佐司教を任命した。松永司教は、一九三〇年三月七日長崎生まれ。今年六十歳。一九五六年に司祭叙階。一九七八年二月五日長崎大司教区の補佐司教として叙階され今日にいたっている。

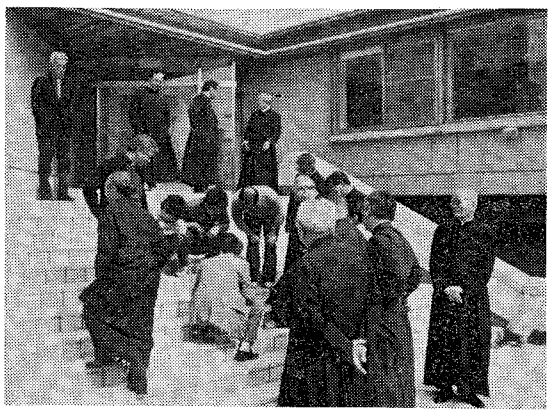
全教区こぞって新教区長を歓迎したい。

一方、引退の平田三郎司教は、一九六二年三月二十六日に大分教区司教に叙階。ついで、一九六九年十一月十五日福岡司教に任命され、翌年一月二十三日に着座した。以来二十一年にわたって教区の牽引車としての重責を果たしてきた。新しいカテドラル・センターをはじめ、手がけた教会建設は数多い。またカトリック司教団の中では、聖書委員会委員長として共同訳聖書の共同議長を務め「新共同訳聖書」の出版に尽力した。

十一日に明治学園で開催されるカトリック・フェスティバルは、平田司教の肝いりで決まったもの。当日は教区民一人ひとりと対話し、感謝のミサを捧げたいと希望している。なお、退任、着座式等の具体的スケジュールは追って発表される。

教区邦人司祭黙想会

明日のために充電完了


こんなくつろぎのひとときも

教区邦人司祭の霊肉のリフレッシュのために行われる「黙想会」が今年も宗像の福岡黙想の家で開催された。

指導は地主敏夫司教（札幌教区）。司牧経験の豊かな同司教は、「司祭は、キリストの司祭職を継続するのであり個人の司祭職はありえない」と語った後、「人間としての司祭の弱い部分を神は利用されるが、それは、司祭が全てを捨て切るときに実現する」と述べ、「時には、つらいこともあるが、主から刈り込んでもらおう」と励ました。

また、キリストはかつて弟子たちのために祈られたが、今も「司祭たちのために祈り続けている」と話した。

今月のみことば

神のみことばを聞き、これを守る人は幸いである

（ルカ11・28）

門司　J・ガイヤール神父

11月11日（日）は カトリック・フェスティバルへ

信徒参加者は三千名にのぼり、一般の方々も多数おみえになります。

教区民の一人ひとりが主催者です。楽しい一日となりますよう互いに声を掛け合い、協力し合いましょう。

企画運営委員会・実行委員会一同

お知らせ

①ミサのとき歌う聖歌を含むパンフレットを受付でお渡しいたします。
雨天時のミサは講堂と中・高体育館で行われます。

②教室及び講堂は土足禁止になっています。

③新谷のり子チャリティーコンサートの当日券は受付で少し用意しています。

聖書展開催

約六千人の入場者

熊本

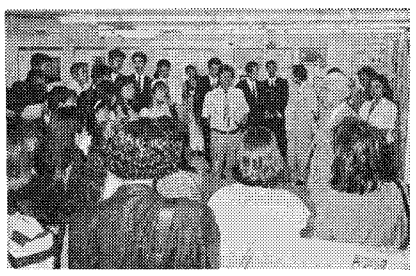
去る九月十二日～十七日、熊本鶴屋デパートにおいて、プロテスタント、カトリック合同による「聖書展（あなたのみことばは私の道の光）」が開催され、期間中約六千人の入場者があり、大好評であった。

この聖書展は毎年開催地を移しながら、一人でも多くの人に聖書への親しみを持ってもらおうと開かれているものである。

期間中、聖地のビデオ上映、プロテスタント、カトリック双方の信徒や、ミッションスクールの生徒たちから募集した作文、絵画、書道、詩などの作品展示、更にグーテンベルグの印刷機や各国の聖書も展示された。また聖書関係の書籍販売も行われた。訪れた人たちは、静かな雰囲気の中、様々な展示物に見入っていた。

聖書展初日の十二日には、曽野綾子氏が「現代に生きる聖書」で講演。超満員にふくれあがった聴衆を前に、自身の信仰体験を交えながら聖書のすばらしさを熱く語り、聴く者に大きな感動を与えた。

今回の聖書展開催スタッフの一人である手取教会信徒の斎藤道江さんは次のように語った。「とてもすばらしい聖書展が開催出来ました。多くの方々に聖書のすばらしさが少しでも伝えられたならばと思います。十年前、同じように熊本で開催された聖書展に訪れて信仰の道に入られた方もいます。今回も、訪れた人々に光が射し込まれたと信じています。今回スタッフの一員としてお手伝いさせていただきましたが、自分自身教えられることが多々あり、本当によかったと思います。プロテスタント、カトリック双方の協力、助け合いによって聖書展を成功させ、親しい交わりを持つことが出来たことに感謝してます」。



CLC九州大会

回心の嵐が吹きまくる

第十六回CLC九州大会が九月二十二日から二十四日、水前寺火の国観光ホテルで開催され九州各地から七十余名が参加、社会の唯中で信仰をどう生きているか見直し分かち合った。

大会実行委員長・柳原鎮雄氏（手取教会）は、重度身体障害の身で、同じ障害をもつ藤勝邦氏と協力して、手取教会の信者の援けをかりて大会の準備をすすめテーマ「生きる」を選び一年がかりでプログラムを練り上げた。

証しの中で柳原氏は「障害者は病人ではない。周囲の誤解と闘い、普通の生活をするため施設を出て一人暮らしを始め、ミサに行ける自由を獲得した。生きることは神からの召命、行動は使命に生かされることである」と語った。

同氏を支える約二十名のボランティアの青年たちは異口同音に「彼を通して教会を知り、ある者は受洗し、ある者はそこで出会って結婚し、少なからず愛することを学ぶ」という。不思議に青年たちが柳原氏に出会って変えられてゆくのである。

また江藤氏も、この七年間自分が共同体の中で愛され心が解放され受洗し、普通の人として生きていける喜びを語った。

参加者たちは「生きる」自我意識から目覚めさせられ、全く委ねた、生かされる自由さの中にエネルギーの泉を観た。あわれみや同情がどれほど空虚で無感動なものかを悟り、衝撃的な回心の嵐が吹きまくった大会だった。

この日、二十八名が奉献した。来年は北九州で開催。

ミサで心はひとつに

時の話題

新富康央

NHKで小学生を対象とした国際調査を行っている。その結果は驚くべきものであった。「乗物で年寄りや体の不自由な人に席を譲る率」（%）、アメリカ51%、イギリス63%に対して、日本は19%。「学校の廊下や庭のごみを必ずひろう率」アメリカ34%、イギリス26%、日本は僅か5%。すべての項目にわたって、日本はかなり低い数値に甘んじている。この結果は、私たちはしつけという言葉の意味をとり違えていなかったか、或いは、しつけについてもう一度考え直す必要はないか、と反省をせまる。

一般にしつけとは、しつけ糸から出た言葉で、かたちを整えることである、とされている。しつけ糸は途中で抜きとられるものです。また、しつけは小さい時には必要だが大きくなればいらなくなるもの、とまで書かれている。確かに親たちも、「皆ができているのに恥かしいでしょう」とか「小学生にもなってそんなことではかっこ悪いわ」と子どもにしつける。でも、見てくれ（形）のしつけはしても、心はしつけていない。

実はしつけには、もう一つ田植のしつけがあります。早苗を本田に移し、一株立ちさせることをしつけるという。そこでのしつけは、形だけでも、人生の途中で終わるものでもない。社会のきまりや道徳的規範、文化的価値意識、つまり心の栄養を土壌から吸収できるように子どもをしっかり根付かせる。そうすればそれだけ、子どもは大きく、豊かに育ち、しかも自律していく。しつけとは、本来そんな意味や願いを込めた言葉ではないでしょうか。しつけ糸のしつけでは、形を「そろえる教育」はできても、自分で自分を律する「自律の教育」はできない。

だが、学校ですら「私語をするな」の形のしつけはなされても、「どんな質問や意見も大切に聞いてあげようね」というような人権にかかわる心（人格の尊重）は一緒に教えていない。挨拶についても、その根底である感謝の心までは余りしつけていない。まして、形にばかり目を奪われている一般社会ではどうか。

「形よりも心を」それはイエズスが繰返し語られていることでした。家庭は小さな教会。聖書こそが、田植のしつけを行う際の大きな力になるはずです。

（佐賀大学助教授　佐賀教会）

田植（心）のしつけこそ

みちくさ

「人は泣きながら生まれてくる。そして泣き続けながら一生を終える」とある人が言っていた。人は泣いている間につかの間の笑いのひとときをもつ者かもしれない。しかしそんな人生ではあっても、流した涙の一つひとつが、いつか天国で美しい花びらとなることを信じている▼そんな思いにかられているのも、水浦さんの訃報に接したからだ。熊本の手取教会では名物の人だった。発病するまでアルコール中毒で、いつも酒の匂いをさせながら教会の門番をしていた。というより、お世辞でも清潔だとはいえない身なりで門前にたむろしていたというほうが適切かもしれない▼そんな彼を保証人として面倒みたのが、熊本のCLCの指導者であった亡き中野さんだった。中野さんは、水浦さんの自由奔放さにほとほと手を焼きながらも最期まで彼を見捨てることがなかった。中野さんが亡くなって、水浦さんは、「中野さんのように立派な人はいなかった」といって男泣きしたという▼今、自分が水浦さんの死にこだわるのは、彼に対してはそぶりでも見せなかったが、「この小さな人」の現実を心から受け入れていなかった心の卑しさに悔悟の念をおぼえるからである。「どうして仕事しないのだろう」「甘やかすと彼のためによくないのではないか」などと外側から眺めて評論していた▼中野さんの死後、水浦さんの面倒は手取教会の信徒たちがみていた。教会の青年部屋を住居として提供するなど、そこには、貧しい人へのイエスと同じようなあたたかい心が満ちていた。「貧しい人のための教会」が掛け声だけでなく、ここに生きていたことを嬉しくそして誇りに思う。この共同体へは、「小さな者」の味方である神ご自身が豊かに報いてくださることだろう。水浦さんと中野さんが天国で親しく握手している姿が目に浮かぶ。

ナイスⅡ

テーマは『家庭』
司教団が呼びかけ文

三年前に開催された第一回福音宣教推進全国会議（ナイスⅠ）を受けて、司教団は第二回のテーマを「家庭」と決定。準備に入った。

今号では司教団の呼びかけ文と、福岡教区の宣教・司牧のために設置されている「司牧評議会」と「司祭評議会」の規約を紹介し幅広い論議の資料としたい。

第二回福音宣教推進全国会議開催に向けて

兄弟姉妹である信徒、司祭、修道者の皆さん、

私たち司教は、昨年十二月に、第二回福音宣教推進全国会議（以下、全国会議と略します）を一九九二年秋から九三年春の間に開催と決めました。また、第一回全国会議推進委員会のご意見を伺った上で、今年六月に、そのテーマをどうするかについて話し合いました。ここに、その内容と、その前提となる私たちの考えをお知らせし、ご意見をお聞かせいただきたいと思います。

一、第一回福音宣教推進全国会議を継承し発展させるために

まず私たちは、第二回全国会議を、第一回全国会議の精神を継承し発展させるもの、日本の教会の福音宣教推進に対する責任を皆さんとともに担う場にしたいと願っています。

第一回全国会議を準備する際、私たちは「生活から信仰を、社会の現実から福音宣教のあり方を見直し」ながら、信仰と生活の遊離を解消していこうと皆さんに勧めました。そのために「聴き、吸い上げ、活かす」ことを私たちの基本姿勢としました。そして第一回全国会議を受けて、日本の教会として、これから、もっと「ともに」「喜びをもって」「生きる」方向で道を探しましょうと呼びかけました。

私たちは、第二回全国会議の準備および開催においても、この基本姿勢と方向を継承し、発展させていきたいと望んでいます。

二、テーマは

私たちは、第一回全国会議の答申を分析し、その後の各地の動きを評価しながら、第二回全国会議について話し合いました。テーマとして、「修道会・宣教会、諸事業体との協力態勢」、「青少年の信仰育成」、「家庭の福音化」などがあげられましたが、第一回全国会議を継承し、教会が社会と共に歩み、社会の現実に福音の光をあてていくためには、教会が家庭とともに生きることこそがいま求められていると考え、第二回全国会議のテーマを「家庭」としたいと考えました。

「家庭」というテーマを通して、第一回全国会議の実りが活かされ、そこで希望されたことがさらに一歩前進することを願っています。

三、お願い

私たちは、第一回全国会議の実りを活かし、その精神を前進させるために、この「家庭」というテーマのもとで、何をどのように扱ったらよいか、できるだけ多くの皆さんの声を聴くことから始めたいと考えております。

日本の教会全体が福音を宣べ伝えるという本質的な使命をよりよく果たせるために、私たちは、皆さんの声に耳を傾けることにより、教会と人々に奉仕する私たちの具体的な道を確認したいと望んでおりますので、皆さんのご理解とご協力を心からお願いいたします。皆さんお一人おひとりの上に神の豊かな恵みをお祈りいたします。

一九九〇年八月十五日
皆さんの兄弟として
日本カトリック司教協議会・常任司教委員会

福岡教区司牧評議会規約

第1条（名称）
本会は「福岡教区司牧評議会」と称し、事務局を司教館におく。

第2条（性格）
本会は、教区長の諮問機関である。

第3条（目的と会務）
1 本会は、教区宣教共同体を育成することを目的とする。
2 前項の目的を達成するために、教区におけるあらゆる使徒的活動の実態を把握し、考慮し調整して司牧活動に関する事柄について実際的な指針を作成する。

第4条（構成）
本会は、司教、総代理、教区事務局長のほかに教区長が任命する次の者から成る。
1 各地区司祭代表
2 教区修道士代表
3 各地区修道女連盟代表
4 各地区信徒代表
5 大神学院院長、小神学校校長
6 婦人代表
7 青年代表
8 カトリック・アクション代表
9 教育・福祉事業代表
10 司教が必要と認めて任命する者

第5条（役員）
1 会長1名　司教がその任にあたる。
2 副会長1名　司教総代理がその任にあたる。
3 常任委員10人（会長、副会長、教区事務局長、司祭2人、修道会2人、信徒3人）
4 書記（信徒）1名
5 会計（信徒）1名

第6条（任務）
1 会長は、会務を統轄する。
2 副会長は、会長を補佐する。
3 常任委員は、会議を準備し、また提案すべき事項を審議し、決定する。
4 書記は、議事録を作成し、保管するが、必要事項は教区報に発表する。
5 会計は、本会の財務を管理する。

第7条（選出と任期）
1 会長、副会長以外の常任委員は、会員の互選による。
2 書記、会計は会長が指名する。
3 任期は2年、なお補欠の任期は前任者の残存期間とする。

第8条（会議）
1 会議には定例総会と臨時総会がある。定例総会は年3回開くが、臨時総会は必要に応じ会長が招集する。
2 総会の成立には、会員の過半数の出席を要する。
3 議長は、前回の総会において選出する。

第9条（決定）
諮問・審議事項の決定は、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

第10条（年度）
本会の事業年度は1月1日から12月31日までとする。

第11条（経費）
本会の経費は、援助金、及び寄付金による。

付則
1 事務局は、副会長、書記、会計をもって構成する。
2 本規約の改正は総会を経て司教の承認を経なければならない。
3 本規約は一九八八年二月五日より効力をもつ

一九九〇年六月二十五日改定

福岡教区司祭評議会規約（改訂Ⅲ）

第1条（名称）
本会は、福岡教区司祭評議会という。

第2条（性格）
本会は、教区全司祭を代表するものであって、教区長司教の諮問機関である。司教座が空席になった場合には、自動的に解散する。
但し、ローマ聖座がその存続を教区事務臨時管理者に許可した場合には、この限りではない。

第3条（目的）
本会の目的は、司祭の生活と役務に関する事項のみならず宣教及び司牧などの教区の共通善に関する事項について、適宜な規準の樹立を示唆し、また、原則的な問題を提示することによって、教区長司教の教区行政を助けることにある。
（注）評議会は、教区顧問会とは異なる。

第4条（構成）
本会は教区長司教を会長とし、総代理を副会長としてつぎの者をもって構成する。
1、司祭の互選によってグループ別に選出される者…14名
内訳～　邦人教区司祭6名、パリーミッション会2名、コロンバン会2名、ミラノミッション会2名、その他の修道・宣教会2名。
2、司教が任意に任命する者…若干名
3、職務上（ex officio）属する者…6名
教区長、司教総代理、教区事務局長、教区会計、大神学院院長および小神学校長

第5条（任期）
第4条の1、および2、によって選出された者の任期は3ケ年とする。但し次期評議員が選出・任命されるまでは、評議員の任期終了後も、その職務を継続するものとする。
任期の途中で評議員の欠員が生じた場合には、選出・任命された評議員の任期は、前任者の任期の残任期間とする。

第6条（選出の方法）
選出方法は各グループで定める。但し選出の告示は1ケ月前とし、事務係よりそれを通達する。

第7条（会員の権利と義務）
司祭の会員は、選出された者、職務の理由で属する者、あるいは任命された者とを問わず、会議において平等の発言権を有する。
たえず機会をとらえて、兄弟なる教区全司祭と対話を行い、司祭たちの声を本会の会議に反映させるように務めなければならない。

第8条（定例および臨時集会）
定例集会は毎年2回～4回開催する。但し、会長が緊急・重要と判断した場合、臨時集会を開くことができる。

第9条（定例集会の招集・通知）
会長は事務係を通して、定例集会の日程および議案の細目を、定例集会開催の少なくとも1ケ月前に、教区全司祭に通知する。

第10条（定例集会の司会および記録の作成）
会長は会務を統轄し、議長（正・副）を任命する。議長は司会者を兼ねる。また、会長は場合によっては、司会者を別に定めることができる。
副会長は会長を補佐し、会長に支障があるときは会長を代行する。
定例集会の議事内容については書記が議事録を作成し、通達すべき事項は会長および書記が署名し、教区全司祭に送付する。

第11条（常任委員会、事務係、各種小委員会）
司祭評議会は、定例集会の他に常任委員会および事務係を設置する。
また、必要に応じて各種小委員会を設置することができる。

第12条（常任委員会の構成）
常任委員会は会長と副会長、教区事務局長、教区会計、それに定例集会において推薦された3名の委員を加えて構成する。選出された委員の任期は3ケ年である。

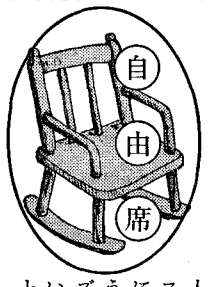
第13条（常任委員会の義務）
常任委員会は、定例集会の一カ月前に招集され、定例集会の円滑な運営をはかり、第9条にのべられている定例集会の準備を行う。
また、緊急な事項に関する教区長の諮問に答える。

第14条（常任委員会と司祭団の関係）
常任委員会は書記を通して、司祭評議会の活動や議事内容について適宜要約を作成し、これをすべての司祭に知らせる。
また、教区長司教の諮問のみならず、評議会会員ならびに教区全司祭からも、本会で検討すべき事項の提案を受理する。

第15条（司祭評議会と他の評議会との関係）
1、信徒使徒職評議会その他の評議機関あるいは委員会が、宣教司牧に関して答申あるいは提案を行った場合、教区長はそれについて、司祭評議会に計る事が出来る。
2、教区長が必要と判断した場合、司祭評議会代表者若干名と他の評議会機関代表との合同連絡会議を開催することができる。

第16条（補足）
本会規約は定例集会において審議したのち、教区長の認可によって効力を発するものとする。
本規約の変更に関しても、同じ手続きをとる。
本規約は一九九九〇年九月七日より発効する。

福岡教区長
司教　平田三郎



福音宣教研修会で私が学んだこと

野瀬　秀子

去る七月二十一日と二十二日の二日間、福岡地区信徒協主催で行われた「福音宣教」研修会に参加しました。

講師は長崎大司教区の島本要大司教様で、会場の宗像黙想の家には、シスターや各小教区の信徒、さらにはバプテストの方や未洗者の方など合計六十余名が集まりました。

キリスト者として何か少しでも身につけたいとの思いから参加しましたが、おかげ様で、この研修会の中でいろいろなことを学びました。

例えば、「今、イエズス様は私たちの目には見えない方ですが、私たち信者一人ひとりが見えないイエズス様の見える部分で、そこに信者の尊厳がある」ということ。そして、そのイエズス様が私たちに望まれていることは「一致」であるということなど。

一致のない小教区共同体は、傷ついている。なぜなら小教区は神の家族であるのだから。

神の家族といわれる小教区にあって、主任司祭は「父」であり、一致の要としての役割を果たす。また主任司祭は、自分の小教区に属している信者総合の一致の絆であると同時に、小教区と司教を結ぶ絆、そして小教区と世界中の教会を結ぶ絆でもある、というようなことを講師の島本大司教様は話されましたが、私はいつかゆっくり自分でそれらのお話を考えてみたいと思っています。

講演のあと、「グループでの分かち合い」がありました。ざっくばらんな分かち合いで、皆さんからたくさんの有益なお話を聞くことができたことを感謝しています。

（小郡教会）

黙想会ご案内

八日間個人黙想会　11月12～20日（途中参加も可）
待降節黙想会　12月1～2日：8～9日（1泊3食六千円）
※ お早めにお申し込み下さい。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

CMで世相の動向知る

教区広報担当者全国会議

家庭観の刷新を

『広報と家庭』をテーマに教区広報担当者の全国会議が、九月二十五日から二十七日まで京都で開催された。

電通の高橋俊明氏を講師に迎えた今会議の特徴は、さきほど司教団が決定した第二回福音宣教推進全国会議（ナイスⅡ）のテーマ『家庭』を広報担当者としてどう捉えていくかということだった。

テレビのコマーシャルを何本も鑑賞しながら、宣教活動においても「受け手のニード」を知り、それに応える努力と工夫が求められた。

講演の後、三つのグループに分かれて分散会が行われたが、第二回福音宣教推進全国会議のテーマについて率直な意見を交換した。

司教団が提示した「家庭」というテーマが第一回ナイスとどう関連づけられるのか、司教団が期待していることは何なのか、といった質疑が活発に行われた。とくに「家庭」という時、独身者が枠外に置かれないように、家庭の意味しているものに注意を喚起すべきだとの意見が注目された。

分散会のまとめを発表する京都代表

日本マザーテレサ共労者会

西日本研修と祈りの集い

マザーからメッセージ

一九九〇年の「共労者会、西日本研修と祈りの集い」が九月八日、九日の両日、宗像市福岡黙想の家で行われた。

集いには、南アフリカから来日した国際共労者会会長マーガレット・クリス女史が出席し、マザー・テレサからのメッセージを伝えるとともに、八十歳を迎えたマザーの近況や次期総長選出のこと、また自らの体験も参考に話されたあと、質疑応答などを通して助言し会員を励ました。

会場には地元会員のほか、全国各地から有志が参加しおよそ七十名となった。

共労者会とは、カルカッタで働くマザー・テレサの「神の愛の宣教者会」に付属するもので、ダイナミックなその絆は国際的な拡がりをもつ。

指導司祭ボーガルト神父（姫路教会）は、組織でない組織、神と人とに対する愛と祈りの絆に結ばれた一つの大きな家族のようなもの、と説明する。またこの会は宗教・国籍などを超えて、障害者、重病人も積極的に参加できるということであった。

二日間に亘る研修会に、浄土真宗の森友明道師が司会するやら講師となるやら、或いはプロテスタントの江頭千鶴子さんがボランティアの体験発表など、全く異和感のない感動的な話を聞くことができた。

MCとも呼ばれる共労者会のことは、まだ広く知られていないが、現在わが国には三十二グループ、一、七〇〇人の会員がいるといわれ、事務局では関心のある人達の入会を呼びかけている。

日本の代表世話人は、岡山市在住の高塚信正・延子夫妻、また事務局は左記の通り。

▽日本マザー・テレサ共労者会事務局

〒584　大阪府富田林市久野喜台二の4－10

金剛カトリック教会内である。

（佐賀教会・牧山満安）

会長のマーガレット女子（中央左）を囲んで

シリーズ　ここが聞きたい

大嘗祭について

カトリック司教団は大嘗祭に反対していると聞きましたが、本当ですか。

司教団は今まで大嘗祭そのものに反対を表明したことはありません。いままでに司教団の名前で大嘗祭について直接発言したのは一九八九年十一月九日の常任司教委員会の要望書だけだと思います。そこでは大嘗祭そのものに反対しているといっていません。

そこでいわれていることは次の二点に要約できます。

①新天皇の即位に際し、大嘗祭と国家行事としての即位式が混同されることのないよう両者をはっきり区別して欲しい。

②大嘗祭には国費を支出しないで欲しい。

なぜそのような要望をしたかというと、それは日本国憲法の原則である信教の自由と政教分離の原則を守るために、ぜひ必要であると考えたからです。

さらには、信教の自由ならびに政教分離の原則は聖書の教えならびに第二バチカン公会議の教えにも根拠をもっていると思います。

大嘗祭そのものを認めることが唯一の神への信仰に反することにならないのですか。

大嘗祭そのものが天皇に神格を認める儀式だからキリスト教の信仰に反する、だから反対する、という人もいます。しかしそのようなことをいいだせば、他の宗教についても同じことがいえます。ですから、たとえ大嘗祭がそのようなものであってもそれが特定の宗教行事として私的に行われる限り、それはその人々の信仰の問題ですから、わたしたちはそれには反対する権利はないと考えるべきです。反対するのは、国家権力がそれと特定の関係を結び、わたしたちにそれを強制する場合のことです。

回答者　岡田武夫（日本カトリック宣教研究所）

大嘗祭の問題点

福岡地区教会学校

ご聖体のカテケジス

幼児期に信仰習慣の育成

十月一日（月）、第二回福岡地区教会学校リーダー研修会が大名町カテドラル・センターで開かれた。

二十五名のリーダーたちが参加。午前中は、「ご聖体のカテケジス」として、教区信仰教育委員会委員長の山元真師（小倉教会）の講演と参加者との分団会。午後は、全国信仰教育担当者会議に教区代表として参加した松井忠之師（小神学校校長）の報告会と質疑が行われた。

山元師は、ご聖体のカテケジスは「初めて、大切なイエズスさまのお体を、いただく日」として、初聖体の準備を通して教えるのが一番自然。また、初聖体の一週間くらい前にホスチアで体験させて、聖体に対する味や口ざわりなどの興味を取り除いておくのも良い準備になる。七つの秘跡の中の一つ、として教えたり、ミサに参加する中でのカテケジスも大切にして行きたいと語った。

午後は、信仰教育の全国担当者会議に参加した松井忠之師の報告を中心に話が行われた。

全国会議のテーマ「中学生の信仰教育」は、福岡教区の中の問題でもある事が確認された。

地区担当の松井師は「信仰教育は知的な養成だけでなく両親の祈りなど、信仰の習慣の育成も大切です。また、小中学生に限らず、幼児期の家庭における信仰習慣の育成を両親が重視しなければならない時です」と語った。

信仰教育全国会議

中学生の養成で効果的方法探る

九月二十一日から二十五日まで信仰教育委員会（委員長平山高明大分司教）主催の「全国信仰教育担当者会議」が行われた。会場となった高松教区（教区長　深堀敏司教）の四国カトリック会館には日頃、教会学校に携わっている四〇名の司祭、修道者、信徒が集まり熱のはいった研修会となった。

テーマは「中学生の信仰教育」。「難しい」といわれる中学生についての研修とあってか、白熱した意見交換が時間を越えて行われた。

「中学生が教会に来ない」「教会に来ても二、三人」。部活や塾に追われている中学生、それをまた、追いかける教会やリーダーたちの姿が浮き彫りにされた。

また、全国の教会が中学生の信仰教育に同じような悩みを持ちながら、様々な模索を続けている報告が出された。

あるリーダーの「子供が登校拒否をすると血相を変えて走り回るのに、教会学校を拒否しても仕方がないといった顔をしている。子供より、家庭の信仰教育が先だと思います。」の発言に皆が溜息。

最終日の全体会で、両親も使えるリーダー用のハンドブックを信仰教育委員会で編さんすることで合意した。

藤房神父のこぼれ話

煉獄の霊魂のこと

近頃は〝煉獄〟の話などほとんど聞かなくなりましたが、あえてお話してみたいと思います。

東京の小神学校に入ってたしか二年目の黙想会のときでした。黙想指導の神父様がこんな話をしてくれました。

「仲のよい二人の神父様がいました。そのうち一方の神父様が亡くなり、親友の神父様が、その教会の主任司祭として赴任しました。ある夜遅くなって、司祭館の二階の部屋で『聖務日禱』（教会の祈り）を唱えていると、足音が聞こえてきました。生前の親友の歩き方にそっくりのその足音は、なぜか部屋のドアの前でぴたりと止まってしまいます。何日かそれが続いたとき、彼は、亡くなった神父様が、何か訴えたいのではないかと思いました。それで信者さんを集めて、神父様の霊魂のために九日間の祈りを捧げました。

九日間のお祈りが終わった日の夜、また足音が聞こえてきましたので、さっとドアを開けますと、煙のようなものが見えました。でもそれ以来、足音は二度としなくなりました。神父様はその時、親友だった神父様が天国にいったことを確信したそうです」。

私たちは、煉獄で罪の償いをしている霊魂たちのことを忘れないようにしたいものです。特に今月は、亡くなった自分の家族、恩人、友人のためにはもちろんのこと、忘れられた霊魂のために祈るようにいたしましょう。

BOOK　読みま専科

☆ヨブ記
――神をめぐる論議と無垢の民の苦難――
G・グティエレス著

〔解放の神学の父〕グスタボ・グティエレス神父は一九八五年暮れに来日した時に、「死の状況で生の神を語る道は、ヨブ記にあるとおり、神の国である正義と真理を証する預言者の道であり、たえざる感謝をささげる黙想・祈りの道である。しかもそれは、個人的知的作業ではなく、キリスト教基礎共同体（BCC）のメンバーとしての共同作業である」と語っています。

この本はまさに、ラテン・アメリカ全土に広がる構造的暴力、神の愛の否定にほかならない社会的不正義の真っ只中にあって、神を語る道を見つけるという、ヨブ記を通して実践的問いかけがなされています。

☆こども

一九八九年七月一日～九〇年五月三十一日まで、朝日新聞の朝刊四面に連載された、談話室・こどもシリーズの投稿を再編集したものです。テーマは◎産む産まない自由～受験登校拒否～子供の気持、親・子の自立、戦争、みんな子供だった。等で以上のものが反論、賛意等の形で筆者達の様々の言い分が飛び交っています。

朝日新聞社　一、四七〇円

教文館　二、五〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―711―0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石
石
理
影
大
御
素材
他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

十一月の行事

※ゴチックは司教日程

3日　召命の集い（サン・スルピス大神学院）
　午前10時より
4日　湯川教会堅信式
　教区墓地ミサ
　午後2時
7日　福岡地区婦人会委員会
　午前10時30分
8～9日　家庭司牧研修会（東京雙葉学園）
11日　カトリック・フェスティバル
　（戸畑明治学園）
　午前10時
16日　熊本短期キリスト教講座終了（福祉会館）
18～25日　聖書週間
20日　九州神学校司教会議
21日　サン・スルピス大神学院祭
25日　王たるキリストの祝日
　新田原教会堅信式
　聖書週間特別講演会
　（カテドラル）
　午後1時～4時
26～28日　司祭研修会（唐津シーサイドホテル）
12月2日　待降節第一主日
　宣教地司祭育成の日
　（献金日）

福岡黙想の家

1～4日　王たるキリスト在
　俗布教会
3～4日　レジオ北九州
4～5日　福岡一麦教会（プロテスタント）
12～20日　秋の8日間の黙想会＝マテオ神父指導
　（修道女及一般対象）
18日　茶山教会婦人会日帰り黙想
24日　カトリック生命倫理フォーラム（医療関係者）（福岡黙想の家）
25日　カトリック生命倫理フォーラム（一般公開）
　（福岡黙想の家）

生命倫理フォーラム 11月25日(日)には 一般公開講演会

最近特に脚光を浴びている生命倫理の問題を幅広く研究し、全国的なネットワークづくりを目指す「カトリック生命倫理フォーラム」が、日本カトリック医師会福岡支部の主催で11月24日（土）と25日（日）の両日、福岡黙想の家で開催される。

初日は医師会員を中心に、二日目の講演はこの問題に関心をお持ちの一般の方にも公開されることになっている。

一日目（24日）
対　象　医療関係者
参加費　千円

二日目（25日）
公開講演会
対　象　関心のある方どなたでも（定員30名）
テーマ　「生命倫理研究の動向とカトリック信徒の役割」
　―とくに家族計画に関連して―
講　師　ホアン・マシア師
ミサ　（11時20分～12時）
昼食後解散
参加費　千円（昼食代は別）
申込先　福岡黙想の家
　☎0940-32-3222

十一月命日の司祭

＊フレデリック・ボア師（パリ外国宣教会）一九七七年十一月三日元援助修道会黒崎修道院付
＊スヴァノニ・ゼヴェリーノ師（ミラノ外国宣教会）一九六二年十一月二十七日元唐津教会主任

聖書週間　11月18日～25日

特別講演会

聖書の女性観

日時　11月25日（日）午後1時から4時まで
場所　カテドラル・センター4階
第1部
　テーマ　旧約聖書の女性観
　講　師　渡辺隆義神父（福岡司教館）
　と　き　午後1時から2時30分まで
第2部
　テーマ　新約聖書の女性観
　講　師　平田三郎司教（前福岡教区長）
　と　き　午後2時30分から4時まで
《主　催》　福岡教区広報委員会
　福岡地区修道女連盟
問い合わせ先
　福岡司教館　☎092-522-5139

［青年練成会］

あなたはどのように生きますか

―聖書を通して考えてみよう―

日　時：12月1日（土）午後5時～
　2日（日）午後4時迄
指　導：山内　堅治 神父
　鈴木　信一 神父
対　象：青年男子
場　所：聖パウロ修道会　福岡修道院
持参品：聖書、筆記用具、運動着
会　費：3,000円
申込み：11月25日（日）までに電話または
　ハガキで下記へ
〒810　福岡市中央区小笹4-11-11
聖パウロ修道会・福岡修道院
担　当：塚本神父（☎092-531-0924）

福かげ

ある母親の証し

徳山　登

フランスの映画俳優パトリック・ドウェルさんは自分の手で命を絶ちました。十七歳の若さでした。彼の母親は―彼女も女優でしたが―インタビューの際次のように証言しました。

「役者というものは恐ろしい仕事です。死亡率が高いのです。心筋梗塞で死ぬか、飢死するか、また、神経衰弱の末、死を選ぶか。

私の息子の場合、夏休み中でした。独りぼっちだったのです。誰かが、そばにいてくれたらよかったのですが……、衝動的な子でした。怒りに身を任すような事もたびたびでした。母である私も殴られたことがあります。あとで、たいへん後悔して、苦しんでいました。パトリックの自殺も衝動的行為だったと思います。毒物を飲んでから、すぐ、『馬鹿なことをした』と思ったでしょう。しかし、遅かったのです。やってしまっています。

挫折する役者が実に多いのです。信仰がなければ誘惑に打ち勝つことができません。

今、息子は神の平安と光の中に生きていると信じています。私の今までの人生を顧みますと、『復活を信じます』と祈っては来ましたが、本当は深い確信ではありませんでした。毎晩休む前にこう祈っていました。『主よ、人が死んだら、どうなるかわかりませんが、しかし、さまざまなしるしによって、あなたの優しさ、深い慈しみは感じます。そうです。主が私を愛してくださること……私と共に人生の道を歩いてくださることを信じます。ですが、主よ、天の国についてはあまり関心がありませんでした。しかし、キリスト様は天の国について、たびたび教えられましたので私は信じます。それが私の天の国についての信仰でした。多くの信者も同じ気持ではないでしょうか』。

ところで、パトリックの姿が見えなくなってから、私の心の中に強い確信がわいてきました。子供は私の肉身の一部です。そして、その肉身の蘇りを信じています。このような確信が、息子の死を通して、急に私に与えられたのです。彼、パトリックは復活するのです。今は、それを信じきっています。パトリックは去っていったのではありません。私と共にいます。今まで、こんなに近くに感じたことはありません。そして、彼は一分、一秒も私から、離れません。この世を生きることは大事なことですから、早く死にたいとは思いません。でも、死の門をくぐったら、パトリックに再会でき、彼の美しい顔をまた見ることができると思うと、死を恵みのように感じるようになりました」。

十一月は死者の月、私たちより、先に召された人々は死んだ人ではなく、〝使者〟です。

この地上に残された私たちに神様が遣わされた者です。小さいテレーズもこの事実を断言しています。「私は天国に行って、また地上に降りてきます。そして、世の終わりまで、人々を助けるために、世界のどの国でも働きます」と。テレーズにできることは、私たちもできます。彼女のように小さなものになれば……。

召された人々は私たちの目には見えません。耳でその声を聞くこともできません。しかし《信仰宣言》の中にある『聖徒の交わり』（諸聖人の通効）のお陰で、親、兄弟、子供、友人の身近な保護をたびたび感じることはありませんか。

この世のさまざまな迷いや、誘惑の中で戦っている私たちに、すでにみ国に召された兄弟を神様が遣わしてくださる事実をしっかり受け止めましょう。そして彼らを当てにし、死者との親しい交わりを深め、共に喜びや苦労を分かち合いたいものです。

なお、近づく死を恐れ、不安におびえる老人や孤独の人々も多いようです。彼らに平安と希望をもたらす証し人に私たち一人ひとりがなれますように祈りましょう。

（パリ外国宣教会司祭　八王寺教会）

編集室から

▽教区の活性化のために設けられている「司牧評議会」と「司祭評議会」の規約を掲載いたしました。

規約にもられている精神と理想が実を結ぶためにも、一人ひとりの関心とかかわりが必要だと思いますがいかがでしょうか。

▽「ここが聞きたい」は、大嘗祭の問題について「日本カトリック宣教研究所」の所長である岡田武夫神父様のご了解のもと、月間雑誌「福音宣教」（一九九〇年七月号）から引用させていただきました。

天皇の問題について考えるためのヒントになればと思います。

▽「カトリック・フェスティバル」もそこです。

本紙でも開催決定以来一年間キャンペーンを繰り広げてきましたが、どれだけの効果があったのでしょうか。

▽「カトリック・フェスティバル」はお祭りです。難しい議論はやめにしてとにかくみんなで楽しく集いましょう。

当日いろいろ足りないところもでてくるでしょうが、率先して助け合いましょう。

フェスティバルは教区民一人ひとりが主催者であり、協力者であり、お客様なのですから。

十一月十一日には明治学園でお会いしましょう。（W）

最後に問う。弱さ、苦悩は罪なりや。

太宰　治

かのときのことのは

森山　敬三

『如是我聞』に所収。この批判文は雑誌「新潮」に、四回にわたって死ぬまで書きつづけられ、いわば、遺書ともいうべきもの。太宰文学の総決算であり、その文学を解く鍵でもある。前掲のような愚問を発しているのは、志賀直哉を中心として、二、三の外国文学者に対してである。健康で、家庭の小市民的幸福から一歩も出ない、小説の神様に向けて、鋭く放たれた頂門の一針であり、キリスト教的立場から発せられた、胸のスクような、類例のない怒りの文学である。日蔭者の苦悶。弱さ。聖書。生活の恐怖。敗者の祈り。この芥川の苦悩がまるで解っていない、と彼は言う。小堀杏奴は、桜桃忌には、彼の墓に多くの若者がひきもきらず集るが、その向えにある、父鷗外の墓は素通りする。しかし、太宰はあれ程鷗外を尊敬していたのだから、いつかはきっと分ってくれると思う、と述べている。

第29回
江ノ口の里チャペルコンサート

古学の響

―聖と俗―

日　時　11月8日(木)午後7時より
会　場　カテドラル・センター
　（大名町教会）
入場料　前売り　1,500円
　当　日　1,800円
主　催　LUX MUNDI
　☎0888-72-2277
問い合わせ先
　カテドラル・センター
　☎092-741-3687

中央出版　福岡支部
■キリスト教関係、書籍、家庭の友
■典礼聖具
■ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL　092-531-0899

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
(株)メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ッ角　TEL 092―521―0568

カトリック
福岡教区報

平田司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—522—5138
振替口座　福岡3—42981
定価一部60円

今月のみことば

わたしは柔和で謙遜な者だからわたしの軛を負い、わたしに学びなさい。
（ルカ11・29）
小倉　岩永義人神父

大きなふれ合いの輪

カトリック・フェスティバル

ゆたかな実りの一日

参加者五、〇〇〇人、交流深める

平田司教司式の〝出会い・喜び・感謝〟のミサでは手話通訳も

秋晴れの十一月十一日『カトリック・フェスティバル』が盛大に開催された。

会場の明治学園には教区のほとんどの小教区から信徒が参集。一般参加者を加えると四、五〇〇名を超えた。

午前十時から小学校のグラウンドで、引退の平田三郎司教と約六十名の司祭たちによる共同ミサ。説教を担当した森山信三師（大名町教会）は「初めて出会う方々ともキリストの喜びを共有しよう」と呼び掛けた。

ミサ後、参加者は、地区、小教区、各種の活動団体によって趣向がこらされたバザーテントや教室の展示コーナーなどを見て回った。

また、お祭り広場も盛り上がりをみせ、韓国の民族舞踊、フィリピン人の歌の披露と国際色も。他にガールスカウトのスティックゲーム、子供たちの合唱、大楠教会全員のオペレッタ、バンド演奏などもあり、熊本地区では平田司教を囲んで二百人が踊りの輪をつくり注目を集めた。

さらに子供の広場では、教区の青年たち約六十名が体育館で約二百名の子供たちとゲームを楽しんだ。

学園講堂で行われた「新谷のり子チャリティーコンサート」の千名の聴衆は、平和、貧しさについての新谷さんの訴えの話、スライドや歌に「とても感動しました」と感想を口々に語っていた。

小笠原克己実行委員長の話

一年余りをかけて準備してきましたが、信徒の力でこれだけのことがやれたことは素晴らしいことだと思います。神様にはもちろんのこと神父様方をはじめご協力いただいた数知れない方々にあつく御礼申し上げます。

（2面に特集記事）

福岡司教区の第五代教区長に任命された松永久次郎（まつながひさじろう）司教様（写真）の『着座式』は、来年一月十五日（成人の日）午前十一時から福岡カテドラル大名町教会で挙行されることがこのほど決定されました。

松永司教様は、一九三〇年三月長崎生まれ。ローマで教会法と神学を修め、霊性についての造詣も深く、信徒のために「祈りと秘跡」などいくつかの本もあらわしています。

新しい時代を迎える福岡教区での司教様の幅広い知識と行動力が期待されます。

着座式には、教皇大使W・A・カルー大司教様をはじめ全国の司教様方もご列席の予定で盛大に行われることになっており、多数の教区民の参列が望まれています。

また着座式に先だって行われる『着任式』（Possessio Canonica）は、十二月二十七日（木）午後四時からカテドラル・センターで「聖体賛美式」をもって行われます。

任命直後の十月三十一日、司教館で顧問の司祭たちと歓談された松永司教様は、「福岡教区のために、微力ながら精一杯奉仕させていただきます」と語っておられます。

（教区事務局長）

松永久次郎司教様

着座式は1月15日

カテドラル・センターで

佐賀地区

キリシタン殉教者

初の慰霊祭

江戸時代に迫害を受けて亡くなったキリシタンの霊を慰めようと、佐賀地区カトリック教会（地区長アルベルト・ディベロ神父）主催により、九月三十日佐賀県嬉野町不動山の殉教者記念碑の前で初の慰霊祭が行われた。

参加したのは、佐賀地区及び長崎県田平教会の信徒、地元からは嬉野町長ほか不動地区民代表たち約二百人。秋空の下、平田三郎司教の司式で行われ、田平教会の司祭二名と計十名により合同野外ミサがあげられた。

現地は、何の変哲もない山村だが、ここが隠れキリシタンの哀史を秘める不動山殉教地とされている。慶長十九年（一六一六）大がかりなキリシタン探索が行われ、伝承は当時のもようを、〝役人と山伏たちは、逃げ惑う親子を見境もなく後ろから切りつけ、静かだった山間は忽ち一大修羅場と化し、役人たちが刀を洗った小川は真っ赤な血で染まった〟と伝えている。

平田司教は説教の中で、先人の熱い信仰心を称えるとともに、不動地区に七基の殉教記念碑を建てた嬉野町と、三百七十年にわたり、その霊を供養してきた地元民に謝辞を述べた。

この慰霊祭は、かねてキリシタン史の研究を続けてきた佐賀地区信徒会長北島治慶氏らが発起人となり、地元民と協議を重ね、嬉野町の協力を得て実現したものである。

（佐賀教会・牧山満安）

地元の人も多数参列

会場に向かう司祭団と参列者

時の話題

新富康央

ことしの秋も、コスモスが花を精一杯つけ、私たちの目を楽しませてくれました。庭先よりも、河原や小さな駅の片隅の方が、何だか似つかわしい花です。

「コスモスの　折れたるは折れたるままに　小さきは小さきままに　花の咲く」

コスモスも一本一本見れば、折れているのも、小さいのもあります。でも、それぞれが思いきり元気いっぱいに花を開げている。だからこそ、それは見事であり、見る者を楽しませてくれるのでしょう。折れてても、小さくてもよい。子を持つ親として、できればコスモスのような生き生きした子に育って欲しい、と思う。そんな気持を、じゃがいもに託し、子供に話してみました。

じゃがいもは、一番大切な芽をどこに持っているでしょう。擦り合ってもとれない、くぼみ、へこみにそれを大事に抱えています。そこから三つのことを知って欲しい。

①社会のくぼみにこそ、社会を心豊かにしてくれる大事な芽がある、ということ。社会の恵まれていない箇所を大切にし、光をあてられる人になって欲しい。

②周囲を見回せば、皆とうまくやれない、あるいは落ち込んでしまった、いわばくぼんでいる人がいるでしょう。そんな人を、「善き隣人」として、そっと手が差し伸べられる人間になって欲しい。

③子供自身、人生の中で何度も何度もへこみ、くぼんでしまうことがあるでしょう。そんな時こそ、明日へ伸びる大切な芽が育っていることを忘れないで、神様を信じ、がんばる人間になって欲しい。

このような「じゃがいもの心」を温めながら、子供たちが育った時、教会が目指す「共に喜びあう」共同体がこの世に現出するのでしょう。それは、祈り（神様の愛）を通して、互にやさしく生きれる社会、といってよいかもしれません。

より多くの人が、祈りを通して生きるということを知ったならば、どれ程、世間の目ばかり気にする社会の窮屈さから開放されることでしょう。自分を縛っていた、物質的豊かさへの追従による圧迫感・不安・焦りから、逃れることができるでしょう。

こんなことを願いながら、また一年間書かせて頂いた恵みに感謝しながら、ペンを置きます。

（佐賀大学助教授　佐賀教会）

じゃがいもの心

——互にやさしく——

老司教会

人間ロザリオで

聖母マリア賛美

ロザリオ月の半ば過ぎ十月二十一日（日）、老司教会（主任竹森勇師）で恒例の聖母大会が行われた。

近頃あまり重視されなくなったロザリオ信心の大切さを意識、自覚させるために、子供たちを中心に毎年実施されている。今年は円周五十メートルほどのロープに、一メートル間隔でボール大の布製の〝ロザリオの珠〟を五十個くくりつけての〝特大ロザリオ大会〟となった。

朝九時のミサ後、全員が教会の庭に出て、聖母像を囲み特大ロザリオの輪にそって、各ロザリオの珠毎に子供たちが立ち、一人ひとりが「天使祝詞」の祈りを唱えながら、〝人間大ロザリオ〟五連を終了した。そして聖母像に向かって、司祭が献香し、続いて初聖体クラスの女の子たちが花まきをして色を添えた。

最後に聖歌を歌いながら聖堂の周りを行列して、澄み渡った秋空のもと、聖母をたたえる歌声をこだまさせながら閉祭した。

聖母大会について主任司祭の竹森神父は、「子供の信仰教育の一環として、子供たちが大人になってからもしっかりとした信仰を持ち続けるように強烈な印象を植えつけておきたい」と語っている。

ナイスⅡに向け

家庭司牧研修会

ライル師と深堀さん出席

十一月八・九日「家庭司牧研修会」が東京雙葉学園同窓会館で開催された。

九名の司教、三十名の司祭、十九名の信徒が参加。「家庭司牧の現状の分かち合い」をテーマに白熱した討議が行われた。

この研修会は家庭委員会（委員長　糸永真一司教）の呼びかけで行われたものである。テーマが『家庭』と内定しているナイスⅡに向けて家庭司牧という立場から「とにかく問題提起をして下さい」と、分団会、全体会が繰り返された。

福岡教区では、これに先立ち代表として出席したライル師（家庭委員会委員長）と委員会のメンバーが、去る十一月三日「体験から見る家庭司牧の問題点」と「家庭司牧問題の解決のために」を作成、研修会に臨んだ。

研修会では「子供の信仰教育、夫婦の性生活」に関する提起が多かった。また、「夫婦の対話不足、教会と信徒の対話不足」も大きな問題としてあげられた。

みちくさ

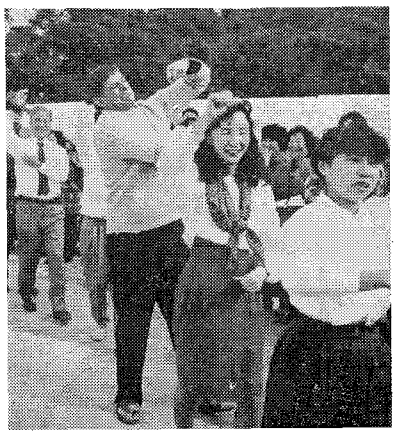
第四代福岡教区長として二十一年の間、重責を担ってこられた平田三郎司教様が引退され、新しい教区長に松永久次郎司教様を長崎からお迎えすることになった。公式発表の十月二十八日前後の平田司教様にはさまざまな感慨がよぎっておられたことであろうが、第三者にはその思いなど知るよしもない▼平田司教様の時代はどのようなものであったのか。それには歴史が回答を与えてくれるだろう。多くの純真な信徒たちに受け入れられていた司教様の最高責任者としての業績や責任について述べる資格は筆者にはない。言えることは、司教様を頼りには生きてこなかったので、自分の落ち度の責任を司教様に押しつけることができないということである▼とはいえ、これまで五年間も〝みちくさ〟をくってくれたのも司教様の寛大なお心によるものだ。読者から多くの激励の言葉をいただいているが、時には真意を伝えきれず、ある文章が神父様方や信徒の皆様の逆鱗（げきりん）に触れたりすることもあり、「〝みちくさ〟するのも楽ではないな」と苦笑したりする▼お陰でいろんなことを学ぶことができた。今まで一緒に歩いていた仲間と違うグループと一緒に歩いてみてはじめて、これまで見えなかったものが見えてきたり、聞こえていなかったことが聞こえてくるようになった。こうして「人間みんな素晴らしいな」と実感できるようになったのである▼そんな喜びがあるからこそ、〝みちくさ〟をやめられないのであり、先を歩いておられる方に、「ちょっと〝みちくさ〟してみませんか」と呼び掛けたくなるのである。〝みちくさ〟はファリサイ主義や祭司階級的生き方に異議を唱えられたナザレのイエズスの発想、生き方へのこだわりであり、それゆえ、現代のカトリック者のあるべき姿についてもイエズスを仲介者として対話を求めているのである。

バナナのたたき売り

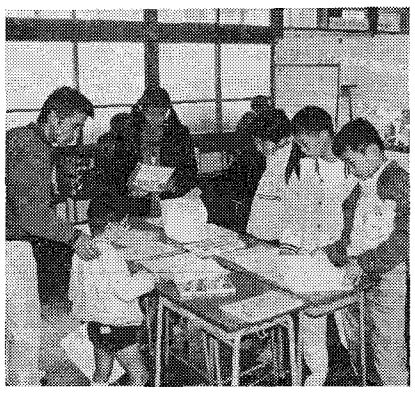
受け付けでパンフレットをもらう

チャリティーコンサートで新谷さん(右)への手紙を読む保沢奈緒美さん

踊りの輪に入った平田司教



好評だった熊本地区の踊り



展示会場には拡大写本も

子どもの広場で

ミサ会場のグラウンドには4千名の信者が集い熱い祈りを捧げた

参加者の声

北原博さん（男性・佐賀教会）　みんな趣向をこらしていいものを出していましたね。宣教のためにもとても参考になりました。第一回でここまで盛り上がり、これで十分ではないでしょうか。

ボーイスカウトの少年　きのうから泊まりこみで、今日は交通整理をさせていただきました。いい仕事をさせていただきました。バナナのたたき売りがよかったですね。

募金箱を持った女の子たち（若松教会）　ネグロスの子供たちのために募金をしようと教会の子供会で決めてやっています。他のところはまだ見ていません。

野村幸子さん（女性・茶山教会）　私は朝鮮にいたことがあるので韓国の太鼓がなつかしかったです。韓国の人が本音を言えるのを聞いてとてもいいことだと思いました。

柳原鎮雄さん（男性・手取教会）　イコン展が素晴らしかったです。マリア様の絵などたくさん見せていただきました。階段を上るのが不自由でしたが、みんなが助けてくださいました。

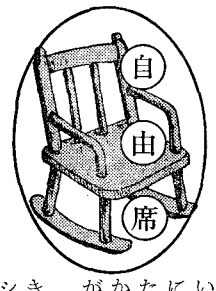
女性たち（大牟田教会）　神父様方がステージに出ていただいてみんなで何かされたらよかったですね。熊本の人たちの踊り、見ていてとても楽しかったですよ。佐賀地区の教会の写真きれいかったですね。

Sr.藤原愛子（幼きイエズス会久留米修道院）　カトリック信者と未洗者との心の触れ合いの機会をつくっていただいたことは素晴らしいことです。これから福岡教区がひとつの心をもって宣教に進んでいくきっかけになると思います。

中浜一男神父（八代教会）　うちからは信者でない人も含めて二十八人、バスで参りました。会場を見て回って、このような大きなイベントを準備された人の苦労がよく分かりました。

アルド・パトリシア夫妻（吉塚協会）　私達の国ペルーは困難な状況にありますがきょうのミサで、世界のカトリック教会は一つであると強く感じ、嬉しくなりました。

久保礼子さん・福田敦子さん（女性・古賀教会）　小さな子供たちも結構楽しめたようですよ。スタンプを集めて回ったおかげで全部見て回ることができました。ここまでお祭りで楽しめるとは思っていませんでした。五年に一度くらいあったらいいじゃないですか。



子供の信仰教育は体験の分かち合い

江上　スナ子

十月二十一日二十二日、聖母訪問会のシスターの誘いで、岩橋淳一神父様の「教会学校リーダー研修会」に参加させていただいた。常々子供と接する時、何か気持に壁ができて、そのため少しでも参考になればとの思いだった。

現在私たちは、教会学校要理とは別に、有志五人で小学生会をつくっている。その中では教会での要理とは異なって義務も強制もなく自由な形で集り、共に遊ぶという主義をとっている。けれどもリーダーの都合でこの集りを休みにすることがあり、子供に迷惑をかけていることがある。

研修会の始めに行われたモデル教室で、神父様は集った小学生に、「今日は日曜日なのに、自分のやりたい事きっとあったでしょうに、よく参加してくれましたね」とねぎらいの言葉をかけられましたが、この心が必要なのだと思った。

神父様は黒板に絵を書き、子供の好きなアニメーションの人物を登場させて、勉強をすすめられ、私たちの何か型にはめなければいけないという感覚を、見直す機会をいただいた。

岩橋神父様の要理実演はユーモアたっぷりで、このように出来たらと羨ましい思いでした。特に感じる事は、「教育するためには中学では遅すぎだし、小学校でも無理、一番よいのは幼稚園の頃では」ということだった。私どもの小教区では、二つの修道会が要理を担当しているが、シスターに全てを任せている。しかし私たちは、あまり恵まれ過ぎて、当たり前のようになっていることを反省させられた。

「宗教教育は体験によって、喜んだり、感性を分かち合ったり、自分の言葉で、信仰を伝える事」と教えられた。これから私にできる何かを心にいだきながら、子供と共に喜びの中過したいと思った。

（新田原教会）

待降節黙想会のご案内

待降節黙想会　12月1～2日（マテオ師指導）：8～9日（ガブリエル師指導）
15～16日（畠師指導）　：22～23日（鈴木師指導）

※ お早めにお申し込み下さい。（1泊3食六千円）

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096―352―3306
096―352―8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

教会学校研修会

子供たちに喜びを

岩橋淳一師が公開授業

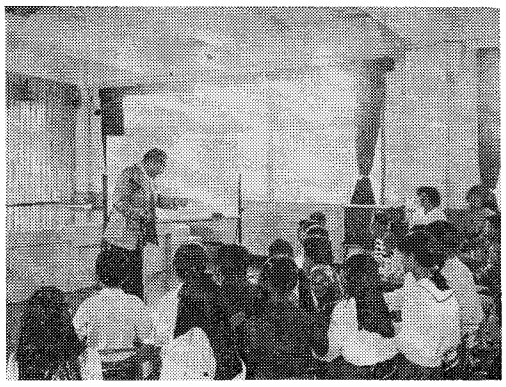
北九州

子供たちの信仰教育にたずさわっている教会学校のリーダーたちのための研修会が、去る十月二十一日から二日にわたって、戸畑天使園を会場に開催された。

これは、北九州地区カテキスタ会が主催したもので、講師は岩橋淳一師（カトリック中央協議会事務局長）。

「ボランティア・カテキスタの心」をテーマにした今回の研修会の特徴は、各教会から数名ずつ参加した不特定の子供たち二十余名を相手にした岩橋師の公開授業。授業が終わってからはリーダーへの講話、グループ討議、全体会といった内容豊かなプログラム。

公開授業は、子供たちの心をほぐし、楽しさ一杯。「こんなクラスだったら子供たちも教会に行くのが好きになるでしょう」といった声も。



リーダーたちへのアドバイスでは、「吊り革先生にならないように。吊り革先生とは、教会に来る途中のバスの中で、今日は何をしようかと考える先生のこと。つまり教えることを自分で消化していない先生のことです」とチクリ。また「リーダーに大切なものは、自分の信仰の喜び、体験を自分のそばで子供たちに語りかけ、伝えること」と語った。

ママさんリーダーの吉永美和子さん（門司教会）は、「子供たちがますます好きになりました。日々、心身ともに成長する子供たちに教えられながら、私も成長していきたいです」と話していた。

生命の尊さを考える集い

井手信医師と共に

福岡地区

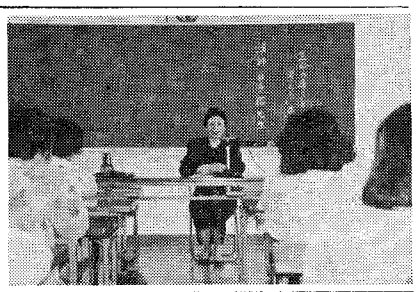
「生命の尊さを考える集い」が十月十六日（火）カテドラルセンターにおいて開催された。

この集いは〝排卵法〟の世界的権威者ビリングス博士夫妻の来日一周年を記念して『明るい家庭を築く会』が福岡地区婦人会の後援を得て行ったものである。

参加者約三十名の中には民間の『福岡いのちを尊重する会』のメンバー数名もいて、講師の久留米聖マリア病院産科部長井手信（のぶ）医師の話に熱心に聞き入っていた。

「他では聞けない貴重なお話をありがとうございました」「この様な集いを継続させて下さい」と教会のこの問題への取り組みに期待の声が多かった。

井手医師は、「時代の流れと共に、女性の方は性に対する意識が変って来ているのに男性の性に対する考えはあまり変っていません」と指摘した。この集いの提案者でもあり主催団体のメンバーでもある高宮教会の野川啓子さんは「私たちも身近な人たちから手をつなぎあって、神さまから頂いたかけがえのない〝生命〟を守り、育む環境づくりの輪が広げられたらと思います。そのためにも信者である私たちが互いを尊重し合い支え合う事が出来れば」と語っていた。



大神学院で召命の集い

心には召命の種が

秋の日差しを浴びた十一月三日、サン・スルピス大神学院で恒例の「召命の集い」が開催された。これは、子供たちの心に召命の種を蒔こうという目的で、毎年この時期に行われるもので、今年も九州の各地から、千名にのぼる親子が参加し、神学生たちと楽しい一日を過ごした。

開会のミサの聖書の朗読では、今年のテーマである『呼ばれているのは君だ！』をあらわす、預言者エレミアの召命とルカ福音書からイエスに奉仕した女性たちの個所が用いられるなど、男の子にも女の子にもそれぞれに神様からの召し出しがあることを気付かせる工夫がなされた。

参加者は、昼食後、野外劇場での神学生の熱演に盛んな拍手を送っていた。

その後、子供たちは、広いグラウンドで神学生たちや他の小教区の子供たちとおもい

名物の大人対子供の綱引き合戦です
さて、どちらの勝ちだったでしょう

ここが聞きたい シリーズ

天皇制について

ある人々は天皇の存在が宣教のさまたげであるかのようにいっているようですが、どう考えるべきでしょうか。

大切な福音化の視点

天皇の存在は多くの日本人にとって自分自身の存在と深くかかわっています。天皇はいわば日本人のアイデンティティの源になっていると思います。天皇の存在が宣教にさまたげであるならば、わたしたちの存在そのものが宣教のさまたげであるということになります。

「天皇の存在が宣教のさまたげである」という主張の意味があいまいですが、文字通りには受け取ることはできません。おそらくわたしたちは次のように考えるべきです。「天皇によって代表される日本の文化と社会に福音宣教し、それを福音化していくことはわたしたち日本の教会の大きな課題である」と。すなわちわたしたちの課題は日本文化・社会の中に聖霊の息吹を吹き込み、日本を神のこころにかなった国に変えていくために努力することです。いいかえれば、わたしたちのものの見方・考え方、価値観、メンタリティ、常識や通念、そしてそれに基づいた組織・体制等をキリストの生き方によって変容させるということです。

この福音化の過程の中で天皇のあり方も変容を受けるでしょう。教会の教えによれば、単なる政治体制の変革は神の国の到来と結びつくものではありません。過去において人間の力で理想社会を樹立しようとした試みは挫折しています。教会は特定のイデオロギーによって社会を救済するという意図は持っていません。

わたしたちがなすべきことは、天皇によって象徴されるわたしたち自身の文化・伝統・制度の中に含まれている福音的要素を育成し、非福音的要素を除去し、日本全体を浄化・聖化し、日本でありながら同時に神の国である日本の将来のために祈り働くことです。

回答者　岡田武夫（日本カトリック宣教研究所）

藤房神父のこぼれ話

よき最期のために

昭和十五年、除隊になったばかりの私は、秋田県にある修道会経営のサナトリウム（療養所）で療養していた姉を見舞いにいきました。その時そのサナトリウムで偶然拝見した若い女性の死に顔の美しさを今も忘れることができません。

サナトリウムの院長をしておられたシスターが、「見に来てください。容態が急に悪化して亡くなったのですが、こんなに美しい死に方は初めてです」とたまたま居合わせた私を呼びました。「この方は、療養中にカトリックの勉強をしてい、洗礼を受けられたのですが、洗礼を受けた日からいつも嬉しそうな顔をしていました。とても苦しみの大きい病気だったのですが、洗礼を受けてからは一言も苦しいとは言われませんでした。きっと苦しみをどなたかのために捧げていたのでしょう」と説明してくださいました。そしてその女性は臨終の時、「私の隣にとてもきれいな方がいます。どなたでしょう」とたずね、「私はこの方と一緒に天国に行きます」と言ってにっこり微笑み、亡くなられたそうです。

私はあと数年で司祭に叙階されることになっていましたが、その時に「人々の霊魂を天国に導く司祭になりたい」との思いを強くいたしました。

私たちもこのように立派な最期を迎えたいですね。日々自分の行いを改め、神様、マリア様の御助けを願いながら……。

（おわり）

カトリック教職員の集い

キリスト教の名をかたる団体に注意

去る十月二十八日（日）、福岡雙葉学園で教区カトリック教職員の集いが開かれ、福岡、北九州地区などから十七名が参加した。

今回はサン・モール会のシスター岡田が『若者の心をとらえる宗教団体からの解放をめぐって』と題して発表を行った。約十三年間この種の問題に取り組んできたシスターの話は以下のようなものだった。

過日カトリック新聞などにおいてキリスト教ではないと宣言された宗派の特徴は、信仰や家庭での親子問題でぐらついている青年をねらうこと。街頭などで三十歳以下の心身健常者に声をかけ、電話番号を聞きだし、執拗に電話をかけ、甘い誘いをかける。

一度足を踏み入れた者は、始終見張られ、親がうるさくつきまとうときは外国に行かせ、教団の資金源となる麻薬の運び人にされたりもする。そこからの脱出は社会問題になるほど至難の業である。更には資金集めのため一人ひとりにノルマが果せられ、悪徳商法で稼がなければならない仕組になっている。

ビデオ、個人面談などで一人ひとりが洗脳され、やがて集団結婚させられる男女は、結婚後も一家を構えることはなく、離れ離れに生活させられている。

このような宗派に引き込まれないためには、聖書に親しみ、信仰生活にいそしみ、心にスキマをつくらないことが肝要だ。

BOOK 読みま専科

☆星空へひらく窓
―クリスマス・エッセイ―
十六名の共著

心に残るクリスマス、クリスマスに思うことなどを十六名の方々に書いていただいたものです。クリスマスを「サンタクロースとジングルベルとケーキの日」だと思っている大勢の人々に、それぞれの立場から、クリスマスについて語ってくださっています。

〝それぞれの人に各々のクリスマスの思い出がある。いずれも共通していえるのは、人の心の奥底にひめられた純化されたいという願いである。クリスマス・イブの純白な夜、星空に鐘がなる時、再生の思いを胸に抱く―それがクリスマスなのだと私は考える〟序文・遠藤周作氏より。

女子パウロ会・一五〇〇円

☆くりすますのおはなし
絵・柿本幸造氏
文・谷　真介氏

あたたかな絵とやさしいことばで贈るご降誕のお話。きらびやかな雰囲気でなく、素朴で庶民的なクリスマス、祈りのこもったクリスマスを描きたいと、柿本先生が心をこめて仕上げてくださり、ゆっくりとどまって味わいたくなるような絵本です。クリスマスの真の意味がこの絵本を通して多くの人に伝えられますように。

女子パウロ会・八八〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―711―0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石他 理 影の 大御そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

十二月の行事

※ゴチックは司教日程

1～2日　諸宗教との対話（生命山）
3日　イエズス会のお祝い　午後6時
8日　コートジボアールの子供たちのためのチャリティーコンサート（手取教会）午後7時
9日　共に福音を生き、歩む講話会（最終回）畠基幸神父（カテドラル）　午後2時
11～14日　臨時司教会議（東京）
13日　福岡市民クリスマス（市民会館）　午後6時15分
15日　聖書委員会（東京）
19日　熊本市民クリスマス（市民会館）　午後6時
24日　クリスマス前夜祭
25日　クリスマス
27日　松永久次郎司教着任式（カテドラル）　午後4時

共に福音を生き、歩む講話会

（最終回）

12月9日（日）午後2時～4時

発題者　畠基幸神父（御受難修道会）
場　所　カテドラル・センター
テーマ　カトリシズム＝第二バチカン公会議後の教会を考える

1月15日　松永久次郎司教着座式（カテドラル）　午前11時

福岡黙想の家

1～2日　きょうだい会　待降節黙想会（マテオ神父指導）
8～9日　待降節黙想会（ガブリエル神父指導）
15～16日　待降節黙想会（畠神父指導）
22～23日　待降節黙想会（鈴木神父指導）
26～1月3日　幼きイエズス修道会、他黙想会
5～6日　コーロピエノ合唱団研修

一九九一年第一回結婚準備セミナー

クリスマスのミサ					元旦ミサ	
教会	前夜ミサ(24日夜)		降誕ミサ(25日)		大晦日	元日
大名町	18：00	20：30	0：00	9：00	0：00	10：00
小倉	19：30	23：00	10：00		0：00	10：30
久留米	16：30	23：30	9：00			9：00
佐賀		20：00	7：00 18：00	9：00	0：00	11：00
手取	19：00		10：00		0：00	10：00

十二月命日の司祭

福岡会場

1月12日（土）＊アンドレ・ベニエ師（パリ外国宣教会）一九八三年十二月二十三日元飯塚教会主任
1月17日（木）＊ジェームス・マグラ師（聖コロンバン会）一九七六年十二月十八日元荒尾教会主任
1月19日（土）＊パウロ青木功師一九七三年十二月十九日元行橋教会主任
1月24日（木）＊ミシェル・ソーレ師（パリ外国宣教会）一九一七年十二月二十日元久留米教会主任

熊本会場

1月31日（木）
2月26日（土）
2月7日（木）
2月2日（土）
1月16日（水）
1月21日（月）
1月23日（水）
1月27日（日）
1月28日（月）
1月30日（水）
2月4日（月）
2月6日（水）

問い合わせ先
ファミリーセンター
ライル神父まで
☎092-541-6207

編集室から

▽「カトリック・フェスティバル」も聖霊のお導きによって豊かな実りのうちに終了いたしました。皆さまはいかがでしたでしょうか。

もちろん細かい点ではいろいろ反省も多いのですが、準備を通して強く感じたことは信徒の底力と情熱、さらには神父様方のあたたかい励ましのありがたさでした。今は、感謝の気持で一杯です。

▽一九九一年には教区長に松永司教様をお迎えすることになり、教区報も気持を新たにしたいと思っています。

3面の「ここが聞きたい」のコーナーは今回で終了。そのあとには第二回福音宣教推進全国会議（ナイス）のテーマであります『家庭』を取り上げ、読者の皆様からそれに関する寄稿をいただきたいと考えています。

また好評を博しました牧山藤房神父様の『こぼれ話』のあとには、司教館ブラザーである床島藤吾さんに昔の司教様や神父様方のエピソードなどを語っていただく予定です。ご期待下さい。

▽連載を終えた牧山藤房神父様は「一年間お付き合いいただきありがとうございました。また折がありましたらお会いしましょう。よいクリスマスと新年をお迎え下さい」と語っておられます。神父様どうもありがとうございました。

▽読者の皆さま、来年も「カトリック福岡教区報」を宜しくお願いいたします。

編集長　渡辺隆義（司教館）
編集員　杉原寛信（パウロ会）
田町節子（笹丘）
深堀邦枝（大名町）

神の宝、秣桶（まぐさ）

徳山　登

最近子供サミットが世界の首脳らによって開催され、子供たちの生活状況が重大な問題として取り上げられました。

実に子供をどのように教育するかによって、世界の運命が大きく変わって行くでしょう。

キリスト様は次のように注意してくださいます。「あなた方は、心を入れ替えて、幼な子のようにならなければ、天の国に入れない」と。（マタイ18・3）

子供のようにならなければならないのは大人であって、子供を自分のようにしてはいけません。フランスの詩人シャルル・ペギーは次のように詠っています。

「私たち大人は子供等を学校にいかせます。しかしそれは、子供等の持っている大切なものを失わせます。むしろ両親こそ学校に行けばよい。また、両親も人間の学校に入ってなりません。彼らは神の学校に行くべきです。

神は語られます。〈人々は子供たちが何も知らないと思っている。そして両親、大人とは何かを知っているものだと思っている。さて、私は言いたい。それは逆だ。両親こそ何も知らない。そして子供たちこそ知っているのだ！

すべてを！なぜなら子供たちは最初の無垢を知っているからだ。そして、これこそすべてなのだ。世間はいつもあべこべなのだ。子どものように最初の無垢を守る者はさいわいだ〉」。

障害者と一緒に生活しているプルニエ神父は、「司祭として生きることは、貧しい人から、学びながら生きることです」と経験したことを次のように証言しています。

「ロザリーヌという少女は貧しくて、病身なのです。ある日大きな問題を抱えた様子で私の側にきました。

それは、朝、石けんを失ったとか、自分の歯ブラシの問題です。初めは、忍耐をもって彼女の問題を聞いて上げようと思っていましたが、彼女の説明がなかなか終らないのと、ロザリーヌはもはや、何も話す必要がなくなったらしく、踊り上がり、喜んで帰りました。

自分の問題を司祭に打ち明けにきたのは、実は、イエズス様に話すつもりだったことを、少女から教えられ、反省しました」。

小さいテレーズにも《幼さの道》というところがあります。〈イエズスは弟子たちの前に幼な子を立たせ、「自分を低くして、この幼な子のようになるものが、天の国で一番偉いのです。」（マタイ18・4）という御言葉を引用して、おっしゃいます。

テレーズが手本とされる幼な子は、甘えてわがままを押しつけるような、未熟さを指すものではありません。霊的な幼な子の道は自分一人では何もできないことを自覚し、人間を無力なものと知り、神にすべてを期待することです。子供等が、自分の両親にすべてを任せ安心しているように。

神は語ります。〈人類の築いた文明は感嘆すべき美にあふれている。しかし祈りながら眠る子供ほど美しいものはない〉

打算的で、不純な大人の祈りに比して、子供は神様と自然に正しくつき合うことができます。子供たちはその力を天から、授けられています。子供の礼拝と祈りは、直接、神様から授けられているのです。

そのうえ神様は幼な子としてこの世に来られました。秣桶に休まれる幼な子イエズス様を礼拝いたしましょう。クリスマスの恩寵に与り、幼な子の信仰を祈り求めましょう。ともども に。

（パリ外国宣教会司祭）
八王寺教会）

紅旗征伐吾が事にあらず

藤原　定家

かのときのことのは

森山　敬三

『明月記』に所収。ドナルド・キーンは「この紅旗は血塗られた戦旗か、平家の赤旗そらいと思って、辞書に当ってみなかったが、実は皇居に掲げる旗で、この言葉は天子と征夷大将軍のいずれにもくみしないで、和歌の道に専念する意味である。もしこの浩瀚な日記が西欧十三世紀の詩人のものなら、和訳はいうに及ばず、汗牛充棟ただならぬほどの注釈・研究書が出現すること必定である。誰かこの漢文体の記念碑的な作品を現代語（あるいは英語）に訳して、私や私のような読者を、助けてくださらぬものだろうか」と歎いている。定家は『新古今和歌集』の編者の一人であり『小倉百人一首』も彼の撰になる。名歌「春の夜」は『源氏物語』、二人の先行の歌人、はては中国の『文選』までふまえて、実に技巧の粋をこらした傑作である。

純心女子短期大学

入試説明会　12月16日（日）10:00～12:00
福岡試験場　試験期日　2月14日（木）
出願期間　1月21日(月)～2月4日(月)

ところ：大名町教会
福岡市中央区大名2-7-7（西鉄グランドホテル前）
TEL 092－741－3687
〒852 長崎市三ツ山町235 教務課入試係　TEL0958(46)0084

中央出版　福岡支部
キリスト教関係、書籍、家庭の友
典礼聖具
ビデオ、カセット・テープ
〒810 福岡市中央区小笹4丁目11-11
聖パウロ修道会内
TEL 092-531-0899

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195 Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL 093—771—3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
(株)メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ——安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092—521—0568